

岩手県教育年報

平成26年度版

岩手県教育委員会

序

本県教育委員会は、教育委員会制度発足以来、毎年、教育年報を
発刊し、本県教育の動向を把握して参りました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の発災から4年半
が経ちましたが、未だに教育活動が制限されている学校も多く、一
日も早い学び舎の正常化が求められております。

このため、県教育委員会は、「いわての復興教育」の推進、幼児
児童生徒の心のサポートや児童生徒の安全で安心な教育環境の確保
など、学びの場の復興に向け、引き続き全力で取り組むとともに、
「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成という教育目的の実現
に向けて、「いわて県民計画」及び「岩手の教育振興」をもとに、
学校教育、社会教育、生涯教育、文化芸術、スポーツの振興を図っ
て参りました。

この教育年報は、平成26年度における教育施策の概要や実績等を
幅広く収録しております。

震災以来、本県の子どもたちに国内外の皆様方からいただきました
数多くの御支援や励ましに対し、心から感謝申し上げますととも
に、この年報が、教育に直接携わる方々はもとより、関係各位に広
く御活用いただければ幸いです。

平成27年10月

岩手県教育委員会

教育長 高橋 嘉行

平成26年度版 岩手県教育年報について

岩手県教育委員会では、「いわて県民計画」（平成21年12月策定：計画期間 平成21年度～平成30年度）に掲げる教育政策のうち、教育委員会が所管する分野の今後10年間の基本方向について、より理解を深めるためのガイドラインとして、平成22年3月に「岩手の教育振興」を策定しました。

平成26年度版岩手県教育年報は、この「岩手の教育振興」の施策の体系を基礎として作成しています。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波からの復興に向けた取組については、冒頭に第1章として取りまとめました。

※ 被害状況及び平成25年度までの取組については、平成22～25年度版「岩手県教育年報」を御覧ください。

目 次

第 1 章 東日本大震災津波からの復興に向けた取組

第 1 県教育委員会の取組	1
---------------	---

第 2 章 教育行財政

第 1 節 教育行政

第 1 平成26年度 岩手県教育委員会経営計画	5
第 2 岩手県教育委員会	17
第 3 表彰及び栄典	18

第 2 節 教育財政

[参考] 管理部門	24
[参考] 市町村教育委員会	26

第 3 章 教育施策の推進状況

第 1 節 社会の変化に対応する教育の推進

第 1 目標達成型の学校教育の推進	29
第 2 社会人として自立できる能力の育成	31
第 3 児童生徒の健やかな成長を支える取組の推進	39
第 4 教員の適正配置	40
第 5 教員研修の充実	41
第 6 教員研究等の充実	44

第 2 節 確かな学力をはぐくむ教育の推進

第 1 学習指導要領を踏まえた教育課程の編成	46
第 2 学習面における基礎・基本の定着	46
第 3 学力を伸ばし、生きる力をはぐくむ教育の推進	48

第 3 節 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進

第 1 道徳教育、体験活動・読書活動等の推進	50
第 2 生活面における基礎・基本の定着	52
第 3 問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のための指導の充実	53

第 4 節 健やかな体をはぐくむ教育の推進

第 1 体力向上や運動に親しむ態度の育成	58
第 2 健康教育の充実	59
第 3 指導者の資質・授業力向上	63

第 5 節 「共に学び、共に育つ教育」の推進

第 1 「就学指導」から「就学支援」へ	65
第 2 幼、保、小、中、高等学校における特別支援教育の充実	65
第 3 特別支援教育の理解促進	66
第 4 特別支援学校生徒の就労支援の充実	67

第 6 節 学校教育を支える教育環境の充実

第 1 県立高校の望ましい教育環境の整備	68
第 2 学校施設の耐震化の推進	73
第 3 修学資金の支援等	74

第4	教育環境の整備	79
第7節	教育振興運動を基盤とした地域ぐるみで取り組む教育の推進	
第1	学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり	86
第2	多様な体験学習の充実（学習機会の確保）	92
第3	地域の教育課題の解決・家庭教育の充実	95
第8節	広がりと深まりのある生涯学習の振興	
第1	多様な学習活動を支援する環境の整備充実	98
第2	生涯にわたる学習機会の充実	100
	（1 県立生涯学習推進センター）	106
	（2 県立図書館）	109
	（3 県立青少年の家）	113
	（4 県立博物館）	119
[参考]	県内社会教育施設の設置・利用状況（県立を除く）	125
第9節	地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興	
第1	文化振興基金を活用した支援等	127
第2	児童生徒に対する文化活動支援	138
第3	文化芸術による地域振興体制づくりへの支援	142
第10節	郷土への誇りと愛着を深める歴史遺産の継承と伝統文化の振興	
第1	世界遺産登録の推進と柳之御所遺跡の整備活用	143
第2	伝統芸能等の伝承や郷土理解のための学校教育との連携	145
第11節	生涯スポーツの振興	
第1	運動・スポーツに親しむ人々の広がり	151
第2	運動・スポーツに親しめる場の広がり	151
第3	ネットワークの広がり	158
第12節	競技スポーツの強化	
第1	中長期的な視点に立った選手育成並びに指導者養成	159
第2	競技団体・学校体育団体等の組織体制の充実に向けた支援	160
第3	広いスポーツの基盤に支えられたスポーツ拠点化に向けた支援	161
第4	スポーツ医・科学サポート体制の充実	161
[参考]	各県営施設で開催された主な競技会・イベント等	162

第4章 厚生福利

第1節 公立学校共済組合

第1	短期給付事業	163
第2	長期給付事業	163
第3	厚生福利事業	164
第4	貸付事業	165
第5	宿泊施設	165

第2節 教職員互助会

第1	短期給付事業	166
第2	長期給付事業	166
第3	厚生福利事業	166
第4	特別弔慰積立事業	168

第5 貸付事業	168
---------	-----

[参考資料]

1 県教育委員会機構図	169
2 県教育委員会が所管する附属機関の委員	170
3 県教育委員会会議	172
4 県教育委員会関係主要行事	174
5 私立学校	176
6 県教育委員会が所管する公益法人・公益信託等	178
7 県教育関係諸団体	180

第1章 東日本大震災津波からの復興に向けた取組

第1 県教育委員会の取組

1 きめ細かな学校教育の実践と教育環境の整備・充実

(1) 大震災津波体験を踏まえた「いわての復興教育」の推進

- ・「いわての復興教育」プログラムに基づく教育活動を推進するために、平成26年度の「復興教育推進校」（小学校39校、中学校31校、全ての県立学校）を指定し、特色ある復興教育の取組を支援するとともに、その事例を県教育研究発表会で普及した。
- ・平成25年2月に作成した「いわての復興教育」プログラム【改訂版】に基づく児童生徒用の副読本と教師用手引き（小学校低学年用、高学年用、中学校用の3種類）を作成し、各学校に配架した。また、副読本の活用を効果的に活用するため、研修会を開催した。
- ・実践的な防災教育を推進し、児童生徒が自然災害の危険に際して、自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」の育成や児童生徒が安全で安心な社会づくりに貢献する意識の向上を図る取組に対して支援を行った。
- ・県総務部総合防災室と連携し、地域と連携した防災教育研修会を開催した。

(2) 臨床心理士の被災校への派遣による幼児児童生徒の心のサポート

ア 教員研修の実施

- ・15種類の研修パッケージを作成し、教育事務所、各市町村の研修会及び校内研修を実施した。

イ 人的支援等

- ・平成26年4月から、広域を巡回するカウンセラーとして、沿岸南部教育事務所に6人、宮古教育事務所に4人、県北教育事務所に3人計13人の臨床心理士を被災地に常駐させ、サポート体制を強化した。

ウ 心とからだの健康観察

- ・平成26年9月に、平成23・24・25年度のものの一部修正した内容による「心とからだの健康観察」を実施し、平成27年1月に県の集計結果を公表した。
- ・平成27年3月には地域別、市町村別のデータを取りまとめ、市町村教育委員会、各学校へフィードバックを行った。

(3) 学校施設の復旧整備

- ・平成26年度は、県立高田高校の新校舎・産振棟、第二体育館・柔剣道場、実習棟の新築工事を完了した。

(4) 被災児童生徒の学習支援等のための加配教員の配置

- ・平成26年度は、平成25年度に引き続き、文部科学省に加配を申請し、要望通り加配（小中学校教員200人、県立学校47人）が認められ、加配教員を配置した。

(5) 「いわての学び希望基金」を活用した給付型奨学金制度

- ・東日本大震災津波により著しい被害を受けた幼児、児童、生徒、学生等の就学の支援、教育の充実等のための事業に要する経費の財源に充てるために設置した「いわての学び希望基金」を財源として、被災により親権者を失った児童生徒及び学生に対し、返還不要の奨学金を給付し、就学援助を行った。
- ・平成26年度における奨学給付金決定児童・生徒・学生数 497人（平成27年3月31日現在）

(6) 「いわての学び希望基金」を活用した教科書購入費等給付事業

- ・被災した高校生の高等学校における就学の支援を目的として、「いわての学び希望基金」を活用した教科書購入費等給付事業により、教科用図書購入費、制服購入費及び修学旅行費の全部又は一部の給付を実施した。

(7) 被災高校生を対象とした奨学金制度

- ・(公財)岩手育英奨学会を通じ、新たな奨学金制度「タイプC〈東日本大震災津波等特例採用〉」により、東日本大震災津波により被災し、経済的理由により修学が困難となった高校生を支援した。

【無利子であるほか、卒業後の奨学生本人の向こう1年間の収入見込み額が一定額に満たない場合、願出により返還義務を一括免除】

○貸与月額 18,000円～35,000円

○奨学金貸与生徒数 188人(平成27年3月末現在)

(8) 教職員の心と体のケア

- ・平成26年度も保健師2人、看護師1人による教職員に対する健康相談や面談を継続して実施した。

2 文化芸術環境の整備や伝統文化等の保存と継承

(1) 被災市町村における文化施設の復旧支援

- ・公立社会教育施設災害復旧費補助金(国庫補助事業)を活用して復旧工事を実施する10施設のうち、8施設の工事が終了した。(平成26年3月末現在)

(2) 被災市町村における埋蔵文化財発掘調査支援

- ・平成24年度から、復興事業の進捗に伴う埋蔵文化財調査の増加に対応するため、埋蔵文化財担当職員を4人から9人に増員し、平成26年度は、文化庁等の調整により、県教委には他道府県からの専門職員12人、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターには他財団からの専門職員6人の他、市町村教委には県内外市町からのべ22人の専門職員の派遣を受入れた。
- ・沿岸市町村支援として、和野Ⅰ遺跡・年呂部Ⅱ遺跡(田野畑村)、町方遺跡(大槌町)、堂の前貝塚(陸前高田市)の発掘調査について、当該市町村教委の支援を実施した。
- ・沿岸市町村支援として、和野Ⅰ遺跡・年呂部Ⅱ遺跡(田野畑村)、町方遺跡(大槌町)、堂の前貝塚(陸前高田市)の発掘調査について、当該市町村教委の支援を実施した。

(3) 「いわての学び希望基金」を活用した被災地児童生徒文化活動支援

- ・小学校、中学校及び高等学校の文化芸術活動の振興を図るとともに、被災した児童生徒を支援するため、いわての学び希望基金を活用した被災地児童生徒文化活動支援事業により、各種大会等に参加するための旅費の補助を実施した。

(4) 被災した博物館資料の修理、整理及び保管場所の確保

- ・被災ミュージアム再興事業(国庫補助事業)を活用し、被災した4市町(陸前高田市、大船渡市、釜石市及び山田町)に資料の洗浄等の処理及び安定的保管の業務委託を実施した。

(5) 県立図書館による震災関連資料の収集及び公開

- ・岩手県立図書館において収集した震災関連資料を公開する「震災関連資料コーナー」について、被災地・被災者支援団体を対象に関連資料の寄贈依頼を送付するなど、コーナーの更なる充実に努めた。

3 社会教育・生涯学習環境の整備

(1) 被災市町村における社会教育施設の復旧支援

- ・公立社会教育施設災害復旧費補助金（国庫補助事業）を活用して復旧工事を実施する60施設のうち、44施設の工事が完了した。（平成27年3月末現在）

(2) 「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の推進

- ・東日本大震災津波により急務となった沿岸被災地の「地域コミュニティの再生」や、これまでの潜在的な地域課題に対して、4つの事業【①教育振興運動・家庭教育支援事業②放課後子ども教室推進事業③学校支援地域本部事業④中高生の学習支援事業】を国庫委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として実施した。
- ・教育振興運動としては18市町村352活動、家庭教育支援事業としては8市町村146講座を実施し、地域課題の解決を図った。
- ・放課後子ども教室推進事業では、22市町村が116教室を開設し、放課後の子どもの居場所づくりを推進した。
- ・学校支援地域本部事業では、18市町村で44本部を設置し、地域コーディネーター等が学校支援ボランティアの活動を推進した。
- ・中高生の学習支援は、大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、宮古市、田野畑村の19箇所において、教育委員会やNPO等の団体が児童生徒の学習の場づくりを行った。1,321人の生徒が登録・参加し、大学生や地元塾講師、教員経験者等が講師として学習をサポートした。

4 スポーツ・レクリエーション環境の整備

(1) 被災者の健康づくりサポート

- ・平成24年度から、被災者の健康づくりサポートのため、アスレティックトレーナーを被災地に派遣し、健康相談、トレーニングやコンディショニングの指導を行うアスレティックトレーナー派遣事業を実施し、平成26年度は、延べ39回開催した。

(2) 「いわての学び希望基金」を活用した被災地生徒運動部活動支援

- ・中学生及び高校生の体育・スポーツの振興と競技力の向上を図るとともに、被災した生徒を支援するため、平成24年度に創設した「いわての学び希望基金被災地生徒運動部活動支援事業」を実施し、県大会及び東北大会等に出場するための旅費等を補助した。

5 学校における放射線量の調査と低減措置等

(1) 放射線量低減に向けた取組等

- ・引き続き放射線の影響等を把握し生徒の安全を確保することから、教育事務所等に配置したサーベイメーター（7台）により、定期的に（月1回程度）各学校において教職員等が空間線量率の測定を行い、測定結果をHPで公表した。
- ・市町村立学校については、設置者である市町村において学校等における放射線量の測定及び除染を行い、事業に要する経費については、県（環境生活部）が市町村等への助成制度により支援を行った。

(2) 学校給食に対する取組

- ・学校給食のより一層の安全・安心を確保する観点から、学校給食を自校調理で実施している県立学校（特別支援学校8、夜間定時制高等学校3）において、放射性物質濃度の測定を行い、測定結果をHPで公表した。

6 国への要望等

年月日	内 容
平成 26 年 4 月 18 日	教育長から、委員長名により次の要望を実施。 <ul style="list-style-type: none">・ 文部科学省初等中等教育局児童生徒課長あて「巡回型カウンセラーに係る赴任旅費等の支援の継続」要望・ 文部科学省初等中等教育局教育課程課長あて「復興教育の取組への支援の継続」要望
6 月 3 日	知事から政府等に対し「東日本大震災津波に関する要望」を実施。

第2章 教育行財政

第1節 教育行政

第1 平成26年度 岩手県教育委員会経営計画

本県の復興・発展の担い手である子どもたちが、岩手の未来を切り拓き、変容する社会の中を生き抜く力を身に付けるうえで、教育の果たす役割は極めて大きいものがあります。また、県民の教育に対する関心、期待はますます多様化、高度化しています。

このため、教育委員会は、「いわての復興教育」の推進、幼児児童生徒の心のサポートや児童生徒の安全で安心な教育環境の確保など、学びの場の復興に向け、引き続き全力で取り組むとともに、「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成という教育目的の実現に向けて、「いわて県民計画」及び「岩手の教育振興」をもとに中長期的展望に立ち、時代のニーズに的確に対応しながら、学校教育、社会教育、生涯学習、文化芸術、スポーツの振興を図っていきます。

今年度は、特に、諸調査結果を効果的に活用した学力向上の取組に加え、心のサポートやいじめ問題への支援体制の充実など、直面する学校教育の課題に積極的に取り組むほか、世界遺産登録に向けた取組、平成28年に本県で開催される「希望郷いわて国体」に向けた取組を進めます。

いうまでもなく、教育行政を推進するに当たり県民の理解、協力を得るための前提となるのは「信頼」です。全ての教職員が教育に携わる職員としての倫理観、使命感の醸成に努め、あらゆる機会をとらえてコンプライアンスの徹底を図り、教職員一人一人の自覚と行動によって不祥事の未然防止に向けて取り組むことにより、県民の信頼を確固たるものとするとともに、教育に対する期待に応えていかなければなりません。

◆震災からの教育の復興

1 きめ細かな学校教育の実践と教育環境の整備・充実

〔重点事項〕 「いわての復興教育」の推進
幼児児童生徒の心のサポートの充実
児童生徒の安全で安心な教育環境の確保

今回の東日本大震災津波を乗り越え、未来を創造していくために、10年後、20年後の岩手の復興・発展を担い得る子どもたちを育成することが、本県の教育に課せられた使命であり、「いわての復興教育」を県下全体で取り組むことは、本県の教育推進において大きな意義を持つものと考えます。

また、被災した幼児児童生徒一人一人の心のサポートや、きめ細かな対応をするための体制の充実に継続的に取り組むとともに、被災した県立学校施設の復旧整備や耐震性を向上するための補強工事等を実施し、安全で安心な教育環境の充実に努めます。

さらに、被災によって親を失った児童等が安心して学業に専念できるよう、就学支援を行います。

1 「いわての復興教育」の推進

- (1) 「いわての復興教育」プログラムに基づく教育活動の推進
 - ・ 「いわての復興教育」プログラム（改訂版）で提示している3つの教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】を育てるため、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校の取組を支援します。

- ・ 推進校の実践事例を収集し、各学校へ情報提供するとともに、Web ページへの掲載や県教育研究発表会において普及を図ります。
 - ・ 各学校の復興教育担当者を対象として理念や教育活動に係る研修を行い、指導力の向上を図ります。
- (2) 「いわての復興教育」副読本の活用
- ・ 「いわての復興教育」プログラム（改訂版）で提示している3つの教育的価値に対応した副読本を活用し、「いわての復興教育」の充実を図ります。
- (3) 防災教育の推進
- ・ 地域と連携した防災教育を推進し、児童生徒が自然災害時において、自らの命を守り抜くために必要な「主体的に行動する態度」を育成します。
 - ・ 各学校の防災体制を確立し、防災意識を向上させるため、防災教育担当者が学校を訪問し、学校防災及び防災体制等の助言・相談を行います。
 - ・ 各学校の防災教育の充実を図るため、教職員や行政担当者による連携型の研修や防災訓練の実施、学校への防災アドバイザーの派遣など、関係部局と連携した取組を推進します。

2 幼児児童生徒の心のサポートの充実

- ・ 東日本大震災津波による被害が大きかった地域の子どもたちの心のサポートに引き続き取り組みます。
- ・ 臨床心理士等の派遣や専門家で構成する県内大学チームによる支援を継続します。
- ・ 児童生徒の支援ニーズの多様化に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを増員するなど、心のサポート体制の充実を図ります。
- ・ 「心とからだの健康観察」の結果を詳細に分析し、経年による変化を踏まえた「こころのファイル」の作成・活用等を行うことで、中長期にわたる支援を進めていきます。

3 児童生徒の安全で安心な教育環境の確保

- (1) 被災した学校施設の復旧整備
- ・ 甚大な被害を受けた県立高田高等学校について、校舎、体育館等の主要施設の建築工事を進め、平成26年度末までの完成を目指します。
 - ・ 市町村立学校について、各市町村の復興計画等を踏まえ、学校施設の早期復旧整備が図られるよう支援します。
- (2) 学校施設の耐震化
- ・ 岩手県耐震改修促進計画に基づき、引き続き県立学校の耐震化に着実に取り組みます。
 - ・ 市町村立学校について、早期の耐震化が図られるよう市町村の取組を支援します。
- (3) 県立学校施設の整備
- ・ 教育環境の充実、向上を図るため、引き続き老朽化した施設設備の改修に取り組むとともに、花巻農業高等学校の校舎の大規模改修を行ないます。
 - ・ 特別支援学校における教室不足の解消など、教育環境の充実、向上を図るため、花巻清風支援学校の特別教室棟の新築整備を進めます。
- (4) 学校における放射線対策
- ・ 県立学校に通学する児童生徒の被ばくに対する不安を軽減するため、放射線の空間線量率を定期的に測定し、低減措置が必要な箇所があった場合は、速やかに土壌等の除染作業を実施します。
 - ・ 学校給食を実施する県立学校で食材及び提供後給食等の放射性物質濃度測定を実施するとともに、測定機器を持たない市町村等からの依頼に応じての測定を行うなど、引き続き学校給食

食材に対する安全安心の確保に努めます。

- (5) 被災により親や生活基盤を失った児童生徒への支援
 - ・ 「いわての学び希望基金」を活用し、被災により親を失った児童生徒に対して奨学金を給付する取組を継続します。
 - ・ 「いわての学び希望基金」を活用し、生活基盤を失った高校生に対して教科書・制服・修学旅行経費を支援する取組を継続します。
- (6) 被災児童生徒の心のサポート及び学習支援等のための加配教員の配置
 - ・ 児童生徒の心のサポート及び学習支援等に対応するため、教職員の加配が必要な小・中学校及び県立学校に対し、引き続き加配教職員を配置します。
- (7) 教職員の健康管理
 - ・ 教職員の心と体のケアを支援するための取組を推進します。
- (8) 特別支援学校卒業生の就職支援
 - ・ 東日本大震災津波による被害が大きかった沿岸部の特別支援学校における現場実習や就職支援を強化するため、職業指導支援員を配置します。
- (9) 児童生徒の学習支援等を行う居場所づくりの推進
 - ・ 被災地における児童生徒等の学習環境を確保するため、放課後及び週末等における学習支援等を行う居場所づくりを推進します。

II 文化芸術環境の整備や伝統文化等の保存と継承

〔重点事項〕 被災地における文化芸術活動の再興
復興に係る埋蔵文化財調査の推進及び市町村支援
被災文化財の救出及び保存・管理支援
被災児童生徒の文化活動の大会への参加支援

東日本大震災津波からの早期の復興を図るための開発事業に係る埋蔵文化財調査を推進するとともに、文化芸術活動の再興を図るため、文化芸術施設等の復旧・再開を支援します。
また、被災地の貴重な文化財の修復や民俗芸能などの復興を支援します。

- (1) 被災地における文化芸術活動の再興
 - ・ 被災した文化芸術施設の復旧・再開を支援します。
 - ・ 被災地において、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供するとともに、文化芸術活動の早期再興を支援します。
- (2) 復興に係る埋蔵文化財調査の推進及び市町村支援
 - ・ 被災地の国・県復興関連開発事業に伴う埋蔵文化財調査を推進します。
 - ・ 市町村の復興関連埋蔵文化財調査について支援します。
- (3) 被災文化財の救出及び保存・管理支援
 - ・ 被災地から救出した文化財や美術品等が修復され、適切な保存・管理がなされるよう支援します。
- (4) 被災児童生徒の文化活動の大会への参加支援
 - ・ 「いわての学び希望基金」を活用し、被災した児童生徒の文化活動の大会への参加支援に取り組みます。

Ⅲ 社会教育・生涯学習環境の整備

- 〔重点事項〕 社会教育施設の復旧支援
地域コミュニティの再生支援
復興に向けた学びの機会の充実

東日本大震災津波により被災した、社会教育及び生涯学習の推進拠点である社会教育施設の復旧・再開を支援するとともに、地域人材の活用等により、子どもを中心とした地域活動及び地域住民の学習・交流機会を設け、地域コミュニティの再生を支援します。

- (1) 社会教育施設の復旧支援
 - ・ 被災した市町村の社会教育施設の復旧・再開を支援します。
- (2) 地域コミュニティの再生支援
 - ・ 国事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を活用し、市町村の社会教育事業の推進を支援します。
- (3) 復興に向けた学びの機会の充実
 - ・ 教育振興運動推進方針に「復興教育」を位置付け、学校教育との連携により運動の充実を図ります。
 - ・ 復興に向けた人材の育成のため、若者や女性を対象とした学びの機会の充実を図ります。

Ⅳ スポーツ・レクリエーション環境の整備

- 〔重点事項〕 スポーツ・レクリエーション環境の整備
被災生徒の運動部活動の大会等への参加支援

スポーツ・レクリエーション活動の早期の復興を図るため、拠点となる施設の復旧・再開や各地域のスポーツ活動、健康づくりの取組を支援します。

また、各種競技大会等への参加機会を確保するための支援を行います。

- (1) スポーツ・レクリエーション環境の整備
 - ・ 被災市町村や団体等の実情とニーズに応じ、スポーツ・レクリエーション活動の推進体制の整備等を支援します。
 - ・ 自校のグラウンド等で体育授業や運動部の活動が十分に行えない学校に対して、限られた状況でもできる運動プログラムや活動場所への移動に係る経費負担などの支援を行います。
- (2) 被災生徒の運動部活動の大会等への参加支援
 - ・ 「いわての学び希望基金」を活用し、被災した生徒の運動部活動の県大会及び東北大会等への参加支援に取り組みます。

◆いわて県民計画「第2期アクションプラン」の着実な推進

Ⅰ 学校教育の充実

- 〔重点事項〕 目標達成型学校経営の推進
児童生徒の学力向上、授業改善の推進と家庭学習の充実
キャリア教育の充実
豊かな心を育む教育の推進
特別支援教育の充実

子どもたちが、変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、「生きる力」を一人ひとりに確実に身に付けさせ、社会的自立の基礎を培うとともに、一人一人の適性、進路等に応じて、その能力を最大限伸ばし、社会の形成者として必要な資質を養うことが求められています。

そのため、子ども一人ひとりの個性や特性等にきめ細かに対応し、小学校、中学校、高等学校の各段階を通じ、その能力の伸長を図っていきます。

また、平成 25 年度から全ての学校種、全ての教科で新しい学習指導要領が実施されていることから、改訂の趣旨を踏まえた一層の学習活動の充実に取り組みます。

さらに、高校授業料無償化の見直しに伴う、高等学校等就学支援金制度及び高校生等奨学給付金制度の円滑な実施に努めます。

1 教育推進に関する諸計画の一体的な推進

「いわて県民計画」においては、「岩手の未来を担う子どもたちを育てるひとつづくりは、長期的な視点で取り組んでいくことが必要」と明記されていることも踏まえ、次に掲げる教育施策に関する諸計画を中心に、義務教育、高等学校教育、特別支援教育等の各プランとの連携、整合をとりながら、一体的な推進を図っていくものです。

また、平成28年度から導入する公立高校の新入試制度について、引き続き周知を図っていくほか、東日本大震災津波の影響や社会状況の変化等を踏まえ、今後の県立高等学校の在り方について検討を進めます。

* 教育推進に関する諸計画体系

- いわて県民計画 (H21. 12策定 H21～H30)
- いわて県民計画第2期アクションプラン (H24. 2策定 H23～H26)
- 岩手県東日本大震災津波復興計画 (H23. 8策定 H23～H30)
- 岩手県東日本大震災津波復興計画復興実施計画(第2期) (H26. 3策定 H26～H28)
- 岩手の教育振興 (H22. 3策定 H21～H30)
- これからの岩手の義務教育 (H21. 3策定 概ね10年間)
- 今後の高等学校教育の基本的方向 (H22. 3策定 概ね10数年間)
 - ・ 新たな高等学校再編計画(仮称) (時期未定)
- いわてキャリア教育指針 (H22. 3策定)
- いわて特別支援教育推進プラン (H25. 11策定 H25～H30)
- 岩手県子どもの読書活動推進計画(第3次) (H26. 6策定予定)
- 「いわての復興教育」プログラム (H24. 2策定 H23～H27)

2 家庭・地域との協働による学校経営の推進

(1) 目標達成型の学校経営の推進

- ・ 各学校が、校長のリーダーシップのもと、全教職員の参画によりそれぞれの学校経営計画を策定し、設定した目標や具体的な取組等の達成状況や進め方などについて自己評価を行い、その結果と改善の状況等について保護者や地域等に対して広く公表、報告する取組を推進します。

(2) 学校と家庭・地域の協働の推進

- ・ 保護者や学校評議員、地域住民などの学校関係者が、教育活動の観察や意見交換等を通じ、学校の自己評価結果を評価する学校関係者評価の実施率の向上とその公表に一層取り組みま

す。

- ・ 各小・中学校は、地域の実情を踏まえながら、いわて型コミュニティ・スクールの取組の充実を図っていくとともに、教育振興運動と連携した取組を一層進めます。

(3) 学校経営における組織力の向上

- ・ 各学校が、じっくり子どもにかかわり、創意工夫ある教育活動を行うことができるよう、教員の多忙化解消の観点から仕事をしやすい環境整備、仕組みづくりに取り組みます。
- ・ 主幹教諭の配置校を拡大し、主幹教諭を活用した学校の諸課題の解決に向けた体制整備を推進します。

(4) 児童生徒の居場所づくりの推進

- ・ 地域の人材を活用した放課後の安全で安心な児童の居場所づくりを推進します。

3 児童生徒の学力向上

(1) 「わかる授業」のための授業改善の推進

- ・ 明確な学習課題の提示と児童生徒の学力の定着度を把握する授業を実施するなど、わかる授業を目指した改善を進めます。
- ・ 教員相互が授業を参観するなど、校内での授業力を向上させるような研修の充実を図ります。
- ・ 授業改善を推進するために、指導主事等が訪問指導等を行い、学校の取組を支援します。

(2) 家庭学習の充実

- ・ 授業内容の理解を促進するための授業と連動した家庭学習に取り組むことや教育振興運動と連携して取り組むことなどにより、家庭学習の充実を図ります。

(3) 数学（算数）・英語の学力向上

- ・ 各学校が、諸調査の分析結果等を活用しながら、それぞれの実態に応じた学力向上の目標を設定し、その目標を達成するための小・中・高等学校での指導の連続性の確保、効果的な改善策の策定や授業改善に係る指導・助言など、学校、市町村、県等との取組の連携を強化することにより、数学（算数）・英語の学力向上を図ります。

(4) 特色ある教育課程の編成

- ・ 学習指導要領の趣旨等の周知を図りながら、全ての学校がそれぞれの実態と特色等を十分考慮した教育課程を編成し、充実した教育活動が展開できるよう支援します。
- ・ 本県の歴史、文化等を学ぶ教育や情報教育、環境教育、放射線教育、国際理解教育等の特色ある教育課程を通じて、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、変化の激しい社会を生きる人間として必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学ぶ態度を養います。

(5) 少人数学級の推進

- ・ 地域や学校の実情に応じた学級編制に係る市町村の裁量の拡大に適切に対応しながら、小学校1年生、2年生及び中学校1年生に加え、選択制による小学校3年生及び4年生での35人以下学級を実施し、児童生徒一人一人に目の届く環境を整え、基礎学力の向上を図ります。

(6) 中学校における学校生活サポートの充実

- ・ 中学校において、生徒の学習定着上の課題や生徒指導上の諸課題に対応するため、引き続き、必要な学校に教員の日常の活動を支援する経験豊かな非常勤講師等を配置します。

4 キャリア教育の充実

(1) 発達段階に応じたキャリア教育の充実

- ・ 各学校において、「いわてキャリア教育指針」及び「いわてキャリア教育の手引き」に基づき「キャリア教育全体計画」及び「指導計画」を作成し、学校教育活動全体で小・中・高等学校の各発達段階に応じた計画的・組織的なキャリア教育に取り組むことにより、児童生徒が将来、社会人、職業人として自立して生きるための「総合生活力」^{※1}と「人生設計力」^{※2}を育成します。

(2) 社会への接続支援

- ・ 生徒一人一人の多様な進路希望の達成と、将来の本県を支える人材育成に向けた各高等学校の取組を進めます。
- ・ 教員を対象とした、地域の企業の見学や企業人の講話等を中心とした実践的な研修会を実施するなど、産業界と協働して岩手の求める人材を育成する取組を進めます。

※1 総合生活力：児童生徒が将来の社会人、職業人として自立して生きるために必要な能力

※2 人生設計力：児童生徒が主体的に人生計画を立て、進路選択をし、決定できる能力

5 豊かな心を育む教育の推進

(1) 道徳教育、体験活動・読書活動等の推進

- ・ 各学校の道徳教育推進教師を中心とした組織や役割を明確にした推進体制により、道徳教育全体計画、年間指導計画の工夫・改善を図りながら、道徳教育の充実に取り組みます。
- ・ 小・中・高等学校それぞれの校種に応じて作成した道徳資料集を活用した道徳教育の推進を図ります。
- ・ 学校教育の中にボランティア活動などの体験活動や自然体験活動、文化芸術体験活動、読書活動などを位置付けながら豊かな心を育む教育の充実を図ります
- ・ 教員の学級経営・ホームルーム経営の充実を図り、児童生徒の理解を進め、好ましい人間関係づくりや規範意識の醸成に取り組みます。

(2) 教育相談機能の充実

- ・ 学校不適応の未然防止、早期発見・早期対応のためにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を拡充し、児童生徒や保護者が相談しやすい環境づくりを推進するとともに、学校心理士の資格を有する教員を養成し、児童生徒の教育相談体制の充実を図ります。

(3) いじめ根絶に向けた取組の推進

- ・ いじめ防止対策推進法の趣旨を踏まえた、県いじめ防止基本方針に基づき、関係機関等の連携会議を設置するとともに、教員研修の充実を図るなど、いじめ問題の根絶に向け、児童生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう関係機関と連携した取組を推進します。

(4) 情報モラル教育の充実

- ・ 県立総合教育センターに整備したスマートフォン等高機能情報端末を活用するなどして、情報モラル指導の工夫改善や教員研修、啓発活動等の充実を図ります。

6 健やかな体を育む教育の推進

(1) 体力向上や運動に親しむ環境づくり

- ・ 運動好きな児童生徒を育成するため、学校体育担当者会議を開催し、各校の体力・運動能力調査の結果を踏まえた計画的・継続的な体力向上の取組を支援します。
- ・ 各種研修や指導主事の学校訪問指導等により、各校の課題に即した体力向上の取組を支援するとともに、家庭・地域との協働による運動機会の拡大や習慣化を推進します。

- ・ 学校へ地域のスポーツ指導者を派遣し、体育授業や体育活動、運動部活動の充実に取り組みます。
 - ・ 指導者の資質向上を図り、運動部活動の活性化につなげるため、運動部活動の顧問に加え、外部指導者の資質向上を図る研修会を行います。
- (2) 家庭と連携した健康教育の充実
- ・ 児童生徒の自律的な健康づくりに取り組む姿勢と能力を育成し、健康な生活を自ら送ることができるように、関係機関・地域・家庭と連携して、教員・児童生徒に対する研修等を一層推進します。
 - ・ 児童生徒の肥満及びやせ傾向や運動習慣、体力低下などの課題解決に向けて、岩手県食育推進計画等をもとに関係部局との連携を図りながら、地域・家庭とともに生活習慣の改善や食育の充実を図ります。

7 特別支援教育の充実

- (1) 就学前及び小・中・高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 早期からの支援の充実を図るため、地域の幼稚園や保育所を継続的に訪問し、指導方法に関する相談や支援を行います。
 - ・ 研修会や相談等を通じて、通常の学級及び特別支援学級における「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づく指導の充実を図ります。
 - ・ 市町村教育委員会への支援体制の充実や高等学校での特別支援教育の体制づくりを進めます。
- (2) 特別支援学校における教育の充実
- ・ 地域の外部専門家を活用した指導・支援の充実を図ります。
 - ・ 特別支援学校と小・中学校の児童生徒との交流及び共同学習を推進します。
 - ・ 特別支援学校におけるキャリア教育を推進し、小学部から高等部まで継続性のある指導の充実を図ります。
- (3) 県民と協働した特別支援教育体制づくり
- ・ 特別支援教育ボランティアの養成や活用などにより、県民への啓発活動に取り組みます。
- (4) 特別支援学校卒業生の就職支援
- ・ 公的機関における現場実習の受入れの促進や、特別支援学校についての理解浸透を図るため県内各地域において企業との連携協議会を設置し、現場実習や就職支援を強化します。

II 社会教育の充実と生涯を通じた学びの環境づくり

- 〔重点事項〕 教育振興運動の充実
 家庭教育の充実
 中学生・高校生の読書活動の推進
 学習活動を支援する環境の充実
 社会教育施設におけるサービスの向上

学校、家庭、地域住民等の連携協力による社会教育の充実に取り組みます。

また、県民の学習意欲の向上を図るとともに、学びの成果が地域で生かされる生涯学習の環境づくりを推進します。

(1) 教育振興運動の充実

- ・ いわて型コミュニティ・スクールとの連携による全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）に継続して取り組みます。
- ・ 全国に先駆けて地域ぐるみの教育を推進してきた教育振興運動が 50 周年の節目を迎えることから、「みんなで教振！10 か年プロジェクト」の成果と課題を総括するとともに、研修会や 50 周年記念大会の開催等を通して、地域の教育課題解決に向けた自主的運動の活性化を図ります。

(2) 家庭教育の充実

- ・ 「本県における家庭教育支援の在り方に関する提言」（H24.6 岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会）を受け、家庭教育や子育てについての悩みを抱え、孤立しがちな保護者と地域とを結びつけ、地域全体で子育てを支援する体制づくりに取り組みます。
- ・ 学習情報の提供や相談体制の充実を図ります。

(3) 読書活動の推進

- ・ 「岩手県子どもの読書活動推進計画（第3次）」（いわて子ども読書プラン 2014）を策定し、学校、家庭、地域住民等との協働のもと、子どもたちが読書活動に魅力を感じながら自主的に取り組むことができる環境づくりを推進します。
- ・ 学校教育との連携により、『いわての中高生のためのおすすめ図書 100 選』を活用した中高生の読書活動を推進します。

(4) 学習活動を支援する環境の充実

- ・ 生涯学習情報の収集・提供、地域人材の研修機会の充実を図り、生涯を通じた学びの環境づくりに向けた取組を進めます。
- ・ 「全国生涯学習ネットワークフォーラム 2013」の成果を踏まえ、若者を中核とした復興に係るネットワークの構築と生涯学習を通じた地域づくり・社会づくりに努めます。

(5) 社会教育施設におけるサービス向上

- ・ 県立社会教育施設（図書館、博物館、美術館及び青少年の家）における県民サービスの向上に努めます。
- ・ 市町村社会教育施設における社会教育事業の推進支援により、県民の多様なニーズに適切に対応した生涯学習の振興を図ります。

III 文化芸術の振興

- 〔重点事項〕 地域における文化芸術活動の支援
世界遺産登録の推進
文化財の保存と継承

県民が郷土に誇りや愛着を持ち、地域に伝わる歴史、文化等の理解を深めるとともに、地域の特色ある文化芸術が暮らしに根付くよう取組を進め、その継承と振興を図ります。

(1) 文化芸術活動の推進

- ・ 文化振興基金を活用した新進・若手芸術家等への支援の実施など、文化芸術情報の効果的な発信、文化芸術活動の継承及び振興を図ります。

(2) 世界遺産登録の推進

- ・ 世界遺産に登録された「平泉の文化遺産」については、適切な保存管理と普及啓発を推進しつつ、「拡張」による追加登録に向けた取組を進めます。

- ・ 「九州・山口の近代化産業遺産群」については、構成資産である釜石市橋野鉄鉱山のイコモスの現地調査に適切に対応します。
 - ・ 「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」については、関係自治体と連携し、共同で世界遺産登録に向けた取組を推進します。
- (3) 文化財の保存・管理
- ・ 文化財の保存・管理を進めるとともに、文化財指定を推進します。

IV 豊かなスポーツライフの振興

〔重点事項〕 競技力向上のための取組強化
 スポーツ健康科学サポート体制の充実
 生涯スポーツの振興

県民の誰もがスポーツに親しみ、健康で活力ある豊かな地域づくりにつなげるための取組を支援します。

また、希望郷いわて国体において天皇杯順位8位以内入賞を目指すとともに、各種全国大会で本県選手が上位入賞を果たせるよう、競技力向上に向けた取組みを推進します。

(1) 競技力向上のための取組強化

- ・ 希望郷いわて国体に向け、入賞の可能性の高い競技・種別及びターゲットエイジに重点をおいた選手強化を図るとともに、指導スタッフの指定を行い、一貫指導体制を確立するなど、関係団体・機関との協働により、選手強化の取組を推進します。
- ・ いわてスーパーキッズの発掘・育成を推進するなど、ジュニア層のレベル向上を計画的に進め、世界で活躍するトップアスリートを目指す人材の育成を図ります。

(2) スポーツ健康科学サポート体制の充実

- ・ スポーツ医・科学サポート体制を充実し、国体選手等の計画的・継続的なトレーニングのための支援を行います。また、講習会等の実施により、指導者の資質向上を図るとともに、各競技団体にアスレティックトレーナーを派遣するなど、スポーツ医・科学に基づいた取組を推進します。
- ・ 被災市町村を含めた県全体の競技スポーツの強化や県民の健康づくり及び体力向上の推進に取り組めます。

(3) 生涯スポーツの振興

- ・ 県民の多様なニーズに対応できるよう、生涯スポーツに係る指導者の養成・活用を促進します。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援など、県民の生涯スポーツへの取組を推進します。

V 業務推進の基本姿勢

(1) 行動規範の確保

- ・ 岩手県職員憲章及び岩手県教職員コンプライアンス・マニュアルに則り、教育に携わる職員としての自信と誇りを持ち、質の高い教育活動を推進します。
- ・ 教職員による不祥事の未然防止のため、日常のチェックや個人の意識高揚はもちろんのこと、予兆を見逃さない、自浄作用が発揮できる組織風土づくりを強化します。

- ・ 児童生徒との信頼関係を構築し、体罰を絶対に起こさない組織風土づくり等を進めることにより、体罰の根絶に努めます。
- (2) 学校現場でのO J Tの推進
- ・ 教職員の指導力向上を図るため、これまで学校現場で蓄積されてきた知識、経験を共有しながら学校内での日常業務を通じた人材育成を推進するO J T (On the Job Training) による指導、啓発のための取組を推進します。
- (3) 現場支援としての事務局体制の強化
- ・ 教育は学校現場、子どもが主役であることを基底として、事務局の価値は現場支援にあることを再認識し、現場の実態に即した解決が図られるよう、現場主義を一層徹底します。
- (4) 組織横断的な業務推進
- ・ 教育に関わる分野は、自組織のみでは解決困難な業務課題が多くなりつつあり、また、他部門からの協力要請も多く、関係機関との緊密な連携が必要となることから、特に、福祉・商工労働・地域振興部門やP T A等各種団体、市町村との連携と役割分担の明確化により課題解決に向けた取組を進めます。
- (5) 業務の効率化及び質の向上
- ・ 各所属においては業務の改善・効率化に主体的、継続的に取り組み、それぞれの顧客に対する満足度を高めていきます。
 - ・ 教育現場においては、教員が子ども一人一人に向き合う時間が最大限確保されるよう、常に工夫・改善に努めます。
- (6) P D C Aサイクルを踏まえた経営計画の推進
- ・ 各所属における経営計画の推進に当たっては、常にP D C Aサイクルを意識し、的確な現状分析を踏まえた目標を掲げ、その達成状況を確認しながら必要な改善策を講じ、施策への反映に向けた業務遂行に努めます。
 - ・ 各教育施策の立案に当たっては、事務事業の点検・評価、サマーレビュー、政策評価等を通じて一体的、計画的に行います。
- (7) 「いわて県民計画」アクションプランの着実な推進
- ・ 「いわて県民計画」第2期アクションプランに掲げる別記の各目標の実現に向けた取組を着実に進めるとともに、政策評価の実施等を通じ、第2期計画の総括・検証を行い、課題を明確化することにより、取組の改善及び次期計画等への反映に努めます。

(別記) いわて県民計画アクションプラン【政策編】に掲げる目標値(目指す姿指標)

24 家庭・地域との協働による学校経営の推進

- ① 学校評価(自己評価及び学校関係者評価)結果等を踏まえて学校運営の改善に具体的に取り組んでいる学校の割合
(基準値: H20) 58% → (目標: H26) 74%
- ② 「いわての復興教育」を学校経営計画等に位置付けて取り組んでいる学校の割合
(基準値: H22) — → (目標: H26) 100%

25 児童生徒の学力向上

- 学習定着度状況調査及び基礎力確認調査において、「授業の内容がわかる」と答えた児童生徒の割合
(基準値: H22) 64% → (目標: H26) 67%

26 豊かな心を育む教育の推進

- ① 自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合
(基準値: H22) 56% → (目標: H26) 60%
- ② 「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた児童生徒の割合
(基準値: H22) 78% → (目標: H26) 82%

27 健やかな体を育む教育の推進

- ① 児童生徒の「体力・運動能力調査」の全国平均値以上の項目割合(小・中学校全学年)
(基準値: H22) 73.6% → (目標: H26) 80.0%
- ② 児童の「定期健康診断」の肥満度が正常の範囲内と判定される児童の割合(小学校全学年)
(基準値: H22) 87.4% → (目標: H26) 89.0%

28 特別支援教育の充実

- ① 作成が必要なすべての児童生徒について「個別の教育支援計画」を作成している学校の割合
(基準値: H22) 38% → (目標: H26) 100%
- ② 特別支援学校高等部の就職希望者のうち、就職を達成した生徒の割合
(基準値: H22) 92.0% → (目標: H26) 94.0%

29 生涯を通じた学びの環境づくり

- 生涯学習リーダー登録者数(累計)
(基準値: H22) 614人 → (目標: H26) 720人

31 文化芸術の振興

- ① 県内の公立文化施設における催事数
(基準値: H22) 912件 → (目標: H26) 912件
- ② 民俗芸能ネットワーク加盟団体数
(基準値: H22) 343団体 → (目標: H26) 380団体

33 豊かなスポーツライフの振興

- ① スポーツ実施率(週1回以上のスポーツ実施率)
(基準値: H22) 38.1% → (目標: H26) 52%
- ② 国民体育大会天皇杯得点順位
(基準値: H22) 33位 → (目標: H26) 12位

第2 岩手県教育委員会

1 教育委員会委員及び教育長（平成27年3月31日現在）

職	氏名	委員としての任期
委員長 (平成21年10月11日～)	八重樫 勝	平成23年10月11日～平成27年10月10日 (平成19年10月11日～平成23年10月10日)
委員長職務代理者[第1順位] (平成26年10月11日～)	小平 忠孝	平成25年10月11日～平成29年10月10日 (平成21年10月11日～平成25年10月10日)
委員長職務代理者[第2順位] (平成26年10月11日～)	村井 三郎	平成24年10月1日～平成28年9月30日 (平成20年10月1日～平成24年9月30日)
委員	芳沢 茎子	平成24年10月1日～平成28年9月30日
委員	藤井 克己	平成26年10月1日～平成30年9月30日
委員・教育長	高橋 嘉行	平成26年4月1日～平成28年3月31日

2 事務局及び学校以外の教育機関の職員の異動状況（平成26年度定期人事異動、単位：人）

職の区分	異動区分	退職	転出	昇任	配置換等	転入	採用	計
	指導主事、社会教育主事等の専門職員		1	35	29	68	35	0
教育長・事務職員	教育長	1	0	0	0	1	0	2
	次長級	3	2	1	3	3	0	12
	総括課長級	2	8	1	11	12	0	34
	担当課長級	0	3	2	4	2	0	11
	主任主査級	0	7	5	3	4	0	19
	主査級	0	9	5	13	11	0	38
	主事級	0	7	0	8	6	3	24
	小計	6	36	14	42	39	3	140
技能労務職員		0	0	0	0	0	0	0
計		7	71	43	110	74	3	308

3 教育委員会議開催状況（平成26年度）

区分	開催回数(回)
定例会	12
臨時会	2
委員協議会	6

第3 表彰及び栄典

1 平成26年度文部科学大臣表彰（本県関係）

(1) 教育者表彰

高橋 嘉雄（岩手県立盛岡農業高等学校長）
陳ヶ岡 安雄（盛岡市立桜城小学校長）
中村 雅英（盛岡市立河南中学校長）

(2) 優秀教員表彰

内記 徹（岩手県立不来方高等学校）
村松 玲子（岩手県立不来方高等学校）

(3) 地方教育行政功労者表彰

坂本 ゆり（前岩手県教育委員会委員）
藤堂 隆則（前一関市教育委員会教育長）
内村 宣夫（前滝沢市教育委員会委員長）
千葉 利夫（前九戸村教育委員会教育長）

(4) 優良PTA表彰

鱒沢小学校PTA（遠野市）
山目小学校PTA（一関市）
南都田幼稚園PTA（奥州市）

(5) 優良公民館表彰

盛岡市立松園地区公民館
金ヶ崎町北部地区公民館
花巻市生涯学園都市会館

(6) 地域文化功労者表彰

杉本 吉武（グラフィックデザイナー）
早池峰岳流石鳩岡神楽保存会（花巻市）

(7) 生涯スポーツ功労者表彰

菅崎 吉雄（岩手県剣道連盟会長）
出堀 宏明（岩手県山岳協会元会長）

(8) 生涯スポーツ優良団体表彰

特定非営利活動法人まつぞのスポーツクラブ
特定非営利活動法人フォルダ
公益社団法人日本3B体操協会北東北地区岩手県支部

(9) 学校保健及び学校安全表彰

ア 学校保健関係
足澤 輝夫（学校医）
菅原 俊英（学校薬剤師）

(10) 視聴覚教育功労者表彰

瀬川 深志（盛岡市）

(11) スポーツ推進委員功労者

下又 善作（軽米町）

(12) 子どもの読書活動優秀実践表彰

ア 団体（者）表彰
胆江ゆめネットワーク（奥州市）
イ 図書館表彰
洋野町立種市図書館
ウ 学校表彰
雫石町立下長山小学校

(13) 優れた「早寝早起き朝ごはん」運動推進表彰

北上市立黒沢尻西小学校
北上市立黒沢尻東小学校

(14) 優れた「地域による学校支援活動」推進表彰

茂一小学校支援事業（宮古市）

チャグホ塾（滝沢市）
山口小学校支援地域本部（宮古市）

2 平成26年度岩手県教育表彰

(1) 事績顕著者

本県教育文化の発展向上に尽力した功労者62人、9団体を表彰した。

ア 学校教育

洋野町立宿戸小学校
岩手県立平舘高等学校
岩手県立不来方高等学校音楽部

イ 学校保健

田	澤	睦	夫	(学校医)	
三	浦	義	孝	(学校医)	
瓜	田	明	義	(学校医)	
南		吉	昇	(学校医)	
菊	地	邦	彦	(学校医)	
及	川		優	(学校医)	
山	内	治	男	(学校医)	
小野	寺	清	哉	(学校医)	
大	歳	栄	一	(学校医)	
五	味	郁	子	(学校医)	
吉	澤		熙	(学校医)	
堀			晃	(学校医)	
堀		美	知子	(学校医)	
関	根	英	雄	(学校医)	
遠	藤	憲	正	(学校歯科医)	
平	井	和	夫	(学校歯科医)	
多	田	耕	司	(学校歯科医)	
狩	野	裕	史	(学校歯科医)	
田	中		勝	(学校歯科医)	
深	澤	範	子	(学校歯科医)	
飯	高		哲	(学校歯科医)	
安	部	一	郎	(学校歯科医)	
齋	藤	勝	也	(学校歯科医)	
志	和	宏	敏	(学校歯科医)	
石	塚	祐	子	(学校歯科医)	
小	岩	啓	一	(学校歯科医)	
小	原		健	(学校歯科医)	
松	橋		孜	(学校歯科医)	
渡	邊	新	悟	(学校歯科医)	
小野	寺		満	(学校歯科医)	
櫻	庭		寿	(学校歯科医)	
高	砂	子	修	作	(学校薬剤師)
高	橋	菜	穂	子	(学校薬剤師)
八	木	友	治	(学校薬剤師)	
横	澤	和	子	(学校薬剤師)	
細	田	稔	男	(学校薬剤師)	
清	川	悦	子	(学校薬剤師)	
宮		良	男	(学校薬剤師)	
佐	藤	香	紀	(学校薬剤師)	
梅	田	惠	子	(学校薬剤師)	

ウ 社会教育

鎌 田 まき子
岩手町立一方井小学校PTA
岩手県立葛巻高等学校PTA

エ 社会体育

黒川 國 児 (岩手県バスケットボール協会副会長)
 中谷 充 (岩手県山岳協会顧問)
 猪股 範 雄 (岩手県アーチェリー協会顧問)
 新沼 薫 (陸前高田市剣道協会会長)
 清水 茂 幸 (陸上競技・岩手大学教授)
 永井 秀 昭 (スキー・2014ソチオリンピック出場)
 阿部 友里香 (スキー・2014ソチパラリンピック出場)
 藤原 眞希子 (岩手県民踊指導者連盟会長)
 菅野 修 (陸前高田市体育協会事務局長)
 佐々木 利 朗 (銃剣道・岩手県銃剣道連盟)
 財団法人 滝沢市体育協会チャグチャグスポーツクラブ

オ 学術、文化

小川 文 男 (岩手県写真連盟会長)
 野田 みどり (岩手県書道協会副会長)
 板澤 利 幸 (岩手県銃砲刀剣類登録審査委員)
 上宿和賀神楽連中
 宿大乘神楽保存会
 気仙町けんか七夕祭り保存連合会

カ 教育行政

坂本 ゆ り (岩手県教育委員会委員)
 内村 宣 夫 (前滝沢市教育委員会委員長)
 佐々木 浩 子 (雫石町教育委員会委員)
 角田 直 樹 (遠野市教育委員会委員)
 千葉 英 夫 (前住田町教育委員会委員長)
 細谷 秀 幸 (陸前高田市教育委員会委員)
 千葉 和 彦 (九戸村教育委員会委員長)
 道上 文 明 (野田村教育委員会委員)

(2) 永年勤続者 569人

3 平成26年度叙勲 (本県関係)

春秋の別	経 歴	氏 名	年齢	勲 等
春	元岩手県立岩谷堂高等学校長	小野寺 吾 老	85	瑞宝小綬章
春	元岩手県立宮古工業高等学校長	佐久間 研次郎	79	瑞宝小綬章
春	元大船渡市立第一中学校長	千 田 久邇治	83	瑞宝双光章
春	元岩泉町立岩泉小学校長	竹 田 勤	79	瑞宝双光章
春	元岩手県立みたけ養護学校長	宮 田 恒 秋	79	瑞宝双光章
春	現学校歯科医	吉 田 允	77	瑞宝双光章
春	元滝沢村立滝沢南中学校長	川 村 秀 彦	76	瑞宝双光章
春	元金ヶ崎町立第一小学校長	高 橋 美智子	76	瑞宝双光章
春	元松尾村立松野小学校長	高 橋 北 英	72	瑞宝双光章
秋	元岩手県立遠野高等学校長	遠 山 晋一郎	78	瑞宝小綬章
秋	元岩手県立黒沢尻南高等学校長	高 橋 薫	77	瑞宝小綬章
秋	元盛岡市立山王小学校長	阿 部 宏 行	78	瑞宝双光章
秋	現学校歯科医	赤 坂 孝 夫	78	瑞宝双光章
秋	元一関市立一関小学校長	小 野 茂 徳	77	瑞宝双光章
秋	元花巻市立花巻小学校長	尾 形 英 夫	75	瑞宝双光章
秋	元盛岡市立上田小学校長	小水内 邦 子	75	瑞宝双光章
秋	元盛岡市立北松園中学校長	木 村 幸 治	73	瑞宝双光章

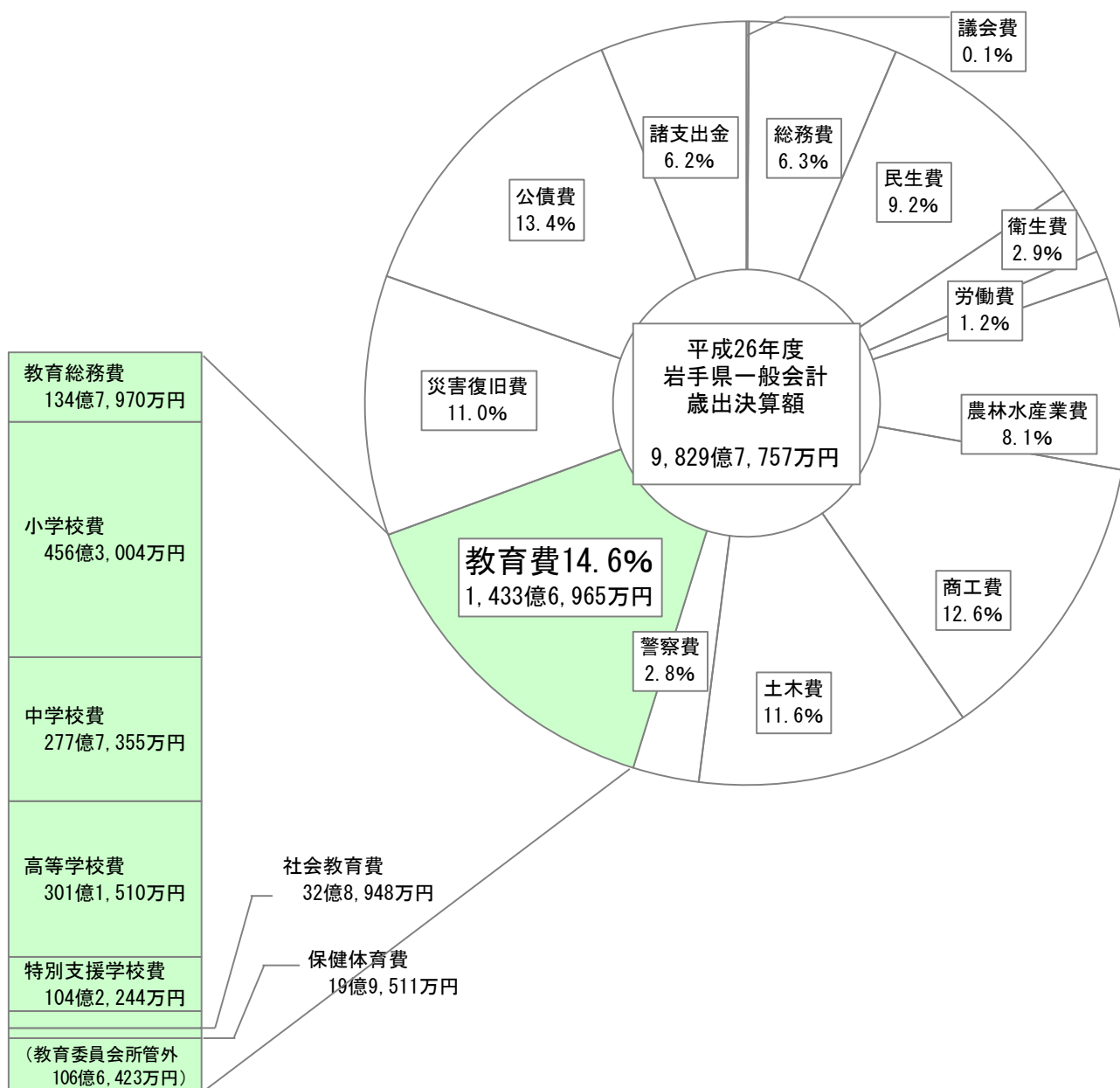
第2節 教育財政

○ 平成26年度岩手県一般会計決算と教育費決算の概要

平成26年度の岩手県一般会計歳入歳出決算額は、歳入1兆875億7,794万円、歳出9,829億7,757万円であり、これを前年度決算額に比べると、歳入△6.1%、歳出△7.1%とそれぞれ減少した。

一般会計歳出決算額のうち教育委員会所管分は、教育費1,433億6,965万円のうち1,327億542万円及び災害復旧費1,084億7,582万円のうち36億7,737万円の計1,363億8,279万円であり、一般会計歳出決算額に占める割合は、13.9%となっている。

【平成26年度岩手県一般会計歳出決算額 目的別構成比】



【平成26年度 教育費 歳出予算・決算額】

区 分	最終予算額 (A)	決 算 額 (B)	翌年度繰越額 (C)	不 用 額 (A - B - C)
一般会計総額	1,236,797,329,648	982,977,565,336	204,850,369,257	48,969,395,055
教育費（教委所管分）	133,882,892,560	132,705,415,934	275,645,000	901,831,626
教育総務費	14,040,233,000	13,479,699,707	0	560,533,293
教育委員会費	16,619,000	16,381,721	0	237,279
事務局費	2,775,122,000	2,695,703,176	0	79,418,824
教職員人事費	9,558,124,000	9,099,903,593	0	458,220,407
教育指導費	1,142,350,000	1,125,707,096	0	16,642,904
教育センター費	432,023,000	427,958,147	0	4,064,853
恩給及び退職年金費	115,995,000	114,045,974	0	1,949,026
小学校費	45,660,450,000	45,630,039,816	0	30,410,184
教職員費	45,660,450,000	45,630,039,816	0	30,410,184
中学校費	27,809,836,000	27,773,544,456	0	36,291,544
教職員費	27,803,139,000	27,767,070,037	0	36,068,963
学校管理費	6,697,000	6,474,419	0	222,581
高等学校費	30,227,268,000	30,115,097,785	3,560,000	108,610,215
高等学校総務費	25,429,133,000	25,397,974,727	0	31,158,273
全日制高等学校管理費	1,572,186,000	1,556,953,172	0	15,232,828
定時制高等学校管理費	53,702,000	53,186,134	0	515,866
教育振興費	2,013,422,000	1,983,631,941	0	29,790,059
学校建設費	1,153,008,000	1,117,542,416	3,560,000	31,905,584
通信教育費	5,817,000	5,809,395	0	7,605
特別支援学校費	10,473,657,000	10,422,443,363	11,654,000	39,559,637
特別支援学校費	10,473,657,000	10,422,443,363	11,654,000	39,559,637
社会教育費	3,380,542,000	3,289,480,643	32,109,000	58,952,357
社会教育総務費	1,361,701,000	1,310,854,699	30,609,000	20,237,301
文化財保護費	626,521,000	591,995,187	1,500,000	33,025,813
芸術文化振興費	266,539,000	264,654,992	0	1,884,008
図書館費	322,432,000	321,020,796	0	1,411,204
博物館費	327,833,000	326,214,066	0	1,618,934
美術館費	475,516,000	474,740,903	0	775,097
保健体育費	2,290,906,560	1,995,110,164	228,322,000	67,474,396
保健体育総務費	703,620,000	662,271,753	0	41,348,247
体育振興費	583,629,000	569,094,096	0	14,534,904
体育施設費	1,003,657,560	763,744,315	228,322,000	11,591,245
災害復旧費（教委所管分）	3,758,378,000	3,677,371,533	3,942,000	77,064,467
教育施設災害復旧費	3,758,378,000	3,677,371,533	3,942,000	77,064,467
学校施設災害復旧費	3,752,416,000	3,675,362,733	0	77,053,267
体育施設災害復旧費	5,962,000	2,008,800	3,942,000	11,200
（教育委員会所管分計）	137,641,270,560	136,382,787,467	279,587,000	978,896,093

[単位：円、%]

区 分	前年度最終予算額 (D)	対前年比(金額) E (A-D)	対前年比(増減率) E/D
一般会計総額	1,349,672,738,948	△ 112,875,409,300	△ 8.4
教育費（教委所管分）	132,876,916,000	1,005,976,560	0.8
教育総務費	15,669,498,000	△ 1,629,265,000	△ 10.4
教育委員会費	19,791,000	△ 3,172,000	△ 16.0
事務局費	2,742,547,000	32,575,000	1.2
教職員人事費	11,332,550,000	△ 1,774,426,000	△ 15.7
教育指導費	1,029,887,000	112,463,000	10.9
教育センター費	419,381,000	12,642,000	3.0
恩給及び退職年金費	125,342,000	△ 9,347,000	△ 7.5
小学校費	45,441,579,000	218,871,000	0.5
教職員費	45,441,579,000	218,871,000	0.5
中学校費	27,453,363,000	356,473,000	1.3
教職員費	27,446,888,000	356,251,000	1.3
学校管理費	6,475,000	222,000	3.4
高等学校費	29,114,467,000	1,112,801,000	3.8
高等学校総務費	24,969,747,000	459,386,000	1.8
全日制高等学校管理費	1,549,004,000	23,182,000	1.5
定時制高等学校管理費	58,351,000	△ 4,649,000	△ 8.0
教育振興費	925,123,000	1,088,299,000	117.6
学校建設費	1,606,425,000	△ 453,417,000	△ 28.2
通信教育費	5,817,000	0	0.0
特別支援学校費	9,956,511,000	517,146,000	5.2
特別支援学校費	9,956,511,000	517,146,000	5.2
社会教育費	3,241,199,000	139,343,000	4.3
社会教育総務費	1,197,682,000	164,019,000	13.7
文化財保護費	652,011,000	△ 25,490,000	△ 3.9
芸術文化振興費	221,925,000	44,614,000	20.1
図書館費	345,589,000	△ 23,157,000	△ 6.7
博物館費	342,943,000	△ 15,110,000	△ 4.4
美術館費	481,049,000	△ 5,533,000	△ 1.2
保健体育費	2,000,299,000	290,607,560	14.5
保健体育総務費	600,252,000	103,368,000	17.2
体育振興費	520,856,000	62,773,000	12.1
体育施設費	879,191,000	124,466,560	14.2
災害復旧費（教委所管分）	651,670,500	3,106,707,500	476.7
教育施設災害復旧費	651,670,500	3,106,707,500	476.7
学校施設災害復旧費	632,766,500	3,119,649,500	493.0
体育施設災害復旧費	18,904,000	△ 12,942,000	△ 68.5
（教育委員会所管分計）	133,528,586,500	4,112,684,060	3.1

[参考] 管理部門

1 市町村立学校

(1) 教職員の人事異動

平成26年度公立小中学校教職員定期人事異動は、全県の視野に立った教職員の適正配置及び人事の刷新を図り、本県教育の一層の活性化と充実向上を期するため、公立小中学校教職員定期人事異動方針及び人事異動要領に基づき、以下のとおり、全県の視野に立った交流を進めるとともに、教職員の構成等にも配慮する適正な配置を行った。

ア 県内をA(盛岡・岩手)、B(花巻・遠野・北上・西和賀)、C(奥州・一関)、D(久慈・二戸)、E(宮古・宮古北)、F(釜石・大船渡)の6ブロック14地区とし、在任中に2ブロック3地区以上勤務することを原則とした。

イ ABCブロックとDEFブロック間の異動を積極的に行い、交流を活発にした。

ウ へき地学校とその他の学校との交流を行い、3級以上のへき地学校に3年以上勤務した者の配置換えを行った。

エ 小中学校併設校8校全校に副校長を置き(小中学校兼務を含む)、地域における学校運営体制の充実を図った。

オ 管理職については、広く有為な人材の発掘に努め、若手、女性を積極的に登用した。

新たに60人の校長と55人の副校長を登用した。

カ 新採用教員については、6教育事務所に配置した。

教諭の新規採用は99人であった。

キ 退職者は242人であり、校長は76人、副校長は28人であった。

【平成26年度公立小中学校教職員定期人事異動集計表】

[単位：人]

	小学校			中学校			計		
	同一市町村内	同一市町村外	計	同一市町村内	同一市町村外	計	同一市町村内	同一市町村外	計
校長	30	88	118	14	41	55	44	129	173
副校長	32	79	111	10	43	53	42	122	164
主幹教諭	5	12	17	4	7	11	9	19	28
教諭(指導教諭含)	305	427	732	145	271	416	450	698	1,148
養護教諭	32	24	56	14	20	34	46	44	90
栄養教諭	7	5	12	1	3	4	8	8	16
学校栄養職員	0	2	2	0	0	0	0	2	2
事務職員	31	26	57	18	30	48	49	56	105
小計	442	663	1,105	206	415	621	648	1,078	1,726
市町村教委等転出者	15			9			24		
合計	1,120			630			1,750		

注：事務局及び県立学校への転出者(小学校13人、中学校21人、計34人)を含まない。

校種間異動者(中学校から小学校へ10人、小学校から中学校へ5人)を含んでいる。

【校長登用者】[単位：人]

	小学校	中学校	計
同一教育事務所管内	2	2	4
同一教育事務所管外	39	17	56
計	41	19	60

【副校長登用者】[単位：人]

	小学校	中学校	計
同一教育事務所管内	5	0	5
同一教育事務所管外	28	22	50
計	33	22	55

【新採用職員】[単位：人]

	小学校	中学校	計
教諭	50	49	99
養護教諭	6	5	11
栄養教諭	1	1	2
事務職員	6	3	9

【退職者】[単位：人]

	小学校	中学校	計
校長	52	24	76
副校長	23	5	28
教諭	64	30	94
養護教諭	17	8	25
学校栄養職員	1	0	1
事務職員	10	8	18
計	167	75	242

(2) 教育相談員

教育相談員は、公立小中学校の教育に関する事項について教職員の相談に応じ助言を与え、教育効果の向上を図るため、各教育事務所に配置している。

各相談員とも、年度当初訪問に計画を立て、積極的に学校訪問をし、一人当たりの平均訪問学校数は68.5校であった。

相談内容は多岐にわたるが、特に新任校長、新任副校長や、へき地学校の教職員に対しては貴重な相談機会となっている。

2 県立学校

【平成26年度県立学校教職員定期人事異動集計表】

[単位：人]

	退職	昇任、配置換、転出	転入、採用	計
高等学校教員	83	384	55	522
特別支援学校教員	33	139	39	211
実習助手	11	20	5	36
寄宿舎指導員	8	13	3	24
事務職員	12	79	24	115
栄養教諭・栄養士	0	0	0	0
技能労務・海事職員	4	11	0	15
計	151	646	126	923

このうち、校長は、退職が22人であり、任命換、配置換、昇任、転入及び採用が35人であった。

(1) 校長・副校長

学校・学科の別にとらわれることなく、適材を適所に配置する観点から、20人を校長に登用した。また、広く全県的視野に立って、26人の中堅教員を副校長に登用した。

(2) 一般職員

次の観点から交流を行い、組織の活性化を図った。

ア 東北新幹線沿線地域に勤務する教員と、それ以外の地域に勤務する教員との交流、特に沿岸被災地の学校に勤務する教員、人事上のへき地及び県北地域に勤務する教員との交流に重点を置いた。

イ 全日制と定時制・通信制、また、普通高校と専門高校の間の教員の交流を図った。

なお、東日本大震災津波後に凍結・解凍した人事の影響が無くなり、平成26年度の人事異動は例年よりやや少ない程度の規模となった。

[参考] 市町村教育委員会

1 市町村教育委員会委員長（平成27年3月31日現在）

市町村名	氏名		委員長の任期
盛岡市	星野勝利	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
八幡平市	伊藤政行	(新)	平成26年11月15日～平成27年11月14日
雫石町	上野宏	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
葛巻町	千葉洋一	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
岩手町	遠藤武光	(再)	平成26年7月21日～平成27年7月20日
滝沢市	佐藤恭孝	(新)	平成26年12月23日～平成27年12月22日
紫波町	高橋榮幸	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
矢巾町	松尾光則	(再)	平成26年5月1日～平成27年4月30日
花巻市	照井善耕	(再)	平成27年3月25日～平成28年3月24日
遠野市	中浜艶子	(再)	平成26年11月26日～平成27年11月25日
北上市	小原広記	(再)	平成26年6月1日～平成27年5月31日
西和賀町	深澤武志	(再)	平成27年1月1日～平成27年12月31日
奥州市	高橋清融	(再)	平成27年3月31日～平成28年3月30日
金ヶ崎町	千葉祐悦	(新)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
一関市	鈴木功	(再)	平成26年10月29日～平成27年10月28日
平泉町	佐熊睦子	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
大船渡市	佐藤浩一	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
陸前高田市	横田佑侷	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
住田町	多田茂	(新)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
釜石市	佐藤猛夫	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
大槌町	沼田義孝	(再)	平成26年9月21日～平成27年9月20日
宮古市	坂下昭弘	(再)	平成26年8月30日～平成27年8月29日
山田町	山崎喜六	(再)	平成26年10月19日～平成27年7月18日
岩泉町	伊東勝幸	(再)	平成26年12月21日～平成27年12月20日
田野畑村	熊谷勤巳	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
久慈市	鹿糠敏文	(再)	平成26年4月28日～平成27年4月27日
洋野町	青澤侑子	(再)	平成27年2月14日～平成28年2月13日
野田村	大沢伸子	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
普代村	佐々木康雄	(再)	平成26年10月1日～平成27年9月30日
二戸市	清川泰	(再)	平成27年2月22日～平成28年2月21日
軽米町	戸草内勝夫	(再)	平成27年3月25日～平成28年3月24日
九戸村	千葉和彦	(再)	平成26年8月12日～平成27年8月11日
一戸町	春日川寛治	(再)	平成26年12月25日～平成27年12月24日

注：(新)、(再)はそれぞれ平成26年4月1日から平成27年3月31日までの間に新任、再任されたことを表す。

2 市町村教育委員会教育長（平成27年3月31日現在）

市町村名	氏名		教育長の任期
盛岡市	千葉仁一		平成24年10月1日～平成28年9月30日
八幡平市	遠藤健悦		平成25年11月15日～平成29年11月14日
雫石町	吉川健次		平成25年12月26日～平成29年12月25日
葛巻町	中田直雅		平成25年12月25日～平成29年12月24日
岩手町	平澤勝郎		平成24年11月1日～平成28年10月31日
滝沢市	熊谷雅英		平成25年4月2日～平成29年4月1日
紫波町	侘美淳		平成24年10月1日～平成28年9月30日
矢巾町	越秀敏	(再)	平成26年10月1日～平成30年9月30日
花巻市	佐藤勝	(再)	平成26年4月1日～平成30年3月31日
遠野市	藤澤俊明		平成25年11月26日～平成29年11月25日
北上市	小原善則		平成23年6月1日～平成27年5月31日
西和賀町	船田浩	(新)	平成26年4月1日～平成30年3月31日
奥州市	田面木茂樹	(新)	平成26年4月1日～平成30年3月31日
金ヶ崎町	新田章		平成24年10月1日～平成28年9月30日
一関市	小菅正晴		平成25年10月29日～平成29年10月28日
平泉町	岩渕実	(再)	平成27年1月1日～平成30年12月31日
大船渡市	今野洋二		平成25年10月1日～平成29年9月30日
陸前高田市	山田市雄		平成24年10月1日～平成28年9月30日
住田町	菊池宏	(新)	平成26年10月1日～平成30年9月30日
釜石市	佐藤功		平成25年4月1日～平成28年9月30日
大槌町	伊藤正治		平成24年3月31日～平成28年3月30日
宮古市	伊藤晃二		平成25年8月30日～平成29年8月29日
山田町	佐々木毅		平成25年4月2日～平成29年4月1日
岩泉町	三上潤		平成25年4月1日～平成29年3月31日
田野畑村	褰岩敏雄		平成26年1月6日～平成29年12月31日
久慈市	亀田公明	(新)	平成26年4月28日～平成30年4月27日
洋野町	麦澤正剛		平成25年2月14日～平成29年2月13日
野田村	大崎英雄		平成25年1月1日～平成28年12月31日
普代村	三船雄三	(新)	平成26年4月1日～平成30年3月31日
二戸市	鳩岡矩雄		平成26年2月22日～平成30年2月21日
軽米町	菅波俊美		平成25年3月25日～平成28年10月23日
九戸村	漆原一三	(新)	平成26年4月2日～平成28年7月8日
一戸町	古舘英彦	(新)	平成26年4月1日～平成30年3月31日

注：(新)、(再)はそれぞれ平成26年4月1日から平成27年3月31日までの間に新任、再任されたことを表す。

3 市町村教育委員等研修

- 平成26年度市町村教育委員会研究協議会（第1ブロック）

【会場：静岡県浜松市 公益財団法人浜松市文化振興財団 アクトシティ浜松】

1日目（平成26年11月25日）

- ・行政説明1

「初等中等教育をめぐる最近の動向について」

文部科学省初等中等教育局 局長 小松 親次郎氏

- ・基調講演

「2014年地教行法改正と『新』教育委員会をめぐる課題－改革の背景、論議と今後の教育委員会のあり方－」

放送大学教授・東京大学名誉教授 小川 正人氏

- ・行政説明2

「新たな教育委員会制度における教育長、教育委員、事務局の役割と責任について」

文部科学省初等中等教育局 企画官 堀野 晶三氏

- ・パネルディスカッション

「人口減少社会における義務教育のあり方－学制改革の動向－」

2日目（平成26年11月26日）

- ・分科会

「学力向上に向けた取組－『確かな学力』の育成－」

「地域の実態に応じたコミュニティスクールの導入」

「『命を守る教育』の推進－防災教育・復興教育等の取組－」

第3章 教育施策の推進状況

第1節 社会の変化に対応する教育の推進

第1 目標達成型の学校経営の推進

各学校がそれぞれの学校の現状と地域の状況、東日本大震災津波からの復旧・復興状況などを踏まえながら、中長期的な目標の下、毎年度の達成目標とその実現方策を明らかにした学校経営計画を定め、実行し、その成果と課題を検証していくというPDCAサイクルに基づく学校経営の取組を推進した。

1 目標達成型の学校経営の推進

校長のリーダーシップの下、家庭・地域との協働の強化を図り、学校経営計画の方針策定や実行プロセスへの校内教職員の参画、学校内外の評価なども取り入れたPDCAサイクルに基づく学校経営を推進した。

- 重視する教育活動について、目指すべき成果やそれに向けた取組の具体的な目標を定めた「まなびフェスト」の公立小中学校における作成状況は100%である。

2 家庭・地域社会との協働の促進

学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちの生きる力を育むため、学校では、家庭や地域と協働する「いわて型コミュニティ・スクール構想」の実現に向けて、家庭や地域との相互交流を積極的に促進するとともに、学校運営についても、家庭や地域の願い・意見等を把握しながら絶えず見直し、改善の努力をしていく「開かれた学校づくり」を推進した。

3 「開かれた学校づくり」の推進

(1) 地域連携の窓口となる教員の配置

地域や学校の実態に応じて、地域連携の窓口となる教員を配置し、積極的に地域社会と連携した開かれた学校づくりを推進した。

配置の状況は、小中学校 100%、高校96.8%、特別支援学校100%である。

(2) 学校評議員の設置

児童生徒や保護者、地域住民の学校教育に対する意向を把握するとともに、学校運営などについて説明責任を果たすため、学校評議員の設置を推進した。全ての県立学校で設置され、小中学校においても75%で設置されている。

【目標】

児童・生徒や保護者、地域住民の意向を把握するとともに、学校運営などの説明責任を果たすため、全ての県立学校において学校評議員を設置することとする。

なお、小中学校に対しては、各学校の実情に応じた積極的な取組について指導する。

【進捗状況】

	H23岩手県	H23全国平均
公立小学校	291校(78.0%)	83.7%
公立中学校	131校(71.2%)	84.4%
公立高等学校	65校(100%)	83.5%
公立特別支援学校	13校(100%)	83.3%

【今後の取組】

学校評議員の積極的な活用を図るため、各校に学校評議員の活用状況等に係る情報を提供するとともに、各市町村教育員会に対して設置の働きかけを行う。

(3) 学校評価の実施

学校運営の改善や活性化を進め、教育活動に係る家庭や地域等への説明責任を果たすため、学校自己評価及び評価結果の公表を推進するとともに、自己評価結果に対する学校関係者評価を推奨している。ほとんどの学校が自己評価を行ったが、学校関係者評価については小中学校で全国平均を下回っているものの、8割を超える学校が実施している。

【目標】

平成19年に改正された学校教育法及び施行規則等の規定に沿った学校評価の実施を推進する。

- (1) 学校は自ら評価を行い、その結果を公表する（義務規定）。
- (2) 学校は、学校関係者評価を行い、その結果を公表するよう務める（努力規定）。
- (3) 学校は、自己評価及び学校関係者評価を行った場合は、その結果を設置者に報告する。

【実施状況】

	自己評価の実施		自己評価結果の公表		学校関係者評価の実施	
	岩手県 (H23)	全国 (H23)	岩手県 (H23)	全国 (H23)	岩手県 (H23)	全国 (H23)
公立小学校	373校(100%)	100%	373校(100%)	98.8%	313校(83.9%)	96.0%
公立中学校	181校(98.4%)	100%	181校(100%)		156校(85.2%)	95.7%
公立高等学校	65校(100%)	100%	65校(100%)		55校(84.6%)	97.8%
公立特別支援学校	13校(100%)	100%	13校(100%)		13校(100%)	98.3%

(4) ホームページの開設

学校からの情報発信力を強化するため、全ての県立学校においてホームページを開設しているが、小中学校における開設状況は5割を下回っている。

【目標】

全学校でのホームページの開設及び学校情報の発信に取り組む。

【進捗状況】

	H26岩手県
公立小学校	65.5%
公立中学校	64.5%
県立学校	100%

【今後の取組】

学校運営等の積極的な情報発信の趣旨からもその充実を図るため、運用に際しての掲載すべき内容を指導するとともに、先進事例を紹介する。

4 地域との交流の促進

地域におけるボランティア活動、伝統芸能等の継承、行事や祭事への積極的な参加、社会福祉施設との連携等、地域に開かれた学校づくりを実践的に推進した。

5 地域の人材の活用

地域の伝統文化・芸能の継承活動等において、保護者や地域の方々を指導者として招き、児童生徒が地域を理解する学習の推進を図った。

また、日常の各教科や総合的な学習の時間等においても、保護者や地域の専門的な知識・技能を有する方々をゲストティーチャーとして積極的に招へいするなど、地域の人材の活用を積極的に推進した。

6 学校の開放

地域住民の交流や学習の拠点としての役割を担う観点から、学校の体育施設等や学校図書館、空き教室等の積極的な開放を行った。

第2 社会人として自立できる能力の育成

社会の仕組みや経済社会の構造、高度情報化社会の特性、持続可能な社会をつくる取組等について、国際理解教育、情報教育、環境教育等を推進することにより、高校卒業までに、社会を生きる人間として必要な知識・技能を習得させ、自ら学ぶ態度を養うよう努めた。

さらに、児童生徒が自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立する能力を育成するため、「いわてキャリア教育指針」に基づき、「いわてキャリア教育の手引き」を活用して、学校の取組促進に努めた。

1 児童生徒一人一人の主体的な「学び」の支援・指導の充実

各学校が児童生徒の実態等に応じて、わかる授業を基盤とした、習熟の程度に応じた指導などの少人数指導や繰り返し学習などきめ細かな指導ができるように、児童生徒一人一人の主体的な「学び」の支援・指導の充実に努めた。

2 社会の変化に主体的に対応する新たな「学び」の創造等

各学校が総合的な学習の時間などを中心に体験的な学習を積極的に取り入れ、児童生徒の関心・意欲や思考力、判断力、表現力を育成し、社会の変化に主体的に対応する新たな「学び」の創造に取り組むことができるよう、支援・指導の充実に努めた。

3 学校裁量を生かした創意工夫

(1) 平成26年度文部科学省・岩手県教育委員会研究指定校（高等学校を除く）

文部科学省指定

指 定 領 域	教育事務所	学校（地域）名	指定年度
道徳教育の抜本的改善・充実	県 南	一関市立滝沢小学校	H26
人権教育研究指定校事業	中 部	北上市立和賀西小学校	H25・26
英語教育強化地域拠点事業	盛 岡	紫波町小・中・高	H26
実践的防災教育総合支援事業	盛 岡	盛岡市教育委員会 紫波町教育委員会 八幡平市教育委員会	H26
	中 部	花巻市教育委員会 西和賀町教育委員会	
	県 南	一関市教育委員会	
教育課程研究指定校事業	盛 岡	盛岡市立緑が丘小学校（特別活動）	H26

岩手県教育委員会指定

指 定 領 域	教育事務所	学校（地域）名	指定年度
県研究指定校事業	盛 岡	矢巾町立矢巾中学校・矢巾北中学校（数学）	H25・26
	県 南	金ヶ崎町立金ヶ崎中学校（英語）	
	県 北	二戸市立金田一小学校（言語活動）	
	盛 岡	滝沢市教育委員会（学力向上・中学校）	H26・27
	県 南	一関第一高等学校附属中学校	H26

(2) 教科書関係

ア 採択の概要

平成26年度に小学校用教科書の採択替えを行い、平成23年度に中学校用教科書の採択替えを行った。

イ 教科用図書選定審議会

県教育委員会は、市町村教育委員会及び国立、私立学校の校長の行う教科書採択が円滑適正になされるよう指導、助言、又は援助をするために、平成26年度使用教科用図書選定審議会委員を委嘱した。

教科用図書選定審議会に対し、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第11条第1項の規定により、次の事項について諮問し、その答申を受けて各採択権者に対し、指導、助言、援助を行った。

(ア) 平成27年度において使用する義務教育諸学校の教科用図書を各採択権者が採択する場合における採択基準について

(イ) 教科用図書選定のための資料について

ウ 教科書展示会

教科書の発行に関する臨時措置法第5条第1項の規定により、平成26年度使用教科書展示会を、平成26年6月13日から14日間、次の18カ所の教科書センターにおいて開催した。

【教科書センター】岩手中央／盛岡／八幡平／葛巻／花巻／北上／奥州／金ケ崎／県南／川崎／大船渡／住田／遠野／釜石／宮古／岩泉／久慈／二戸

(3) 高等学校教育全般

平成22年3月に策定した「今後の高等学校教育の基本的方向」では、高校教育の目標について、「「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成」、言い換えれば「自立した社会人としての資質を有する人財（生徒）の育成」としている。

また、平成26年度の高等学校教育指導指針では、学校教育全般にわたる指導の要点を次の21項目とし、教育の本質に根ざした学力の向上と健全育成を目指す学校教育の充実推進に努めた。

【各校共通して取り組む内容の指導の要点】

目標達成型の学校経営の推進／学力・授業力向上／キャリア教育／豊かな心を育む教育／特別支援教育／健やかな体を育む教育／岩手の復興教育

【各学校の経営計画により取り組む内容の指導の要点】

特別活動／総合的な学習の時間／国際理解教育／環境教育／消費者教育／人権教育／ボランティア教育／情報教育／読書指導／交流及び共同学習／定時制・通信制教育／研修・研究

【スポーツや伝統・文化に関わって各学校が取り組む内容の指導の要点】

競技スポーツの強化／伝統文化の教育

また、下表のとおり研究指定校を指定（いずれも文部科学省指定）するとともに、学習指導・授業研修等による訪問や生徒指導等による訪問を行い、指導した。

【平成26年度 岩手県公立高等学校等教育研究指定校】

研究主題	研究校	指定年度
スーパーサイエンスハイスクール（SSH）（理数系教育）	水沢	H24～28
	盛岡第三	H23～27
	釜石	H24～28
英語教育強化地域拠点校事業	紫波総合	H26～29
教育課程研究指定校	花北青雲	H26～27
確かな学力の育成に係る実践的調査研究	伊保内	H26～27

(4) 定時制・通信教育

平成26年度における定時制課程の学校数は、9校（独立校1校、併置校6校、分校2校）であり、通信制課程は、杜陵高校本校（宮古分室含む。）、奥州校の2校である。

昭和56年度から定時制高校と県立高等職業訓練校（1年課程）7校との間に技能連携教育が始まり、さらに昭和57年度には雇用促進事業団立総合高等職業訓練校（2年課程）2校が加わった。この制度により高校を卒業した生徒は541人にのぼっており、平成26年度における技能連携教育は、杜陵高校通信制と岩手看護高等専修学校で行われている。

昭和63年4月には杜陵高校定時制に全国初の単位制を導入し、平成5年度からは3部制にして、働きながら学ぶ生徒を支援する教育に加え、多様な生徒の学習ニーズに対応している。

ア 定時制、通信制学科別入学及び在籍生徒数

(ア) 入学生徒数（平成26年5月1日現在） [単位：人、%]

課程	定員	普通科	農業科	生活科	衛生 看護科	工業科	産業科	商業科	計	定員充足率
定時制	560	127	—	—	—	2	—	—	129	23.0
通信制	330	108	—	—	—	—	—	—	108	32.7
合計	890	235	—	—	—	2	—	—	237	26.6

[平成25年5月1日現在の生徒数計は、定時制122人、通信制94人、合計216人であり、それぞれ5人増、14人増、19人増]

(イ) 在籍生徒数（平成26年5月1日現在） [単位：人、%]

課程	定員	普通科	農業科	生活科	衛生 看護科	工業科	産業科	商業科	計	定員充足率
定時制	2,240	443	—	—	—	11	—	—	454	20.3
通信制	—	1,189	—	—	0	—	—	—	1,189	—
合計	2,240	1,632	—	—	0	11	—	—	1,643	—

[平成25年5月1日現在の生徒数計は、定時制509人、通信制1,116人、合計1,625人であり、それぞれ55人減、73人減、128人減]

イ 就学奨励事業

就学促進と教育の機会均等の確保のため「高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付」「高等学校定時制課程教科書及び通信制課程教科書給与事業」「夜間定時制高等学校給食費補助」を実施している。

ウ 主な事業（主催及び共催）

(ア) 岩手県高等学校定時制通信制教育振興会理事会・総会

期日……………平成26年5月7日

会場……………杜陵高校

参加者……………42人

(イ) 第64回岩手県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会

期日……………平成26年9月29日

会場……………盛岡市中央公民館

参加者等……………約100人（発表12人）

4 情報教育の充実

社会の情報化に対応した教育を行うため、「教育の情報化」を推進することとし、情報機器の整備促進及びその活用充実等のための研修や、IT活用能力及び指導力の向上のための各種研修を積極的に実施した。

(1) 情報関連機器の整備状況（平成26年3月現在） [単位：人、%]

学校種別	コンピュータ1台あたりの児童生徒数		普通教室における校内LAN整備率		超高速インターネット接続率	
	岩手県	全国平均	岩手県	全国平均	岩手県	全国平均
小学校	5.8	7.3	59.7	83.9	63.5	79.6
中学校	5.0	6.5	63.6	82.9	66.5	79.7
高等学校	4.4	5.0	97.8	94.1	100.0	77.2
特別支援学校	3.4	3.3	94.5	91.2	100.0	80.7
合計	5.2	6.5	68.8	85.6	69.1	79.1

(参考) 第2期教育振興基本計画による基準（文部科学省）

コンピュータ1台あたりの児童生徒数	電子黒板・実物投影機の整備	無線LAN整備率	超高速インターネット接続率
3.6人	1学級当たり1台	100%	100%

(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通)

(2) 教員の指導力の向上

ア 教員のICT活用指導力の状況（平成26年3月現在）

「わりにできる」「ややできる」と回答した教員の割合[単位:%]	岩手県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	82.4	80.9
授業中にICTを活用して指導する能力	70.5	69.4
児童・生徒のICT活用を指導する能力	69.0	64.5
情報モラルなどを指導する能力	77.5	76.1
校務にICTを活用する能力	79.9	77.0

イ 教員情報活用能力向上のための研修

小中高等学校及び特別支援学校の教員を対象に、総合教育センターで各種研修を行った。

ウ 初任者研修

初任者研修において、情報モラル指導や教育の情報化のための研修を行った。

5 国際理解教育の充実

国際化の進展に対応し、語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）により外国青年を招聘し、県立学校等における外国語教育や国際理解教育の充実を図った。

(1) 外国青年招致事業

ア 招致人員 10人

イ 国籍

米国、英国、カナダ、オーストラリア

ウ 配置先

学校教育室 1人

総合教育センター 1人

県立高校 8人

【配置・訪問学校名】

盛岡第三、盛岡北、不来方、花巻北、花巻南、水沢、一関第一、釜石、杜陵、紫波総合大迫、盛岡青松支援

(2) 外国語教育推進事業

これまで活用してきた語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）における外国語指導助手に関する事業について、外国語指導の向上を目的として、より効率的かつ効果的な運用を図ることとし、平成20年度から一部の業務を民間業者に委託して、県内すべての高等学校に外国語指導助手を配置している。

（平成26年度 民間業者による外国語指導助手29人）

6 キャリア教育の推進

近年の社会構造や就業形態の複雑化を背景として、高校や大学を卒業した若者の早期離職傾向や勤労観・職業観の未熟さ、社会人・職業人としての資質や能力の不足等が社会的に大きな課題となっており、小・中・高の発達段階に応じたキャリア教育が重要であることから、平成21年度に策定した「いわてキャリア教育指針」及び「いわてキャリア教育の手引き」並びに平成24年3月に作成した「いわてが目指すキャリア教育」リーフレットを活用し、各学校におけるキャリア教育推進の支援に努めた。

(1) 実践的キャリア教育研修会（北上川流域ものづくりネットワーク共催）の開催

企業見学や人材育成担当者等からの講話を通して、実社会や産業とのつながりについて認識するとともに、キャリア教育に対する視野を広げる機会とする。

地区名	期 日	見学先	担当教育事務所
盛 岡	平成26年 7月31日(木)	株式会社やまびこ盛岡事業所	盛岡教育事務所
花 巻	平成26年 9月16日(火)	和同産業株式会社	中部教育事務所
奥 州	平成26年 8月29日(金)	株式会社デジアイズ	県南教育事務所
大船渡	平成27年 1月28日(水)	SMC株式会社 釜石工場	沿岸南部教育事務所
宮 古	平成25年度で全校実施済み		宮古教育事務所
二 戸	平成26年 7月30日(水)	盛岡東京電波株式会社久慈工場	県北教育事務所

(2) キャリア教育指導者養成研修への派遣

キャリア教育を担当する指導主事や小・中・高等学校のキャリア教育担当者・進路指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育、キャリア・カウンセリング等について必要な知識を習得させることをねらいとした文部科学省主催の講座であり、小学校2人、中学校2人、高等学校1人が受講した。

(3) キャリアアップサポート事業の実施

岩手県産業教育振興会が行うキャリアアップサポート推進事業（各学校が実施する外部講師による講演会、生徒の企業見学等）を支援した。

(4) いわてのキャリア教育実践研修講座の実施

総合教育センターにおいて、教員研修を年2回実施。（平成24～27年度の4ヵ年計画）

この研修は、キャリア教育の計画立案や実践にあたって直面する諸課題の解決方法をより具体的に学ぶと共に、各校の実践内容について研究協議を行い、キャリア教育の実践に役立てることを目的としたものである。

7 職業教育の充実

(1) 職業教育の現状

本県における職業教育は、専門高校を中心に行われており、有為な職業人を育成するために、望ましい勤労観や職業観を培い、創造性を身に付けた総合的な人間育成の場としても大きな役割を果たしている。

また、近年、社会や産業構造、就労環境等も変化してきており、専門高校の教育内容等の一層の改善が求められているところである。

今後は、普通高校におけるキャリア教育の推進とともに、職業教育の更なる充実が求められていくものと考えられる。

(2) 職業教育の活性化に向けて

ア 新しい教育課程の実施

高等学校における職業教育のスタート段階では、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能を定着させることが重要であり、平成21年3月に告示された新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、各教科・科目の基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着を図るとともに、「課題研究」等の実践をとおした問題解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成を進め、職業教育の活性化に努めた。

また、地域の産業や社会を担う人材を育成するためには、さらに、産業界と連携しながら、体験的な学習を推進していく必要がある。

イ 学校・地域の協働によるキャリア教育推進事業の実施

平成19年度から平成22年度まで実施した文部科学省と経済産業省、農林水産省、水産庁との連携による「地域産業の担い手育成プロジェクト」の成果を踏まえ、平成22年度から県単独事業として実施している「学校・地域の協働によるキャリア教育推進事業」において、企業内実習や企業技術者による学校での実践的指導、日本版デュアルシステムなどを実施することにより生徒の実践力の向上が図られた。

分野	平成26年度「学校・地域の協働によるキャリア教育推進事業」実施校
農業分野	盛岡農業高校、花巻農業高校、水沢農業高校、遠野緑峰高校
工業分野	盛岡工業高校、花北青雲高校、黒沢尻工業高校、水沢工業高校、一関工業高校、千厩高校、大船渡東高校、釜石商工高校、宮古工業高校、久慈工業高校、種市高校、福岡工業高校
商業分野	盛岡商業高校、花北青雲高校、北上翔南高校、水沢商業高校、一関第二高校、大東高校、大船渡東高校、釜石商工高校、遠野緑峰高校、宮古商業高校、久慈東高校
水産分野	高田高校、宮古水産高校
家庭分野	平舘高校、花北青雲高校、大船渡東高校、宮古水産高校

第3 児童生徒の健やかな成長を支える取組の推進

社会の変化の中で、児童生徒の健やかな成長を支援するため、教員の資質と能力の向上を図るとともに、少人数教育の充実に努めた。

1 特色ある学校づくり

各学校は、児童生徒一人一人が在り方生き方を自覚し、将来の目標の設定や自己実現を図ることができるような、魅力ある学校づくりを進める必要がある。

そこで、平成21年度から、家庭、地域と協働して岩手の特色ある産業、文化を支える人材を育成するなど、生徒一人一人の多様な進路実現に向けた学校の取組を支援する「いわて未来創造人サポート事業」を実施している。

2 小規模校の振興

本県のへき地指定校は、平成26年5月1日現在小学校80校、中学校32校となっており、全学校に占める割合は、小学校23.3%、中学校19.0%で、小中学校全体では21.9%となっている。

また、複式学級を有する学校は、小学校101校（29.4%）、中学校3校（1.8%）である。

(1) 複式指導資料の作成

へき地・小規模複式指導DVDを活用し、複式学級における学習指導の充実を図った。

(2) 複式指導等改善巡回講座の実施

複式学級の特性を生かした学習指導の充実を図るため、複式学級の実態に即した研修を実施し、指導力の向上を図った。

教育事務所	学校名	期 日	研修内容
宮 古	岩泉町立二升石小学校	平成26年6月12日	出前授業、講義、演習

第4 教員の適正配置

1 教員採用試験の改善等

教員としての資質・能力のみならず、多角的な視点から判断できるような面接試験、論文試験を行っている。

また、実践的、専門的な技術、技芸等を教えることができる人材を確保し、学校を活性化することを目指して、スポーツ・社会人特別選考を実施するとともに、小中学校では、現職教員特別選考を実施し、即戦力となる人材の確保に努めた。

2 人事管理の改善

義務教育諸学校においては第7次定数改善計画、高等学校においては第6次定数改善計画により、きめ細やかな指導と基礎学力の向上を図るため、少人数指導を可能にする加配措置がなされた。

また、学級編制については、平成18年度から平成19年度にかけて小学校1、2年生に35人学級編制を導入し、平成24年度には中学校1年生、平成25年度から平成26年度にかけて小学校3、4年生まで拡大した。

3 司書教諭の養成

平成15年4月1日から12学級以上の学校には司書教諭を配置することになったため、計画的な司書教諭の養成に努めた。

【平成26年度図書館司書教諭有資格者数】

小学校	475人
中学校	176人
高等学校	143人
特別支援学校	111人

4 教職員の養成・免許・検定

領域別免許状の保有状況等を勘案し、平成21年度から特別支援学校教諭免許状の取得を促すため、特別支援教育に関する科目のみの認定講習を開催するなど、県として保有状況の改善に努めた。

(1) 免許法認定講習

会場	盛岡市内3会場
期日	平成26年7月30日～8月6日
受講者	154人
単位授与者	154人
開設講座	3講座

(2) 教育職員の免許状授与状況

(右表のとおり)

【教育職員の免許状授与状況（単位：件）】

免許状の種類	平成26年度	平成25年度
授与・再交付・書換え		
普通免許状		
小学校教諭	246	269
中学校教諭	337	366
高等学校教諭	389	436
養護教諭	12	22
特別支援学校教諭	94	83
自立教科教諭(理療)	1	0
特別支援自立活動	0	0
幼稚園教諭	439	405
栄養教諭	27	12
計	1,545	1,593
臨時免許状		
小学校助教諭	11	11
中学校助教諭	7	7
高等学校助教諭	53	54
養護助教諭	0	0
特別支援学校助教諭	18	12
自立教科助教諭(理療)	1	2
幼稚園助教諭	3	0
計	93	86
特別免許状	3	0
再交付・書換え		
再交付	261	256
書換え	322	320
計	583	576
合計	2,224	2,255
免許状授与証明書	558	585

第5 教員研修の充実

本県における教育振興上の重要課題の解決のため、「授業力向上研修」を中心とする教員のキャリア・ライフステージに沿った新しい研修体系を平成21年度に策定し、研修を実施した。

特に、新学習指導要領の趣旨や内容の徹底を図るとともに、児童生徒の学力向上・健全育成を中心課題として、教員の指導力の向上を図った。

1 平成26年度研修実績

(1) 管理職研修

[単位：人]

講座名	受講対象	講座内容	日数等	研修者数
校長研修講座	小中学校長	人事・服務上の諸問題、指導行政上の諸問題、復興教育・生徒指導関係、保健体育関係、教育センター関係、講話（岩手の教育の目指すもの／校長に望むこと）、意見交換会、コンプライアンス、グループ協議（教育課題協議）	2	505
副校長研修講座	小中学校副校長	副校長に期待すること、人事管理上の諸問題、復興教育、リスクマネジメント、講話、講演、研究協議等	1	502
新任校長研修講座	小中学校新任校長	岩手の義務教育の目指すもの、先輩校長から学ぶ、新任校長に望む、学校経営に望むこと、コンプライアンス、教職員のメンタルヘルス、アンガーマネジメント、学校経営とリスクマネジメント、教職員の人材育成	2	61
新任副校長研修講座	小中学校新任副校長	副校長の役割、人事管理上の諸課題、労働基準及び労働安全衛生について、学校経営上の諸問題、コンプライアンス、教職員のメンタルヘルス、指導行政と学校教育、いわての教育課題、先輩副校長から学ぶ、学校教育課程に対する回答、サービス・法規	3	64
新任校長研修講座	県立学校新任校長	各学校の課題・取組状況についての意見交換会、教育法規演習、教職員のメンタルヘルス、学校の危機管理、インクルーシブ教育、コンプライアンス、新任校長に期待する	3	23
新任副校長研修講座	県立学校新任副校長	各学校の課題・取組状況についての意見交換会、生徒指導、教育法規演習、教職員のメンタルヘルス、労働安全衛生、特別な支援を要する生徒への対応、新任副校長に期待する	3	32

(2) 初任者研修（小学校・中学校、新採用教員対象）

[単位：人]

講座名	コース名	講座内容	日数等	研修者数	
初任者研修講座	総合教育センター研修	【1年目】 学習指導要領、年間指導計画の作成、教育相談、学級経営、教科・道徳・特別活動、総合的な学習の時間の意義と進め方、情報モラル、自己研修の進め方 等 【2年目】 （H27年度から） 学校安全、宿泊研修、レクリエーション活動 等 【3年目】 （H28年度から） 情報活用、学級経営、自己研修 等	(1年目)Ⅰ	4	82
			(1年目)Ⅱ	3	82
			(1年目)Ⅲ	3	82
	教育事務所研修	身分とサービス、教育課程の編成、授業実習と授業研究、自己研修の進め方、社会奉仕体験の心構え 等	5	82	
	市町村教育委員会研修	各市町村の教育課題、教科・領域授業研究、各実践課題への取組 等	2	82	
校内研修	各種教育指導、学級経営、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導、生徒指導の実際 等	180時間程度	82		

(3) 初任者研修（高等学校・特別支援学校、新採用教員対象） [単位：人]

講座名	コース名	講座内容	日数等			研修者数
初任者研修	本庁研修	学習指導要領解説、教科・教育の現状と課題、授業参観、授業研究、他校種授業参観、社会奉仕体験活動	高校 6 特支 4			68 (高校41、特支27)
	総合教育センター研修	【1年目】 服務とその責任、復興教育、指導計画・指導案、教材研究、教科指導法、生徒理解、接遇、道德教育、特別支援教育、総合的な学習の時間、特別活動、ホームルーム活動、ボランティア活動、キャリア教育、情報モラル、教育相談、自己研修 等 【2年目】 (H27年度から) 学校安全、宿泊研修、レクリエーション活動 等 【3年目】 (H28年度から) 情報活用、学級経営、自己研修 等	高等学校 (1年目)	I	4	51
				II	4	41
				III	3	41
			特別支援学校 (1年目)	I	3	33
	II	4		26		
III	3	26				
所属校研修	基礎的素養、ホームルーム経営、教科指導、特別活動、生徒指導 等	180時間程度 (うち150時間は週時程に位置付ける)			67	

(4) 新任教務主任研修（小学校・中学校、新任教務主任対象） [単位：人]

講座名	コース名	講座内容	日数	研修者数
新任教務主任研修	新任教務主任研修 (中央研修)	学校経営と教務主任、教務主任と教育法規、学校運営計画書と教育課程の編成、教務主任の校務上の課題、教務に役立つ情報活用等	2	84 (小54、中30)

(5) 新任教務主任研修（高等学校・特別支援学校、新任教務主任対象） [単位：人]

講座名	コース名	講座内容	日数	研修者数
新任教務主任研修	新任教務主任研修	教務主任の役割、教育活動と教育法規、総合的な学習の時間・自立活動の指導の取組、教務課運営の実際、文書事務等	3	30(高校23、特支 7)

2 平成26年度研修事業受講者一覧（総合教育センター実施分）

(1) 所属種別研修講座数、研修者数（要請研修、随時研修は除く）

[単位：人]

講座\所属	幼稚園・保育所	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	事務職等	計
研修講座数	8	70	66	64	57	2	262(延)
研修者数	126	2,067	1,280	1,317	546	85	5,421

(2) 所属種別研修講座別研修者数

[単位：人]

研修名	講座名	研修者数										計	
		単 独					合 併						
		幼・保	小学校	中学校	高校	特支	幼・保	小学校	中学校	高校	特支		事務職
基本研修	初任者研修	107	114	129	133	111							594
	教職経験5年研修		25	44	42	19							130
	教職経験10年研修	17											17
	授業力向上研修		738	417	345	119		424	235	187	64		2529
	小 計	124	907	590	520	249		424	235	187	64		3300
特別研修	新任者				37			219	81	58	15		410
	教職専門		42	59	140	96		69	63	92	30		591
	事務職専門											70	70
	小 計		42	59	177	96		288	144	150	45	70	1071
希望研修	教科研修		5	46	110	4		3		4	1	1	174
	領域等研修							33	28	25	16	10	112
	情報教育研修						1	11	18	33	3	1	62
	教育相談研修							58	49	42	11	1	161
	特別支援教育研修							69	24	21	21		135
	公開研修		120	4	6	3	1	98	80	38	31	2	383
	小 計		125	50	116	7	2	272	199	163	83	15	1,032
	要請研修	607	3,267	1,512	1,654	639							7,679
	随時研修	5	121	97	72	26							321
	小 計	612	3,388	1,609	1,726	665							8,000
	派遣研修							9	3	4	2		18
	総 計	736	4,462	2,308	2,539	1,017	2	993	581	504	194	85	13,421

第6 教員研究等の充実

県立総合教育センターを中心に、本県教育における重要性・緊急性が高い諸課題について、以下の調査・研究を行った。

1 数学科の身に付けさせたい力を育てる指導法について―「わかる授業」の具体化を通して―

県内の中学校数学科における授業改善と学力保障を目指し、岩手県教育委員会では「わかる授業」を指定した。この研究では「学習課題の把握」と「学習を振り返る場面」に焦点を当て、研究を進めた。この2点を意識した授業展開の工夫をすることが、生徒にとって「わかる授業」につながるということを確認できた。

2 主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善に関する研究

―間接指導を充実させる映像資料集作成を目指して―

複式学習指導においては、間接指導の際、子どもたちが個人で、またはグループなどで協力しながら学習を進めていくことができるように、主体的な学習の仕方を身に付けるための配慮が必要である。この研究では、複式学習指導の進め方の映像資料集を作成した。この映像資料集を視聴し、複式学習指導について理解を深めることによって、複式学級の授業改善につなげることができる。

3 高等学校理科「地学基礎」・「科学と人間生活」におけるサポート資料の作成

高等学校の理科は、物理、化学、生物、地学の4領域のうちから3領域以上を学ぶ。理科においては、観察、実験を通して自然や科学に対する興味・関心を高める指導をすることが大切である。今年度は、「地学基礎」「科学と人間生活」について、生徒が目的意識を持って、観察、実験に取り組むことができる内容を掲載したサポート資料を作成した。

4 高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する研究

高等学校における情報モラル指導の進め方として、道徳性を養うための指導方法を検討し、教材としてSNSにおけるトラブルを扱った読み物資料と指導展開例を作成した。また、生徒の興味・関心を高めるために読み物資料のマンガ版も用意し、授業実践で活用した。この授業実践を通して、インターネット上で情報発信する際の道徳的判断力や道徳的心情に対する意識を高めるとともに、これらを基盤とする道徳的実践意欲を高めることができた。

5 技術・家庭科家庭分野における生活技能を高める学習指導に関する研究

―自主実習題材での学習指導計画とコンテンツの作成を通して―

本研究は、中学生としての生活を自立的に営めるよう、生活とのつながりや地域の生活文化とのかわりに配慮した自主実習題材での学習指導計画とコンテンツを作成した。それらを活用した授業実践を通して、中学校技術・家庭科家庭分野における生活技能を高めることができた。

6 特別支援学校（知的障がい）における進路指導の充実に関する研究

―進路・就労支援ハンドブックの活用を通して―

特別支援学校（知的障がい）における進路指導の充実を図る4つの視点、「校内連携」「関係諸機関との連携」「卒業後の支援」「保護者（家庭）への支援」に基づいて「進路・就労支援ハンドブック」を作成した。本ハンドブックは、「生徒の学習場面」「職員の研修場面」「保護者への説明場面」など幅広い場面で活用できる内容となっている。

7 「自己研修の進め方」事例の収集及び手引きの作成

初任者研修講座における講義「自己研修の意義と進め方」で学んだことをもとに、2年目研修において、より主体的に「自己研修」に取り組むことができるように、実践事例を収集し手引きを作成した。作成した手引は、初任者研修講座及び教職経験5年研修講座で配付する。

8 教師個々の力量を高めるためのOJTガイドブックの作成

—学校内における人材育成の進め方—

ベテラン教員から若手教員への知識・技術の継承、多様化・複雑化する教育課題への的確な対応等、校内における人材育成をより一層推進し、職務を遂行するための教師個々の力量向上を図ることが各学校に求められている。本研究では、校内における人材育成としてのOJTの進め方について解説したガイドブックを作成した。

9 学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究

—学びの連続性を考慮し、単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり—

学習指導要領が改訂され、国語科では「実社会で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けた児童生徒を育成すること」が改善の重点として示された。この研究では、「読むこと」領域と「書くこと」領域における「小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック」を作成し、単元構想や単元時間の授業の進め方について具体的に解説している。

10 複式指導に関する指導資料の収集・整理・分類

県内においては複式学級を有する小学校が3割程度あり、複式学級を初めて担当する教員も少なくない。そのため、複式学級においてどのように学習指導を進めれば良いかについて困り感も多く寄せられている。そこで、これまでの指導資料等を整理し、各校で活用しやすいように、複式学級における学習指導の進め方をガイドブックにまとめた。

11 中学校理科の観察・実験資料集の作成

学習指導要領の改訂によって、理科の授業時間増加と共に、新しい学習内容が追加され、その指導の充実が求められている。この研究では、観察・実験で使える教材・教具や、観察・実験の準備や操作に関するポイント等を示した「中学校理科の観察・実験資料集」を作成した。

12 授業及び学校活動における電子黒板等ICT機器利用・デジタル教材活用のための実践集作成

県内の学校において、ICT環境の整備が進められているものの、授業においては十分に活用されていない状況が見受けられる。この研究では、各校においてICT機器やデジタル教材の活用に向けた参考となるよう、実践集を作成した。

13 通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実に関する研究

—校内資源を活用した校内支援体制の確立を目指して—

通常の学級に在籍する児童生徒への支援を効果的に行うためには、校内に設置された各分掌、特別支援学級や通級指導教室等、各学校にある組織、人材、学習の場等の校内資源を活用した支援体制を確立する必要がある。そこで、この研究では、支援を必要とする児童生徒に対する校内支援体制等について調査し、その結果をまとめた。

第2節 確かな学力をはぐくむ教育の推進

第1 学習指導要領を踏まえた教育課程の編成

学習指導要領の趣旨の確実な周知と理解を図り、効果的な教育課程の編成と実践に向けた指導の在り方を支援し、地域や児童生徒の実態に即した柔軟で特色ある教育を推進するよう努めた。

また、学習指導要領の趣旨を踏まえて、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態と特色を生かした、柔軟で適切な教育課程を編成するために、9年間の義務教育を効果的なものにしていく一つの方策として、小中連携・一貫教育に関する取組への支援を進める状況を整備した。

具体的には、次のとおりである。

- 1 児童生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することができたこと
- 2 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めることができたこと
- 3 教育課程を計画的・組織的に評価し、教育課程の見直しと改善を図ることができたこと

第2 学習面における基礎・基本の定着

基礎的・基本的な知識や技能、さらには、習得した知識や技能を活用し、自らの人生を切り拓いていくために必要な能力である思考力、判断力、表現力を身に付けさせるよう努めた。

このため、きめ細かな指導を通じて、児童生徒に自信と意欲をもたせるとともに、家庭と連携して学習習慣の確立を図った。

また、少人数教育による児童生徒の実態や状況に応じた柔軟な指導を推進するよう努めた。

1 児童生徒一人一人の学習面における基礎・基本の確実な定着

(1) 学習面における基礎・基本の確実な定着

各種調査により明らかになった課題を解決するための取組の推進

- ・ 授業力の向上・分析力の向上（学習定着度状況調査 集計・分析シートの活用）
- ・ 分析結果を活用した授業改善の推進（授業力向上ブラッシュアッププラン）
- ・ 基礎力の定着状況の把握（基礎力確認調査）

(2) 市町村教育委員会や関係機関などと連携した少人数教育の推進

2 学力・授業力向上の取組

(1) 学校訪問の趣旨

学習定着度状況調査の分析及び学力向上のための学校訪問指導の結果等から、数学・英語の学力向上について取り組むべき課題が明らかになっている。この対策に取り組むため、学校教育室に学力・授業力向上を担当する指導主事を配置し、算数・数学、英語に携わる教員に対して授業力の向上につながる支援を行うとともに、教員一人一人が更なる授業改善に取り組み、授業力の向上を図ることによって、各教科の課題解決を目指すものである。

(2) 取組内容

授業力向上セミナー
<ul style="list-style-type: none">● 県内各地区の優れた授業実践（数学・英語）や、岩手の教育課題の解決に基づいた授業を紹介するほか、児童、生徒の学力向上に向けた授業力向上のための講義や演習の実施 <p>⇒モデル授業＋研究協議若しくは付箋紙ワークショップ＋講義による参加型の半日の研修会が基本</p> <p>⇒小・中・高の教員が同一の授業を見て気付き合うことや情報交換できるような場を提供</p>
個別訪問
<ul style="list-style-type: none">● 【目的】 諸調査から見える県全体の課題解決と、各校の課題に応じた授業改善に向けた個別支援● 【訪問対象校】<ul style="list-style-type: none">⇒中核教員の所属する学校（※1）⇒県教委が指定する学校（※2）⇒訪問を希望する学校（※3）● 【訪問内容】<ul style="list-style-type: none">⇒授業参観（1単位時間）の後、指導助言及び授業者と個別相談、教科部会についての協議⇒校長・副校長との生徒の学力向上に向けた情報交換⇒上記のほか、各校の実情や要望を考慮し、指導主事による模擬授業や録画した授業ビデオを使用した研修なども実施（※4）
<ul style="list-style-type: none">※1 各地域の中核となる教員の育成を目的として指定する教員の所属する学校※2 中学校は県学調や英語チャレンジテスト等の結果に基づいて指定 高等学校の数学は原則として全校指定、英語は平成25年度中高連携英語力向上事業の17校を指定※3 個人、学校、市町村教育委員会として希望することも可能※4 日程調整が必要なため、予め連絡が必要

(3) 授業力向上セミナー・個別訪問実績

平成26年度 授業力向上セミナー・個別訪問 実績

	授業力向上セミナー							個別訪問		
	校種	年間実施計画 (校)	実施校 (校)	授業者 (人)	参加者(人)			年間実施計画 (校)	実施校 (校)	授業者 (人)
					小中学校	県立学校	合計			
数学	中学校	6	6	6	152	17	169	101	121	136
	高等学校	6	6	6	10	146	156	65	65	128
	小学校	6	6	6	187	7	194			
	計	19	19	19	353	153	506	217	220	296
英語	中学校	6	6	6	153	49	202	75	82	90
	高等学校	3	3	3	10	63	73	61	61	105
	計	9	8	8	165	80	235	167	172	216

第3 学力を伸ばし、生きる力をはぐくむ教育の推進

すべての教科等を通じて児童生徒の言語活動を充実させ、論理的な思考や表現する力、人間関係を豊かにする力などをはぐくむよう努めた。

また、児童生徒が自ら将来を考え、希望する進路を実現するために、それぞれの学校において学力向上に取り組むとともに、自立した社会人となるための意識の醸成や、学習に主体的に取り組むための動機付けなどを積極的に推進した。

1 進路指導の充実

進路指導は生徒の「人間としての在り方生き方」についての指導、援助であるとともに、個々の生徒の職業的発達を促進し、主体的な進路の選択能力を育て、自己実現に最善の努力ができる人間の育成を図ることにある。このため、次のような点に留意して実施した。

- ① 校内進路指導體制の確立
- ② 年間指導計画の整備
- ③ 生徒理解の強化と生徒の自己理解の深化
- ④ 個人資料及び進路情報資料の収集と整備
- ⑤ 進路指導研修の充実と中・高連携の強化
- ⑥ 中高の望ましい接続のあり方についての研修

2 魅力ある学校づくりの推進

各学校が自らの裁量で創意工夫を凝らした様々な活動を通じて、学校の活性化と個性化を推進する事業であり、大学講習など進学指導に関する事業を実施した。

【いわて進学支援ネットワーク事業（28校）】

生徒一人一人の進路希望の実現とともに、医師、弁護士、高度先端技術分野の研究者や技術者等の、将来の本県を支える人材を育成するために、生徒の医学部等のいわゆる難関大学・学部等への進学希望も実現できるよう、学校の取組を支援した。

主な取組

○難関大学・超難関大学対策講座

県内各地域の難関大学志望の生徒を対象に広く呼びかけ、指導実績のある講師による対策講座を1年に3～4回合同で実施。

○ウィンター・セッション

県内高校の進学希望者に大学で学ぶ内容や意義を知る機会を提供するため、県内5大学等で組織される「いわて高等教育コンソーシアム」と合同で実施。

第3節 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進

第1 道徳教育、体験活動・読書活動等の推進

人間としての在り方、生き方について考える力の育成と心の教育の充実を図り、他人を思いやり、良好な人間関係を築くことのできる力、自然や命あるものを大切にする心など、児童生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図った。

また、ボランティア活動など様々な体験活動や多様な読書活動に取り組み、物事に主体的にかかわり素直に感動できる豊かな情操を育てるよう努めた。

1 道徳教育の推進

学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進し、児童生徒の豊かな心の育成を図った。

教員の指導力向上のため、道徳教育の中核となる指導者養成研修に教員等を派遣し、指導力の向上を図るとともに、総合教育センターにおいて特別研修を実施し、道徳教育推進教師の資質向上を図った。

(1) 研修事業

- 平成26年度道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）（(独)教員研修センター）
平成26年5月26日～30日（5日間）指導主事（高等学校を含む）4人
- 平成26年度道徳教育指導者養成研修（東日本ブロック別指導者研修）（青森県青森市）
平成26年8月19日～21日（3日間）教諭（高等学校を含む）15人
- 総合教育センターでの特別研修「道徳の時間を『要』として進める道徳教育研修講座」
平成26年11月10日～11日（2日間）教諭等

(2) 研究推進事業

- 児童生徒の心を耕す教育推進事業
中央指導者研修、ブロック別指導者研修への派遣研修者を活用し、授業研究会、理論研究会、教材研究の場等への講師を派遣することにより、道徳教育の質の向上を図った。

2 体験活動・読書活動の推進

学習指導要領の趣旨を踏まえて、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態と特色を生かした豊かな体験活動や読書活動を推進した。

(1) 体験活動の状況

体験活動の教育活動への位置付けと多様な推進方策についての情報提供を図るとともに、各学校においては、地域や学校の特色を生かした体験活動への取組を進めた。

(2) ボランティア教育・環境教育の状況

福祉活動や環境保護などボランティア教育に対する理解と関心を高め、社会貢献の精神を育てるとともに、児童生徒の豊かな人間性を育み、自らの生き方を主体的に考える態度の育成を図る教育を推進した。

ア ボランティア教育

ほぼ全ての小・中学校でボランティア活動が実施されており、特に、地域における清掃活動や募金活動を実施する学校が増えている。社会福祉協議会等関係機関と連携しながら、老人施設・福祉施設・特別支援学校等での交流活動や介護体験、キャップハンディー体験等を、総合的な学習の時間をはじめ、各教科、道徳、特別活動に積極的に取り入れ、体験的な学習としてボランティア活動に取り組むことが広まっている。

イ 環境教育

かつてない広がりや複雑さをもって環境問題が顕在化している現状を踏まえ、将来を生きる児童生徒が、この問題に関する正しい理解を深め、環境保全に参加する態度及び問題解決能力などを身に付け、責任をもって環境を守るための行動ができるよう指導を行った。

(3) 読書活動の状況

読書活動については、学校図書館担当者も対象とした読書活動推進会議・研修会を実施し、児童生徒の読書活動を支援し、より豊かなものとしていくための環境整備に努めた。

- ・「いわて中高生のためのおすすめ図書100選」に続き、「いわての小学生のためのおすすめ図書100選（いわ100きつず）」を作成した。
- ・子どもたちが主体的に読書活動に取り組むことのできる環境作りを進めるための「第3次いわて子どもの読書活動推進計画」に基づく読書活動を推進している。

3 幼児教育の推進

幼稚園教育要領に基づく教育の充実のために、幼稚園教育の内容、幼稚園の運営・管理、保育技術等に関する説明や研究協議、演習を行った。また、教員の資質の向上を図るため、幼稚園等新規採用教員研修及び教職経験者10年研修を実施した。

(1) 園長等運営管理協議会（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)				
		公立	私立	保育所	その他	合計
サンセール盛岡	平成26年 5月27日	41	35	35	17	128

(2) 保育技術協議会（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)				
		公立	私立	保育所	その他	合計
生涯学習推進センター	平成26年 7月 2日	26	13	74	8	121

(3) 幼稚園教育研究協議会（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)				
		公立	私立	保育所	その他	合計
生涯学習推進センター	平成26年 8月 8日	57	30	13	15	115

(4) 幼児期における子育て支援協議会（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)				
		公立	私立	保育所	その他	合計
生涯学習推進センター	平成26年11月11日	5	10	10	5	30

(5) 幼稚園等新規採用教員研修（主催：岩手県教育委員会）

区 分	会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)			
			公立	私立	保育所	合計
センター研修Ⅰ	総合教育センター	平成26年 6月 4日～ 6月 5日	14	19	3	36
センター研修Ⅱ	総合教育センター	平成26年 8月 6日～ 8月 8日	14	27	3	44
センター研修Ⅲ	総合教育センター	平成26年10月15日～10月17日	14	13	3	30

(6) 幼稚園教職経験者10年研修（主催：岩手県教育委員会）

会 場	実 施 期 日	参 加 人 数 (人)		
		公立	私立	合計
センター研修	平成26年 7月28日～30日	4	11	15
教育事務所研修	平成27年 1月30日（中部） 平成27年 2月 3日（県南）	4	0	4
選択研修	選択研修講座の日程による	4	0	4

第2 生活面における基礎・基本の充実

家庭や地域社会における教育力を生かし、学校、家庭、地域と連携・協働した教育を充実させ、児童生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせる取組を推進した。

○ 生活面における基礎・基本の充実

学習定着度状況調査等における児童生徒質問紙調査の生活習慣や家庭での生活に関する内容の結果を分析・検証し、各学校に情報提供するとともに、県PTA連合会との連携を図り、家庭や地域との一体となった取組に努めた。

第3 問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応のための指導の充実

家庭教育、体験や経験を通して身につける社会生活を営むためのルールや規範意識、コミュニケーション能力等の低下により、暴力行為、いじめなどの問題行動や不登校、中途退学などの学校不適応の問題が大きな教育問題となっている。

平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題の調査（文部科学省）によると、暴力行為の発生件数は162件で前年度から34件増加した。一方、いじめの認知件数は837件であり、前年度に比べ1,449件減少した。不登校児童生徒の状況については、小学校153人、中学校710人、高等学校373人であり、小学校・中学校では不登校の比率が上昇し、高等学校では低下の傾向を示している。また、中途退学者は、平成19年度から減少傾向にあり、平成25年度から調査対象となった通信制課程における中途退学者を除くと平成25年度は263人と前年度から42人減少した。

本県の児童生徒は、全国と比較すると概ね落ち着いた状況にあるが、これらの問題の解決のためには、学級経営、学級集団づくりを充実させ、一人一人の児童生徒にしっかりと向き合い自己実現を支援することが必要である。また、不適応傾向をもつ児童生徒に対しては学校全体で情報を共有し、チームによる指導、援助を行っていくとともに、関係機関との日常的な連携の強化、就学後の福祉サイドからのサポートなどの親への支援、家庭を孤立させない地域コミュニティの確立を通して、学校不適応を解消する組織的、広域的な取組が必要である。

1 高等学校生徒指導連絡協議会（主催：岩手県教育委員会）

【期 日】平成26年5月8日～5月19日

【会 場】地区別8会場

【参加者】校長、教員、在学青少年指導員 166人（延べ）

2 児童生徒の表彰

県内各学校の児童生徒を対象に、他の模範となる行為や活動を表彰することにより、児童生徒の社会的行動や道徳的態度、実践力の向上など学校教育の一層の充実に資するため、昭和60年度から児童生徒の表彰を実施している。

平成26年度の表彰は次のとおりであり、計41個人・団体を表彰している。内訳は、善行表彰が4、奨励表彰が35、努力表彰が2であり、小学校が6（個人6、団0）、中学校が11（個人6、団体5）、高校が24（個人10、団体14）である。

平成26年度第1回児童生徒表彰（はばたき賞） 受賞者一覧

番号	項目	校種	所属・氏名	内 容
1	善行 (人命救助)	小 個	普代村立普代小学校 4年 正路 颯太郎	平成26年1月4日、用水路に転落した男性を目撃して家族に連絡するなど人命救助に貢献し、久慈地区広域連合消防本部消防長から感謝状を授与された。
2	善行 (人命救助)	高 団	大船渡東高等学校 1年 佐々木 健人 1年 千葉 天太	平成26年5月2日、川に転落して流されそうになっていた男性を、連携して救助するなど人命救助に貢献し、大船渡警察署長から感謝状を授与された。
3	奨励 (文化活動)	小 個	大船渡市立越喜来小学校 3年 山田 快	第25回MOA美術館全国児童作品展絵画の部2年の部において、文部科学大臣奨励賞を受賞した。
4	奨励 (文化活動)	小 個	二戸市立中央小学校 5年 古舘 青空	第59回青少年読書感想文全国コンクール小学校中学年の部において、内閣総理大臣賞を受賞した。

5	奨励 (文化活動)	中 個	一関市立山目中学校 3年 千葉 優稀	第81回全国書画展覧会書の部において内閣総理大臣賞、並びに第57回J A共済全国小・中学生書道コンクール半紙の部において農林水産大臣賞を受賞した。
6	奨励 (文化活動)	中 団	住田町立世田米中学校 特設木工部	日本木材青壮年団体連合会主催第38回児童・生徒木工工作コンクールにおいて、農林水産大臣賞を受賞した。
7	奨励 (文化活動)	高 個	盛岡第四高等学校 3年 福島 志保	第15回高校生国際美術展美術の部において、内閣総理大臣賞を受賞した。
8	奨励 (文化活動)	高 団	宮古商業高等学校 商業研究グループ	第21回全国高等学校生徒商業研究発表大会において、最優秀賞・文部科学大臣賞・産業教育振興中央会賞を受賞した。
9	奨励 (文化活動)	高 団	盛岡第二高等学校 箏曲部	第38回全国高等学校総合文化祭日本音楽部門において、文化庁長官賞を受賞した。
10	奨励 (文化活動)	高 団	岩泉高等学校 郷土芸能同好会	第38回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門において、優秀賞・文化庁長官賞を受賞した。
11	奨励 (スポーツ)	中 個	二戸市立福岡中学校 3年 山田 美来	平成26年度全国中学校体育大会陸上競技女子200mにおいて、第2位に入賞した。
12	奨励 (スポーツ)	高 個	岩谷堂高等学校 3年 菊地 凱	第29回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会男子105kg級において、第2位に入賞した。
13	奨励 (スポーツ)	高 個	黒沢尻工業高等学校 3年 畠山 稜也	第25回全国高等学校ボクシング選抜大会兼JOCジュニアオリンピックカップバンタム級において、第2位に入賞した。
14	奨励 (スポーツ)	高 団	沼宮内高等学校 男子ホッケー部	平成26年度全国高等学校総合体育大会ホッケー競技男子の部において、準優勝した。
15	奨励 (スポーツ)	高 団	盛岡工業高等学校 アーチェリー部	平成26年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技男子団体において、第2位に入賞した。
16	奨励 (スポーツ)	高 団	不来方高等学校 女子カヌー部	平成26年度全国高等学校総合体育大会カヌー競技女子スプリントカヤックペア500mにおいて、第2位に入賞した。
17	奨励 (スポーツ)	高 団	宮古高等学校 男子ヨット部	平成26年度全国高等学校総合体育大会ヨット競技男子F J級デュエット競技において、第2位に入賞した。
18	奨励 (スポーツ)	高 団	宮古高等学校 女子ヨット部	平成26年度全国高等学校総合体育大会ヨット競技女子F J級デュエット競技において、第2位に入賞した。
19	奨励 (スポーツ)	高 団	岩手高等学校 山岳部	平成26年度全国高等学校総合体育大会登山競技男子団体において、第2位に入賞した。

平成26年度第2回児童生徒表彰（はばたき賞） 受賞者一覧

番号	項目	校種	所属・氏名	内容
1	善行 (人命救助)	中団	北上市立飯豊中学校 3年 柏葉 優花 菅野 千涼 下杉 温輝 加納 伊吹基	車道にはみ出すように転倒した男性を介抱し、学校に通報するなど人命救助に貢献し、北上警察署長から感謝状を授与された。
2	善行 (奉仕活動)	中団	盛岡市立下橋中学校 生徒会	約30年間の学区内における清掃活動が評価され、第15回環境美化教育優良校等表彰において、文部科学大臣賞を受賞した。
3	奨励 (文化活動)	小個	金ヶ崎町立第一小学校 4年 家子 唯貴	第33回全国児童画コンクール小学校高学年の部において、文部科学大臣賞を受賞した。
4	奨励 (文化活動)	小個	久慈市立久慈湊小学校 6年 大粒来 耕大	第38回全国児童・生徒木工工作コンクール小学校高学年の部において、農林水産大臣賞を受賞した。
5	奨励 (文化活動)	中個	紫波町立紫波第一中学校 3年 北野 志穂	第64回全国小・中学校作文コンクール中学校の部において、読売新聞社賞を受賞した。
6	奨励 (文化活動)	高個	盛岡第三高等学校 3年 大城 美樹	第29回全国高等学校文芸コンクール散文の部において、文部科学大臣賞を受賞した。
7	奨励 (文化活動)	高個	盛岡工業高等学校 3年 工藤 和希	第14回高校生ものづくりコンテスト全国大会化学分析部門において、文部科学大臣賞を受賞した。
8	奨励 (文化活動)	高個	福岡高等学校 2年 小野 肖奈	第53回全国高等学校生徒英作文コンテスト2・3年生の部において、文部科学大臣奨励賞を受賞した。
9	奨励 (文化活動)	高団	盛岡第四高等学校 文芸部	第29回全国高等学校文芸コンクール文芸部誌の部において、文部科学大臣賞を受賞した。
10	奨励 (文化活動)	高団	遠野緑峰高等学校 生産技術科 草花研究班	第64回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会文化生活の部において、文部科学大臣賞を受賞した。
11	奨励 (文化活動)	高団	一関第一高等学校 家庭クラブ	第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会学校家庭クラブ活動の部において、文部科学大臣賞を受賞した。
12	奨励 (スポーツ)	小個	盛岡市立北厨川小学校 6年 高橋 咲良	第30回全国小学生陸上競技交流大会女子ソフトボール投において、第2位に入賞した。
13	奨励 (スポーツ)	中個	滝沢市立滝沢第二中学校 2年 熊谷 萌	第34回全国中学校スケート大会女子500mにおいて、第2位に入賞した。
14	奨励 (スポーツ)	中個	北上市立北上中学校 3年 佐藤 慎巴	第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会男子クラスA3000mにおいて、第2位に入賞した。
15	奨励 (スポーツ)	中団	岩手選抜中学校 男子ホッケーチーム	第15回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会男子の部において、準優勝した。

16	奨励 (スポーツ)	中 団	岩手選抜中学校 女子ホッケーチーム	第15回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会女子の部において、準優勝した。
17	奨励 (スポーツ)	高 個	盛岡南高等学校 2年 佐々木 愛斗	JOCジュニアオリンピックカップ第8回日本ユース陸上競技選手権大会男子400mにおいて、第2位に入賞した。
18	奨励 (スポーツ)	高 個	岩谷堂高等学校 3年 柴田 真聖	第14回全国障害者スポーツ大会陸上競技男子200mにおいて、第2位に入賞した。
19	奨励 (スポーツ)	高 個	三愛学舎 高等部専攻科 1年 留場 和也	第14回全国障害者スポーツ大会陸上競技少年男子200mにおいて、第1位及び同100mにおいて第2位に入賞した。
20	奨励 (スポーツ)	高 団	盛岡視覚支援学校 男子リレーチーム	第21回全国盲学校通信陸上競技大会男子4×100mリレーにおいて、第1位に入賞した。
21	努力 (スポーツ)	中 個	盛岡視覚支援学校 中学部3年 鈴木 諄	障がいにならず、スポーツや文化活動に取り組む姿と第21回全国盲学校通信陸上競技大会中学部男子50m音響走及び100m円周走における第3位入賞、第36回東北地区盲学校弁論大会での入賞などの成果により、周囲の生徒に大きな夢と感動を与えた。
22	努力 (スポーツ)	高 個	盛岡視覚支援学校 高等部3年 石川 夏緒	障がいにならず、書道、作詞など多方面で高い評価を得る一方、苦手の陸上競技に取り組み、第21回全国盲学校通信陸上競技大会高等部女子100m円周走において、第2位に入賞するなど、何事にもチャレンジする姿が友人たちに大きな感動と希望を与えた。

3 教育相談

平成26年度の相談受理件数は382件、延べ相談件数は2,334件であった。うち、電話相談が1,631件、面接による相談が703件（来所相談416件、訪問相談287件）である。

相談受理件数を内容別に見ると、小・中・高いずれの校種も「性格・行動に関すること」が最も多く、全体で225件と59.0%を占めた。次いで、「知能・学業に関すること」が57件（14.9%）となっている。主訴別の相談件数では「学業」と「対人関係」がともに57件と多く、児童生徒が日々の学習や友達等との関係に何らかの困り感を抱いているということがわかる。

不登校の校種別の相談件数は、中学校と高校がともに20件（37.0%）で最も多い。小学校では、中学校高校に比べて少ないが増加傾向にある。さらに学年別に見ると、小学校は4年生、中学校は3年生、高校は1年生に多くなっている。また、不登校の性別の相談件数は、全ての校種が上がるにつれ男子の割合が高くなっている。

平成26年度の「いじめ相談電話・メール」での相談受理件数は、電話は168件、メールは43件である。いじめの被害を訴える相談件数は、電話相談では108件（64.2%）、メール相談では30件（69.8%）である。

<平成26年度総合教育センターの相談受理件数について>

(1) 内容別・校種別相談件数

[単位：件、()内は%]

内容	校種	就学前	小学校	中学校	高等学校	その他	計(割合)
知能・学業に関すること		0	26	18	13	0	57(14.9)
性格・行動に関すること		1	90	61	68	5	225(59.0)
性に関すること		0	4	2	1	1	8(2.1)
進路・適性に関すること		2	2	8	10	1	23(6.0)
精神衛生に関すること		0	0	1	6	0	7(1.8)
家庭教育一般に関すること		1	12	8	8	0	29(7.6)
その他		2	9	5	7	10	33(8.6)
計(割合)		6(1.6)	143(37.4)	103(27.0)	113(29.6)	17(4.4)	382(100.0)

(2) 主訴別相談件数

[単位：件、()内は%]

主訴	件数(割合)
不登校	54(14.2)
集団不適応	45(11.8)
精神衛生(情緒障がい 神経症・同疑い)	7(1.8)
進路相談	23(6.0)
学業	57(14.9)
いじめ	9(2.4)
家庭教育(家庭内暴力等)	29(7.6)
生活指導	52(13.6)
対人関係(交友関係等)	57(14.9)
非行	8(2.1)
性	8(2.1)
その他	33(8.6)
計	382(100.0)

(3) 校種別・性別不登校相談件数

[単位：件]

校種	性別		計
	男	女	
就学前	0	0	0
小学校	8	6	14
中学校	12	8	20
高校	17	3	20
その他	0	0	0
計	37	17	54

(4) 学年別不登校相談件数

[単位：件]

学年	件数
小1	0
小2	2
小3	0
小4	7
小5	3
小6	2
中1	7
中2	5
中3	8
高1	11
高2	6
高3	3
その他	0
計	54

第4節 健やかな体をはぐくむ教育の推進

第1 体力向上や運動に親しむ態度の育成

各校が体力・運動能力調査の適切な実施により、現状を把握し、課題に応じた取組が効果的に実施できるよう担当者会議を開催する等支援をするとともに、運動部活動の活性化を図るために、地域スポーツ指導者の派遣事業を実施することにより、運動に親しむ態度を育成し、運動の習慣化が図られるように努めた。

1 体力向上担当者等のリーダー研修会の実施

(1) 学校体育担当者会議

- ア 期 日 平成27年1月7日
- イ 会 場 盛岡市民文化ホール
- ウ 参加者 県内全小・中学校から各1人
- エ 内 容 平成26年度調査結果の報告と平成27年度の方針に係る説明

2 運動部活動の支援

(1) 中学校・高等学校運動部活動地域スポーツ指導者派遣事業

- ア 実施期間 平成26年6月～平成27年2月（県内全域）
- イ 実施校数 中学校5校 高等学校3校
- ウ 実施種目 中学校 バレーボール、卓球、スケート、バドミントン、剣道
高等学校 ソフトテニス、ヨット、スキー

(2) 運動部活動外部指導者ステップアップ研修

- ア 期日及び会場
 - (ア) 大船渡市会場 平成26年8月23日 大船渡市民文化会館リアスホール
 - (イ) 金ヶ崎町会場 平成26年9月27日 県南青少年の家
 - (ウ) 久慈市会場 平成26年10月4日 久慈市民体育館
- イ 参加者 24人

第2 健康教育の充実

生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培うため、学校保健・学校安全活動や食育などを充実させるとともに、家庭や地域と連携し望ましい生活習慣の確立に努めた。

1 学校保健

(1) 保健教育の充実及び保健管理の徹底

ア 学校保健計画並びに保健室経営計画の立案、周知の徹底

学校保健においては、保健教育と保健管理並びに健康相談の活動を適切に行うことによって、児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、学校教育目標の達成に寄与することとし、児童生徒自らの意思決定により健康な生活が実践できるよう健康教育を推進した。

また、学校保健を組織的に推進するために、教職員の協力体制を確立し、家庭や地域の関係機関との連携を図った。

イ 関係機関団体等との連携及び学校保健組織活動の充実

(ア) 学校内の組織の設置促進と活動の充実

- ・学校保健委員会の活動
- ・児童生徒保健委員会の活動促進

(イ) 関係機関団体との連携

- ・(一社)岩手県医師会学校医部会
- ・(一社)岩手県歯科医師会
- ・(一社)岩手県薬剤師会岩手県学校薬剤師会
- ・岩手県学校保健会
- ・岩手県学校保健会養護教諭部会
- ・岩手県学校保健会高等学校部会
- ・岩手県高等学校教育研究会学校保健部会

(2) 岩手県学校保健功労者表彰

	氏名	職	現所属等
1	谷藤泰寛	学校医	盛岡市立厨川小学校他
2	松嶋正造	学校歯科医	盛岡市立仙北小学校
3	菅野恒治	学校医	盛岡市立山岸小学校
4	高嶋勉	学校歯科医	盛岡市立大更小学校他
5	高橋欣也	学校歯科医	葛巻町立江刈小学校他
6	鎌田陽子	学校薬剤師	花巻市立南城小学校
7	及川桂	学校歯科医	奥州市立真城小学校
8	松本覚	学校医	金ヶ崎町立長岡小学校他
9	新妻龍之	学校薬剤師	一関市立赤荻小学校
10	小野寺正輝	学校医	平泉町立平泉中学校
11	高木久子	学校薬剤師	大船渡市立立根小学校
12	神林敦彦	学校医	釜石市立白山小学校
13	及川穰	学校歯科医	宮古市立山口小学校他
14	船越祐子	学校薬剤師	宮古市立宮古小学校
15	岩城裕高	学校歯科医	久慈市立夏井小学校
16	阿部年昭	学校歯科医	二戸市立福岡中学校
17	澤口紀子	元養護教諭	元県立盛岡工業高等学校
18	渡邊富美子	養護教諭	花巻市立矢沢中学校

2 学校安全

学校管理下における児童生徒の災害は、毎年約1万件も発生し、これらの学校災害の防止と後を絶たない交通事故の防止に加え、学校への不審者侵入や通学路での連れ去り、声かけといった犯罪に対する安全確保を図るため、安全指導、安全管理の推進、充実が重要な課題となっている。

独立行政法人日本スポーツ振興センター仙台支所が調査した平成26年度の学校管理下における児童生徒の災害発生件数は下表のとおりとなっており、以下の事業を通して児童生徒の事故、災害の防止を図り、学校における安全教育の充実に取り組んだ。

(1) 災害発生件数 [単位：件、%]

区 分	発生件数	発生率
幼稚園・保育所	501	1.36
小 学 校	2,997	4.65
中 学 校	3,718	10.27
高 等 学 校	2,839	7.58
高等専門学校	37	4.38
計	10,092	5.74

(2) 学校安全関係職員研修 [単位：人]

研修の名称	期 日	場 所	参加者数[内訳]
学校安全指導者養成研修	平成26年9月8日～12日	茨城県つくば市	4 [高 1、指導主事3]
交通安全教育指導者講習会	平成26年9月24日	盛岡市	89 [小 2、中 2、高78、特7]
防犯教室講習会	平成26年6月27日	盛岡市	84 [幼7、小26、中8、高24、特16、他3]

3 食育・学校給食

小中学校においては、食育担当者を中心とした食育推進のための校内体制が整備され、「食に関する指導の全体計画」及び「年間指導計画」により、計画的な推進が図られている。また、小中学校、高等学校の管理職、教諭を対象とした食育推進研修会において、学校における食育の推進が図られるよう、小学校、中学校、高等学校における実践例発表の機会を設けた。

学校給食施設のドライシステムの導入（ドライシステムを導入していない場合はドライ運用）及び「学校給食施設の区分」に従い汚染作業区域・非汚染作業区域等に区分するよう整備促進に努め、学校給食衛生管理基準に基づいた衛生管理の徹底を図った。さらに、関係職員の資質向上を図るため、各種研修会を開催し、食に関する指導の充実、給食管理の充実及び衛生管理の充実に努めた。

(1) 学校給食の実施状況（平成26年5月1日現在） [単位：校、人、（ ）内は実施率で%]

区 分	完全給食		その他の方式		補食給食		ミルク給食		計	
	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数
小学校	326 (94.8)	61,955 (97.2)	— (—)	— (—)	10 (2.9)	1,121 (1.8)	8 (2.3)	672 (1.0)	344 (100)	63,748 (100)
中学校	147 (87.5)	28,328 (80.0)	— (—)	— (—)	4 (2.4)	681 (1.9)	17 (10.1)	6,416 (18.1)	168 (100)	35,425 (100)
夜間定時 制高等 学校	3 (100)	38 (100)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	3 (100)	38 (100)
特別支 援学校	12 (92.3)	1,344 (95.2)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (7.7)	68 (4.8)	13 (100)	1,412 (100)

注：小学校は市町村立学校分、中学校は市町村立学校と県立学校分、夜間定時制高等学校及び特別支援学校は県立学校分

(2) 調理方法別の完全給食の実施状況（平成26年5月1日現在） [単位：校、人、（ ）内は実施率で%]

区 分	単独調理方式		共同調理方式 (65か所)		その他の 調理方式		計	
	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数
小学校	54 (16.6)	16,162 (26.1)	272 (83.4)	45,793 (73.9)	— (—)	— (—)	326 (100)	61,955 (100)
中学校	5 (3.4)	842 (3.0)	142 (96.6)	27,486 (97.0)	— (—)	— (—)	147 (100)	28,328 (100)

注：小学校及び中学校は市町村立学校

(3) 米飯給食の実施状況（平成26年5月1日現在） [単位：校、人、（ ）内は実施率で%]

区 分	自校（共同調理場） 炊 飯		委託炊飯		自校・委託 併 用		計	
	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数	学校数	児童 生徒数
小学校	158 (48.5)	27,654 (44.6)	165 (50.6)	33,669 (54.4)	3 (0.9)	632 (1.0)	326 (100)	61,955 (100)
中学校	66 (44.9)	11,254 (39.7)	81 (55.1)	17,074 (60.3)	— (—)	— (—)	147 (100)	28,328 (100)

注：小学校及び中学校は市町村立学校

(4) 栄養教諭、学校栄養職員及び学校給食調理員配置状況（平成26年5月1日現在） [単位：人]

区 分	(給与負担)	職員数			
		単独調理方式	共同調理方式	教育委員会	計
栄養教諭	(県 費)	25	61	—	86
学校栄養職員	(県 費)	8	21	—	29
	(市町村費)	18	8	3	29
(計)		(51)	(90)	(3)	(144)
調理員	(市町村費)	143	195	—	338

注：調理員は常勤職員のみ

(5) 学校給食費の状況（保護者負担額、平成26年5月1日現在） [単位：円、回]

区 分	1食あたり平均単価	平均月額	年間実施予定回数
小学校	260	4,182	177
中学校	297	4,588	170

注：小学校は中学年（3・4年）分

(6) 学校給食優良学校等表彰

宮古市立田老第一小学校

(7) 学校給食功労者表彰

普代村学校給食共同調理場 宇 部 順 子

(8) 文部科学大臣表彰

宮古市立宮古小学校 伊 藤 百合子

第3 指導者の資質・授業力向上

学校の教育活動全体を通じて「生きる力」の基礎となる健やかな体をはぐくむため、中核となる体育、食育、健康教育などを担当する指導者の資質や授業力向上を務めた。

1 学校体育関係職員の研修及び地域スポーツ人材の活用

(1) 小学校・中学校・高等学校体育実技講習会の開催

[単位：人]

No.	研修会名 [内容]	期 日	会 場	参加者数
1	小学校体力向上指導者研修会 [講義・演習（体づくり運動、表現運動系）]	平成26年6月12日・13日	盛岡市	小学校教員 34
2	中・高等学校体力向上指導者研修会 [講義・演習（体づくり運動、陸上競技、球技【ベースボール型】、武道【柔道】）]	平成26年7月7日・8日	盛岡市	中学校教員 85 高校教員 68
3	地区別小学校体力向上指導者研修会	平成26年6月～9月	各教育事務所管内	小学校教員各校1
4	地区別中学校体力向上指導者研修会	平成26年9月～11月	各教育事務所管内	中学校教員各校1
5	運動部活動指導者研修会 [陸上競技、軟式野球、剣道、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、ソフトボール、バスケットボール、バドミントン、柔道、ハンドボール、体操、卓球]	平成26年5月8日～6月5日 計5回	盛岡市	中学校教員 49 高校教員 8
6	子どもの体力向上指導者養成研修 [小学校（体づくり運動、表現運動系）] [中学校（陸上競技、球技【ベースボール型】）] [高校（武道【柔道】）]	平成26年5月20日～23日	新潟市	小学校教員 2 中学校教員 2

(2) 地域スポーツ人材活用の促進

ア 小学校体育実技アシスタント派遣事業

(ア) 実施期間 平成26年6月～8月

(イ) 実施校 6校

(ウ) 派遣者数及び派遣回数 8人 19回

イ 小学校放課等運動サポート事業

(ア) 実施期間 平成26年7月～平成27年2月

(イ) 実施校 6校

(ウ) 派遣者数及び派遣回数 10人 36回

2 学校保健関係職員の研修

(1) 県 内

No.	研修名	期 日	場 所	参加者数[内訳]
1	養護教諭研修会	平成26年9月8日～10日	盛岡市	46[小22、中18、高6]
2	第50回岩手県学校健康教育研究大会	平成27年1月8日	盛岡市	269
3	学校保健講習会	平成26年9月29日	盛岡市	172[小69、中55、高47、特1]
4	県立学校保健主事研修会	平成26年7月4日	盛岡市	79
5	食物アレルギー・アナフィラキシー対応研修会	平成26年8月11日	盛岡市	351

(2) 県外

No.	研修名	期日	場所	参加者数[内訳]
1	全国養護教諭研究大会	平成26年8月7日～8日	大分県大分市	2[小1、特1]
2	全国学校保健研究大会	平成26年11月6日～7日	石川県金沢市	6[小4、中1、高1]
3	健康教育指導者養成研修（健康コース） 第1回	平成26年9月16日～19日	茨城県つくば市	3[小1、高1、指導主事1]
4	健康教育指導者養成研修（健康コース） 第2回	平成26年12月16日～19日	茨城県つくば市	5[小1、中2、高1指導主事1]
5	全国学校歯科保健研究大会	平成26年10月23日～24日	島根県松江市	2[中1、高1]

3 食育・学校給食関係職員研修

(1) 県内

No.	研修名	期日	場所	参加者数
1	衛生管理推進等研修会	平成26年6月6日	盛岡市	75
2	食育推進研修会	平成26年9月2日	久慈市	54

(2) 県外

No.	研修名	期日	場所	参加者数[内訳]
1	全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会	平成26年7月31日 ～8月1日	福井県福井市	2[小1、特1]
2	全国学校給食研究協議大会	平成26年11月20日 ～11月21日	山口県山口市	1[小1]
3	健康教育指導者養成研修食育（基礎） コース	平成26年10月7日～10日	茨城県つくば市	3[小1、中2]
4	健康教育指導者養成研修食育（発展） コース	平成26年11月4日～7日	茨城県つくば市	3[小3]
5	学校給食の衛生管理に関する指導者講習会	平成26年7月17日～18日	茨城県つくば市	2[小1、中1]
6	食中毒防止に関する実技講習会	平成26年10月15日～17日	東京都	1[小1]

(3) その他

No.	主催	研修会名	期日	場所	参加者数
1	(公社)全国学校栄養士協議会岩手県支部・岩手県[共催]	岩手県栄養教諭・学校栄養職員研修会	平成26年6月27日	盛岡市	124
2		岩手県栄養教諭・学校栄養職員研究大会	平成26年12月5日	盛岡市	124
3	(公財)岩手県学校給食会・岩手県[共催]	学校給食調理講習会	平成26年7月29日 ～30日	盛岡市	61
4		学校給食調理員研修会	平成26年8月4日	盛岡市	213
5		学校給食調理コンクール	平成27年1月9日	盛岡市	24

第5節 「共に学び、共に育つ教育」の推進

第1 「就学指導」から「就学支援」へ

国においては、障がい者制度改革推進会議において、インクルーシブ教育の推進を基本的な理念とした制度改革にかかわる検討が行われ、その結果を受け、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」から、現在の就学指導の在り方を改善する方向性を含んだ「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月）が公表された。また、平成25年9月には学校教育法施行令の一部を改正する政令が公布され、障がいのある児童生徒等の就学先決定の仕組みに関する改正が行われた。こうした動向に合わせ、現在の県就学指導委員会の機能向上に向けて取り組んだ。

1 市町村教育委員会を対象とした就学指導にかかわる支援体制の整備

就学指導にかかわって各市町村就学指導委員会の抱える課題やニーズ、困難なケース等の相談、支援への助言を行うために、特別支援教育エリアコーディネーターを県就学指導委員会調査員（就学支援アドバイザー）に任命し、市町村における就学指導委員会を支援する体制を整えた。就学支援アドバイザーの活動状況（平成26年4月～平成27年1月）は、計42回であった。

2 県就学指導委員会委員の在り方の検討

上記の学校教育法施行令の一部改正等を踏まえ、県就学指導委員会の名称及び在り方についても、引き続き検討していく予定である。

第2 幼、保、小、中、高等学校における特別支援教育の充実

1 特別支援教育エリアコーディネーターの指名及び配置

特別支援教育に関する研修や相談などの業務を効果的に推進するため、各教育事務所に特別支援教育エリアコーディネーター（教諭兼指導主事）を1人配置した。特別支援教育エリアコーディネーターは、学校教育室及び教育事務所と連携しながら管内の特別支援教育に課題に対応するとともに、全県的な課題にも同一歩調で対応するなど効果的な業務の推進を図った。

2 特別支援学校による相談、研修等の支援

各特別支援学校の特別支援教育センター的機能を活用し、地域の幼稚園、保育所、小・中学校、高等学校等での相談や研修等への支援を行った。また、幼稚園、小・中学校等102校を対象に、継続的に訪問し、当該校を支援する継続型訪問支援を実施した。

3 特別支援教育研修資料の活用

平成25年度に作成した『交流及び共同学習ハンドブック』を活用し、県内の公立小・中学校と特別支援学校の交流学習の推進を図った。

4 いわて特別支援教育かがやきプラン推進事業の継続実施

平成26年5月1日現在、県単独事業により県立高等学校25校へ特別支援教育支援員27人を配置し、障がい等によって個別の指導及び支援が必要な生徒への支援の充実を図った。

(特別支援教育支援員配置校)

葛巻高等学校、平舘高等学校、雫石高等学校、紫波総合高等学校、大迫高等学校、西和賀高等学校、前沢高等学校、岩谷堂高等学校、一関工業高等学校、花泉高等学校、千厩高等学校、大東高等学校、住田高等学校、大船渡東高等学校、釜石高等学校定時制、釜石商工高等学校、遠野緑峰高等学校、山田高等学校、宮古北高等学校、宮古水産高等学校、久慈高等学校校長内校、種市高等学校、福岡高等学校定時制、軽米高等学校、一戸高等学校

第3 特別支援教育の理解促進

1 いわて特別支援教育講演会の実施

インクルーシブ教育の理念と地域の中で障がいのある子どもを育むための環境について、広く県民の皆様に対して情報提供するため、平成26年度に県民向け特別支援教育講演会を久慈市、盛岡市、大船渡市の3か所で開催した。久慈会場では41人、盛岡会場では168人、大船渡会場では39人の参加を得た。

2 幼稚園及び保育所を対象とした研修会の実施

幼稚園、保育所、療育関係者等を対象に幼児期における障がいの基本的理解や対応と園内での特別支援教育の推進を図るための研修会を盛岡市と宮古市の2か所で実施した。盛岡会場では86人が参加し、宮古会場では20人の参加を得た。

3 特別支援教育ボランティアの育成と活用

平成26年度は、盛岡聴覚支援学校、花巻清風支援学校、気仙光陵支援学校において、特別支援教育ボランティア養成講座を開催した。さらに修了者が登録するボランティアバンクについて周知と活用を図り、小・中学校及び特別支援学校における活用を図った。

平成26年度のボランティア活動実績は、小学校と特別支援学校において延べ45件、73人が活用された。

第4 特別支援学校生徒の就労支援の充実

1 県の機関における職場実習の受け入れ

教育委員会事務局、商工労働観光部、保健福祉部、盛岡広域振興局、労働委員会事務局等が連携し、特別支援学校高等部生徒7人の現場実習を受け入れた。各機関において、2日～2週間に渡って実習を実施した。

2 関係機関との連携

岩手労働局、岩手障害者職業センターと共催で「就労支援セミナー」を盛岡峰南高等支援学校で開催するなど、関係機関との連携を図った。

3 啓発リーフレットの活用

平成25年度に作成した企業事業所向けの啓発リーフレットを活用し、特別支援学校卒業生の雇用及び職場実習先の開拓のため、また学校の進路指導において活用の充実を図った。

4 企業との連携協議会の開催

平成26年度は、盛岡地区、花巻地区、北上地区、胆江地区、一関地区、大船渡・陸前高田地区、釜石地区、宮古地区、久慈地区において66企業・事業所の参加を得て企業との連携協議会を開催し、各地区で2～3回実施した。特別支援学校の職業指導や高等部生徒の学習の様子について企業の理解を深め、また、参加企業から指導内容等についての助言を受けることができた。

第6節 学校教育を支える教育環境の充実

第1 県立高校の望ましい教育環境の整備

1 県立高等学校新整備計画

(1) 概要

国際化、情報化、少子高齢化等著しい社会の変化に主体的に対応できる人材の育成が求められていることから、県立高等学校長期構想検討委員会（船越昭治委員長）の報告をもとに、生徒が活力ある環境の中で、一人一人の個性・能力を最大限に伸ばせるような学習環境を構築する観点から、平成12年度以降10年間を見通した学校・学科の適正な配置等について慎重に検討を進め、平成12年1月に「県立高等学校新整備計画」として、平成12年度から16年度（前期）の学校別の計画並びに平成17年度から21年度（後期）の計画の大まかな見通しを示した。

平成17年度から21年度の後期計画の策定では、平成16年1月に「県立高等学校新整備計画後期マスタープラン」として基本的な方針を示した後、8月に「県立高等学校新整備計画（後期計画）案」、平成17年1月に調整案、6月に再調整案を公表し、各段階において、パブリックコメントを実施したほか、各地で意見を聴く会や出前説明会などを重ね、7月に「県立高等学校新整備計画（後期計画）」を策定・公表した。

後期計画では、学科改編を含む学級数の取扱いは、中学校卒業予定者数の状況、高校進学希望者の志望動向、各高校の定員充足状況等を勘案して毎年度調整するものとし、小規模校等の統合は、一定の基準を設けて実施することとした。

平成20年度においては、

- ・花巻北高校と東和高校を統合して花巻北高校とし（東和高校は平成21年度末まで存続）、
- ・水沢高校と胆沢高校を統合して水沢高校とし（胆沢高校は平成21年度末まで存続）、
- ・高田高校と広田水産高校を統合して高田高校とし、
- ・大船渡農業高校と大船渡工業高校を統合して大船渡東高校とし、
- ・釜石南高校と釜石北高校を統合して釜石高校とするとともに、
- ・遠野高校情報ビジネス校、宮古高校川井校、久慈高校山形校の3分校を本校に統合し（3分校とも平成21年度末まで存続）、
- ・久慈高校長内校を昼間部と夜間部の多部制高校とし、
- ・浄法寺高校を福岡高校の分校とした。

平成21年度においては、黒沢尻工業高校定時制課程と水沢商業高校定時制課程を募集停止するとともに、杜陵高校奥州校を多部制単位制高校として設置した（両課程とも平成23年度末まで存続）。

なお、後期計画終了後において、教育環境を整える観点から、平成22年度に岩泉高校田野畑校を本校に統合した（岩泉高校田野畑校は平成23年度末まで存続）。

(2) 全体計画（平成12年1月24日公表、平成17年7月19日後期計画により変更）

年度	中学校卒業 予定者数（人）	高等学校設置学級数 （学級）			高等学校数 （校）	
		うち普通科	専門学科	総合学科		
11	18,440	368	229	134	5	83
17	14,857	301	177	91	33	77
21	13,797	266	159	75	32	61～68

(3) 後期計画の総括表（平成17年7月19日公表）

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
総合的な専門高校				<input type="checkbox"/> 高田(商業科)・広田水産(家政科)・大船渡農・大船渡工[統合]	<input type="checkbox"/> 釜石工・釜石商[統合]
普通科と専門学科併設高校		<input type="checkbox"/> 大東・大原商[統合]	<input type="checkbox"/> 藤沢・千厩[統合]	<input type="checkbox"/> 高田(普通科)・広田水産(水産科)・住田(※)[統合]	
総合学科高校	<input type="checkbox"/> 一戸[改編]				<input type="checkbox"/> 岩谷堂・岩谷堂農林[統合]
普通高校				<input type="checkbox"/> 釜石南・釜石北[統合] <input type="checkbox"/> 花巻北・東和[統合] <input type="checkbox"/> 水沢・胆沢[統合] <input type="checkbox"/> 遠野・情報ビジネス[統合] <input type="checkbox"/> 宮古・川井[統合] <input type="checkbox"/> 岩泉・田野畑[統合] <input type="checkbox"/> 久慈・山形[統合]	<input type="checkbox"/> 伊保内・福岡・浄法寺[統合]
定時制(多部制・単位制)				久慈ブロック	
	<input type="checkbox"/> 胆江ブロックにおいてもできるだけ後期計画中に整備に努める。				
中高一貫教育校コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 新しいタイプの学校である、中等教育学校・併設型中高一貫教育校やコミュニティ・スクールについては、継続して検討する。				

※ 住田高校については、県の中高一貫教育に関する検討委員会の検討結果等を踏まえ、別途検討する。

【学級数の取扱いについて】

学級数(学科改編を含む)の取扱いは、中学校卒業予定者数、高校進学希望者の志望動向、各高校の定員充足状況等を勘案しながら毎年度調整する。

【1 学年2学級校の取扱い】

- (1) 1 学年2学級の募集定員に対し、1学級定員の半数を超える欠員が2年続いた場合には、原則として翌年度に学級減を行う。なお、通学困難な地域は、高校教育を受ける機会を確保するという観点から学級減を行わないことも検討する。
- (2) 募集定員に対して1学級相当程度の欠員が生じている場合には、原則として翌年度に学級減を行う。ただし、中学校卒業予定者数に回復の見通しがあれば、学級減を行わないことも検討する。
- (3) 各学年とも2学級を維持できない場合には統合を基本とするが、広大な県土を有する本県の通学事情等に鑑み、地域の実情に応じて分校(1学級規模)の設置も検討する。

【分校の取扱い】

入学者が募集定員の半数を下回る状況又は当該分校に進学した者のうち分校所在地の中学校からの進学者の割合が半数以下となる状況が、2年続いた場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合する。

2 新たな高等学校再編計画(仮称)

(1) 次期県立高等学校再編計画策定に向けた取組及び東日本大震災津波による策定作業の中断

今後の少子化によるさらなる生徒減少や社会情勢の変化に対応するため、教育の原点に立ち返り、高校教育として子供たちの確かな成長を支える仕組みや取組を強固にすることが重要である

ことから、平成 20 年 4 月から「第二次県立高等学校長期構想検討委員会」を設置し、委員会において教育環境の整備や将来の岩手県を担う人財育成について検討の上、平成 21 年 5 月に「今後の県立高等学校の在り方」〔中間まとめ〕を取りまとめ、県内 9 ブロックにおいて地域懇談会を開催し、県民からのご意見、ご提言等をいただき、9 月 17 日に県教育委員会に成案が報告された。

これを基に、県教育委員会において平成 21 年 12 月 24 日に、概ね 10 年先を展望し、今後の人口減少と超高齢社会の到来や厳しい国際競争などに対応し、明日の日本や岩手の未来を担う人財の育成に向けた今後の県立高校における教育の基本的考え方と方向性を示した「今後の高等学校教育の基本的方向」（案）を作成、公表し、パブリック・コメント、地域説明会、意見を聴く会を通じ、ご意見等をいただき、平成 22 年 3 月 17 日に成案を策定した。

これを指針として、平成 23 年上半期の策定を目途に「第二次県立高等学校整備計画（仮称）」を策定することとし、その検討のため、平成 22 年度において、市町村長、市町村教育委員会教育長、PTA 関係者、産業関係者、中学校長代表者で構成される「今後の県立高校に関する地域検討会議」を県内 9 ブロックにおいて 3 回ずつ、また、一般県民を対象とした「今後の県立高校に関する地域別懇談会」を県内 9 ブロックにおいて 2 回ずつ、併せて、地域等の要望に応じて出前懇談会を実施し（計 11 回）、「今後の高等学校教育の基本的方向」への理解を図るとともに、各ブロックにおける高校のあるべき姿や地域実情に応じた高校配置等について意見交換を行った。

しかし、東日本大震災津波の発生に伴い、甚大な被害及びその影響を踏まえ計画の策定は見送ることとし、策定の時期については、県内各ブロックにおける、震災後の児童・生徒数の動向・推移等を見据えつつ、被災地における公共交通機関の復旧による通学事情の改善など、教育に関わる環境整備の状況も考慮しながら、改めて調整・検討することとした。

また、学級数調整については、東日本大震災津波による被害等を考慮し、平成 24 年度は実施しなかったが、中学校卒業生数の減少は続いていることから、平成 25 年度から再開した。

(2) 次期県立高等学校再編計画策定作業の再開及び今後の高等学校教育の基本的方向の改訂に向けた取組

東日本大震災津波の発生から 3 年が経過し、少子化が一層進行した状況において、生徒にとってより望ましい教育環境の早急な整備を進めるため、平成 26 年度から次期県立高等学校再編計画の策定作業を再開した。

再開にあたっては、東日本大震災津波の被害等、教育を取り巻く環境が大きく変化したことを受け、平成 22 年 3 月に策定した「今後の高等学校教育の基本的方向」の改訂を行うこととした。

具体的には、平成 26 年 5 月に有識者を委員とした「県立高等学校教育の在り方検討委員会」を設置し、県内 9 ブロックにおいて地域懇談会を開催し、県民からの御意見、御提言等をいただいた上で、震災等の影響も踏まえた教育環境の整備や岩手の復興等を担う人財育成について検討を進め、12 月 26 日に同委員会から県教育委員会に「今後の県立高等学校の在り方について」の報告がなされた。

これを基に、県教育委員会では、東日本大震災津波からの復興、人口減少社会への対応等を踏まえ、岩手の復興・発展、ふるさとを守る人財を本県高校教育において育成することを改訂の柱とした「今後の高等学校教育の基本的方向」の改訂案を平成 27 年 1 月 29 日に公表し、県内で地域説明会を開催する等パブリック・コメントを実施したところであり、平成 27 年度早期の改訂に向け作業を進めた。

3 中高一貫教育の導入について

中高一貫教育の在り方については、文部省からの研究の委嘱を受け、平成 10 年 9 月に「岩手県中高一貫教育研究会議」（船越昭治委員長）を設置して検討を重ねるとともに、実践研究を行う研究推

進校（高校2校、中学校6校）を指定し、「岩手県中高一貫教育実践研究委員会」においても検討を進め、平成12年3月に中高一貫教育研究会議より報告書が提出された。

この報告を受け、軽米・葛巻地域は、連携型中高一貫教育の研究を行い、平成13年度には軽米地域が、平成14年度には葛巻地域が連携型中高一貫教育を導入した。

平成15年7月に「岩手県中高一貫教育検討委員会」を設置し、中等教育学校及び併設型中高一貫教育校の導入や連携型中高一貫教育校の推進について検討を進めた。平成17年9月には、この検討委員会を継承・発展した「岩手県新しいタイプの学校に関する検討委員会」を設置し、中高一貫教育を中心としたコミュニティ・スクールを含めた新しいタイプの学校の在り方について検討を行い、平成18年3月に報告書が提出された。

この報告を受け、併設型中高一貫教育校の導入について検討し、平成19年2月に、平成21年度から一関第一高等学校に導入する方針を決定した。

平成19年5月に「岩手県立一関第一高等学校中高一貫教育検討委員会」を設置し、併設型中高一貫教育校の教育内容や県立中学校の入学者選抜方針などについて検討を行い、同年11月に報告書が提出された。この報告を受け、一関第一高等学校に設置する併設型中高一貫教育校の目指す教育などについて検討し、平成20年1月には一関第一高等学校に併設する県立中学校の方針を決定した。平成20年4月から、県教育委員会事務局学校教育室の高校改革担当内に併設型の県立中学校準備担当（3人）を配置し、具体的な準備を開始した。7月には「岩手県立学校設置条例の一部を改正する条例」が6月県議会定例会で議決され、平成21年4月に「岩手県立一関第一高等学校附属中学校」を設置した。

平成23年度末には、第1回入学生が卒業し、全員一関第一高等学校に入学することとなった。

平成26年度に実施した岩手県立一関第一高等学校附属中学校平成27年度入学者選抜検査は、178人（男子79人、女子99人）が受検し、80人（男子40人、女子40人）が入学することとなった。

4 公立高等学校入学者選抜について

(1) 県教育委員会は、平成13年8月29日に「岩手県立高等学校入学者選抜方策検討委員会」（委員長：沼田俊昭 岩手県立大学教授）から「報告」が提出されたことを受け、平成13年11月12日の教育委員会議において県立高等学校入学者選抜の方針を決定した。

県教育委員会は、この方針をもとに、受検生の意欲や個性をより適切に評価できるよう、平成16年度入学者選抜から選抜方法や通学区域等を改善した。

ア 選抜方法の変更

校長の定める異なる評価尺度（ABC選考）による合否判定をする。

イ 通学区域（学区）の変更

普通科の通学区域（学区）について、平成6年度から県内19学区としてきたが、地域の意見を勘案して、8学区に改めた。

ウ 学区外許容率の変更

学区（通学区域）の拡大に伴って、学区外許容率を15%から10%に引き下げた。

今回の変更は、昭和53年に20%から15%に引き下げて以来の変更となる。

エ 再募集の要件の変更

平成15年度まで「再募集人員が定員の30%より少ない場合は、再募集を行わないことができる」とした、ただし書きを平成16年度入学者選抜から撤廃した。

(2) 平成16～18年度入学者選抜まで3年間実施後、入試制度の問題点・改善点を検討することを目的に、平成17年9月20日に「県立高等学校入試改善検討委員会」を設置し（委員長：沼田俊昭 岩手県立大学副学長）、平成18年6月1日に提言を受けた。

それをもとに平成18年7月18日の教育委員会議において、県立高等学校入学者選抜の方針を決定した。

ア 全日制課程及び定時制課程

一般入学者選抜及び推薦入学者選抜を行う。

一般入学者選抜においては、調査書、学力検査、面接の結果（学校によっては小論文・作文または適性検査）を資料とし、校長の定める異なる評価尺度（ABC選考）により選抜する。

推薦入学者選抜においては、校長が推薦基準を決定し、志願理由書、調査書及び面接（学校によっては、小論文・作文または適性検査）の結果により選抜する。

イ 通信制課程

調査書その他必要な書類、面接の結果及び作文の評価に基づいて選抜する。

(3) 県教育委員会では、この方針に基づき平成19年度入学者選抜から、次のように改善した。

ア 推薦入学者選抜の実施

高等学校全学科を対象とし、各高等学校は推薦基準を公表する。

応募資格は、スポーツ、文化・芸術等において顕著な成績を収めた者とする。

イ 一般入学者選抜日程の変更

2日間の日程を改め、1日とした。

ウ 一般入学者選抜学力検査内容の変更

英語応答試験を廃止した。

エ 募集の要件の改善

平成18年度までの「合格者が募集定員に達しなかった学校は、その課程及び学科別に再募集を行う」を改め、「欠員が、募集定員の概ね10%より多い高等学校は、その学科別に再募集を行うことができる」とした。

オ 普通科と理数科の一括募集

すべての理数科を対象として、普通科と理数科を一括募集することとした。

(4) 平成20年度入学者選抜では、推薦入学者選抜において「志願先高等学校に二つ以上の学科（学系、コース）がある場合には、第2、第3志望まで出願できる」と変更した。

(5) 平成21年度入学者選抜では、体育科、体育コース、体育学系、スポーツ健康科学学系、芸術学系の推薦入学者選抜の募集定員を、定員の20%以内から50%以内に変更した。

(6) 入試制度の問題点及び改善点を検討することを目的に、平成22年6月25日に「県立高校入試改善検討委員会」（委員長：望月善次盛岡大学学長）を設置し、計6回の会議を経て、平成23年12月に「平成27年度以降の県立高校入試の改善について（提言）」が提出された。県教育委員会では、提言をもとに素案を作成し、パブリック・コメント等で寄せられた意見等も踏まえながら、「平成28年度以降の岩手県立高等学校入学者選抜の実施方法」をまとめた（平成24年3月23日）。

主な改善点は以下のとおり

ア 推薦入試合格（内定）者に対して、学力検査問題を活用した学力調査を実施する。

イ 現行では、2、3年生が対象となっている調査書の評定換算点に1年生も加える。

ウ ABC選考で学校裁量を広げる。（A選考のみ、AB選考のみ、AC選考のみも設定可能とした。）

エ 「再募集」を「二次募集」と名称変更し、「定員の概ね10%より多い欠員」としていた実施基準を「定員の10%以上の欠員」と明確にした。

第2 学校施設の耐震化の推進

(文部科学省公立学校施設の耐震改修状況調査、平成27年4月1日現在)

1 県立学校施設の耐震化状況

(1) 非木造施設の耐震化率

	岩手県		全国平均		比較	
	H26.4.1現在	H27.4.1現在	H26.4.1現在	H27.4.1現在	岩手県	全国平均
(小)中学校	100.0%	100.0%	92.5%	95.6%	±0.0%	+3.1%
高等学校	84.1%	86.2%	90.0%	93.7%	+2.1%	+3.7%
特別支援学校	100.0%	100.0%	96.5%	98.1%	±0.0%	+1.6%
幼稚園	—	—	83.6%	86.7%	—	+3.1%
計(平均)	86.8%	88.6%	91.9%	95.1%	+1.8%	+3.2%

※1 (小)中学校の岩手県欄については、一関第一高等学校附属中学校に係る数値。(以下同じ)

2 「耐震化率」とは、全建物のうち、耐震性がある建物(昭和57年以降建築の棟数及び昭和56年以前建築で耐震性がある棟と耐震補強済みの棟)の割合のこと。(以下同じ)

(2) 木造施設の耐震化率

	岩手県		全国平均		比較	
	H26.4.1現在	H27.4.1現在	H26.4.1現在	H27.4.1現在	岩手県	全国平均
(小)中学校	—	—	85.9%	89.7%	—	+3.8%
高等学校	95.7%	95.7%	75.0%	80.6%	±0.0%	+5.6%
特別支援学校	—	—	96.9%	98.6%	—	+1.7%
幼稚園	—	—	88.3%	92.1%	—	+3.8%
計(平均)	95.7%	95.7%	85.9%	89.8%	+0.0%	+3.9%

2 市町村立学校施設の耐震化状況

(1) 非木造施設の耐震化率

	岩手県		全国平均		前年比較	
	H25.4.1現在	H26.4.1現在	H25.4.1現在	H26.4.1現在	岩手県	全国平均
小中学校	86.8%	90.4%	88.9%	92.5%	+3.6%	+3.6%
高等学校	63.6%	38.5%	86.2%	90.0%	-25.1%	+3.8%
特別支援学校	—	—	94.6%	96.5%	—	+1.9%
幼稚園	82.8%	82.8%	79.4%	83.6%	+0.0%	+4.2%
計(平均)	86.6%	89.8%	88.3%	91.6%	+3.2%	+3.6%

(2) 木造施設の耐震化率

	岩手県		全国平均		前年比較	
	H25.4.1現在	H26.4.1現在	H25.4.1現在	H26.4.1現在	岩手県	全国平均
小中学校	86.1%	88.9%	82.3%	85.0%	+2.8%	+3.6%
高等学校	—	—	70.4%	75.0%	—	+4.6%
特別支援学校	—	—	94.8%	96.9%	—	+2.1%
幼稚園	100.0%	100.0%	85.0%	88.3%	0.0%	+3.3%
計(平均)	87.8%	90.4%	82.1%	85.9%	+3.8%	+3.8%

第3 修学資金の支援等

1 特別支援教育就学奨励費補助金

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

[単位：人、円]

経費の種類		給与人員			給与額		
		小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
学校給食費		674	319	993	14,493,890	7,578,330	22,072,220
交通費（通学費）		85	16	101	2,604,597	942,580	3,547,177
職場実習交通費		0	0	0	0	0	0
交流学习交通費		39	3	42	22,293	6,357	28,650
修学旅行費		118	114	232	1,170,716	3,152,281	4,322,997
校外 活動費	宿泊を伴わないもの	462	180	642	272,739	150,338	423,077
	宿泊を伴うもの	87	103	190	78,044	176,453	254,497
学用品等購入費		668	313	981	3,403,099	2,950,798	6,353,807
新入学児童・生徒用学用品費等		100	109	209	1,001,032	1,275,625	2,276,657
体育実技用具費	柔道	0	3	3	0	5,550	5,550
	剣道	0	0	0	0	0	0
	スキー	24	12	36	243,538	161,102	404,640
	スケート	0	0	0	0	0	0
拡大教材費		0	0	0	0	0	0
合 計		759	329	1,088	23,289,858	16,399,414	39,689,272

※給与人員の合計の欄は、実給与人員であること。

(2) 市町村別補助金交付額

[単位：千円]

市町村名	国庫補助金額
盛岡市	4,488
八幡平市	296
雫石町	81
葛巻町	29
岩手町	308
滝沢市	668
紫波町	450
矢巾町	438
花巻市	2,191
遠野市	255
北上市	1,879
西和賀町	40

市町村名	国庫補助金額
奥州市	1,256
金ケ崎町	462
一関市	2,292
平泉町	158
大船渡市	305
陸前高田市	148
住田町	66
釜石市	163
大槌町	0
宮古市	574
山田町	56
岩泉町	106

市町村名	国庫補助金額
田野畑村	0
久慈市	595
洋野町	313
野田村	32
普代村	27
二戸市	330
軽米町	131
九戸村	0
一戸町	163
合 計	18,300

2 要保護児童生徒援助費補助金

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

[単位：人、円]

経費の種類	給与人員			給与額		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
学用品費	0	0	0	0	0	0
新入学児童・生徒用学用品費等	0	0	0	0	0	0
通学用品費	0	0	0	0	0	0
校外活動費（宿泊を伴わないもの）	0	0	0	0	0	0
校外活動費（宿泊を伴うもの）	0	0	0	0	0	0
修学旅行費	92	99	191	1,921,508	6,380,514	8,302,022
通学費	0	0	0	0	0	0
体育 実技 用具 費	柔道 0 剣道 0 スキー 0 スケート 0	0	0	0	0	0
医療費	151	67	218	3,148,450	1,697,363	4,845,813
学校給食費	0	0	0	0	0	0
合計	—	—	—	5,069,958	8,077,877	13,147,835

※平成17年度から準要保護児童生徒援助費補助金が廃止され、市町村へ財政措置されていること。

(2) 市町村別補助金交付額

[単位：円]

市町村名	学用品費等	医療費	学校給食費	計
盛岡市	1,757,000	1,225,230	0	2,982,230
八幡平市	15,000	59,000	0	74,000
雫石町	34,000	0	0	34,000
葛巻町	0	0	0	0
岩手町	112,000	43,315	0	155,315
滝沢市	236,000	106,055	0	342,055
紫波町	45,000	0	0	45,000
矢巾町	28,000	0	0	28,000
花巻市	251,000	80,210	0	331,210
遠野市	99,000	35,525	0	134,525
北上市	226,000	161,091	0	387,091
西和賀町	0	0	0	0
奥州市	240,000	42,000	0	282,000
金ケ崎町	0	0	0	0
一関市	346,000	155,000	0	501,000
平泉町	0	0	0	0
大船渡市	10,000	53,515	0	63,515
陸前高田市	35,000	0	0	35,000
住田町	0	0	0	0
釜石市	181,000	41,890	0	222,890
大槌町	31,000	0	0	31,000
宮古市	111,000	55,000	0	166,000
山田町	40,000	9,520	0	49,520
岩泉町	49,000	28,750	0	77,750
田野畑村	0	0	0	0
久慈市	63,000	18,180	0	81,180
洋野町	78,000	144,000	0	222,000
野田村	0	0	0	0
普代村	0	0	0	0
二戸市	96,000	0	0	96,000
軽米町	10,000	18,000	0	28,000
九戸村	0	24,000	0	24,000
一戸町	45,000	39,105	0	84,105
合計	4,138,000	2,339,386	0	6,477,386

3 被災児童生徒就学支援等臨時特例交付金（被災児童生徒就学援助事業）

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

[単位：人、円]

経費の種類	給与人員			給与額		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
学用品費	1,973	1,317	3,290	24,689,012	32,096,575	56,785,587
体育実技用具費	8	13	21	204,029	86,020	290,049
新入学用品費	270	415	685	5,504,980	9,741,050	15,246,030
通学用品費	1,539	762	2,301	3,126,868	1,660,043	4,786,911
通学費	569	477	1,046	75,117,847	99,947,425	175,065,272
修学旅行費	335	438	773	6,630,162	26,515,155	33,145,317
校外活動費（宿泊無し）	589	193	782	537,128	259,653	796,781
校外活動費（宿泊有り）	147	232	379	187,500	569,438	756,938
クラブ活動費	2	570	572	899	14,306,917	14,307,816
生徒会費	122	536	658	217,021	1,264,131	1,481,152
P T A会費	629	570	1,199	1,418,645	1,722,117	3,140,762
医療費	325	158	483	1,816,848	972,881	2,789,729
学校給食費	1,970	1,313	3,283	87,012,327	64,460,558	151,472,885
合計	—	—	—	206,463,266	253,591,963	460,055,229

(2) 市町村別補助金交付額

[単位：円]

市町村名	学用品費等	医療費	学校給食費	計
盛岡市	3,287,000	9,000	2,361,000	5,657,000
八幡平市	0	0	0	0
雫石町	99,000	0	203,000	302,000
葛巻町	165,000	0	100,000	265,000
岩手町	45,000	0	47,000	92,000
滝沢市	930,000	23,000	1,002,000	1,955,000
紫波町	552,000	11,000	722,000	1,285,000
矢巾町	181,000	0	195,000	376,000
花巻市	761,000	7,000	972,000	1,740,000
遠野市	648,000	12,000	807,000	1,467,000
北上市	234,000	0	241,000	475,000
西和賀町	0	0	0	0
奥州市	264,000	0	346,000	610,000
金ヶ崎町	51,000	0	46,000	97,000
一関市	2,032,000	17,000	1,918,000	3,967,000
平泉町	0	0	0	0
大船渡市	47,787,000	835,000	31,203,000	79,825,000
陸前高田市	95,034,000	153,000	27,342,000	122,529,000
住田町	85,000	0	250,000	335,000
釜石市	84,178,000	593,000	29,157,000	113,928,000
大槌町	13,666,000	661,000	19,883,000	34,210,000
宮古市	43,519,000	278,000	25,305,000	69,102,000
山田町	5,346,000	110,000	1,324,000	6,780,000
岩泉町	808,000	0	1,362,000	2,170,000
田野畑村	1,110,000	0	1,151,000	2,261,000
久慈市	1,260,000	26,000	1,698,000	2,984,000
洋野町	143,000	9,000	183,000	335,000
野田村	1,998,000	42,000	2,336,000	4,376,000
普代村	1,536,000	0	1,264,000	2,800,000
二戸市	71,000	0	47,000	118,000
軽米町	0	0	0	0
九戸村	0	0	0	0
一戸町	0	0	0	0
合計	305,790,000	2,786,000	151,465,000	460,041,000

4 へき地児童生徒援助費等補助金

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

[単位：台、人、円]

経費の種類	給与人員			給与額		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
スクールバス購入費(台)	(2) 5	0	(2) 5	(4,380,000) 15,520,000	0	(4,380,000) 15,520,000
寄宿舎居住費 (人)						
高度へき地修学旅行費(人)	6	0	6	44,000	0	44,000
遠距離通学費 (人)	18	16	34	1,821,033	3,968,967	5,790,000

(注) スクールバスについて、小学校・中学校で共用している場合は、小学校に計上している。()内が共用している台数・金額(内数)。

(2) 市町村別補助金交付額

[単位：千円]

市町村名	スクールバス 購入費	寄宿舎居住費	高度へき地 修学旅行費	遠距離通学費	保健管理費	計
盛岡市						
八幡平市					62	62
雫石町						
葛巻町					406	406
岩手町					183	183
滝沢市						
紫波町						
矢巾町						
花巻市						
遠野市	2,570				19	2,589
北上市						
西和賀町					178	178
奥州市					27	27
金ケ崎町						
一関市	7,710					7,710
平泉町						
大船渡市						
陸前高田市				1,978		1,978
住田町					21	21
釜石市						
大槌町						
宮古市	5,240				60	5,300
山田町						
岩泉町			44	2,978	70	3,092
田野畑村					200	200
久慈市				834	218	1,052
洋野町					78	78
野田村						
普代村						
二戸市						
軽米町						
九戸村						
一戸町						
合 計	15,520		44	5,790	1,522	22,876

5 育英・奨学（公益財団法人岩手育英奨学会）

県内に住所を有する者の子弟で、有能な素質を有しながら経済的理由により高等学校等への就学が困難なものに対し、学資の貸与その他育英奨学上必要な事業を行った。

また、東日本大震災津波に被災した世帯の高校生を対象とした奨学金の貸付事業（タイプC：震災特例）を新設し、事業を行った。

(1) 奨学金の種類と額

ア タイプA（予約・在学・緊急採用共通）

区 分		貸与月額
国公立	自宅通学	18,000円
	自宅外通学	23,000円
私 立	自宅通学	30,000円
	自宅外通学	35,000円

イ タイプB（予約採用）

(ア) 貸与月額（選択制）

15,000円、20,000円、25,000円、30,000円

(イ) 入学一時金

公立50,000円、私立100,000円

ウ タイプC（震災特例）

区 分		貸与月額
国公立	自宅通学	18,000円
	自宅外通学	23,000円
私 立	自宅通学	30,000円
	自宅外通学	35,000円

(2) 奨学生貸与人数

ア タイプA（平成26年度採用）

[単位：人]

貸与人数		内 訳			
		国公立・自宅	国公立・自宅外	私立・自宅	私立・自宅外
予 約	122	76	11	23	12
在 学	265	138	8	100	19
緊 急	5	2	0	1	2
合 計	392	216	19	124	33

イ タイプB（平成26年度採用、予約採用のみ）

[単位：人]

貸与人数	貸与月額				区 分	
	15,000円	20,000円	25,000円	30,000円	母子・父子家庭	経済困難
28	5	5	1	17	14	0

ウ タイプC（平成26年度採用）

[単位：人]

貸与人数		内 訳			
		国公立・自宅	国公立・自宅外	私立・自宅	私立・自宅外
74		59	6	1	8

(3) 奨学金の貸与状況

ア タイプA (平成26年度)

[単位：人、千円]

区 分		貸与人数	奨学金
国公立	自宅通学	664	142,956
	自宅外通学	60	16,492
私 立	自宅通学	371	132,300
	自宅外通学	91	37,485
合 計		1,186	329,233

イ タイプB (平成26年度)

[単位：人、千円]

区 分		貸与人数	年 額
奨学金	15,000円	10	1,800
	20,000円	11	2,640
	25,000円	7	2,100
	30,000円	48	17,280
入学一時金	50,000円	(21)	1,050
	100,000円	(0)	0
合 計		76	24,870

ウ タイプC (平成26年度)

[単位：人、千円]

区 分		貸与人数	奨学金
国公立	自宅通学	150	32,400
	自宅外通学	11	3,036
私 立	自宅通学	8	2,880
	自宅外通学	19	7,870
合 計		188	46,186

第4 教育環境の整備

1 県立学校の教育環境整備

(1) 平成26年度高等学校及び特別支援学校校舎等施設整備状況

[単位：㎡、千円]

補助・ 単独の別	事業内容	学校名	構造	事業実施面積		工事費	工期等
					うち国庫補助 対象面積		
国庫補助	校舎・産振棟、実 習棟、第二体育館 新築	高田高等学校	鉄筋・ 鉄骨 コンクリート	9,152	8,959	2,481,481	H25～26
	作業棟新築	釜石祥雲支援学 校	木造	99.37	99.37	33,067	H26
	特別教室棟新築	花巻清風支援学 校	木造	244.24	244.24	53,442	H26

(2) 産業教育施設整備の状況 (平成27年4月1日現在)

基準面積(A)	現有面積(B)	現有率(B/A)
299,255 ㎡	152,400 ㎡	50.9%

(3) 平成26年度特別支援教育設備事業 [単位：千円]

区 分	金 額
特殊教育設備	-
一般教育設備	6,692
情報処理教育設備	2,529
校舎等増改築設備	1,877
計	11,098

(4) 高等学校産業教育設備の整備状況 (平成27年4月1日現在)

基準金額(A)	現有金額(B)	現有率(B/A)
25,534,148,000 円	5,640,225,097 円	22.1 %

(5) 理科教育等設備

ア 平成26年度補助金受領状況

(ア) 高等学校

[単位：千円]

学校名	国庫補助 交付額	設置者 負担額	学校名	国庫補助 交付額	設置者 負担額
盛岡第一	520	520	前沢	508	508
盛岡農業	425	425	大船渡	499	499
紫波総合	304	304	山田	330	330
不来方	312	312	久慈	653	653
黒沢尻工業	266	266	福岡	398	398
西和賀	213	213	福岡工業	122	122
水沢工業	202	202	一戸	248	248
計				5,000	5,000

(イ) 中学校

[単位：千円]

学校名	国庫補助 交付額	設置者 負担額
-	-	-

(ウ) 特別支援学校

[単位：千円]

学校名	国庫補助 交付額	設置者 負担額
-	-	-

イ 学校種別現有状況（平成26年度末）

[単位：校、千円、%]

区分	学校種別	学校数	基準総額[A]	現有の状況		平成26年度補助金 交付校数	
				現有金額[B]	現有率[B/A]		
1 理科教育振興法第9条第1項第1号に基づく補助	理科設備	中学校	1	22,344	1,798	8.0	0
		高等学校	64	6,873,966	685,991	10.0	14
		特別支援学校	14	994,605	36,114	3.6	0
		計	79	7,890,915	723,903	9.1	14
	算数数学特別設備	中学校	1	2,364	0	0	0
		高等学校	64	138,666	16,011	11.5	0
		特別支援学校	14	37,066	6,156	16.6	0
	計	79	178,096	22,167	12.4	0	

(注) 県立学校分の記載である。

(6) 平成26年度情報処理教育設備

整備学校名	整備金額
【高等学校】 本校64校、分校3校の全校に情報処理教育設備を整備済みうち、平成26年度に更新整備した学校 6校 盛岡第四、盛岡北、杜陵奥州校、沼宮内、宮古北、軽米 【特別支援学校】 本校13校、分校1校の全校に情報処理教育設備を整備済みうち、平成26年度に更新整備した学校 0校	106,061千円

(注) 「整備金額」は、全校分の平成26年度の整備金額である。

2 市町村立学校の教育環境整備への支援

(1) 市町村立小中学校の施設及び校地の保有状況

【公立学校施設の保有状況】

[単位：㎡]

区分	必要面積 [a]	保有面積				整備資格面積 (注2) [c]	c/a	危険面積 (注3) [d]	d/b						
		鉄筋コンクリート造	鉄骨その他造	木造	計 [b]										
小学校	校舎	1,103,366	(90.6%) 962,484	(1.9%) 19,899	(7.5%) 79,519	1,061,902	125,795	11.4%	6,031	0.6%					
	屋体	345,142	(16.6%) 47,460	(78.4%) 224,929	(5.0%) 14,225						286,614	66,659	19.3%	1,911	0.7%
	計	1,448,508	(74.9%) 1,009,944	(18.1%) 244,828	(7.0%) 93,744										
中学校	校舎	622,769	(93.9%) 593,420	(2.4%) 15,266	(3.7%) 23,107	631,793	49,156	7.9%	15,325	2.4%					
	屋体	201,268	(17.2%) 31,268	(81.0%) 147,628	(1.8%) 3,345						182,241	30,199	15.0%	1,976	1.1%
	計	824,037	(76.7%) 624,688	(20.0%) 162,894	(3.3%) 26,452										
合計	校舎	1,726,135	(91.9%) 1,555,904	(2.1%) 35,165	(6.0%) 102,626	1,693,695	174,951	10.1%	21,356	1.3%					
	屋体	546,410	(16.8%) 78,728	(79.5%) 372,557	(3.7%) 17,570						468,855	96,858	17.7%	3,887	0.8%
	計	2,272,545	(75.6%) 1,634,632	(18.9%) 407,722	(5.5%) 120,196										

注1：平成26年度の公立学校施設台帳を集計したもの。保有面積欄の上段の数値は、構成比。

※東日本大震災津波の影響により調査対象外の学校を除く。

2：整備資格面積とは、各学校ごとに必要面積から保有面積を差し引いた面積（負数となる場合は、ゼロとする）。

3：危険面積とは、耐力度点数が、鉄筋造及び鉄骨造にあっては4,500点以下、木造にあっては5,500点以下の建物の面積。ただし、平成19年度までに実施した耐力度調査の結果が5,000点以下のものも含む。

【公立学校校地の保有状況】

[単位：㎡]

区分	保有校地面積				借用校地面積
	建物敷地	運動場	実験実習地その他	小計	
小学校	2,358,993	2,996,751	1,160,058	6,515,802	75,896
中学校	1,533,146	2,506,501	814,599	4,854,246	110,444
計	3,892,139	5,503,252	1,974,657	11,370,048	186,340

注：数値は平成26年度のもの（東日本大震災津波の影響により調査対象外の学校を除く）

(2) 市町村立幼稚園及び市町村立小中学校の整備状況

【事業別の状況】

[単位：㎡、千円]

区分	単年度事業			国債事業			計		
	事業数	補助対象面積	負担(交付)金額	事業数	補助対象面積	負担(交付)金額	事業数	補助対象面積	負担(交付)金額
小学校・校舎	2	1,401	137,692				2	1,401	137,692
中学校・校舎	1	752	68,356				1	752	68,356
小学校・屋体				1	358	34,915	1	358	34,915
中学校・屋体									
統合				3	5,205	480,816	3	5,205	480,816
危険改築	8	4,674	981,174				8	4,674	981,174
不適格(地震)改築	9	432	53,255				9	432	53,255
大規模改造	19	18,910	436,129				19	18,910	436,129
地震補強	14	29,796	1,042,882				14	29,796	1,042,882
その他	29	88,527	398,328				29	88,527	398,328
合計	82	144,492	3,117,816	4	5,563	515,731	86	150,055	3,633,547

注：「屋体」は屋内体育館、「その他」は学校水泳プール、調理場、グラウンド、太陽光発電等の整備

【市町村別の状況（単年度事業分）】

[単位：㎡、千円]

市町村名	学校名	補助対象面積												負担(交付)金額				備考
		小校	中校	小屋	中屋	統合		危険改築		不適格(地震)改築		合計		大規模改造	地震補強	その他	計	
						校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体					
盛岡市	上田中													17,776	7,912		25,688	障害
	城西中														244,260	10,891	255,151	太陽光
	城東中									266		266			249,584	34,756	284,340	太陽光
	土淵小															5,393	5,393	不適格
	土淵中															2,114	2,114	不適格
	太田東小														48,794		48,794	
	東松園小														16,453		16,453	
	下橋中														132,349		132,349	
	仙北中														3,023		3,023	
	大宮中														88,102		88,102	
	緑が丘小														115,910		115,910	
	見前小														127,829		127,829	
	向中野小	827														85,197	85,197	
	津志田小	574														52,495	52,495	
巻堀中			752													78,617	78,617	太陽光
葛巻町	葛巻社会体育館															10,864	10,864	社会体育施設 耐震化
紫波町	日詰小															36,941	36,941	プール
	紫波第一中													20,806			20,806	トイレ
花巻市	南城小															13,432	13,432	屋外
	矢沢中													12,158			12,158	トイレ
	湯本中													12,070			12,070	トイレ

市町村名	学校名	補助対象面積												負担(交付)金額				備考	
		小校	中校	小屋	中屋	統合		危険改築		不適合(地震)改築		合計		大規模 改造	地震 補強	その他	計		
						校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体						
	宮野目中													12,158			12,176	24,334	トイレ、防災
	石鳥谷小																13,652	13,652	防災
奥州市	水沢南小													10,100				10,100	空調
	広瀬小													5,631				5,631	空調
	前沢小																55,820	55,820	屋外、 プール
	東水沢中																11,312	11,312	屋外照明
	水沢南中													76,946				76,946	老朽
	水沢武蔵館																3,778	3,778	社会体育施 設の機能化
一関市	山目小							2,480					2,480				810,388	810,388	危険
	大東小																76,218	76,218	屋外、 プール
	千厩小																1,683	1,683	法令
	藤沢中													7,612	6,565		14,177	14,177	空調
	東山中																6,733	6,733	屋外
	金沢小																52,423	52,423	老朽
釜石市	釜石小																3,466	3,466	防災
	白山小																4,169	4,169	防災
	栗林小													67,333	2,101		69,434	69,434	老朽
遠野市	附馬牛小													39,890				39,890	教育内容
	遠野中							242		156		398					36,985	36,985	危険、 不適合
	遠野西中													7,046			5,611	12,657	教育内容、 屋外照明
宮古市	山口小																28,221	28,221	プール
岩泉町	岩泉中													67,332				67,332	老朽
	小本小																4,310	4,310	太陽光
	小本中																3,919	3,919	太陽光
久慈市	久慈小							711		10		721	3,046				62,909	65,955	防災、屋外
	平山小												8,545					8,545	トイレ
	大川目小																12,501	12,501	防災
	夏井中																14,801	14,801	防災
洋野町	種市小																31,646	31,646	屋外、 屋外照明
二戸市	福岡中																46,820	46,820	危険、 不適合
軽米町	軽米小																62,670	62,670	危険、 不適合
滝沢市	滝沢小													13,574				13,574	トイレ
計		1,401	752					3,963	711	422	10	4,385	721	436,126	1,042,882	1,638,805	3,117,816		

※ 交付決定単位で事業が完了したものの交付決定額を計上。(概算払いのみで繰越した事業は含まない)

【市町村別の状況（国債事業分）】

[単位：㎡、千円]

市町村名	学校名	補助対象面積								負担金交付決定額		備考
		小校	中校	小屋	中屋	統合		合計		左のうち 当該年度分		
						校舎	屋体	校舎	屋体			
一関市	磐井中					4,663		4,663		615,194	430,636	繰越分含む
遠野市	遠野中					142		142		18,781	13,147	繰越分含む
						400		400		52,905	37,033	繰越分含む
久慈市	久慈小			358					358	49,879	34,915	繰越分含む
計				358		5,205		5,205	358	736,759	515,731	

(3) 理科教育等設備

(ア) 平成26年補助金交付状況

[単位：千円]

市町村	理科設備	算数・数学設備	計
盛岡市	3,700	0	3,700
岩手町	1,221	0	1,221
葛巻町	493	86	579
八幡平市	629	50	679
滝沢市	500	0	500
紫波町	789	0	789
花巻市	1,120	0	1,120
北上市	1,068	37	1,105
奥州市	2,935	25	2,960
一関市	3,750	0	3,750
陸前高田市	3,682	250	3,932
釜石市	800	50	850
遠野市	1,000	0	1,000
宮古市	986	0	986
山田町	1,500	0	1,500
岩泉町	450	58	508
久慈市	1,747	181	1,928
洋野町	623	30	653
一戸町	495	105	600
軽米町	441	75	516
九戸村	1,528	56	1,584
計	29,457	1,003	30,460

(イ) 学校種別現有状況 (平成25年度末)

[単位：校、千円、%]

区 分	学校種別	学校数 (25. 5. 1現在)	基準総額[A]	現有の状況		平成26年度補 助金交付校数	
				現有金額[B]	現有率[B/A]		
1 理科教育振興法第9条第 1項第1号に基づく補助	理科 設備	小学校	360	3,717,471	1,423,032	38.3	139
		中学校	174	3,877,964	1,094,294	28.2	78
		高等学校	1	104,151	12,951	12.4	0
		計	535	7,699,586	2,530,277	32.9	217
	算数数学 特別設備	小学校	360	763,403	154,146	20.2	20
		中学校	174	409,749	69,987	17.1	6
		高等学校	1	2,101	0	0.0	0
		計	535	1,175,253	224,133	20.8	26

第7節 教育振興運動を基盤とした地域ぐるみで取り組む教育の推進

第1 学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり

目標達成型の学校経営の取組と教育振興運動が軌を一にして展開することにより、学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てていく環境づくりを推進した。

1 「いわて教育の日」推進事業

(1) 趣旨

県民の教育に対する関心と理解を深め、学校、家庭及び地域社会が連携して、次代を担う豊かな人間性を備えた子どもを育成するため、県民一人一人が教育の重要性を認識し、本県における教育のあり方を考える契機として、いわて教育の日を設け、本県における教育の充実と発展に資することを目的に、平成17年3月に県議会で「いわて教育の日に関する条例」が制定され、平成17年4月から施行された。

この条例の目的の実現を図るため、教育に関する活動の奨励、広報その他の取組を行うとともに、市町村や関係団体の取組もあわせて実施状況を取りまとめた。

- いわて教育の日 11月1日
- 教育週間 11月1日～7日

(2) 「いわて教育の日」県教育委員会主催事業

「いわて教育の日」記念行事

テーマ 『みんなで育む学びの場いわて』

期日 平成26年11月5日(水)

会場 盛岡劇場 メインホール

参加者 県内教育関係者及び一般県民約450人

内容

第1部 記念式典

- 教育表彰 9団体、62個人 (⇒19～20ページ「平成26年度岩手県教育表彰」(1)事績顕著者を参照)

第2部 児童生徒による発表

- 陸前高田市立第一中学校特設合唱部3年生

合唱 「初心のうた」「ずいずいずっころばし」「ほたるこい」「最上川舟唄」

- 岩手県立盛岡第二高等学校箏曲部

箏曲 「二つの群のために」「春よ来い」

第3部 記念講演

演題 子どもたちの豊かな学びを活かしたキャリア教育
～学校・家庭・地域が元気になる！～

講師 生重 幸恵 氏 (特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク
理事長)

(3) 「いわて教育の日」関連事業

「いわて教育の日」前後の10月と11月の2箇月間に実施される、県・市町村・学校・民間団体などによる教育・文化・スポーツ・青少年健全育成等の教育関連事業(行事)を、「いわて教育の日」関連事業として県教育委員会のホームページで周知し、広く参加を求めることにより、教育振興の機運の醸成を図った。

登録事業数：707事業

参加者数：延べ376,572人

2 子どもの読書活動の推進

平成26年6月に策定した「第3次岩手県子どもの読書活動推進計画」を踏まえ、子どもの読書活動推進事業として次の事業を実施した。

(1) 読書ボランティアのための研修会

- ア 読書ボランティア研修会(中央研修)
平成26年6月24日 岩手県立生涯学習推進センター (参加:341人)
- イ 読書ボランティア研修会(各地区研修)
 - ① 平成26年 7月9日 盛岡教育事務所 (参加: 63人)
 - ② 平成26年10月2日～平成27年1月28日
中部教育事務所 (参加:162人)
 - ③ 平成26年11月22日 県南教育事務所 (参加:80人)
 - ④ 平成26年 9月 3日 沿岸南部教育事務所(参加:41人)
 - ⑤ 平成26年 7月25日 宮古教育事務所 (参加:91人) ※推進センターとの共同開催
 - ⑥ 平成26年 7月18日 県北教育事務所 (参加:41人)

(2) 読書活動の普及・啓発

- ア 「第3次岩手県子どもの読書活動推進計画」の策定・公表
各市町村や関係機関へ計画を送付し、HP等を通じて周知を行った。
- イ 「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」の増刷・再配布
平成27年度新中1年生分を増刷し、配布した。(平成27年3月)
- ウ 「いわての小学生のためのおすすめ図書100選」の作成・配布選書委員会を開催し、小学生用のブックリストの選書・作成を行った。
平成27年度小学生分を印刷し、配布した。(平成27年3月)

(3) 読書活動の推進体制の整備

- ア 岩手県子どもの読書活動推進委員会
 - ① 第1回委員会 平成26年6月 4日
 - ② 第2回委員会 平成27年1月28日
- イ 各地区推進体制の整備
 - ① 平成27年 2月 3日 盛岡教育事務所 (参加:12人)
 - ② 平成26年 7月18日 中部教育事務所 (参加:12人)
 - ③ 平成26年 9月17日 県南教育事務所 (参加:15人)
 - ④ 平成26年 5月20日 沿岸南部教育事務所(参加:16人)
 - ⑤ 平成27年 2月 4日 宮古教育事務所 (参加:15人)
 - ⑥ 平成26年 5月30日 県北教育事務所 (参加:35人)

3 教育振興運動

平成26年度は、「みんなで教振!10か年プロジェクト」の第4ステージ「飛躍の2年」の最終年として、また、10か年プロジェクトの最終年として、取組全体を再確認し改善を図るとともに、実践事例をもとに成果と課題を総括し、さらなる飛躍に向けた今後の取組の方向性を検討するため事業を展開した。

また、本運動が昭和40年の提唱から50年目を迎えたことから、半世紀に亘る運動の歴史とその成果を総括するとともに、次の10年に向けた課題を整理するために「教育振興運動50周年記念大会」をはじめとする記念事業を展開した。

(1) 県段階における推進活動

- ア 幹事会
 - ① 期 日 平成26年7月18日 平成27年3月2日
 - ② 会 場 盛岡地区合同庁舎8階C

- ③ 内 容
- ・「みんなで教振！10か年プロジェクト」について
 - ・運動の方針、事業実施計画について
 - ・教育振興運動推進研修会について
 - ・事業評価、次年度事業の検討等について
 - ・教育振興運動50周年記念大会について

イ 市町村担当者研修会

- ① 趣 旨 教育振興運動の基本理念の理解を図るとともに、全県共通課題の実践事例や課題解決に向けての協議・情報交換により、市町村において教育振興運動を推進する担当者としての役割を確認する研修を行う。
- ② 期 日 平成26年5月13日
- ③ 場 所 生涯学習推進センター
- ④ 内 容 説明「教育振興運動について」
講話「これからの教育振興運動のあり方を考える」
ワークショップ

ウ 教育振興運動推進研修会

- ① 趣 旨 市町村・地区の推進組織や実践組織のリーダー等及び地域連携窓口教員を対象に、地域と家庭・学校の連携に課題解決にあたる教育振興運動の基本理念の理解を図るとともに、全県共通課題に対する5者の役割と具体的な取組及びその評価の方法についての研修を行う。

② 概 要

教育事務所	期 日	会 場	参加者	内 容
盛岡地区	6月25日	滝沢ふるさと交流館	204人	・説明 ・講演
中部地区	6月4日	県立生涯学習推進センター	143人	・説明 ・講演 ・実践事例紹介
県南地区	6月18日	前沢ふれあいセンター	158人	・説明 ・講演 ・事例発表
沿岸南部地区	6月11日	リアスホール	121人	・説明 ・実践発表 ・講演
宮古地区	6月24日	宮古市総合福祉センター	108人	・説明 ・講話
県北地区	6月9日	久慈地区合同庁舎	81人	・説明 ・実践発表 ・グループ協議

エ 市町村・地域活性化研修会

- ① 趣 旨 市町村の悩み・課題を解決するために、より多くの関係者に対して教育振興運動の理念の理解を図るとともに、5者の役割による課題解決の方法についての研修を行う。

- ② 期 間 6月～2月

教育事務所	開催市町村	内 容
盛岡地区	盛岡市（1回目70人、2回目3人） 八幡平市（80人） 雫石町（12人） 岩手町（74人） 矢巾町（103人） 紫波町（1回目86人、2回目25人）	・講演 ・実技 ・実践発表 ・見学 ・説明
中部地区	花巻市（1回目72人、2回目61人） 遠野市（24人） 北上市（152人） 西和賀町（60人）	・講義 ・講演
県南地区	奥州市（30人）	・講話
沿岸南部地区	大船渡市（246人） 釜石市（135人）	・講演 ・事例発表
宮古地区	宮古市（1回目4人、2回目4人、3回目4人） 山田町（15人） 岩泉町（30人） 田野畑村（8人）	・説明 ・協議
県北地区	久慈市（64人） 洋野町（43人） 普代村（49人） 野田村（11人） 二戸市（140人） 軽米町（22人） 九戸村（147人） 一戸町（42人）	・説明 ・講演 ・事例発表 ・講話 ・実技 ・講義 ・ワークショップ

オ 公立小中学校及び県立学校の校内体制における「地域連携窓口教員（地域教育担当教員）」の位置づけ周知

- ① 教育基本法及び学校教育指導指針の趣旨を踏まえ、「学校、家庭及び地域住民の連携協力」を推進する「地域連携窓口教員」の位置づけを周知
- ② 「地域連携窓口教員」の設置状況調査の実施（平成26年7月調査）
- ③ 教育振興運動推進研修会への参加奨励
- ④ 各教育事務所で実施する初任者研修及び10年研修において、学社連携・融合、教育振興運動の趣旨理解の時間を設定

カ 教育振興運動50周年記念大会

- ① 趣 旨 昭和40年の教育振興運動の提唱から50周年を迎えたことを記念し、これまでの本運動の成果を顕彰するとともに、今後に向けて更なる運動の広がりを確認する大会とする。
- ② 期 日 平成27年1月16日
- ③ 場 所 盛岡市民文化ホール
- ④ 参加者 教育振興運動関係者、教育関係者、一般県民等 約1,150人
- ⑤ 内 容 オープニングアトラクション「厨中北梅太鼓」～盛岡市立厨川中学校～
記念講演「岩手と共に」講師：菊池幸見氏（IBC岩手放送アナウンサー）
事例発表 ・長島小学校区教育振興協議会（平泉町）
・大船渡市立吉浜小学校（大船渡市）
・岩手県立伊保内高等学校（九戸村）

キ 教育振興運動50周年記念関連事業「座談会」

- ① 期 日 平成26年10月30日
- ② 場 所 生涯学習推進センター
- ③ 参加者 コーディネーター 新妻 二男氏（岩手大学教育学部 学部長）
発言者 高橋 寛氏（岩手県生涯学習振興協会 参与）
中村 利之氏（岩手県生涯学習振興協会 会長）
佐々木哲也氏（奥州市南都田中学校 校長）
佐藤 公一氏（岩手県立生涯学習推進センター所長）

ク 教育振興運動50周年記念関連事業

記念誌「教育振興運動50年のあゆみ」発行（平成27年3月）

(2) 市町村段階における推進活動

※震災の影響により、陸前高田市は未回答、また、大槌町については部分回答。

ア 推進組織の状況 [陸前高田市を除く]

単独の組織で教育振興運動を推進	28市町村
他の運動体や組織と合わせて推進	12市町村
その他（他団体が運動を推進）	7市町村

イ 実践組織の状況 [陸前高田市を除く]

(ア) 実践組織の数

区 分	数(割合)
小学校区	232(51.2%)
中学校区	84(18.5%)
公民館区	28(6.2%)
町内会区	73(16.1%)
そ の 他	36(7.9%)
計	453

(イ) 実践組織が取り組む主題の数（延べ数） [陸前高田市を除く]

区 分	主題の数
学習活動	752
社会参加	571
自然体験	154
郷土芸能	187
文化芸能	159
生活健康	564
世代間交流	347
勤労体験	165
国際理解	51
スポーツ・レクリエーション	233
情報メディア	126
そ の 他	71
計	3,380

4 学校支援地域本部事業

学校と地域の連携体制を構築し、ボランティアによる多様な形態の教員支援を行い、地域全体で学校教育を支援するとともに、地域の教育力を向上させるため、学校支援地域本部事業を実施した。

(国庫委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として実施)

(1) 岩手県学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会

ア 委員会の開催

(平成26年5月27日、平成27年2月17日)

イ 合同研修会(学校支援ボランティア推進研修会)の開催

(平成26年6月6日 56人、平成26年6月26日 16人)

(2) 市町村ごとの事業実施状況

市町村名	本部数
盛岡市	(25)国から直接委託
八幡平市	—
雫石町	—
葛巻町	—
岩手町	—
滝沢市	—
紫波町	—
矢巾町	1
花巻市	—
遠野市	—
北上市	—
西和賀町	1
奥州市	5
金ヶ崎町	—
一関市	3
平泉町	1
大船渡市	1
陸前高田市	9
住田町	—
釜石市	3
大槌町	1
宮古市	5
山田町	—
岩泉町	—
田野畑村	2
久慈市	1
普代村	1
洋野町	6
野田村	1
二戸市	—
軽米町	1
九戸村	1
一戸町	1
計	44(25)本部

第2 多様な体験活動の充実（学習機会の確保）

放課後子ども教室推進、青少年団体の支援等を通じ、多様な体験活動の充実を図った。
また、社会教育施設における体験活動の内容の充実を図り、成果の普及に努めた。

1 放課後子ども教室

地域に根ざした多様な活動の機会を提供するため、放課後子ども教室事業を実施した。子どもたちの放課後における安全・安心な居場所づくりを進めた。

（国庫委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として実施）

(1) 岩手県学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会

ア 促進委員会の開催

（平成26年5月26日、平成27年2月16日）

イ 指導者合同研修会の開催

（平成26年7月1日 188人、9月9日 138人、11月1日 55人）

ウ 実地調査

（普代村、矢巾町）

(2) 市町村ごとの事業実施状況

市町村名	運営委員会	子ども教室数
盛岡市	(○)	(5)国から委託
八幡平市	—	—
雫石町	—	—
葛巻町	○	4
岩手町	—	—
滝沢市	○	2
紫波町	○	3
矢巾町	○	4
花巻市	○	2
遠野市	○	11
北上市	(○)	(3)市独自
西和賀町	—	—
奥州市	○	15
金ケ崎町	○	1
一関市	○	21
平泉町	○	2
大船渡市	—	—
住田町	○	2

釜石市	○	6
大槌町	○	2
宮古市	○	9
岩泉町	—	—
田野畑村	—	—
久慈市	○	8
普代村	○	1
洋野町	○	4
野田村	○	1
二戸市	○	6
軽米町	○	3
九戸村	○	4
一戸町	○	5
計	22(2)市町村	116(8)教室

※市町村数の()は県の委託以外の市町村数

2 少年団活動の支援

(1) 子ども会等少年団体の組織状況

（平成27年3月31日現在）

団体名	団体数	会員人数
ボーイスカウト	12	363
ガールスカウト	13	247
地域子ども会	13	39,952

(2) 少年団体の活動状況

団体名	主な事業
日本ボーイスカウト岩手連盟	指導者育成事業／プログラム事業
ガールスカウト日本連盟岩手県支部	リーダー養成講習会／ガールスカウト支部ギャザリング
岩手県子ども会育成連合会	ジュニアリーダー育成／各地域子ども会育成組織支援

3 青年団体活動の支援

(1) 組織状況 (平成26年5月25日現在)

団体名	構成団体数	会員人数
岩手県青年団体協議会	11	570

(2) 事業内容

ア 第61次青年問題研究集会

期 日……平成26年1月24日～25日

場 所……岩手県青少年会館

イ 第63回岩手県青年大会

(ア) 体育部門

期 日……平成26年7月27日

場 所……葛巻町

種 目……バスケットボール

(イ) 文化部門

期 日……平成26年9月7日

場 所……岩手県青少年会館

種 目……人形劇

ウ 第63回全国青年大会

期 日……平成26年11月7日～10日

場 所……日本青年館及び東京周辺各会場

参加種目…バスケットボール、柔道、ボウリング

4 青年教室・講座

項 目	開設数	参加者数	内 容
30人以上で20時間以上	3教室(2市町村)	182人	1 人間関係に関すること 2 市民性、社会性に関すること 3 職業、家庭に関すること 4 郷土理解に関すること
30人以上で10～20時間	2教室(1市町村)	45人	
上記以外(自立開設)	34教室(7市町村)	1,697人	
合 計	39教室(7市町村)	1,924人	

5 青少年教育施設の利用状況

(1) 運営の基本方向

次代の担い手である青少年に、恵まれた自然環境の中で規律ある共同生活を体験させ、友情・協同・奉仕等の相互扶助の精神を養い、地域社会の発展に寄与し得る自主的で創造性豊かな青少年の育成を図る。

(生活方針) 「規律」「友情」「協同」「奉仕」

(2) 青少年の家の利用者数 [単位：団体、人]

	利用団体数	実利用者数	延利用者数
県南青少年の家	548	24,711	37,701
陸中海岸青少年の家	393	16,467	27,149
県北青少年の家	425	21,292	28,260
計	1,366	62,470	93,110

(3) 県北青少年の家スケート場利用者数 [単位：人]

	研修利用者数	普通利用者数	計
幼児	378	240	618
小学生・中学生	3,785	2,811	6,596
高校生・大学生・一般	2,364	4,434	6,798
計	6,527	7,485	14,012

(4) 類型別実利用者数 [単位：人]

		県南青少年の家	陸中海岸青少年の家	県北青少年の家
事業参加	施設主催事業	4,032	3,020	5,261
	県主催事業	222	211	760
学校利用	大学・短大	330	2,900	653
	各種学校	201	54	0
	高等学校	2,746	1,102	2,702
	中学校	5,285	4,228	2,940
	小学校	8,451	3,460	5,305
地域団体利用	サークル(勤労青年)	9	789	44
	サークル(一般)	364	1,310	227
	子ども会	2,613	2,138	2,336
	スポ少団体	6,635	3,125	4,336
	児童館・公民館	745	217	849
	幼稚園・保育園	194	1,367	630
企業体		3,085	427	1,808
その他		2,789	2,801	409
合計		37,701	27,149	28,260

第3 地域の教育課題の解決・家庭教育の充実

子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けることができるよう、幼児期からの家庭での取組を支援するとともに、子育て支援に関わるグループ・団体・NPO等や企業との連携・協力をしつつ、家庭教育支援を推進した。

1 学習機会の提供

親等に対する様々な機会を活用した家庭教育に関する学習機会を提供した。

(1) 子育て・親育ち講座

(国庫委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として実施)

ア 目的……親等が多数集まる機会を利用して、子どもの心理や親子の関係について学習する。

イ 期日……平成26年5月～平成27年3月

ウ 内容……遠野市、金ヶ崎町、平泉町、陸前高田市、田野畑村、久慈市、洋野町、軽米町の8市町村において、次の機会を利用して各種講座を実施した。

- ① 幼児期講座
- ② 小学校入学時講座（就学時健診等の機会を活用）
- ③ 学童期講座
- ④ 中学校入学時講座（入学説明会等の機会を活用）
- ⑤ 父親の家庭教育参加促進事業

エ 受講者数…10,141人

2 子育て支援体制の充実

地域との関わりの中で家庭教育や子育てを行うことが出来る支援体制の整備を図る。

(1) 岩手県学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会

(国庫委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として実施)

- ① 国庫委託事業の基本的方針等について 平成26年5月27日
- ② 国庫委託事業の成果・課題等について 平成27年2月17日

(2) 家庭教育支援推進事業

(国庫委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として実施)

遠野市、金ヶ崎町、平泉町、陸前高田市、田野畑村、久慈市、洋野町、軽米町において実施した。

(3) 子育てサポーター養成講座

(国庫委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として実施)

ア 目的……子育てに関する専門的な知識や技能を有し、地域における子育てサークルの育成や子育てネットワークの構築に指導的な立場で携わる子育てサポーターを養成する。

イ 期日及び内容……次の4つのテーマについて、それぞれ2日間の日程で講座を実施した。

[生涯学習推進センター]

(延べ人数)

- | | | | |
|---|-----------------|----------------|-----|
| ① | 平成26年 6月12日～13日 | 子育て支援の重要性 | 32人 |
| ② | 平成26年 7月17日～18日 | 子どもの発達とカウンセリング | 34人 |
| ③ | 平成26年 8月28日～29日 | 子育て支援の実際 | 33人 |
| ④ | 平成26年 9月25日～26日 | これからの子育て支援 | 33人 |

[県北教育事務所（久慈会場）]

- ① 平成26年7月3日～4日 子育て支援の重要性 58人
- ② 平成26年7月31日～8月1日 子どもの発達とカウンセリング 58人
- ③ 平成26年9月11日～12日 子育て支援の実際 74人
- ④ 平成26年10月9日～10日 これからの子育て支援 59人

ウ 修了生 センター16人、宮古26人

エ 岩手県子育てサポーターの認定

本講座修了者を「岩手県子育てサポーター」として認定、登録した。

岩手県子育てサポーター認定者数：42人、登録者数：114人（平成26年度末現在）

(4) 子育て支援ネットワークの充実

（国庫委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として実施）

ア 目的……地域における子育て支援に指導的な立場で携わる子育てサポーターや子育て支援団体の資質の向上を図るとともに、相互のネットワークを形成することにより、本県の家庭教育の充実に資する。

イ 期 日……生涯学習推進センター 平成26年12月2日 41人
盛岡教育事務所 平成26年10月8日 63人
中部教育事務所 平成26年10月1日 19人
県南教育事務所 平成27年1月29日 65人
沿岸南部教育事務所 平成26年9月24日 18人
宮古教育事務所 平成26年5月20日 34人
県北教育事務所 平成26年11月7日 32人

ウ 内 容……講演、ワークショップ、情報交流会等

3 学習情報の提供と相談体制の充実

様々なメディアを活用して、家庭教育・子育てに関する情報を全ての親に提供するとともに、家庭教育に悩む親等が気軽に相談できる窓口を設置し、その周知に努めた。

(1) 子育て電話相談「すこやかダイヤル」

ア 目的

家庭教育、特に子育てに関する悩みや不安を抱く親に対して、電話(面接)による相談を行い、家庭教育の充実に資する。

イ 内 容

生涯学習推進センターに設置する専用電話「すこやかダイヤル」により、相談員が親等の家庭教育に関する相談に応じる。

【すこやかダイヤル】

電話番号：0198-27-2134

開設期間：通年(祝日、年末年始は除く)

相談対応：平日10時～17時は電話、夜間

・休日はFAX、留守番電話

ウ 相談件数 618件

相談領域	相談件数	割合
健康・安全	26	4.2%
しつけ全般	27	4.4%
遊び・友だち	11	1.8%
家庭・環境	52	8.4%
知能・ことば	7	1.1%
いじめ・不登校	10	1.6%
虐待・育児不安	31	5.0%
心理・性格	126	20.4%
集団生活・社会性	17	2.8%
学習・進路	25	4.0%
人間関係	37	6.0%
その他	249	40.3%
計	618	100 %

(2) 子育てメール相談

ア 目的

子育てについて学ぶ余裕がない親、子育てに関心が薄い親、孤立しがちな親等、すべての親に対してきめ細かな家庭教育支援を行うため、ITを活用した家庭教育相談、情報提供を行う。

イ 内容

生涯学習推進センターが運営する「まなびネットいわて」を活用し、メール相談者に対する相談員によるアドバイスのメール回答や、配信希望登録者へのメールマガジン配信（毎週木曜日）等の情報提供を行う。

ウ 相談件数 248件

相談領域	相談件数	割合
健康・安全	10	4.0%
しつけ全般	25	10.1%
遊び・友だち	7	2.8%
家庭・環境	42	16.9%
知能・ことば	1	0.4%
いじめ・不登校	7	2.8%
虐待・育児不安	11	4.4%
心理・性格	18	7.3%
集団生活・社会性	13	5.2%
学習・進路	5	2.0%
人間関係	46	18.5%
その他	63	25.4%
計	248	100 %

第8節 広がりや深まりのある生涯学習の振興

第1 多様な学習活動を支援する環境の整備充実

学校教育ではぐくまれる「生きる力」を基盤とし、変化の激しい社会において、各個人が自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を身に付けることが求められていることから、学習情報提供や相談体制の充実、普及奨励、学習成果を生かす環境づくりなど、生涯にわたって学習を継続できるようにするための支援や環境等に取り組んだ。

1 生涯学習社会の実現を目指した推進体制の充実

近年における社会経済の急激な変化に伴う社会構造の変化、高度情報化や国際化の進展等の一方で、高齢化社会の進行も一層顕著になってきている。

生涯学習の推進においては、このような社会の変化に適切に対応しながら、一人一人が生きがいを感じながら学びを継続するとともに、学んだ成果を適切に生かしていくことが求められている。

平成18年12月には、時代の変化に対応すべく、教育基本法に「生涯学習の理念」(第3条)が新しく規定されたことをはじめ、「教育の目標(第2条)」、「家庭教育(第10条)」、「社会教育(第12条)」、「学校、家庭及び地域住民等の連携協力(第13条)」等、学校教育のみならず、生涯学習・社会教育関係の規定の充実も図られた。

本県においても、一人一人が真に生きがいのある人生を創造するとともに、東日本大震災津波からの復興に向けた活力に満ちた地域社会を築くための施策の展開が求められている。

(1) 岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議の開催

生涯学習に関する基本的な施策を調査審議し、もって本県における生涯学習の総合的な振興を図るため、次の会議を開催した。

なお、平成19年度まで生涯学習審議会の開催を年1回とし、社会教育委員会議を年2回開催してきたが、両会議の関係は非常に密接であることから、平成20年度以降、全員の委員が兼任し両会議を同時開催することとした。

【岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議】

ア 期日

第1回 平成26年7月23日

第2回 平成27年2月3日

イ 出席

第1回 委員16人中14人出席

第2回 委員16人中13人出席

ウ 内容

(ア) 平成26年度主要施策について

- a 生涯学習文化課
- b 学校教育室
- c スポーツ健康課
- d 県立生涯学習推進センター
- e 県立図書館
- f 県立博物館

- g 県立美術館
- h 公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団
- (イ) これからの教育振興運動のあり方について
- (ウ) 平成26～27年度協議テーマ「社会教育の今日的役割 ～絆づくりと活力あるコミュニティの形成に係る拠点づくりについて～」について
- (エ) 平成26年度優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰に係る選考について
- (オ) 平成27年度社会教育関係団体活動費補助金の交付について

2 連携と協力による生涯学習の普及奨励

(1) 学習意識の啓発

県民の生涯学習に対する理解と意欲を高め、学習活動の充実を図るため、生涯学習推進センターにおいて、県内全市町村とのネットワークによる生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」等により、学習情報の提供や広報活動に努めた。なお、平成17年2月より、携帯電話によるアクセスも可能となっている。

ア 生涯学習情報提供事業

(ア) 生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」

- a 情報量…………… 2,830件
- b 利用件数…………… 9,651件
- c トップページカウント数…… 23,710件
- d トップページリニューアル… 3月20日

イ 生涯学習情報紙「岩手県立生涯学習推進センター情報」の発行

- (ア) 発行部数…………… 710部 ※（県内小中学校へメール配信611件）
- (イ) 年間発行回数…… 4回

(2) 学習活動の支援

県民の学習活動の成果を地域社会に生かすことができるよう生涯学習ボランティア活動推進事業を実施するとともに、岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」において、広域的な学習機会と学習情報の提供に努めた。

また、電話による学習相談を行い、生涯学習・社会教育事業の支援を行った。

ア 生涯学習ボランティア活動推進事業（生涯学習推進センターボランティア登録数）

730人

イ 電話相談「マナビコール」の開設

- (ア) 開催日……………毎週月～金曜日
- (イ) 時間…………… 9時～17時
- (ウ) 相談員……………生涯学習推進センター専門職員
- (エ) 相談件数……………199件

第2 生涯にわたる学習機会の充実

生涯学習の中核を担う社会教育の充実を図るとともに、家庭教育をはじめとした生涯にわたる学習機会の充実を図り、自立した個人の育成や地域コミュニティの形成を促した。

1 成人の学習活動の支援

(1) 一般成人教育

ア 学級講座（成人大学講座等）

	市町村数	学級数	受講者数
成人大学講座	8	115	5,424
成人学級・講座	21	2,181	52,024
その他	19	767	22,804

イ 生涯学習ボランティア活動推進事業

県民の学習成果を地域社会における諸活動の中で生かすことのできる環境の整備に資する。

(ア) ボランティア登録者

登録者数……730人（生涯学習推進センター）

(イ) ボランティアの研修

岩手県読書をすすめるつどい

平成27年2月7日 アイーナ 191人参加 講演及び活動発表等

ウ 成人団体活動の支援

(ア) P T Aへの補助

補助団体	補助対象事業	事業内容	補助金額
(一社) 岩手県P T A連合会	家庭教育セミナー	○平成26年9月6日、盛岡市、299人 ○平成26年12月14日、住田町、206人 ○講演、パネルディスカッション等	150千円
	広報コンクール 三行詩コンクール	○審査 平成26年5月14日 ○対象人数 68人 ○審査 平成26年10月10日 ○対象人数1,790人 ※年次表彰式で表彰	
	東北ブロック研究大会兼 岩手県P T A研究大会	○平成26年9月6日～7日 ○盛岡市 ○全体会、分科会等 ○参加人数2,051人	
	会報発行	○「P T Aいわて」 ○会員及び関係機関等 ○3回発行(1回当たり10,000～15,000部)	
岩手県高等学校P T A連合会	研究協議会	○平成26年6月4日 ○盛岡市 ○講演等 ○参加者数270人	120千円
	会報発行	○「ポローニア」 ○会員及び関係機関等 ○2回発行(1回当たり30,000部)	
	母親委員研修会	○平成26年7月3日 ○盛岡市 ○発表・講演 ○参加者数162人	
岩手県国公立幼稚園P T A連絡協議会	研究大会	○平成26年6月27日 ○洋野町 ○講演・研究協議等 ○参加者数200人	120千円
	ブロック研修会	○平成26年6月～10月 ○4ブロック ○講演、実践交流会等 ○参加者数414人	
	会報発行	○1回発行(1回当たり2,500部)	

(イ) 岩手ユネスコ協会連盟への支援

補助金額：120千円

事業名	実施期日	実施場所	参加人数等	内容
ユネスコ運動岩手県大会	11月22日	盛岡市	550人	講演、パネルディスカッション
ユネスコ活動顕彰事業	11月10日 12月2日 12月4日 12月10日	盛岡市	7件 1,821人	選定、表彰等
ユネスコ活動研修会	1月23日 ～24日	滝沢市	190人	講演、分科会、全体会、交流会等
ユネスコ運動広報事業	5月17日	県内	200部	会報発行
	9月27日		500部	
	2月21日		200部	

(2) 女性教育

女性の地位向上と充実した人生の創造のため、多様で高度な学習機会を提供するとともに、女性の持つ豊かな感性を地域づくりに役立てる社会参加を促進した。

また、自主的な団体活動を促進するための指導者の養成に努めた。

ア 女性学級・講座

女性のライフスタイルや家庭生活の変化に伴い、女性の学習志向が一層高まり、婦人問題、生活上の課題を中心に、市町村を主体として計画的な学習が一定期間にわたり、継続して行われた。

【学級・講座開設状況】

区分	市町村数	学級数	学級生数
女性学級・講座	21	1,042	17,410
その他	9	275	3,378

イ 女性団体活動の支援

本県の女性団体は、女性の地位と福祉の向上及び相互の連携を図ることを目的とし、岩手県女性団体連絡協議会を組織している。

県教育委員会は、岩手県地域婦人団体協議会が行う社会的、公共的に意義のある事業に対してその経費の一部を補助し、また、その団体の自主性を尊重しつつ求めに応じて助言指導を行うなど、その活動の支援を行った。

【組織状況（平成26年5月23日現在）】

団体名	単位団体数	会員数
特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会	37	8,164

(ア) リーダー研修会

- a 期日 平成26年8月28日～29日
- b 場所 盛岡市
- c 参加人数 113人

(イ) 第59回岩手県地域婦人大会

- a 期日 平成26年7月2日
- b 場所 岩手町
- c 参加人数 864人

2 高齢者の学習活動の支援

○ 高齢者学級・講座

高齢者の高度で多様なニーズに対応するため、各市町村において今日的課題に関する講座や世代間交流事業などが、一定期間にわたり、継続して行われた。

区分	市町村数	学級数	学級生数
高齢者学級・講座	26	740	44,507
その他	9	151	6,748

3 視聴覚教育

○ 視聴覚教育の推進

教育関係者には、視聴覚教材、機材を適切に活用し学習効果を高めるとともに、放送など視聴覚メディアの活用と併せ、メディアの研究開発による教育の機会の拡充を図ることが求められていることから、指導者養成に当たっては、機器の操作や指導方法等について、専門的研修を実施し、指導法の浸透を図った。

ア 視聴覚教育指導者研修（社会教育関係）

視聴覚教育総合全国大会（東京都） 平成26年 11月21日～22日 4人参加

イ 視聴覚ライブラリー専任職員研修会

視聴覚教育協議会専任職員等研修会（生涯学習推進センター）平成26年6月19日～20日 9人参加

ウ 16ミリ映写機操作技術講習会

[単位：回、人]

教育事務所	回数	修了者数
盛岡	3	50
中部	1	6
県南	2	22
沿岸南部	1	6
宮古	1	5
県北	0	0
計	8	89

エ 教材ファイルム利用状況 [単位：本、人]

視聴覚ライブラリー名	利用本数	観覧者数
中央	1,258	21,222
花巻図書館	350	6,668
北上市	116	4,607
西和賀町	0	0
県南第一	1,094	30,019
沿岸第一	331	4,513
釜石市	12	155
遠野市	50	703
大槌町	0	0
久慈市	19	250
県北第二	74	1,755
二戸	153	3,000
計	3,457	72,892

4 指導体制の充実

社会教育活動を総合的、効果的に推進するため、市町村に社会教育主事が23人、社会教育指導員が53人配置されている。

県民の学習要求が高度化・多様化する中、社会教育関係職員の専門性が一層強く求められており、現職教育は重要な領域となっている。

平成26年度は、以下の研修等を行った。

(1) 新任社会教育関係職員研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年5月15日～16日 | 生涯学習推進センター | 98人

【内容】 生涯学習及び社会教育に関する基本的な事項及び職務に関する研修

(2) 社会教育指導員等研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年5月23日 | 生涯学習推進センター | 104人

【内容】 社会教育指導員としての任務、各分野における専門的事項に関する研修

(3) 放課後子どもプラン指導者合同研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】 (第1回) 平成26年7月1日 | 生涯学習推進センター | 188人

(第2回) 平成26年9月9日 | 生涯学習推進センター | 138人

(第3回) 平成26年11月1日 | いわて子どもの森 | 55人

【内容】 「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の指導者等の情報交換・情報共有・連携の促進、資質の向上を図る研修

(4) 岩手県社会教育委員研究大会兼岩手県公民館大会

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年7月10日～11日 | 一関市文化センター | 273人

【内容】 生涯学習及び社会教育に関する基本的な事項、職務及び今日的な在り方に関する研修
公民館の在り方等に関する研修

(5) 岩手県社会教育主事・公民館職員研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年8月22日 | 盛岡市都南公民館 | 73人

【内容】 社会教育職員としての職務及び各分野における専門的事項に関する研修

(6) 岩手県社会教育指導員等研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年10月31日 | 生涯学習推進センター | 48人

【内容】 生涯学習及び社会教育に関する基本的な事項、及び専門性向上に関する研修

(7) 資質向上専門研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年9月17日 | 生涯学習推進センター | 21人

【内容】 ワークショップを通して主体的に地域に参画し、地域課題を解決する人材を育成・活用する方法を学ぶ研修

(8) 事業周知・広報スキルアップ専門研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年11月27日 | 生涯学習推進センター | 101人

【内容】 効果的な事業周知のためのチラシ作成に関する研修

(9) 対人スキルアップ専門研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年10月24日 | 生涯学習推進センター | 24人

【内容】 職場等における必要不可欠なコミュニケーション能力の実践的養成に関する研修

(10) 事業プログラム開発専門研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年8月21日 | 生涯学習推進センター | 44人

【内容】 社会教育事業プログラム作成に関する専門的・技術的研修

(11) 移動研修講座

【期日 | 会場 | 参加者数】

期 日	会 場	参加者数
平成26年 5 月29日	一関市	15人
平成26年 6 月12日	久慈市	35人
平成26年 6 月26日	宮古市	16人
平成26年 7 月14日	葛巻町	27人
平成26年11月10日	遠野市	24人
平成26年11月18日	大船渡市	10人
平成27年 2 月18日	盛岡市	19人

【内容】 市町村の社会教育・生涯学習事業の充実を図るための専門的研修

(12) 図書館等職員研修

ア 新任図書館長等研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】 平成26年4月25日 | 県立図書館 | 16人

【内容】

(ア) 新任の図書館長等を対象にした基礎的研修

(イ) 講話 震災を通して考える市町村立図書館等の運営

(ウ) 講義 県立図書館等概況説明

(エ) 情報・意見交換

イ 生涯学習ボランティア活動推進事業

県民の学習成果を地域社会における諸活動の中で生かすことのできる環境の整備に資する。

岩手県読書をすすめるつどい（出典：岩手県立図書館統計資料）

平成27年 2 月 7 日 アイーナ 200人参加 講演及び事例発表

(13) 図書館等職員研修（出典：『要覧2014（平成26年度版）岩手県立図書館編集』）

ア 新任図書館長等研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】平成26年9月2日～5日 | 県立図書館 | 1人

【内容】文部科学省主催研修の動画受信による研修

イ 初任職員研修会

【期日 | 会場 | 参加者数】平成26年5月15日～16日 | 県立図書館 | 45人

【内容】

(ア) 市町村立図書館及び公民館図書室の経験年数3年未満の職員を対象にした実務に関する研修

(イ) 講話（図書館の現状と今後のあり方について）

(ウ) 講義（図書館の連携、資料の受入～配架、図書館と著作権、レファレンスサービス等）

(エ) 情報・意見交換

(オ) 館内見学

ウ 北日本図書館連盟研究協議会

【期日 | 会場 | 参加者数】平成26年9月26日 | 県立図書館 | 96人

【内容】

(ア) 基調講義（図書館への震災支援活動と子どもの読書）

(イ) 事例発表①（ブックリストを活用して区市町村立図書館支援）

(ウ) 事例発表②（子どもたちが輝く読書活動を目指して）

(エ) 全体会（パネルディスカッション）

(オ) 国立国会図書館事業説明

エ 市町村職員専門研修

期 日	会 場	参加者数
平成26年6月6日	県立図書館	32人
平成26年12月4日	一関市立一関図書館	28人
平成26年12月10日	釜石市立図書館	8人
平成26年12月12日	久慈市立図書館	14人

(14) 文部科学省・国立教育政策研究所研修講座

ア 公民館職員専門講座

公民館職員に求められる専門的・実践的な知識技術についての研修

【期日 | 会場】平成26年5月20日～5月23日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】講義、グループ討議、事例研究等

【参加者数】3人（県立生涯学習推進センター、県南教育事務所、金ヶ崎町中央生涯教育センター）

イ 全国生涯学習センター等研究交流会

生涯学習センター等の相互の連携協力を推進するため、当面する諸課題について研究協議する。

【期日 | 会場】平成26年6月5日～6日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】基調講義、グループ討議、シンポジウム等

【参加者数】1人（県立生涯学習推進センター）

ウ 博物館長研修

博物館の管理・運営、サービスに関する専門知識や博物館を取り巻く社会の動向などについての研修を行う。

【期日 | 会場】平成26年10月8日～10日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】講義、事例研究・協議、シンポジウム等

【参加者数】 2人（県立博物館、遠野市立博物館）

エ 新任図書館長研修

公共図書館の管理運営の向上及び情報提供サービスの高度化を図る。

【期日 | 会場】

平成26年9月2日～5日 | (主)国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、(副)県立図書館

【内容】 講義、実践報告等

【参加者数】 1人（奥州市立水沢図書館）

オ 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修

鑑賞教育の重要性を踏まえ、全国の小中学校の教員と美術館の学芸員等が一堂に会し、研究協議を行う。

【期日 | 会場】 平成26年8月4日～5日 | 東京国立近代美術館等

【内容】 講演、グループワーク等

【参加者数】 1人（滝沢市立滝沢南中学校）

カ 地域教育力を高めるボランティアセミナー

学校・家庭・地域の連携ネットワークの推進及び地域課題の対応方策等に視点をあて、地域住民等が様々な視点から企画立案の在り方等について研究協議等を行う。

【期日 | 会場】 平成27年3月5日～6日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】 研究協議、講義、事例研究、実践研修等

【参加者数】 3人（県立生涯学習推進センター、中部教育事務所、県教委事務局生涯学習文化課）

キ 社会教育主事専門講座

国の生涯学習施策についての理解をもとに研究協議を行い、都道府県・指定都市における生涯学習社会教育の充実・発展を図る立場としての力量を高める。

【期日 | 会場】 平成26年11月11日～14日 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

【内容】 基調講義、事例発表、シンポジウム等

【参加者数】 4人（県立生涯学習推進センター、沿岸南部教育事務所、宮古教育事務所
県教委事務局生涯学習文化課）

ク 社会教育主事講習への派遣

(ア) 弘前大学社会教育主事講習

【期日 | 会場】 平成26年7月15日～8月8日 | 弘前大学等

【内容】 講義、演習、グループ研究等

【参加者数】 2人（市町村職員）

(イ) 社会教育主事講習[B]

【期日 | 会場】 平成27年1月21日～2月27日 | 国立教育政策研究所教育実践研究センター等

【内容】 講義、演習、グループ研究等

【参加者数】 1人（県立高等学校教諭）

5 社会教育施設の整備充実（1 県立生涯学習推進センター）

(1) 運営の方針

本県生涯学習推進の中核機関として、県民の学習活動を支援、促進するため、生涯学習に関する情報提供・学習相談、調査研究及び指導者養成等の事業を総合的、効果的に推進するとともに、市町村及び関係機関・団体との連携強化に努め、本県生涯学習の振興を図る。

(2) 運営の重点

ア 学習情報提供・学習相談

生涯学習情報システムなど、多様なメディアを活用した総合的な学習情報の提供及び学習相談の充実に努める。

- (ア) 学習情報データベースの充実と生涯学習情報提供及び学習相談の充実
- (イ) 家庭教育に関する情報提供及び相談の充実
- (ウ) 生涯学習に関する広報活動の充実

イ 調査・研究

生涯学習に関する各種調査を実施するとともに、生涯学習推進上の諸課題に関する研究を推進し、本県生涯学習の振興に役立てる。

- (ア) 生涯学習及び社会教育の推進状況等に関する調査の実施
- (イ) 生涯学習推進上の諸課題に関する研究の推進
- (ウ) 生涯学習推進研究発表会の開催

ウ 指導者の養成・研修

生涯学習関係職員及び有志指導者を対象とした研修を充実し、関係職員の資質の向上と指導者の養成を図る。

- (ア) 生涯学習推進上の課題を踏まえた基本研修、領域別研修、専門研修の充実
- (イ) 有志指導者養成研修の充実
- (ウ) 各機関・団体の学習課題に対応した希望研修の充実

(3) 事業等の実施状況

ア 学習情報の提供

- (ア) 生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」の管理運用
インターネットを活用し、各種の生涯学習情報を県民に提供した。

【生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」の利用状況】

分野	利用件数(前年比)	<参考>情報数(前年比)
講座・イベント	2,093 (△384)	648 (△257)
施設	1,087 (455)	569 (0)
団体・グループ	1,289 (△125)	219 (1)
指導者	4,412 (△924)	730 (36)
教材	770 (189)	664 (141)
計	9,651 (△789)	2,830 (△79)

- (イ) 生涯学習情報紙の発行
 - 【名称】岩手県立生涯学習推進センター情報
 - 【内容】国・県・市町村における生涯学習の推進状況、県立生涯学習推進センターの事業に関する情報等
 - 【発行部数・回数】710部・年4回
 - 【配布先】県、市町村教育委員会、小中高等学校、関係機関及び施設等
- (ウ) 学習相談事業「マナビィコール」
 - 【内容】生涯学習の推進に関する事業や学習活動についての電話相談
電話番号：0198-27-4563（月曜日～金曜日の9時～17時）
 - 【相談件数】平成26年度199件
- (エ) 子育て相談「すこやかダイヤル」
 - 【内容】子育てに関する悩みや不安についての電話相談、面接相談
電話番号：0198-27-2134
（月曜日～金曜日の10時～17時、これ以外の夜間、休日はFAX、留守番電話対応）
 - 【相談件数】平成26年度618件

(オ) 子育て相談「すこやかメール相談・メールマガジン」

【内容】子育てに関する悩みや不安についての携帯電話メール相談、子育て情報提供

【相談件数】平成26年度248件

【子育て情報提供】毎週木曜日メールマガジン配信

イ 調査・研究

(ア) 研究紀要「2014 研究報告 Vol.17 いわての生涯学習」の発行

【部数】1,500部

【内容】震災復興のためのNPO等との連携に関する調査研究

(イ) 平成26年度岩手県生涯学習推進研究発表会

【期日】平成27年2月5日～6日

【会場】生涯学習推進センター

【参加者数】138人（延べ198人）

【内容】(1)講演「連携・協働で育む地域の力」～さまざまな主体が集うプラットフォームづくり～

(2)ポスターセッション

(3)研究発表・協議

①「市町村との連携による研修の充実方策に関する研究」

②「震災復興のためのNPO等との連携に関する調査研究」

ウ 指導者の養成・研修

【生涯学習推進センター利用状況】

利用区分	事業数・団体数(前年比)	利用人数(前年比)
主催事業	47 (6)	2,581 (△8)
随時研修	5 (3)	153 (15)
施設利用	29 (△5)	2,773 (△590)
その他	41 (25)	2,557 (668)
計	122 (29)	8,064 (85)

【各種研修事業実施状況】

[単位：人]

区分	研修・講座名	期日	受講者数
基本研修	新任社会教育関係職員研修講座	平成26年5月15日～16日	98
領域別研修	社会教育指導員等研修講座	平成26年5月23日	104
	放課後子どもプラン指導者合同研修会 第1回	平成26年7月1日	188
	放課後子どもプラン指導者合同研修会 第2回	平成26年9月9日	138
	学校支援ボランティア推進研修会	平成26年6月6日	56
	家庭教育子育て電話相談員研修会 第1回	平成26年9月25日	7
	家庭教育子育て電話相談員研修会 第2回	平成27年2月26日	16
	子育て支援ネットワーク研修会	平成26年12月2日	41
	読書ボランティア研修会(生涯学習推進センター会場)	平成26年6月24日	341
	読書ボランティア研修会(宮古会場)	平成26年7月25日	91
	岩手県地域視聴覚教育協議会専任職員等研修会 [共催]	平成26年6月19日～20日	12
	家庭教育支援担当者のためのプログラムデザイン研修会	平成26年5月28日～ 平成27年2月24日	39
	女性いきいきセミナー(釜石会場)	平成26年11月7日	47
	岩手県社会教育委員研究大会兼岩手県公民館大会 [共催]	平成26年7月10日	97
	岩手県社会教育主事・公民館職員研修会 [共催]	平成26年8月22日	73
	岩手県社会教育指導員等研修会 [共催]	平成26年10月31日	48
専門研修	復興支援セミナー	平成26年8月30日 ～平成27年2月22日	242
	事業周知・広報スキルアップ専門研修講座	平成26年11月27日	101
	事業プログラム開発専門研修講座	平成26年8月21日	44
	資質向上専門研修講座	平成26年9月17日	21
	対人スキルアップ専門研修講座	平成26年10月24日	24
	希望移動研修講座(7回)	平成26年5月29日～ 平成27年2月18日	146
養成研修	家庭教育子育てサポーター養成講座 (生涯学習推進センター会場)	平成26年6月12日～9月26日	21
	家庭教育子育てサポーター養成講座 (県北教育事務所会場)	平成26年7月3日～10月10日	50
	岩手県生涯学習推進研究発表会(2日)	平成27年2月5日～6日	138
計			2,183

6 社会教育施設の整備充実(2 県立図書館)

(1) 運営の方針

ア 図書館機能充実と広報活動の充実

(ア) 岩手県と指定管理者が役割と責任を明確にした上で、連携協力を行い図書館としての一体性を保持しながら、利用しやすい施設を目指す。

図書館のサービス提供部門の運営を担う指定管理者は、図書館の運営方針等に基づき適切に業務を管理運営するとともに、県は指定管理者の管理運営が適切に行われているかを評価し、図書館機能が充実するように努める。

(イ) 図書館の運営上の課題を協議するため、図書館協議会を開催する。

(ウ) 利用者の便宜を図り利用促進につなげるため、印刷物の発行やホームページ等を活用し広報等情報の発信に努めるほか、アンケート等により利用者の意見を聞くよう努める。

(エ) 図書館機能の充実のため、図書館職員の資質の向上に向けた取組を進める。

イ 図書館資料の収集、整理、保存及び活用

- (ア) 県民の需要を広域的かつ総合的に把握し、図書館資料として相応しい資料や情報を収集、整理し、保存するとともに活用を図り、県民の利用に供していく。
- (イ) 県民の利用を促進するために障がい者への郵送貸出などのサービスを提供するとともに、所蔵資料に係る目録等の整備を進める。
- (ウ) 郷土資料の収集、整理等を重点的に実施し、ホームページにより情報提供を図るとともに、資料の保存に当たってのデジタル化を進める。
また、郷土資料講座を実施して活用に取り組む。
- (エ) 東日本大震災及び津波関係の記録の収集については、喫緊の課題として、関係機関と連携を図りながら重点事項として取り組む。その結果は、震災関係資料コーナーやホームページ等で情報発信する。
- (オ) 古文書等の貴重資料について適切な整理を行い、その保存活用を図るとともに、デジタルライブラリーいわてにより公開し、いわての文化の情報発信に努める。

ウ 相談機能の維持充実

- (ア) 県民の図書館を利用した学術研究活動等に寄り添った図書館資料を活用したレファレンスサービスを提供する。
- (イ) 地域課題の解決支援に向けた情報提供として、県民のニーズを踏まえつつ、必要な情報を提供するなどの取組を進める。
- (ウ) レファレンス事例データベースの情報を提供するなど郷土資料に関する各種データベースを充実し、情報を提供する。

エ 学習機会の提供と読書活動の奨励

- (ア) 図書館資料を活用した企画展示等により学習への契機づくりを進める。
- (イ) 関係団体との連携により読書週間を設け各種関連事業を実施するほか、県内の読書サークルなどへの図書館資料の貸出や読み聞かせ会の実施等により県民の読書活動が進むように取り組む。

オ 市町村支援及び連携

- (ア) 市町村立図書館等のニーズを踏まえつつ、図書館運営に関する助言等を行うとともに、協力貸出や協力レファレンス等の支援に取り組む。
- (イ) 図書館を取り巻く様々なテーマについての調査研究を、市町村立図書館等と共同で実施する。
- (ウ) 県内の図書館間の相互協力を推進する。
- (エ) 東日本大震災津波により被害を受けた県内の市町村立図書館等に必要な支援を行う。
- (オ) 市町村職員のための研修講座を実施する。

カ 関係団体等との連携

- (ア) 図書館協会、読書推進運動協議会を通じて読書活動奨励等が全県的な活動となるよう県内図書館や関係団体等との連携を進める。
- (イ) 図書館以外の社会教育施設等との連携を強め、情報提供等のサービスの提供に努める。
- (ウ) いわて県民情報交流センター内施設等と連携しながら県立図書館利用者の満足度向上に努める。

(2) 実施状況

ア 県立図書館協議会開催状況

【期日】平成26年10月20日

【協議事項】・県立図書館利用状況等について

- ・ 県立図書館事業実施状況等について
- ・ アンケート結果について

イ 広報活動

各種機関誌を発行するとともに、報道機関等への情報提供やホームページの充実に努めた。

ウ 図書館資料の収集（出典：岩手県立図書館統計資料）

岩手県立図書館資料収集方針に基づき図書館資料を収集した。郷土資料については、網羅的な収集に努めた。特に、東日本大震災津波に関する資料収集は各方面に呼びかけ、積極的に取り組んだ。資料収集等の実績は次のとおり。

(ア) 図書資料 [単位：冊]

区分	購入	寄贈	除籍	年度末総冊数
一般用	6,029	7,553	253	616,922
団体用	1,309	64	32	123,249
計	7,338	7,617	285	740,171

(イ) 視聴覚資料 [単位：点]

区分	購入	寄贈	除籍	年度末総点数
16ミリ映画フィルム	0	11	0	1,540
ビデオテープ	0	2	36	2,852
DVD	87	54	1	2,438
CD	37	15	13	4,105
レコード	0	0	0	1,492
録音テープ	0	0	0	1,448
レリーフ・巧芸画	0	0	0	97
計	124	82	50	13,972

(ウ) 新聞・雑誌 [単位：タイトル]

区分	年度末総タイトル数
新聞	351
雑誌	5,309
計	5,660

(エ) マイクロフィルム [単位：点]

区分	購入	寄贈	除籍	年度末総点数
マイクロフィルム	23	0	0	10,627

(オ) 電子資料 [単位：点]

区分	年度末総点数
CD-ROM等	593
オンラインデータベース	16
計	609

(カ) 震災関連資料 [単位：点]

区分	年度末総点数
図書資料等	23,129
視聴覚資料	179
計	23,308

(キ) デジタル化資料 [単位：点]

資料名	26年度デジタル化点数
中川村絵図ほか	14

エ 利用者サービス（出典：『要覧2015（平成27年度版）岩手県立図書館編集』）

(ア) 入館者数及び新規貸出登録者数

入館者数……………478,783人

新規貸出登録者数…5,830人

(イ) 個人への館外貸出数

区 分	冊数又は点数
図書資料	286,127
視聴覚資料	11,926
うちビデオテープ	320
D V D	5,207
C D	6,399

(ウ) 図書館映画会及び読み聞かせ会

映画会は、一般向け49回、児童向け27回、計76回開催した。

また、児童向け読み聞かせ会を62回開催した。

(エ) 参考調査（レファレンス・サービス）

調べものや読書相談等に前年度に比べ6,287件増の延べ20,722件の利用があった。

(オ) ビジネス支援サービス

区 分	総数
利用者数	345
相談件数	429

注：「利用者数」は（ア）入館者数の、「相談件数」は（エ）の参考調査の件数のそれぞれの内数であること。

【ビジネス支援コーナー講演等】

講 演 タ イ ト ル	開 催 日	参加者数
講演会「鉄道員になるには」	平成26年11月3日	58
創業経営支援セミナー「ゼロからはじめる！ビジネス設計図の創り方」	平成27年1月17日	27
特別講座「アナウンサーに学ぶ！面接で第一印象に差がつく！話し方」	平成27年1月25日	18
特別講座「メイクアップアーティストに学ぶ！面接で第一印象に差がつく！メイク術」	平成27年3月1日	15

(カ) 二次資料の作成

利用者のレファレンスサービス利用の便宜を図るため、二次資料を整備して提供した。

- ・レファレンス事例データベース
- ・国立国会図書館レファレンス共同データベース
- ・郷土関係雑誌目次集

オ 市町村への支援協力（出典：『要覧2015（平成27年度版）岩手県立図書館編集』等）

(ア) 市町村立図書館等職員専門研修

- ・児童書・児童関連資料の調べ方
- ・本の取扱いと治し方

(イ) 市町村立図書館等への訪問 36回

(ウ) 図書館等調査研究会の開催 委員17人 2回

(エ) 協力貸出

図書資料： 1,120件、2,374冊

(オ) 団体貸出

図書資料： 26団体、33,956冊

視聴覚資料：15団体、32点

カ 展示事業(出典：『要覧2014(平成26年度版)岩手県立図書館編集』等)

(ア) 4階展示コーナー企画展示

実施内容	展示点数	開催期間
南部のお殿様、明治を生きる	119	平成26年4月21日～5月29日
岩手のスポーツ人列伝	170	平成26年6月6日～7月21日
岩手の酒造りと食文化	181	平成26年8月1日～9月23日
第31回啄木資料展「啄木と明治の文学者たち」	161	平成26年10月3日～11月24日
かるた 今むかし	143	平成26年12月5日～平成27年1月25日
第35回手作り絵本展	82	平成27年1月31日～2月11日
釜石鉱山と大島高任～橋野高炉跡及び関連遺跡を世界遺産へ～	106	平成27年2月20日～4月12日

(イ) 各カウンターミニ展示

場 所	開催回数
総合、児童、新聞・雑誌、音と映像、企画、郷土、パズファインダー	63

7 社会教育施設の整備充実（3 県立青少年の家）

(1) 県南青少年の家

ア 主催事業

- (ア) 自然環境や地域の特性を生かした研修内容の充実を図った。
- (イ) ボランティアの育成と活用による研修活動の充実を図った。
- (ウ) 関連施設・団体との連携による機能の活用を図った。

イ 研修活動

- (ア) 団体等の研修目的や活動計画に対応した弾力的な運営に努めた。
- (イ) 研修プログラム作成のための事前協議の奨励に努めた。
- (ウ) 職員研修の計画的な推進と利用団体に対する助言・指導の充実を図った。

ウ 利用の促進

- (ア) 関係教育機関、団体との連携による年間にわたる効果的な利用の促進に努めた。
- (イ) 施設開放と利用形態の多様化に対応した。
- (ウ) 親しみやすい施設運営と利用者層の拡大に努めた。

エ 環境の整備

- (ア) 施設・設備の計画的な補修整備を行った。
- (イ) 掲示資料等の収集と研修環境の整備を図った。
- (ウ) 施設・設備の点検と安全の確保に努めた。

(2) 陸中海岸青少年の家

ア 主催事業

- (ア) 安全確保を念頭に活動内容の充実を努め、一部の事業において海の活動を取り入れたプログラムを展開することができた。
- (イ) 近隣市町村を中心に関係者及び関係機関との情報交換を密にし、協力体制の確保及び連携再構築への礎とすることができた。
- (ウ) ボランティアの育成とその活用に努めた。

イ 研修活動

- (ア) 利用団体との事前打ち合わせに丁寧に対応し、利用者（団体）のねらいが達成されるよう支援に努めた。
- (イ) 「ボランティア及び視察研修」の団体に、活動内容の充実の一助として、講師や活動場所等の情報提供に努めた。また、利用時の様々な規則等の理解に協力を求めた。
- (ウ) 施設の夜間利用を含む日帰り利用について、利用者のニーズに応じ、柔軟な対応に努めた。

ウ 利用の促進

- (ア) 管内校長会や主管課長会議等で、一部再開における現状説明の理解と協力の下、利用周知を図った。
- (イ) 近隣市町村への広報や季刊誌等により、利用促進に努めた。
- (ウ) キャラバン活動を積極的に受け入れ、利用の周知及び促進に努めた。
- (エ) 利用者の立場に立ち、利用者の満足度を高める接遇を心掛け、対応することができた。

エ 環境の整備

- (ア) 施設・設備の点検・整備に努めた。
- (イ) 活動エリアの環境保全と安全確保に努めた。
- (ウ) 情報収集及び提供に努めた。

(3) 県北青少年の家

ア 主催事業

- (ア) 自然環境や地域、施設の特性を生かし、研修内容の充実を図った。
- (イ) ボランティアの育成とその活用に努めた。
- (ウ) 近隣の社会教育施設や地域団体等との連携強化を図った。

イ 研修活動

- (ア) 団体の研修目的や活動計画に対応した弾力的な運営に努めた。
- (イ) 利用者のニーズに応じて、新しい研修活動プログラム（レク、創作活動等）を導入した。
- (ウ) 職員研修を行い、利用団体に対する指導・助言の充実に努めた。

ウ 利用の促進

- (ア) 管内の校長会議や市町村社会教育担当者会議等の場で、提案型の利用案内を行った。
- (イ) 施設開放事業を行い、広く地域住民に親しまれるよう努めた。
- (ウ) 利用者の意向に沿った管理運営に努め、満足度の向上を図った。
- (エ) 積極的な臨時開所や出前講座の実施、月2回の地元FMラジオ番組への電話出演、ホームページ・ポスター・チラシ等で広報活動を展開した。

エ 環境の整備

- (ア) 施設・設備の安全点検、補修整備を計画的に行った。
- (イ) 研修環境の整備・改善及び情報提供を図った。
- (ウ) 自然環境に優しい施設及び環境美化に努めた。

【県立県南青少年の家 平成26年度主催事業及び自主事業】

(1) かるがも親子体験教室

【目的】理解と関係を深めるとともに、親同士の交流を通して子育てをする仲間づくりを促進する。

【対象】小・中学生の子どもを持つ家族20家族40人程度

【内容|期日|参加者数】①親子でアウトドアクッキング編 7月5日 60人 ②キャンプdeチャレンジ 8月30日～31日 32人

(2) 自然ワンダークラブ

【目的】四季を通してさまざまな活動を体験することにより、環境についての考えを深め、自然を大切にしようとする心を育てる。

【対象】小学校4年生～中学生25人、高校・大学生等ボランティア

【内容|期日|参加者数】

① 春 緑の風の中で 5月 8日～6月1日 42人 ② 夏 きらめく川の中で 8月23日～24日 40人
③ 秋 色づく山の中で 10月11日～12日 33人 ④ 冬 真っ白な雪の中で 1月24日～25日 36人

(3) 水と緑のフレンドシップ

【目的】異年齢集団による野外体験活動等を通して、主体的に活動する心豊かでたくましい青少年の育成を図る。

【内容】仲間づくりレク、キャンプ、野外炊事、創作活動等

【対象】小学校5年生～中学生30人、高校・大学生等ボランティア

【期日|参加者数】7月26日～7月30日 39人

(4) みんなdeスクラム

【目的】親子が気軽にさまざまな体験活動を行い、活動の喜びを共有しながら、経験の拡大と参加者相互の交流を図る。

【対象】特別な支援を要する児童・生徒とその保護者20人、高校・大学生等ボランティア

【内容】野菜の苗植え体験、収穫体験、野外炊事等

【期日|参加者数】①6月7日 16名 ②9月6日 12名

(5) 冬のおもしろ体験ランド

【目的】冬の自然に触れながら、野外活動の喜びを体験するとともに、創作活動等を通じて参加者相互の交流を図る。

【内容】餅つき体験、スキー・スケート体験

【対象】小学校4年生～中学生30人、高校・大学生ボランティア

【期日|参加者数】1月31日～2月1日 30人

(6) アドバイザースタッフ養成講座

【目的】児童生徒の学校外活動を援助する高校生・大学生等の育成を図り、施設におけるボランティア活動を推進する。

【内容】ニュースポーツ、創作活動、野外炊事等

【対象】高校生・大学生等ボランティア20人

【期日|参加者数】5月10日～11日 26人

(7) 集団宿泊指導研修会

【目的】宿泊研修を効果的に実施するための知識・技術の習得を図るとともに、利用団体間の計画調整を図る。

【内容】野外活動、創作活動、情報交換等

【対象】利用団体関係者等

【期日|参加者数】①5月 7日 40人 ②5月 8日 38人

(8) 県南は～とふるDay

【目的】日常と異なる環境の中で、さまざまな体験活動を通して参加者相互の交流と経験の拡大を図る。

【内容】野外炊事、創作活動等

【対象|期日|参加者数】学校不適応児童・生徒 12月4日 7人

(9) 親子de手作りクリスマス

【目的】親子で共同の創作体験や交流活動を行うことにより、相互の理解と関係を深めるとともに、親同士の交流を通して子育てをする仲間づくりを促進する。

【対象】15家族30名程度

【内容|期日|参加者数】

①親子で創作「クリスマスキャンドル」 11月29日 81人
②親子で創作「クリスマスリース」 12月13日 88人

(10) 冬のわくわく創作ランド

【目的】子どもたちに創作活動の機会を提供することで、物作りの楽しさを体験してもらうとともに、参加者相互の交流を進める。

【対象】小学生4年生～中学生20人

【内容】手作り分光器で光のスペクトルを見よう

【期日】1月9日 6人

(11) [自主事業]「栗駒山トレッキング」

【目的】初夏の山という自然を舞台に、より安全なトレッキングの知識や技術を身につけながら余暇の充実を図る。

【内容|期日|参加者数】栗駒山トレッキング 7月23日 24人

(12) 【自主事業】「駒ヶ岳トレッキング」

【目的】秋の山という自然を舞台に、より安全なトレッキングの知識や技術を身につけながら余暇の充実を図る。

【内容|期日|参加者数】駒ヶ岳トレッキング 9月25日 台風中止 10月23日 33人

(13) 【自主事業】県南青少年の家所長杯「サッカーフェスティバル」

【目的】スポーツを通して、青少年の健全育成を図るとともに、参加団体相互の交流を促進する。

【内容】サッカー試合、サッカー講習会

【対象】サッカースポーツ少年団16チーム

【期日|参加者数】10月4日～5日 1,098人

(14) 【自主事業】みどりのキャンパスふれあいフェスティバル

【目的】スポーツや創作活動等を通して、県南青少年の家に対する理解と親しみを深めるとともに、生涯スポーツ等への参加の契機とする。

【内容】ニュースポーツ体験、創作体験、作品展、食の祭典等

【期日|参加者数】10月4日～5日 1,655人

(15) 【自主事業】親子deチャレンジ！

【目的】体験活動をとおして親子のふれあいを高め、同行家族との親睦を深めるとともに、郷土の素晴らしさを知る。

【内容】新巻き鮭作り、選択活動（海鮮ピザ作り・いか徳利作り）

【対象】小中学生の子どもをもつ10家族25人

【期日|参加者数】11月15日～16日 10人

(16) 【自主事業】レッツ！スケート

【目的】青少年の余暇利用として、冬季野外活動の機会を提供するとともに、スケートを楽しみながら親子のふれあいや、参加者相互の交流を深める。

【対象】小学生～家族、一般40人

【期日|参加者数】①1月24日 ②1月31日 ①36人 ②33人

【県立陸中海岸青少年の家 平成26年度主催事業及び自主事業】

(1) 自然体験活動セミナー

【目的】自然体験活動の普及を図るため、指導者の養成をねらい、実践活動をとおして資質の向上を図る。

【対象】学校教育・社会教育担当者、教員等 各コース20人程度

【内容|期日|参加者数】鯨山登山、野外炊事等 5月1日 33人

(2) 「家族ふれあい塾」

【目的】自然体験活動をとおして、親子の相互理解を深めるとともに、家族同士の交流を図り、子育てをする仲間作りを促進する。

【対象】15家族30人程度

【内容|期日|参加者数】アウトドア料理、関口不動尊奥の宮トレッキング 5月17日～18日 23人

(3) マリンランド杯グラウンド・ゴルフ交流会

【目的】中高年のためのいきいきスポーツ大会及び交流促進

【対象】沿岸地区在住概ね50歳以上の県民100人程度

【期日|参加者数】①5月27日 128人 ②8月26日 93人 ③10月9日 71人

(4) アドバイザースタッフセミナー

【目的】施設ボランティアの基礎的な知識や技術を習得する。

【対象】中・高・大学生・一般

【内容|期日|加者数】シーカヤック体験、野外炊事、海辺の活動等 7月5日～6日 2人

(5) ワンダフルネイチャー

【目的】登山をとおして美しい三陸の海や山を味わう。

【対象】一般 40人程度

【内容|期日|参加者数】五葉山登山と五葉温泉入浴 5月10日 29人

(6) マリンランド自然体験塾

【目的】自然体験活動をとおして、思いやりの心や自然を大切に する心を育み、参加者相互の交流を図る。

① 海の子野外教室

【内容】キャンプ体験、ナイトハイク、砂浜散策、シーカヤック体験海釣り、海辺の活動等

【対象】小学5年生～高校生 30人

【期日|参加者数】8月6日～8月8日 31人

② 雪ん子野外教室

【内容】カーリング体験、プラネタリウム鑑賞、スキー体験、雪中花火大会、牧場体験等

【対象】小学4年生～6年生 30人

【期日|参加者数】1月7日～9日 33人

- (7) **創作ひろば①**
 【目的】季節の行事に伴う飾り作りを通して、文化に触れながらもの作りを楽しむ。
 【対象】幼児～一般 各コース 午前/午後とも20人程度
 【内容|期日|参加者数】ミニ門松 ②クリアキャンドル ③クリスマスリース ④ミニミニツリー 12月13日 80人
- (8) **マリランドやまびこキャラバン**
 【目的】近隣市町村に出向き、創作活動やニュースポーツ等を通して、子ども会活動や余暇活動全体から地域教育力向上を支援する。
 【対象】幼児～一般
 【内容|期日|参加者数】創作、ニュースポーツ等 通年 61件 2,455人
- (9) **子ども防災カトレーニングキャンプ**
 【目的】防災力を身に付けるための体験型防災教育プログラムを実施する。
 【対象】小学5・6年生30人程度
 【内容】講話、避難行動・避難所生活トレーニング、ストレス対処法等
 【期日|参加者数】7月26日～7月27日 12人
- (10) **海釣り道場**
 【目的】三陸の自然の中で、海釣りの醍醐味を味わい、参加者相互の交流を深める。
 【対象】小・中・高校生とその保護者及び釣り愛好家30人程度
 【期日|参加者数】10月4日 19人
- (11) **【自主事業】マリランドフェスタ「感謝まつり」**
 【目的】施設を開放し、様々な体験を通して、生涯学習の拠点施設としての理解を深めてもらう。
 【対象】子ども～大人
 【内容|期日|参加者数】創作活動、ニュースポーツ、カヌー体験、屋台等 9月28日 467人
- (12) **【自主事業】親子deチャレンジ!**
 【目的】3青少年の家の連携により、体験活動をとおして、親子のふれ合いや家族同士の親睦を深める。
 【対象】8家族 20人程度
 【内容|期日|参加者数】新巻鮭作り、ピザ・いか徳利作り 11月15日～16日 11人
- (13) **【自主事業】創作ひろば②「季節のお菓子作り」**
 【目的】季節のお菓子作りを通して、創作活動の楽しさを味わい、参加者相互の交流を深める。
 【対象】小学生～一般 30人程度
 【内容|期日|参加者数】お菓子作り 2月7日 52人
- (14) **【自主事業】マリランド フットサル交流会**
 【目的】交流試合を通し、心身の健全な発達と技能の向上を図るとともに、参加者相互の親睦と交流を深める。
 【対象】沿岸地区のサッカースポーツ少年団 20チーム程度
 【期日|参加者数】2月14日、15日 752人
- (15) **【自主事業】陸中海岸剣道スポーツ少年団交歓会**
 【目的】近隣市町村の剣道スポーツ少年団が一堂に会し、集団生活をしながら剣道の技術の向上と心身の鍛錬を図る。
 【対象】沿岸地区の剣道スポーツ少年団 150人程度
 【期日|参加者数】2月21日～22日 296人
- (16) **【自主事業】マリランド陸中ミニバスケットボール交流会**
 【目的】交流試合を通し、心身の健全な発達と技能の向上を図るとともに、参加者相互の親睦と交流を深める。
 【対象】沿岸地区のミニバスケットボールスポーツ少年団新人チーム 20チーム程度
 【期日|参加者数】1月31日、2月1日 752人

【県立県北青少年の家 平成26年度主催事業及び自主事業】

- (1) **野外活動セミナー**
 【目的】野外活動プログラムの展開に必要な実技研修を行うことにより、当施設利用において円滑な活動を行う資質を培う。
 【内容】施設見学、利用説明、野外炊事、プログラム相談等
 【対象】利用団体の担当者・野外活動担当者 定員なし
 【期日|参加者数】①5月9日 ②5月30日 30人
- (2) **ジュニアフォレスターズ大作戦**
 【目的】森林に関する学習や体験活動等を季節毎に行うことにより、自然を大切にすることを育み、環境保全の実践意欲を育てる。
 【内容】森林学習、自然観察、野外炊事、創作活動等
 【対象】小学校4年生～小学校6年生 各回40人（登録制）
 【期日|参加者数】①6月7日～8日 54人 ②10月4日～5日 50人 ③1月31日～2月1日 39人

- (3) **わんぱく広場**
 【目的】体験活動を通して、多様な事柄に興味関心を持つ心を育てるとともに、友達や親子のふれあいを深める。
 【内容】体験活動（魚つかみ体験等）
 【対象】子どもから大人まで 60人程度
 【期日 | 参加者数】6月15日 68人
- (4) **プラネタリウム鑑賞デー**
 【目的】季節の星座の紹介など、プラネタリウム鑑賞を通して、天文や宇宙への興味を喚起する。
 【内容】プラネタリウム投影等
 【対象】子どもから大人まで 各回60人
 【期日 | 参加者数】①7月6日 97人 ②9月21日 64人 ③12月14日 84人
- (5) **サマーニコニコキャンプ**
 【目的】野外活動等を通して、自然を大切に作る心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、活動意欲に満ちたリーダーの育成を図る。
 【内容】仲間づくり、野外炊事、ウォークラリー、創作活動等
 【対象】小学校2年生～3年生 40人
 【期日 | 参加者数】7月19日～20日 54人
- (6) **サマーわくわくキャンプ**
 【目的】異年齢で構成される集団が野外活動を通して、自主性、忍耐力、協調性を育むとともに、たくましく生きようとする心の育成を図る。
 【内容】仲間づくり、テント泊、野外炊事、自然体験活動、創作活動、キャンプファイアー等
 【対象】小学校3年生～6年生 30人
 【期日 | 参加者数】7月29日～31日 36人
- (7) **サマーチャレンジキャンプ**
 【目的】中期にわたる自然体験活動を通して、自主性や忍耐力、社会性を育むとともに、活動意欲に満ちたリーダーの育成を図る。
 【内容】自然体験、野外活動、野外炊事、キャンプ体験等
 【対象】小学校5年生～中学生 30人
 【期日 | 参加者数】8月5日～8日 32人
- (8) **スケート場感謝デー**
 【目的】いわて教育の日の趣旨を踏まえて、県北青少年の家のスケート場を開放し、家庭・地域のふれあいを促進するとともに、健全育成を図る。
 【内容】スケート場無料開放、氷上スポーツ体験等
 【対象】子どもから大人まで 定員なし
 【期日 | 参加者数】12月13日 616人
- (9) **ウィンタースクール**
 【目的】冬季の野外活動等を通して、自然を大切に作る心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、活動意欲に満ちたリーダーの育成を図る。
 【対象】小学校2年生～3年生 40人
 【内容】仲間づくり、雪上遊び、科学遊び、プラネタリウム等
 【期日 | 参加者数】1月10日～11日 46人
- (10) **誰でも氷上スポーツ**
 【目的】冬季の体験活動を通して、多様な事柄に興味関心を持つ心を育てるとともに、親子や参加者相互の交流を図る。
 【内容】スケート教室、カーリング教室
 【対象】子どもから大人まで 各回50人程度
 【期日 | 参加者数】①1月24日 90人 ②2月7日 67人 ③2月14日 19人
- (11) **【自主事業】ステラパル春まつり**
 【目的】施設を一般開放し、日頃の利用に感謝するとともに、施設の本格的な活動時期の到来を広く県民に周知する。
 【内容】創作体験、茶道体験、ニュースポーツ体験、プラネタリウム鑑賞、野外活動体験、郷土芸能鑑賞等
 【対象】子どもから大人まで 定員なし
 【期日 | 参加者数】5月18日 211人
- (12) **【自主事業】いきいきスポーツ大会**
 【目的】高齢者がお互いに交流を持ちながら、生き生きと活動できる場を提供し、健康増進を図る。
 【内容】グランドゴルフ交流大会
 【対象】グランドゴルフ愛好者 100人程度
 【期日 | 参加者数】①5月22日 141人 9月29日 118人

- (13) 【自主事業】ステラパル夏まつり
 【目的】施設を一般開放し、生涯学習の拠点としての青少年の家への理解と親しみを深め、各種活動を通して参加者相互の交流を図る。
 【内容】創作体験、ニュースポーツ体験、プラネタリウム鑑賞、野外活動体験、バルーンアート、動物ふれあい体験等
 【対象】子どもから大人まで 定員なし
 【期日 | 参加者数】8月24日 2,314人
- (14) 【自主事業】ステラパル秋まつり
 【目的】いわて教育の日の趣旨を踏まえ、創作活動等を通して多様な事柄に興味関心を持つ心を育てるとともに、友達や親子のふれあいを深める。
 【内容】各種創作体験、秋の森散歩体験、プラネタリウム鑑賞、ニュースポーツ体験
 【対象】子どもから大人まで 定員なし
 【期日 | 参加者数】11月3日 179人
- (15) 【自主事業】親子deチャレンジ
 【目的】3青少年の家の連携により、体験活動をとおして、親子のふれ合いや家族同士の親睦を深める。
 【内容】餅つき体験、木工創作体験、平泉の世界遺産見学体験等
 【対象】10家族 20人程度
 【期日 | 参加者数】11月15日～16日 19人
- (16) 【自主事業】スケート場感謝デー
 【目的】氷上スポーツの普及と冬季における体力・健康増進を図るとともに、中学生以下のスケート貸靴代・入場料を無料とし、開放することにより利用促進を図る。
 【内容】自由滑走、滑走指導
 【対象】中学生以下
 【期日 | 参加者数】3月21日 417人
- (17) 【自主事業】ステラパル冬まつり
 【目的】施設を一般開放し、日頃の利用に感謝するとともに、冬季の様々な遊びや活動を体験する場を提供する。
 【内容】かんじきトレッキング体験、そり遊び、かまくら、雪遊び体験、プラネタリウム鑑賞、創作体験等
 【対象】子どもから大人まで 定員なし
 【期日 | 参加者数】2月15日

8 社会教育施設の整備充実（4 県立博物館）

県立博物館は、本県における教育、学術及び文化の発展と、新しい郷土を築く県民意欲の高揚に寄与することを基本姿勢として運営に努めている。平成26年度は、テーマ展の開催、各種講演会、セミナーの開催など、館の内外にわたる積極的な活動を展開した。

(1) 博物館協議会開催状況

ア 平成26年度岩手県立博物館協議会

- ① 期日 平成26年11月18日
- ② 会場 岩手県立博物館会議室
- ③ 協議事項
 - a 平成25年度博物館協議会の意見等への対応状況について
 - b 平成26年度博物館事業実施状況について
 - c 平成27年度博物館事業計画(案)について
 - d 運営全般について

(2) 平成26年度利用状況

総利用者数：46,612人

入館者数	32,846人
教育普及事業参加者数	12,009人
移動展入館者数	1,757人

【平成26年度入館者数】

[単位：人、日]

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用				総利用人員				開館 日数	1日平均 利用人数
	一般	高 大 学 生	小 中 学 生	計	一般	高 大 学 生	小 中 学 生	計	一般	高 大 学 生	小 中 学 生	計	一般	高 大 学 生	小 中 学 生	計		
4	1,149	40	628	1,817	108	114	0	222	606	1	264	871	1,863	155	892	2,910	27	108
5	1,256	59	570	1,885	47	52	0	99	667	14	503	1,184	1,970	125	1,073	3,168	27	117
6	675	67	377	1,119	125	61	29	215	531	1	508	1,040	1,331	129	914	2,374	25	95
7	1,126	56	515	1,697	226	0	51	277	846	1	447	1,294	2,198	57	1,013	3,268	27	121
8	1,905	89	1,138	3,132	125	1	24	150	878	97	251	1,226	2,908	187	1,413	4,508	29	155
9	758	31	552	1,341	1	0	0	1	1,120	31	1,704	2,855	1,879	62	2,256	4,197	17	247
10	697	28	333	1,058	127	0	0	127	325	107	606	1,038	1,149	135	939	2,223	27	82
11	834	39	470	1,343	57	19	0	76	773	148	667	1,588	1,664	206	1,137	3,007	26	116
12	326	14	239	579	20	0	0	20	281	30	306	617	627	44	545	1,216	24	51
1	660	53	457	1,170	0	0	0	0	447	1	332	780	1,107	54	789	1,950	24	81
2	616	13	333	962	25	0	0	25	518	1	306	825	1,159	14	639	1,812	24	76
3	926	49	606	1,581	0	0	0	0	400	10	222	632	1,326	59	828	2,213	26	85
計	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950	19,181	1,227	12,438	32,846	303	111

(3) 博物館活動

ア 資料の収集保管活動

(ア) 資料の収集整理

平成26年度は、右の13,907点の資料
についての受け入れ、登録事務を行っ
た。

【収集資料数】 [単位:点]	地質	生物	考古	歴史	民俗	計
平成25年度末 累計	8,895	131,290	57,861	37,823	19,219	255,088
平成26年度登録点数	28	10,952	114	2,668	145	13,907
計	8,923	142,242	57,975	40,491	19,364	268,995

(イ) 資料の貸出状況

他の博物館、美術館などに展示や研究等の目的で貸出した資料は、次のとおりである。

- a 地 質 モシリユウの上腕骨標本ほか 28点
- b 生 物 アヤメ画像資料ほか 34点
- c 考 古 靱跡土器ほか 90点
- d 歴 史 刀 新藤義国ほか 21点
- e 民 俗 弘化三年盛岡暦ほか 261点
- f 共 通 陸前高田市立図書館の被災状況資料ほか 11点

(ウ) 文化財科学

資料の保存と活用のため、適切な環境の維持、調整に努めた。

また、資料の保存管理のために必要なくん蒸消毒と科学的保存処理を行った。

イ 調査研究活動

博物館における調査研究活動は、共通テーマのほか地質、生物、考古、歴史、民俗及び文化財科学の各分野ごとに行う研究テーマと全分野で取り組む総合調査とがある。

平成26年度は21テーマについて年次計画に従い研究を進めた。

分 野	調査研究テーマ
地 質	「地域地質に関する研究」 ほかに2テーマ
生 物	「地域生態系の研究」 ほかに4テーマ
考 古	「考古学史の研究」 ほかに2テーマ
歴 史	「近世史の研究」 ほかに3テーマ
民 俗	「有形民俗資料に関する研究」 ほかに2テーマ
文化財科学	「文化財の保存環境に関する研究」 ほかに2テーマ

ウ 展示活動

(ア) 常設展示の充実

「総合展示」「いわて文化史展示室」「いわて自然史展示室」「ミニプラザ」等の展示替え

(イ) 特別展示等の開催

種別	名称	会期
企画展	ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子 ～二代藩主南部利直と生母霊松院～	平成26年6月28日～8月17日
テーマ展	比爪—もう一つの平泉—	平成26年3月15日～5月11日
テーマ展	新指定文化財展2010-2014	平成26年10月4日～11月24日
テーマ展	漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～	平成26年12月20日～平成27年2月22日
テーマ展	クマガラの世界～未知なる生体に迫る～	平成27年3月14日～5月31日
移動展	文化・芸術が集うときin野田村	平成26年10月30日～11月2日

(ウ) 解説会

以下のとおり、計681回催し、3,876人の参加があった。

a 展示解説会（定時：9回開催、292人参加）

期日	場所	担当	テーマ
平成26年5月10日	特別展示室	考古	テーマ展「比爪—もう一つの平泉—」
平成26年7月6日	特別展示室	歴史	企画展「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部利直と生母霊松院～」
平成26年7月19日	特別展示室	歴史	企画展「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部利直と生母霊松院～」
平成26年8月3日	特別展示室	歴史	企画展「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部利直と生母霊松院～」
平成26年10月5日	特別展示室	各部門	テーマ「新指定文化財展」
平成26年11月16日	特別展示室	各部門	テーマ展「新指定文化財展」
平成27年1月11日	特別展示室	民俗	テーマ展「漆絵のデザイン」
平成27年2月14日	特別展示室	民俗	テーマ展「漆絵のデザイン」
平成27年3月15日	特別展示室	生物	テーマ展「クマガラの世界」

b 展示解説会（随時：21回開催、634人参加）

※展覧会会期中、来館者の希望により担当学芸員が随時展示解説又は公演を行った。

c 常設展示・展示解説会（649回開催、延べ2,890人参加）

区分	回数	参加者数	場所	担当	内容
定時解説	302回（原則として毎日）	延べ186人	総合展示室 ほか	学芸第三課 （解説員）	総合展示室の展示資料に ついての展示解説会
通覧解説	347回（随時）	延べ2,704人			

d 移動展展示解説会（2回開催、延べ60人参加）

期日	場所	担当	テーマ
平成26年11月2日	野田村立体育館	各部門	「文化・芸術が集うときin野田村」

エ 教育普及活動

【講演会、観察会等の開催事業一覧】

No.	開催事業名	開催回数	参加者数
1	県博日曜講座	24回	1,439人
2	古文書入門講座	8回	70人
3	博物館実習	1回（7日）	35人
4	文化財等取扱講習会	1回（3日）	91人
5	企画展特別講演会	1回	174人
6	民俗講座（兼日曜講座）	1回	（54人）
7	考古学セミナー現地見学会	1回	29人
8	考古学セミナー（兼日曜講座）	1回	（80人）
9	文化講演会	1回	43人
10	冬期文化講演会	1回	90人
11	四十四田ダム水源地域セミナー	1回	33人
12	シダ植物初心者向け講習会	1回	22人
13	第67回自然観察会	1回	13人
14	第68回自然観察会	1回	23人
15	第67回地質観察会	1回	22人
16	第68回地質観察会	1回	27人
17	伝統芸能鑑賞会	1回	176人
18	国際博物館の日記念事業	1回	40人
19	ミュージアムシアター	10回	431人
20	たいけん教室みんなのためそう！	51回	1,906人
21	チャレンジ！博物館	53回	1,231人
22	冬休みワクワク！ワークショップ	2回	229人
23	岩手県植物誌調査会	16回	190人
24	博物館写生会	1回	47人
25	写生会展示見学会	1回	9人
26	第6回博物館まつり	1回	1,390人
27	県博出前講座	12回	373人
	計	—	8,133人

1 県博日曜講座 (24回開催、延べ1,439人参加)

期 日	場 所	テ ー マ
4月13日	講堂	比爪一もう一つの平泉一
4月27日	講堂	北の経塚
5月11日	講堂	いわてのシカを知る～その生態と生息状況について～
5月25日	教室	奥州藤原氏の時代における金工と漆工技術
6月8日	教室	遺跡の土を洗ってみると一微細遺物から考える古代一
6月22日	教室	カッパのはなし
7月13日	講堂	二人の藩主・南部重信と南部直政
7月27日	講堂	八戸城下の形成
8月10日	講堂	霊松院(川口孝)と南部直政
8月24日	講堂	エクスカーション「奥州」～3コースで「奥州」を探る～
9月14日	教室	絵図にみる岩手山
9月28日	教室	増えるニホンジカの脅威
10月12日	教室	12世紀平泉の庭園遺構
10月26日	講堂	芭蕉がみた平泉と北上山地
11月9日	講堂	山車についての日曜講座
11月23日	教室	近代以降の釜石鉱山
12月14日	教室	砂鉄の中の鉱物
12月28日	教室	三陸の貝塚
1月11日	講堂	木皿について
1月25日	教室	読み比べ山暦・盛岡暦～南部絵暦入門～
2月8日	講堂	太平洋からみた古代・中世の陸奥国の歴史
2月22日	教室	被災紙製資料の安定化処理と保管について
3月8日	教室	動物の「行動の化石」
3月22日	講堂	対談講演会「日本産クマガラの生態とその保護」

2 古文書入門講座 (8回開催、延べ70人)

【期日】5月～6月の土日 【場所】講堂
【内容】基礎的な仮名文字・崩し字を学ぶ

3 博物館実習 (7日間開催、延べ35人実習)

【期日】8月21日～8月28日 【場所】館内
【内容】学芸員資格取得を希望する学生への館務実習を実施

4 文化財等取扱講習会

(3日間開催、91人受講)
【期日】2月4日～2月6日 【場所】館内
【対象】県内市町村の文化財担当職員及び博物館等職員

5 企画展特別講演会 (174人参加)

【期日】8月2日 【場所】講堂
【テーマ】柳沢吉保と南部直政

6 民俗講座 (54人参加) ※兼日曜講座

【期日】1月11日

7 考古学セミナー現地見学会 (29人参加)

【期日】4月29日 【場所】紫波町
【テーマ】比爪館を歩く

8 考古学セミナー (80人参加) ※兼日曜講座

【期日】4月27日

9 文化講演会 (43人参加)

【期日】11月3日 【場所】講堂
【テーマ】大小の摺物 月の大小と暦

10 冬期文化講演会 (90人参加)

【期日】2月5日 【場所】講堂
【テーマ】世界遺産の現状と取り組み

11 四十四田ダム水源地域セミナー (33人参加)

【期日】1月27日 【場所】講堂
【テーマ】沼宮内山車百年・盛岡山車三百年

12 シダ植物初心者向け講習会 (22人参加)

【期日】3月14日 【場所】講堂
【テーマ】シダ植物入門講座

13 第67回自然観察会 (13人参加)

【期日】6月29日 【場所】網張温泉
【テーマ】昆虫観察会

14 第68回自然観察会 (23人参加)

【期日】9月27日 【場所】住田町

15 第67回地質観察会 (22人参加)

【期日】7月6日 【場所】一戸町
【テーマ】一戸町の根反川沿いの珪化木地帯を歩く

16 第68回地質観察会 (27人参加)

【期日】10月5日 【場所】陸前高田市
【テーマ】ペルム紀の陸前高田市の海の生物を観る

17 伝統芸能鑑賞会 (176人参加)

【期日】7月12日 【場所】民家(旧佐々木家)
【テーマ】川口神楽・川口きつね踊り

18 国際博物館の日記念事業 (40人参加)

【期日】5月18日 【場所】館内
【内容】収蔵庫等のバックヤード見学ツアー

19 ミュージアムシアター (10回開催、延べ431人参加)

【期日】第一土曜日 【場所】講堂
【内容】博物館資料や展示・季節等に関連する16ミリ映画上映

20 たいけん教室みんなでためそう! (51回開催、延べ1,906人参加)

【期日】毎週日曜日 【場所】実技室
【内容】博物館に親しむためのプログラム

21 チャレンジ! 博物館 (53回開催、延べ1,231人参加)

【期日】第二・第三土曜日と日曜日 【場所】館内
【内容】月ごとにテーマを設定し、オリエンテーリング形式のワークシートによる資料探索

22 冬休みワクワク! ワークショップ (2回開催、229人参加)

【期日】1月9日～10日 【場所】実技室
【内容】冬休み期間中小学生を対象とした工作実施

23 岩手県植物誌調査会 (16回開催、延べ190人参加)

【期日】4月～3月 【場所】講堂
【内容】標本同定会

24 博物館写生会 (延べ47人参加)

【期日】12月13日～1月12日 【場所】館内

25 写生会展示見学会 (延べ9人参加)

【期日】1月24日～2月15日 【場所】館内

26 第6回博物館まつり (1,390人参加)

【期日】9月23日 【場所】館内

27 県博出前講座 (7回開催、延べ373人)

期 日	テーマ	依頼者
9月9日	水生生物調査	盛岡市立太田小学校
9月28日	文化祭での郷土芸能解説・講評「江刺家の山伏神楽」	岩手県立伊保内高等学校郷土芸能委員会
9月30日	6年生理科授業「化石のレプリカづくり」	北上市立黒沢尻東小学校
10月1日	「標本同定」	岩手県立大船渡高等学校自然科学部
11月27日	1年生キャリア教育「文化財レスキューについて」	岩手県立杜陵高等学校（定時制）
12月5日	1年生キャリア教育「博物館の仕事」	岩手県立杜陵高等学校（定時制）
2月3日	3年生授業「さぐってみよう昔の暮らし」	盛岡白百合学園小学校

[参考] 県内社会教育施設の設置・利用状況（県立を除く）

（※各項目の利用実績は、平成25年度実績）

1 図書館（平成26年4月1日現在）

	合 計	図書館	公民館等館
施設数	53	46	7
職員数	470	445	25
（うち専任）	100	97	3
蔵書総冊数	4,579,689	4,370,624	209,065
年間受入冊数	214,111	208,161	5,950
貸出冊数	5,070,102	4,930,072	140,030

2 公民館（平成26年10月1日現在）

	合 計	本館 計	本館		分館
			中央館	地区館	
施設数	269	177	21	156	92
職員数	695	592	132	460	103
（うち本務）	153	153	43	110	0
（〃 兼務）	152	130	33	97	22
（〃 非常勤）	390	309	56	253	81
利用団体数	66,135	59,944	10,817	49,127	6,191
利用者数	2,594,785	2,386,926	591,877	1,795,049	207,859
（うち団体）	2,212,394	2,016,976	487,901	1,529,075	195,418
（〃 個人）	382,391	369,950	103,976	265,974	12,441

3 博物館等（平成26年10月1日現在）

	合 計	教育委員会所管	他所所管
施設数	100	62	38
職員数	430	280	150
（うち本務）	156	79	77
（〃 兼務）	84	72	12
（〃 非常勤）	190	129	61
※学芸員数（内数）	(73)	(59)	(14)
来館者数	1,777,807	659,431	1,118,376

4 青少年教育施設（平成26年10月1日現在）

	合 計	教育委員会所管	その他所管
施設数	10	6	4
職員数	38	19	19
(うち本務)	9	6	3
(〃 兼務)	14	7	7
(〃 非常勤)	15	6	9
利用団体数	357	262	95
利用者数	62,240	32,464	29,776
(うち団体)	38,813	23,291	15,522
(〃 個人)	23,427	9,173	14,254

5 文化施設（平成26年10月1日現在）

	合 計	教育委員会所管	その他所管
施設数	31	18	13
職員数	202	89	113
(うち本務)	123	58	65
(〃 兼務)	29	22	7
(〃 非常勤)	50	9	41
利用団体数	266,98	15,736	10,962
利用者数	2,025,344	796,927	1,228,417
(うち団体)	1,225,255	764,135	461,120
(〃 個人)	800,089	32,792	767,297

※宮古市民会館除く

6 その他の社会教育施設（平成26年10月1日現在）

	合 計	教育委員会所管	その他所管
施設数	158	64	94
職員数	422	108	314
(うち本務)	153	16	137
(〃 兼務)	47	45	2
(〃 非常勤)	222	47	175
利用団体数	81,554	15,566	65,988
利用者数	1,864,854	391,330	1,473,524
(うち団体)	1,777,117	337,930	1,439,187
(〃 個人)	87,737	53,400	34,337

第9節 地域の「創造力」向上を目指した文化芸術の振興

第1 文化振興基金を活用した支援等

1 創作・発表・鑑賞機会の拡充

文化振興基金を活用した支援等により、各地域において優れた芸術芸能に触れ、鑑賞する機会の拡大を図ったほか、若い世代の活動や発表を行う機会の拡大を推進した。

また、優れた芸術文化を広く県民に鑑賞する機会を提供するため、各種の舞台芸術事業を開催した。

さらに、創作活動を奨励するため、県人作家の文芸作品、美術活動等の奨励を行い、芸術活動の振興と水準の向上を図った。

(1) 公益財団法人岩手県文化振興事業団文化振興基金助成事業

ア 既存事業

[単位：件、千円]

事業区分	件数	助成額	事業内容
文化活動成果発表事業	4	1,550	岩手デザイナー協会50年展ほか
各種大会参加事業	1	430	さっぽろアートステージ「札幌劇場祭」
文化活動研修事業	4	1,160	芸術文化講座ほか
文化団体備品整備事業	22	8,760	いわてフィルハーモニーほか
刊行物発行事業	1	80	第6回三好京三随筆賞作品集
参加する文化活動推進事業	6	4,150	賢治の里花巻でうたう賢治の歌全国大会ほか
特認事業	1	530	岩手県芸術文化活動記録集刊行
計	39	16,660	

イ 新規特別枠事業

[単位：件、千円]

事業区分	件数	助成額	事業内容
新進・若手芸術家等派遣事業	1	2,000	(一社)岩手県芸術文化協会

ウ 復興支援・備品整備事業

[単位：件、千円]

事業区分	件数	助成額	継承する演舞等
備品整備事業	6	4,418	権現舞(大野公民館)ほか

(2) 第67回岩手芸術祭

ア 開幕式典・開幕フェスティバル

【期日】平成26年10月4日（土）【会場】岩手県民会館大ホール 【鑑賞者数】800人

イ 美術展

種目	期間	会場	入選点数／応募点数	鑑賞者数
工芸	平成26年10月4日～10月7日	岩手県民会館	58点 / 58点	4,326人
書道			205点 / 206点	
日本画	46点 / 46点			
版画	39点 / 39点			
水墨画	124点 / 133点			
写真	131点 / 142点			
デザイン	87点 / 87点			
現代美術	35点 / 35点			
洋画	211点 / 211点			
彫刻	15点 / 15点			

ウ 巡回美術展

期間	会場	展示点数	鑑賞者数
平成26年11月18日～12月14日	7市町村7会場	84点	2,153人

エ 小・中学校美術展（小学校書写、中学校書写、小学校絵画、中学校美術）

期間	会場	入賞・入選点数／応募点数	鑑賞者数
平成26年12月12日～12月14日	岩手県民会館展示室	1,358点 / 7,685点	2,240人

オ 巡回小・中学校美術展（小学校書写、中学校書写、小学校絵画、中学校美術）

期間	会場	展示点数	鑑賞者数
平成26年12月20日～平成27年2月1日	5市町村5会場	319点	1,325人

カ 映像フェスティバル

【期日】平成26年10月26日 【会場】もりおか町屋物語館 【鑑賞者数】60人

キ 演劇

[単位：人]

内容	期日	会場	鑑賞者数
「現代時報」公演	平成26年11月1日～11月3日	盛岡劇場／タウンホール	279
「北芸の会」公演	平成26年11月16日	さくらホール（北上市）	160
「劇団我夢」公演	平成26年11月2日	奥州市文化会館／中ホール	392
「劇研麦の会」公演	平成26年11月24日	そけい幼稚園（宮古市）	80
「二戸演劇協会」公演	平成26年12月21日	二戸市民文化会館／大ホール	210

ク 伝統芸能

[単位：人]

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
茶会	平成26年10月5日	盛岡市中央公民館	798
吟詠剣詩舞道祭	平成26年10月19日	岩手県民会館大ホール	912
謡と仕舞の会	平成26年11月3日	岩手県民会館中ホール	420
華道展	平成26年11月7日～11月10日	岩手県民会館展示室	1,827
邦楽のつどい	平成26年11月9日	岩手県民会館中ホール	334

ケ 音楽

[単位：人]

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
ソロと室内楽の調べ	平成26年10月5日	岩手県民会館中ホール	220
ピアノコンクール&演奏会	平成26年10月18日	岩手県民会館中ホール	300
三曲演奏会	平成26年10月12日	岩手県民会館大ホール	485
声楽部門演奏会	平成26年11月8日	岩手県民会館中ホール	384
ギター音楽の夕べ	平成26年11月22日	岩手県民会館中ホール	200
吹奏楽演奏会	平成26年11月24日	盛岡市民文化ホール大ホール	1,068
合唱祭	平成26年12月7日	岩手県民会館大ホール	736

コ 舞踊

[単位：人]

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
洋舞発表会	平成26年11月2日	岩手県民会館大ホール	460
日本舞踊公演	平成26年11月16日	岩手県民会館大ホール	900

サ 演芸

[単位：人]

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
新舞踊発表会	平成26年10月26日	リアスホール（大船渡市）	1,020
岩手民謡まつり	平成26年11月9日	岩手県民会館大ホール	636

シ 文芸祭

[単位：人]

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
小説大会	平成26年10月26日	岩手県公会堂（盛岡市）	11
戯曲大会	平成26年11月23日	盛岡劇場タワホール（盛岡市）	16
文芸評論大会	平成26年10月22日	岩手大学図書館内生涯学習多目的学習室（盛岡市）	16
随筆大会	平成26年10月25日	岩手県公会堂	22
児童文学大会	平成26年11月9日	宮古市立図書館	58
詩の大会	平成26年10月19日	なはんプラザ（花巻市）	21
短歌大会	平成26年10月11日	盛岡市勤労福祉会館（盛岡市）	112
俳句大会	平成26年10月11日	岩手県公会堂（盛岡市）	80
川柳大会	平成26年10月12日	アイーナ501号室（盛岡市）	63

ス 県民文芸作品集第45集刊行

【発行日】平成26年12月13日

【掲載点数】152点

【応募点数】478点

セ 移動公演

[単位：人]

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
新舞踊	平成26年11月30日	サンホテル衣川荘（奥州市）	150
合 唱	平成26年12月20日	一戸町コミュニティセンター	230

(3) 創作活動奨励事業

ア 芸術選奨

受 賞 者	分 野	作 品 名
円城寺 龍（花巻市） （本名：市野川 隆）	句集	アテルイの地
高橋 智（盛岡市）	説話集	盛岡伝説案内 其の壱－其の百
玉山 邦夫（盛岡市）	句集	銀嶺
八重嶋 勲（紫波町）	解説集	父の手紙～野村胡堂に注いだ愛情

イ 美術選奨

受 賞 者	分 野	受 賞 対 象 活 動
伊藤 正（花巻市）	陶芸	個展「海の雫」 （萬鉄五郎記念美術館 6月）
菊池 咲（奥州市）	日本画	個展 （めんこい美術館 8月）
菅川 恵梨（紫波町）	鍍金	岩手芸術祭「after the rain」 （工芸部門芸術祭賞 10月）
杉本 さやか（盛岡市）	絵画	個展「心像の小夜曲」 （ギャラリー彩園子 I 11月）
広野 じん（仙台市） （本名：廣野 仁志）	木彫	個展「木彫はるのパンまつり」 （シグ・アートギャラリー 3月）

2 拠点施設の機能の充実

文化活動の拠点施設として、岩手県民会館、県立博物館、県立美術館及び県立埋蔵文化センターの管理運営の充実と施設設備の機能の向上を図った。県民会館においては自主文化事業の充実、県立博物館においては展示内容等の充実（⇒P121～124）、県立美術館において地元作家の作品収集と企画展の充実（⇒P133～137）、及び県立埋蔵文化財センターにおいては発掘調査等を推進した。

(1) 県民会館

ア 施設利用状況

芸術文化普及振興の拠点施設として、県民の活動発表や鑑賞等の芸術文化関係の催し物のほか、学会、大会等に利用されるとともに、演奏会、展示会、講演会等に数多く利用されている。

【県民会館の利用状況】

[単位：日、%]

	大ホール		中ホール		第1展示室		第2展示室		会議室（5室）	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
4月	17	60.7	17	55.2	1	3.4	1	3.4	17	54.5
5月	18	66.7	15	51.7	22	75.9	22	75.9	21	62.7
6月	24	77.8	20	76.9	24	88.9	24	88.9	25	85.2
7月	35	90.0	32	96.7	26	86.0	23	76.7	26	78.7
8月	29	88.9	21	77.8	25	83.3	13	43.3	22	68.7
9月	24	71.4	21	66.7	14	48.3	7	24.1	23	74.3
10月	27	86.2	31	86.2	20	69.0	20	69.0	25	82.8
11月	29	93.1	33	89.7	29	100.0	28	96.6	28	83.5
12月	22	75.0	20	72.0	11	45.8	14	58.3	19	70.8
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	11	45.5	14	61.9	15	71.4	15	71.4	14	60.9
3月	18	51.7	18	66.7	24	80.0	24	80.0	22	68.7
計	220	66.3	220	66.3	215	63.6	187	55.3	235	68.6

イ 自主文化事業の実施状況

(ア) 参加型・育成型事業 [単位：人]

期日(回数)	公 演 名	主 な 出 演 者 等	会 場	入場者数
4月19日	いわてフィルハーモニー・オーケストラ第3回定期演奏会	指揮：寺崎巖、ヴァイオリン：伊藤奏子 他	大ホール	774
8月10日	東北に“心のビタミン・音楽”を届けるプロジェクト 佐渡裕&スーパーキッズ笑顔いっぱいコンサート	出演者：佐渡裕、天童よしみ、スーパーキッズ・オーケストラ、 大槌中・高・吉里吉里中吹奏楽部、あくどまめ、クラブ海音	大槌町城山公園 園体育館	600
8月23日	岩手民俗芸能フェスティバル「岩手の大地に舞う」	出演者：早池峰岳流石嶋岡神楽、浅沢神楽、川西念仏剣舞、小鳥 谷七つ踊り、大宮さんさ踊り、津軽石さんさ踊り	大ホール	700
8月24日	ざ・CLASSICオーディション	出演者：ざ・CLASSIC2015出場者	中ホール	20
9月14日	いわてJAZZ2014 サイモン・フィリップス ドラム・ クリニック	出演者：サイモン・フィリップス	リハーサル室	33
9月15日	いわてJAZZ2014 Red Side	出演者：上原ひろみ、ザ・トリオ・プロジェクトFeat.アンソニー・ ジャクソン&サイモン・フィリップス 他	大ホール	1,542
9月15日	いわてJAZZ2014 Blue Side	出演者：八幡平市立松尾中学校JazzOrchestraグリーンウィン ズ、エンゲルベルト・ケンベル高校ビッグバンド 他	中ホール	350
9月10日～11日	オーストラリア大使館連携震災復興支援事業	出演者：釜石東中学校、赤崎小学校、蛸之浦小学校、赤崎中学校	釜石市 大船渡市	370
9月18日	野田ヒロ子、佐藤彦大演奏会	出演者：野田ヒロ子、佐藤彦大、津軽石小学校、宮古小学校	宮古市	360
10月28日	神尾真由子withフランス・リスト室内管弦楽団	出演者：神尾真由子、フランス・リスト室内管弦楽団、大船渡市 立越喜来小学校、陸前高田市立気仙中学校	大船渡市 陸前高田市	175
11月1日	事業団プレゼントSPECIAL CONCERT「いわてプラスアンサン ブルwith野田小学校合奏団・野田中学校吹奏楽部」	出演者：いわてプラスアンサンブル、野田小学校合奏団、野田中 学校吹奏楽部	野田村立体育 館	150
11月3日	全日本吹奏楽コンクール出場団体特別演奏会	出演者：盛岡市立城北小学校、岩手大学教育学部附属小学校、盛 岡吹奏楽団、岩手大学、盛岡市立北陵中学校	大ホール	900
12月19日 12月20日	いわてフィルハーモニー・オーケストラ第4回定期演奏会大船 渡特別公演	指揮：寺崎巖、ピアノ：松永貴志 他	大ホール リアスホール	773 358
2月7日	岩手の民謡をたずねて	出演者：佐藤祐幸、二代目井上成美、千葉栄人、三上紀子、佐野 よりこ 他	大ホール	958
2月22日	ざ・CLASSIC2015	出演者：松岡淳、原田智子、今野奏、菊池葉子、阿部ななこ	中ホール	343
5月14日他6回	ロビーコンサート	出演者：高橋政彦、佐々木和夫 他	ロビー	770
5月15日他1回	バックステージツアー	参加者：仁王小学校 他	大・中ホール	15

(イ) コンサートサロン

[単位：人]

期 日	公 演 名	会 場	入場者数
7月18日	第190回 成田達輝&萩原麻未デュオ・リサイタル	中ホール	457
9月1日	第191回 錦織健 テノール・リサイタル	中ホール	582
11月10日	第192回 中村絃子 ピアノ・リサイタル	中ホール	525

(ウ) 鑑賞サービス事業

[単位：人]

期日(回数)	公 演 名	主 な 出 演 者 等	会 場	入場者数
7月9日	フランス国立リヨン管弦楽団	指揮：レナード・スラットキン、演奏：フランス国立リヨン管弦楽団	大ホール	1,128
7月16日	シスター・アクト～天使にラブ・ソングを～	出演者：瀬奈じゅん、森公美子、吉原光夫、大澄賢也、鳳蘭、村井國夫 他	大ホール	2,638
8月20日	立川志らく独演会	出演者：立川志らく、立川志らく	中ホール	412
9月20日～21日	舞台「炎立つ」	出演者：片岡愛之助、三宅健、平幹二郎 他	大ホール	2,603
10月29日	コンサートサロン40周年記念企画 神尾真由 withフランス・リスト室内管弦楽団	出演者：神尾真由子、フランス・リスト室内管弦楽団	大ホール	738

(2) 県立美術館

ア 岩手県立美術館協議会の開催状況

区分	期 日	場 所	内 容
第1回	平成26年10月28日	岩手県立美術館会議室	① 平成26年度美術館事業実施状況 ② 平成27年度美術館企画展開催計画案 ③ 美術館運営
第2回	平成27年3月5日	岩手県立美術館会議室	① 平成26年度美術館事業実施状況 ② 平成27年度美術館企画展開催計画案 ③ 美術館運営

イ 利用状況

[単位：人、日]

区分	常設展					企画展					観覧者数の計
	観覧者数				開催日数	観覧者数				開催日数	
	小・中・高生	大学生等	一 般	小 計		小中学生	高・大生等	一 般	小 計		
4月	324	5	246	575	24	28	230	1,216	1,474	17	2,049
5月	421	46	330	797	27	71	172	2,591	2,834	27	3,631
6月	217	6	432	655	25	189	195	2,139	2,523	15	3,178
7月	151	9	192	352	24	294	536	3,110	3,940	27	4,292
8月	128	23	529	680	27	391	302	3,944	4,637	19	5,317
9月	410	45	419	874	24	619	694	4,368	5,681	21	6,555
10月	175	7	455	637	24	371	383	3,955	4,709	18	5,346
11月	82	7	305	394	26	432	458	6,164	7,054	26	7,448
12月	34	20	169	223	25	66	375	1,634	2,075	14	2,298
1月	13	10	94	117	22	25	71	1,050	1,146	25	1,263
2月	15	21	275	311	23	25	42	1,611	1,678	14	1,989
3月	0	15	144	159	25	68	98	1,267	1,433	19	1,592
計	1,970	214	3,590	5,774	296	2,579	3,556	33,049	39,184	242	44,958

ウ 展示事業

(ア) 常設展の開催

[単位：人]

区 分	会 期	観覧者数
第4期展示	平成26年4月1日～4月20日	276（4月1日以降）
第1期展示	平成26年4月25日～7月6日	1,812
第2期展示	平成26年7月11日～9月28日	1,845
第3期展示	平成26年10月4日～平成27年1月18日	1,328
第4期展示	平成27年1月24日～4月19日	592（3月31日まで）

(イ) 企画展の開催

[単位：人]

事業名	会 期	観覧者数
生誕100年 植田正治のつくりかた	平成26年4月12日～6月8日	5,305
ジョルジュ・デ・キリコ展	平成26年6月21日～8月22日	9,895
三沢厚彦 ANIMALS 2014 in 岩手	平成26年9月6日～10月13日	9,668
船越保武彫刻展 ーまなざしの向こうにー	平成26年10月25日～12月7日	9,662
渡辺豊重展	平成26年12月20日～2月15日	2,597
アートフェスタいわて2014	平成27年2月28日～3月22日	3,122

エ アウトリーチ事業

あーとキャラバン

【期日】 平成26年7月11日～12日 (二戸)	【参加者数】 75人
平成26年8月21日～23日 (岩泉・釜石)	【参加者数】 211人
平成26年9月27日～28日 (陸前高田)	【参加者数】 16人
平成26年10月30日 (一戸)	【参加者数】 115人

オ 教育普及事業

(ア) 展示関連事業

a 復興支援展示事業プログラム

○ギャラリートーク………学芸員による展示作品の解説

【期日】企画展の開催ごとに開催

【参加者数】697人

企画展関連講座等

[単位:人]

内 容	講 師 等	期 日	参加者数
講演会「植田 正治 一人と作品ー」	金子 隆一氏	平成26年4月12日	86
上演会&トーク「植田正治の写真世界を彷徨う」	佐野史郎氏 金子隆一氏	平成26年4月13日	80
スペシャルギャラリートーク	増谷 寛氏	平成26年5月17日	33
ワークショップ「〇〇でつくる!増谷さんのシブ ^o ル ^o マ ^o 」	増谷 寛氏	平成26年5月18日	15
講演会「パリ市立近代美術館のキリコ・コレク ション〜キリコとパリ〜」	ジャクリヌ・マク 氏	平成26年6月21日	49
講演会「ジョルジュ・テ・キコとイタリア芸術」	宮下 規久朗氏	平成26年8月2日	63
ミュージアム・オペラ	米谷 朋子氏 米谷 毅彦氏 菊池 大成氏	平成26年8月10日	173
アーティストトーク	三沢 厚彦氏	平成26年9月6日 平成26年10月4日 平成26年10月5日 平成26年10月13日	380
アーティスト対談1	三沢 厚彦氏 船越 桂氏	平成26年9月7日	150
アーティスト対談2	三沢 厚彦氏 中沢 新一氏	平成26年9月23日	84
ワークショップ「動物を彫る」	三沢 厚彦氏	平成26年10月4日 ～5日	15
船越保武展開催記念対談	末盛 千枝子氏 千住 明氏	平成26年10月25日	176
映画上映会「日本二十六聖人 われ世に勝てり」		平成26年10月26日	47
講演会「かたちの詩学ー船越保武と沈黙のコト バ」	若松 英輔氏	平成26年11月1日	42
ワークショップ「大理石に顔を刻もう」	長内 努氏	平成26年11月8日 ～9日	10
渡辺豊重展開催記念対談	渡辺 豊重氏 原田 光館長	平成26年12月20日	85
ワークショップ「自由な形と色で<絵>をつくる」	渡辺 豊重氏	平成27年1月24日	15

b 常設展教育プログラム

- コレクショントーク……学芸員による常設展示作品の解説
【期日】毎月第2・第4土曜日に年間24回開催 【参加者数】173人
- 常設展関連講座
【期日】平成26年7月12日【講師等】多和 圭三氏、原田 光館長 【参加者数】20人
【期日】平成26年11月23日【講師等】柚木 沙彌郎氏、村山 治江氏 【参加者数】153人
- 子ども向け鑑賞カードの運用
- 音声ガイドの運用

(イ) 美術普及事業

a スタジオプログラム

- 木彫体験講座
【期日】平成26年6月7日、6月14日、6月22日 【参加者数】23人
- 水彩体験講座
【期日】平成27年2月22日、3月1日、3月8日 【参加者数】38人
- オープンスタジオ
【期日】平成26年8月1日～3日 【参加者数】158人
【期日】平成26年12月25日～27日 【参加者数】139人
- アートデオヤコ……親子でいろいろな素材に触れて楽しむワークショップ。
【期日】毎月実施 【対象】3～6歳児と保護者 各10組 【参加者数】466人

b 美術プログラム

[単位：人]

内 容	期日	参加者数
館長講座	平成26年5月10日、7月5日、9月20日、11月3日 平成27年1月17日、3月21日	245
学芸普及課長講座	平成26年8月23日、12月7日	75
学芸員講座	平成26年11月30日、平成27年2月1日	41
ミーツ・サ・アーティスト	平成26年7月26日、8月30日、11月22日、12月13日	158

c 映像プログラム

○ アートシネマ上映会……美術に関連する作品等幅広いラインナップで上映 [単位:人]

期 日	内 容	鑑賞者数
平成26年 4月20日	つゆのひとしづく～植田正治の写真世界を彷徨う～	55
平成26年 5月18日	エスピオナーズ	32
平成26年 6月15日	子どもたちの夏 チェルノブイリと福島	26
平成26年 7月 6日	自転車泥棒	50
平成26年 7月13日	ストロンボリ	39
平成26年 7月20日	浅春群像	56
平成26年 8月17日	折鶴お千	128
平成26年 9月21日	木洩れ日の家で	69
平成26年10月19日	よみがえる金色堂	18
平成26年11月16日	夏時間の庭	60
平成26年12月21日	西部の男	31
平成27年 1月18日	黄色いリボン	46
平成27年 2月15日	愛しきベイルート	52

(ウ) 来館者対応事業

- a 美術館探検「てくてくツアー」 【期日】年6回 【参加者数】 82人
 b 団体対応 【期日】随時 【利用者数】2,371人
 c 美術相談 【期日】随時
 d ライブラリー企画 [単位:人]

期 日	内 容	参加者数
平成26年 5月11日	「つくろう！ペーパーミニバック」	21
平成26年11月16日	染物屋さんに習う・はじめての染物	15
平成27年 2月 1日	おはなし会「遠野昔語り」	70

カ 広報事業

- (ア) 美術館ニュース「アプリーレ」……年2回
 (イ) 企画展チラシ、ポスター……企画展の開催の都度
 (ウ) 常設展展示目録、ポスター……常設展の展示替えの都度
 (エ) 美術館スケジュール等……年4回

キ 美術品修復保存事業

美術品をより良い状態で保存し展示に活用するため、所蔵作品の修復を実施。

3 文化交流・連携の促進

本県文化の全国への発信及び出演団体の資質の向上を図るため、国民文化祭への派遣団体に対し、交通費の一部を補助した。

○ 国民文化祭参加推進事業

【期 日】平成26年10月4日～11月3日

【場 所】秋田県

【参 加】14団体、計238人

【補助額】718千円

第2 児童生徒に対する文化活動支援

児童生徒の文化活動を支援することにより、本県芸術文化の次代の担い手が育つ体制づくりを推進した。

1 青少年劇場

(1) 本公演 [単位：公演、人]

種目	演目	期日	会場	公演数	鑑賞者数
声楽	混声四重唱とあそぼう 『オペラ』ってなあ に？	平成26年6月23日～7月1日	金ヶ崎町ほか4市町村	10	3,726
児童劇	笑いの芸能「寄席」	平成26年6月23日～6月27日	岩泉町ほか7市町	10	2,896
器楽	世界に誇る日本の音色 ワヨウセイヨウ	平成26年5月29日～6月5日	久慈市ほか8市町村	11	3,702

(2) 小公演 [単位：公演、人]

種目	演目	期日	会場	公演数	鑑賞者数
邦楽	しゃみせんいろいろ	平成26年9月25日～9月26日	岩泉町	3	119

2 次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業） [単位：公演、人]

種目・演目	期日	会場	公演数	鑑賞者数
オーケストラ、児童劇、音楽劇、演劇、邦舞、合唱、演芸	平成26年9月9日～ 平成26年12月5日	北上市立北上中学校ほか20校	11	6,028

次代を担う子どもの文化芸術体験事業（派遣事業） [単位：公演、人]

種目・演目	期日	会場	事業数	鑑賞者数
音楽（ピアノ）	平成26年12月2日	盛岡市立玉山小学校	1	49
音楽（ピアノ）	平成27年2月9日	奥州市立玉里小学校	1	63

3 第37回岩手県高等学校総合文化祭

[単位：人]

部 門	期 日	会 場	参加校数等	入場者数
総合開会式	平成26年10月10日	岩手県民会館大ホール	80校 約2,000人	—
書 道	平成26年11月11日～11月18日	岩手県民会館展示室	46校 1,014点	650
美術工芸	平成26年11月22日～11月25日	岩手県民会館展示室	61校 927点	1,763
合 唱	平成26年7月8日	岩手県民会館大ホール	35団体 約750人	約1,100
	平成26年8月30日	岩手県民会館大ホール	30校 (31団体)	—
吹奏楽	平成26年7月27日	岩手県民会館	21校	約2,500
	平成26年8月9日	北上市文化交流センター さくらホール	12校	約2,300
演 劇	平成26年10月17日～10月19日	北上市文化交流センター さくらホール中ホール	12校 208人	302
文 芸	平成26年10月1日	岩手県民会館中ホール	39校 6,751点	約170
囲 碁	平成26年10月3日～10月4日	岩手県高校教育会館	16校 82人	—
将 棋	平成26年10月24日～10月25日	岩手県高校教育会館	24校 172人	—
器 楽	平成26年10月31日	岩手県民会館中ホール	5校 115人	約180
写 真	平成26年9月19日～9月23日	岩手県民会館展示室	30校 524点	510
放 送	平成26年6月2日～6月3日	岩手県民会館中ホール	24校 291エントリー	10
	平成26年11月4日～11月5日	岩手県民会館中ホール	22校 206エントリー	10
郷土芸能	平成26年10月25日	北上市文化交流センター さくらホール大ホール	16校 400人	1,280
新 聞	平成26年10月16日	岩手県公会堂	5校 10作品	—
自然科学	平成26年12月10日	岩手県立総合教育センター	12校 161人	観客高校生3校27人 (報道関係2人)
英 語	平成26年9月12日	岩手県民会館中ホール	21校 31人	約130
日本音楽	平成26年10月7日	岩手県民会館中ホール	6校 87人	97
国際理解	平成26年9月11日	盛岡市勤労福祉会館	6校 11人	65
	平成26年10月8日	岩手県赤十字会館	17校 99人	101
マーチングバンド・ バトントワリング	平成26年9月28日	奥州市総合体育館	8校 235人	約1,900
小倉百人一首かるた	平成26年10月4日	二戸市文化会館和室	2校 16人	観客1人
軽音楽	平成26年9月4日	岩手県民会館中ホール	16校28団体128人	約400

4 第38回全国高等学校総合文化祭

平成26年7月に茨城県等で開催された全国高等学校総合文化祭に計341人の高校生を派遣した。

部 門	期 日	会 場	派遣学校名 (派遣生徒数)
パレード	平成26年7月27日	つくばエキスポセンター～ つくばクレオスクエア	盛岡第四高等学校(49) 盛岡誠桜高等学校(10)
合 唱	平成26年7月31日	ノバホール	水沢高等学校(23)
吹奏楽	平成26年7月30日～7月31日	県立県民文化センター	盛岡第三高等学校(63)
器楽・管弦楽	平成26年7月28日～7月29日	ノバホール	久慈高等学校(26)
日本音楽	平成26年7月30日～7月31日	牛久市中央生涯学習センター	盛岡第二高等学校(24) 千厩高等学校(15)
郷土芸能	平成26年7月29日～7月31日	神栖市文化センター	北上翔南高等学校(52) 岩泉高等学校(18)
マーチングバンド・ バトントワリング	平成26年7月29日	ひたちなか市総合運動公園 総合体育館	盛岡第四高等学校(29) 盛岡誠桜高等学校(10)
美術・工芸	平成26年7月27日～7月31日	県近代美術館	盛岡第一高等学校(1) 盛岡第三高等学校(1) 盛岡第四高等学校(1) 宮古商業高等学校(1) 久慈高等学校(1) 黒沢尻北高等学校(1) 不来方高等学校(1)
書 道	平成26年7月27日～7月31日	県立県民文化センター	盛岡第一高等学校(1) 盛岡第二高等学校(1) 盛岡第四高等学校(1) 盛岡北高等学校(1) 盛岡市立高等学校(1) 岩手女子高等学校(1) 水沢高等学校(1)
写 真	平成26年7月27日～7月31日	県つくば美術館	宮古商業高等学校(1) 千厩高等学校(1) 盛岡北高等学校(3) 遠野緑峰高等学校(2) 盛岡商業高等学校(1)
放 送	平成26年7月30日～7月31日	日立シビックセンター	宮古高等学校(3) 白百合学園高等学校(1) 盛岡第三高等学校(1) 黒沢尻北高等学校(4) 盛岡第一高等学校(3) 花巻北高等学校(3)
囲 碁	平成26年7月30日～7月31日	県武道館	盛岡第一高等学校(2) 岩手高等学校(1) 水沢高等学校(1) 盛岡工業高等学校(1)
将 棋	平成26年7月27日～7月28日	県武道館	岩手高等学校(4) 一関第一高等学校(3) 釜石高等学校(1) 盛岡第一高等学校(4) 盛岡工業高等学校(1)
弁 論	平成26年7月29日～7月30日	土浦市民会館	水沢農業高等学校(1)
小倉百人一首 かるた	平成26年7月29日～7月31日	つくばカピオ	一関第一高等学校(8)
新 聞	平成26年7月27日～7月31日	筑波大学会館 【取材活動】JAXA他5コース	岩手女子高等学校(2) 盛岡白百合学園高等学校(2)
文 芸	平成26年7月27日～7月31日	東海文化センター 【文学散歩】 県北・県西コース(東海 村・北茨城市・常総市・つ くば市)	盛岡第四高等学校(2) 花巻北高等学校(2) 水沢高等学校(1)
自然科学	平成26年7月28日～7月30日	つくば国際会議場 【巡検研修】 物理・化学・生物・地学4 部門 全12コース(つくば 市・大子町)	水沢高等学校(4) 宮古高等学校(2) 盛岡農業高等学校(2)

5 平成26年度 セミナーサポート事業

以下の各部門の高校生を対象とした技術講習会を開催する経費を補助した。

部 門	期 日	会 場	参加者数等
書 道	平成26年11月18日	岩手県民会館中ホール	46校 1,014点
美術工芸	平成26年7月23日	一関市市街地活性センター「なのはなプラザ」2階「にぎわい創造センター」	24校 217人
合 唱	平成26年5月28日 ～5月30日	一関文化センター、花巻なほんプラザ、盛岡市民文化ホール、二戸市民文化会館等	13校
	平成26年6月24日 ～6月27日		17校
演 劇	平成26年5月30日 ～5月31日	岩手県民会館、岩手県公会堂	31校 424人
文 芸	平成26年10月1日	岩手県民会館中ホール	39校6,751点
囲 碁	平成26年7月4日	岩手県高校教育会館	14校 102人
将 棋	平成26年7月11日	岩手県高校教育会館	24校 198人
器 楽	平成26年5月25日	盛岡第二高等学校	3校 104人
写 真	平成26年9月19日	岩手県民会館中ホール	30校 356人
放 送	平成26年7月13日	NHK盛岡放送局	9校 39人
	平成26年9月14日	岩手県民会館中ホール	14校 158人
	平成26年10月15日	岩手県民会館、テレビ岩手	21校 208人
	平成26年11月23日	岩手県民会館	11校 96人
	平成26年12月23日	岩手県民会館	14校 63人
郷土芸能	平成26年8月28日	北上市文化交流センター	13校 55人
	平成26年10月25日	北上市文化交流センター大ホール	16校 400人
新 聞	平成26年10月16日	岩手県公会堂	5校 23人
自然科学	平成26年8月2日 ～8月4日	国立天文台水沢V L B I 観測所	3校 5人
	平成26年8月7日	岩手医科大学矢巾キャンパス生物学実習室及びSGL教室	3校 12人
日本音楽	平成26年7月2日	奥州市文化会館中ホール	6校 91人
マーチングバンド・ バトントワリング	平成26年12月17日	紫波総合体育館	5校 139人
百人一首・かるた	平成26年6月21日 ～6月22日	盛岡市中央公民館	4校 24人
軽音楽	平成26年9月4日	岩手県民会館中ホール	16校 128人

6 岩手県中学校文化連盟への補助

【補助事業】第14回岩手中学校総合文化祭

〔開催日〕平成26年11月21日……………開会式、舞台部門：参加者 3,110人

平成26年11月27日～12月1日……………展示部門：参加者 2,653点

〔会 場〕岩手県民会館

【補助額】 1,352千円

第3 文化芸術による地域振興体制づくりへの支援

優れた文化芸術の鑑賞への橋渡しを行う窓口の設置により、県民が気軽に紹介、アドバイス等を受けることができる体制づくりと文化芸術活動を行う団体、企業、行政等のネットワーク構築を環境生活部と連携して推進した。

○ 文化芸術ネットワークの設置

文化芸術活動者が必要とする支援をタイムリーに提供できるよう、支援を必要とする者と支えようとする者のマッチングを行いうる「文化芸術ネットワーク」を4広域圏に設置することを目指しており、平成22年2月に盛岡広域圏のネットワークが設立されているが、平成24年2月には県南広域振興圏においてネットワークが設立されている。

第10節 郷土への誇りと愛着を深める歴史遺産の継承と伝統文化の振興

第1 世界遺産登録の推進と柳之御所遺跡の整備活用

地域の優れた歴史、文化を十分認識することにより、県民が地域の誇りと保存管理の重要性を再確認し次代に継承していくことの一つとして、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録に向けた取組を着実に推進した結果、中尊寺ほか5資産が「平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」として登録された。また、柳之御所遺跡ほかの資産について、追加登録への取組を開始した。併せて、柳之御所遺跡については、史跡公園としての整備活用を推進した。

明治日本の産業革命遺産については、イコモスによる現地調査に対応した。「北海道・北東北の縄文遺跡群」及び関係道県や関係市町と連携を図りながら、世界遺産登録に向けた取組を推進した。

1 世界遺産登録の推進等

(1) 世界遺産登録推進事業

「平泉の文化遺産」については、柳之御所遺跡、達谷窟、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡、骨寺村荘園遺跡の5遺産の拡張による追加登録を目指しており、有識者による平泉の文化遺産世界遺産拡張登録検討委員会を2回開催したほか、追加登録に向けて、これまでの課題を整理し、顕著な普遍的価値を明らかにするため、研究集会「アジア都市史のなかの平泉」を開催した。

また、登録された5資産に追加登録を目指す資産を加えた保存管理を適切に行うため、遺産影響評価や来訪者管理戦略の策定を行った。

そのほか、資産の保存管理に関する意識の向上を図るため、平泉世界遺産の日関連登録3周年記念講演会の開催、県内の小・中学校、高校等における「平泉出前授業」(31校)などの普及啓発事業を実施した。

【総事業費】 14,135千円

- 登録3周年記念講演会

【期日】 平成26年5月31日 【会場】 平泉小学校体育館 【入場者数】 約150人

【内容】 講演会「柳之御所遺跡出土の板絵の意義」等

- 平泉出前授業

実施校数：小学校26校、中学校3校、高等学校2校

- 教員を対象とする平泉現地研修会

【期日】 平成26年8月4日

【参加者】 19人（小学校12人、中学校2人、高等学校5人）

(2) 縄文世界遺産登録支援事業

北海道・青森県・岩手県・秋田県の4道県に所在する縄文遺跡群は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」として、平成21年1月5日にユネスコ世界遺産センターの世界遺産暫定一覧表に記載された（本県では一戸町の御所野遺跡が構成資産）。

この「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を推進するため、専門家委員会及び国際会議等を開催し、構成資産及び縄文時代・縄文文化についての定義づけ等を検討し、文化庁へ推薦書改定案を提出した。

また、国内フォーラムを岩手県で開催し、縄文遺跡群の価値についての普及活動を行った。

【総事業費】 7,198千円

○ 国内フォーラム（岩手県開催）

【期日】平成26年12月13日 【会場】一戸町コミュニティセンター 【入場者数】300人

【内容】講演会、児童・生徒の研究発表

(3) 明治日本の産業革命遺産世界遺産登録推進事業

「明治日本の産業革命遺産」は、産業遺産分野におけるシリアル・ノミネーションによる世界遺産登録を目指しており、平成21年1月に世界遺産暫定一覧表に追加記載され、「橋野鉄鉱山・高炉跡（釜石市）」などが構成資産候補となっている。（注：平成27年7月8日世界遺産登録）

県では釜石市と連携し、九州・山口等の関係自治体と協力しながら、平成25年度に推薦書「明治日本の産業革命遺産」をユネスコへ提出、平成26年度はイコモスの現地調査に対応した。

【総事業費】9,538千円

2 柳之御所遺跡の整備活用

(1) 柳之御所遺跡整備調査事業

奥州藤原氏の政庁「平泉館」と推定されている柳之御所遺跡の史跡整備及び内容確認のための発掘調査を行った。あわせて調査整備指導委員会を開催した。

【総事業費】100,352千円

(2) 柳之御所遺跡土地公有化事業

史跡の恒久的な保全を図るため、柳之御所遺跡内の民有地の公有化を推進した。

【総事業費】6,476千円

(3) 平泉文化研究機関整備推進事業

平泉文化の研究成果を公開する場として、平泉文化フォーラムを開催した。また、共同研究を推進し、「平泉文化研究年報」第15号として、その成果をまとめた。

【総事業費】2,920千円

○ 平泉文化フォーラム

【期日】平成27年1月24～25日 【会場】水沢グランドホテル

【入場者数】450人

【内容】基調講演、共同研究発表、調査成果報告

第2 伝統芸能等の伝承や郷土理解のための学校教育との連携

地域の歴史や風土の中で培われてきた伝統芸能や文化財等を内外に広く情報発信したほか、次代を担う子どもたちが郷土の歴史や文化を十分に理解し、進んで継承していけるような取組を支援した。

1 文化財の保存と管理

(1) 岩手県文化財保護審議会の開催状況

	期 日	会 場	審議事項
第1回岩手県文化財保護審議会	平成26年9月12日	県庁12階特別会議室	岩手県指定文化財の指定等について(1件)
第2回岩手県文化財保護審議会	平成27年2月13日	県庁12階特別会議室	岩手県指定文化財の指定等について(2件)

(2) 文化財の指定

平成26年4月22日 岩手県教育委員会告示第2号

指定番号	種 別	名 称	員 数	所有者
有第247号	工芸品	南部家伝来具足下着	2領	盛岡市内丸12番2号 盛岡市
有第248号	工芸品	長胴太鼓	1張	二戸市浄法寺町御山久保33番地 宗教法人天台寺

平成26年4月22日 岩手県教育委員会告示第3号

指定番号	名 称	保持団体
無民第40号	駒木鹿子踊り	駒木鹿子踊り保存会
無民第41号	長野獅子踊り	長野獅子踊り保存会
無民第42号	板澤しし踊り	板澤しし踊り保存会

平成26年7月1日 岩手県教育委員会告示第5号

指定番号	種 別	名 称	員 数	所有者
[略]		太田家住宅(太幸邸)主屋及びその庭、土蔵、表門、前座敷、炊場並びに西側の塀	1件6棟	[略]

※太田家住宅のうち、旧銀行の一部解除に伴う告示

平成26年11月7日 岩手県教育委員会告示第7号

指定番号	種 別	名 称	員 数	所有者
有第249号	考古資料	渥美 灰釉壺	1点	盛岡市繁字湯ノ館121番地2 佐藤 弘

平成27年3月20日 岩手県教育委員会告示第1号

指定番号	名 称	保持団体	解除年月日
無民第33号	鵜鳥神楽	鵜鳥神楽保存会	平成27年3月2日

(3) 文化財の保存修理及び保護対策事業

ア 文化財保存修理事業

[単位：千円]

事業名	補助事業者	総事業費	うち県費補助額
国指定文化財・指定史跡等保存整備（一般）事業 （うち27年度へ繰越）	平泉町ほか3件	98,400	25,781 (1,500)
国指定文化財・修理・防災事業	法人1件	4,722	821
県指定文化財・指定史跡等保存整備事業	個人1件	407	203

イ カモシカ保護対策事業

[単位：千円]

事業名	補助事業者	総事業費	うち県費補助額
食害対策	住田町ほか2市町	3,055	1,070

(4) 文化財の調査

ア 指定候補物件調査

種別	名称	実施期日
有形文化財	渥美 灰釉壺	平成26年6月11日
有形文化財	嘉永六年盛岡藩三閉伊通百姓一揆畠山 家文書	平成26年10月17日
無形民俗文化財	犬吠森念仏剣舞	平成27年1月19日

イ 文化財パトロール事業

【総事業費】1,486千円

ウ カモシカ特別調査事業

【総事業費】1,955千円

エ カモシカ通常調査事業

【総事業費】144千円

(5) 美術銃砲刀剣類の登録

【平成26年度登録件数】99件

【総登録件数】33,544件

2 埋蔵文化財の保護

(1) 県内遺跡発掘調査事業

ア 発掘調査

事業名	調査地区
北上川中流域河川改修工事（中村遺跡）	北上市
一関遊水地事業（館岡Ⅱ遺跡）	平泉町
東北横断自動車道釜石秋田線（新里愛宕裏遺跡、久重沢Ⅲ遺跡、栃洞Ⅲ遺跡、平野原Ⅲ遺跡）	遠野市
県道中尊寺通り改良事業（伽羅之御所跡）	平泉町
経営体育成基盤整備事業 石山地区（松川遺跡、大日堂前遺跡）	奥州市
地域連携道路整備事業折壁地区 室根バイパス（八幡沖遺跡）	一関市
主要地方道重茂半島線地域連携道路整備事業 重茂地区（千鶏Ⅳ遺跡）	宮古市
宮古西道路（田鎖車堂前遺跡、磯鶏石崎遺跡、木戸井内Ⅳ遺跡）	宮古市
三陸沿岸道（南川尻遺跡、下向遺跡、西平内Ⅰ遺跡）	洋野町
三陸沿岸道路（宇部館跡、北ノ越遺跡）	久慈市
三陸沿岸道路（伏津館跡、中平遺跡、上泉沢遺跡）	野田村
三陸沿岸道路（力持遺跡）	普代村
三陸沿岸道路（菅窪長屋構Ⅱ、Ⅲ遺跡、沼袋Ⅱ、Ⅲ遺跡）	田野畑村
三陸沿岸道路（青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡、高根遺跡、荷竹日向Ⅰ遺跡、向新田Ⅲ遺跡、沼里遺跡）	宮古市
三陸沿岸道路（石峠Ⅱ遺跡、沢田Ⅲ遺跡、間木戸Ⅰ遺跡）	山田町
三陸沿岸道路（田屋遺跡、松磯遺跡）	大槌町
警察施設災害復旧事業（宮野貝塚）	大船渡市
防災集団移転促進事業 赤前・津軽石地区（赤前Ⅲ遺跡）	宮古市
土地区画整理事業 高田西地区（高田城跡）	陸前高田市
土地区画整理事業 赤浜地区（赤浜Ⅱ跡）	大槌町
防災集団移転促進事業 船越地区（焼山遺跡）	山田町
防災集団移転促進事業 大沢地区（浜川目沢田Ⅰ遺跡）	山田町

イ 試掘調査

事業名	調査地区
三陸沿岸道路	釜石市～洋野町
東北横断自動車道釜石秋田線	遠野市
宮古盛岡横断道路	宮古市、盛岡市
宮古西道路	宮古市
地域連携道路整備事業 一般国道340号	住田町、宮古市
農地整備事業	陸前高田市
畑地帯総合整備事業（担い手育成型）	二戸市
主要地方道重茂半島線	山田町～宮古市

ほか72件

ウ 分布調査

事業名	調査地区
北上川中流部緊急治水対策事業 紫波地区	紫波町
北上川中流部緊急治水対策事業 黒岩地区	北上市
経営体育成基盤整備事業 増沢西部地区	奥州市江刺区
中山間地域総合整備事業 小山西地区	奥州市胆沢区
経営体育成基盤整備事業 小山中央南地区	奥州市胆沢区
築川ダム建設事業（付替林道、ダム湛水域）	盛岡市
一般国道4号水沢東バイパス	奥州市水沢区
農村水利施設保全合理化事業尾（束稲第二地区）	平泉町
農村災害対策整備事業 猿ヶ石東部幹線地区	花巻市
一般県道普代小屋瀬線道路改築事業 芦渡1工区	普代村

ほか 54件

(2) 埋蔵文化財緊急発掘調査事業

遺跡等の埋蔵文化財の実態把握及び開発事業との調整のために、市町村が実施する調査に対して、その経費の一部を助成した。

○ 発掘調査等 11市4町2村で実施

(3) 岩手県立埋蔵文化財センターの充実

発掘調査により得られた諸資料の整理及びデータ化を進めるとともに、機関誌の発行や研修会を主催して文化財の普及活用に取り組み、管理運営や教育普及活動事業の充実を図った。

【埋蔵文化財センター受託事業】

ア 発掘調査【計43遺跡】

委託元	所在地	遺跡名
国土交通省	北上市	中村遺跡
	平泉町	伽羅之御所跡
	遠野市	新里愛宕裏遺跡、九重沢Ⅲ遺跡、栃洞Ⅲ遺跡、平野原Ⅲ遺跡
	洋野町	南川尻遺跡、下向遺跡、西平内Ⅰ遺跡
	久慈市	宇部館跡、北ノ越遺跡
	野田村	伏津館跡、中平遺跡、上泉沢遺跡
	普代村	力持遺跡
	田野畑村	菅窪長屋構Ⅱ、Ⅲ遺跡、沼袋Ⅱ、Ⅲ遺跡
	宮古市	青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡、高根遺跡、荷竹日向Ⅰ遺跡、向新田Ⅲ遺跡、沼里遺跡、磯鶏石崎遺跡
	山田町	石峠Ⅱ遺跡、沢田Ⅲ遺跡、間木戸Ⅰ遺跡
	大槌町	田屋遺跡、松磯遺跡
岩手県	平泉町	伽羅之御所遺跡
	宮古市	千鶏Ⅳ遺跡
	一関市	八幡沖遺跡
	大船渡市	宮野貝塚
宮古市	宮古市	赤前Ⅲ遺跡
山田町	山田町	焼山遺跡、浜川目沢田Ⅰ遺跡
大槌町	大槌町	赤浜Ⅱ遺跡
陸前高田市	陸前高田市	高田城跡

イ 報告書の発刊【計30遺跡】

17冊、各300部発刊

委託元	所在地	遺跡名
国土交通省	山田町	間木戸Ⅱ遺跡・間木戸Ⅴ遺跡、豊間根新田Ⅰ遺跡
	宮古市	津軽石大森遺跡、弘川Ⅱ遺跡・弘川Ⅲ遺跡
	岩泉町	小成遺跡
	田野畑村	島越Ⅱ遺跡・島越Ⅳ遺跡・菅窪遺跡、沼袋Ⅱ遺跡・沼袋Ⅲ遺跡（南川尻・下向と合冊）
	久慈市	外屋敷遺跡
	洋野町	南川尻遺跡・下向遺跡
岩手県	平泉町	無量光院跡・花立Ⅰ遺跡・花立Ⅱ遺跡
	奥州市	石田Ⅰ・Ⅱ跡、漆町遺跡
	一関市	小野遺跡・町裏Ⅰ遺跡・町裏Ⅱ遺跡
	奥州市	石田Ⅰ・Ⅱ遺跡、漆町遺跡
田野畑村	田野畑村	野場Ⅰ遺跡
山田町	山田町	田の浜館跡
大船渡市	大船渡市	中野遺跡、峯岸遺跡
陸前高田市	陸前高田市	花館跡

ウ 調査報告書

平成26年度発掘調査略報 300部

エ 普及事業

(ア) 第35回埋蔵文化財展

【期間】平成26年10月30日～11月2日

【場所】野田村立体育館

【内容】野田村の平清水Ⅲ遺跡、伏津館跡、中平遺跡などの調査成果の展示

(イ) 第35回埋蔵文化財発掘調査技術講習会

【期日】平成26年12月20日

【場所】岩手県立博物館講堂

【内容】『地形と堆積物に基づく年代測定方法』

講師 岩手県立大学教授 吉木 岳哉 氏

『花粉分析から読み解く環境変遷と人類の関係史』

講師 明治大学黒曜石研究センター 研究推進員 吉田 明弘 氏

(ウ) 第17回遺跡報告会

【期日】平成27年2月14日

【場所】岩手県民会館中ホール

【内容】力持遺跡、沢田Ⅲ遺跡、浜川目沢田Ⅰ遺跡、西平内Ⅰ遺跡の調査成果を報告

(エ) 第36回埋蔵文化財公開講座

【期日】平成26年2月14日

【場所】岩手県民会館中ホール

【内容】『世界史のなかの縄文文化』

講師 早稲田大学名誉教授 菊池 徹夫 氏

『対談 縄文文化に学ぶ』 俳優竹下景子氏と菊池徹夫氏による。

(オ) 所報「わらびて」の発行

年2回発行（130号～131号）

3 文化財の積極的な活用

(1) 遺跡周知事業

文化財保護法第95条第1項の規定に基づき、遺跡に関する諸資料の整備とその周知徹底を継続して行うとともに、市町村担当職員の研修で指導・助言を行った。

- ア 遺跡台帳の改訂（電算化）
- イ 遺跡基本図の改訂（電算化）
- ウ 台帳、基本図の複製配布
- エ 現地確認調査等の事前協議
- オ 市町村文化財担当職員等の研修会における指導・助言
- カ 文化財保護法関連諸文書類処理

(2) 伝統芸能伝承活動促進事業

民俗芸能団体のネットワーク組織である県民俗芸能団体協議会において、団体相互の情報交換や共通課題の解決に取り組んでいる（平成27年3月31日現在400団体加入）。

また、公演機会を確保し後継者の育成を図るため、次の事業を実施した。

ア 岩手県民俗芸能フェスティバル

【期日】平成26年8月23日 【会場】県民会館（盛岡市） 【鑑賞者数】700人

イ 第56回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

【期日】平成26年10月26日 【会場】小樽市民会館（小樽市）

第11節 生涯スポーツの振興

県民のだれもがそれぞれのライフステージにおいて、興味関心、目的や適性等に応じて、「する、みる、支える」スポーツに親しみ、スポーツが生活の一部として日々の暮らしに定着していくことを目指し各事業を展開した。

第1 運動・スポーツに親しむ人々の広がり

「する・みる・支える」といった多様なスポーツ参加を推し進め、県民のだれもが、生涯にわたって、自主的にスポーツに親しむ生涯スポーツの振興を図った。

1 「生涯スポーツ推進月間」の充実

「生涯スポーツ推進月間」を設定し広く県民に周知したことにより、各市町村において、それぞれの地域の特色ある各種スポーツ大会等が多数開催され、多くの県民が参加した。

事業名	事業件数	参加人数
生涯スポーツ推進月間	201 件	94,565 人

第2 運動・スポーツに親しめる場の広がり

生涯スポーツ振興の拠点となる総合型等の地域スポーツクラブの創設・育成を図るとともに、県民の多様なニーズに対応できるよう、専門的知識と実践力を持った生涯スポーツ指導者の養成や資質向上を図った。

1 総合型地域スポーツクラブの創設・育成

県広域スポーツセンターが中心となり、関係機関と連携をとりながら巡回指導等を行い、総合型地域スポーツクラブの創設・育成を図った。

【総合型地域スポーツクラブ創設状況（平成26年7月1日現在）】

[単位：クラブ、人]

市町村名	創設済クラブ		創設準備中クラブ数	クラブ数合計	市町村名	創設済クラブ		創設準備中クラブ数	クラブ数合計
	クラブ数	加入者数				クラブ数	加入者数		
盛岡市	5	1,399	3	8	陸前高田市	1	150	—	1
八幡平市	—	—	—	—	住田町	1	非会員制	—	1
雫石町	2	3,295	—	2	釜石市	2	1,867	—	2
葛巻町	1	230	—	1	大槌町	1	休止	—	1
岩手町	—	—	1	1	宮古市	2	869	—	2
滝沢市	1	402	—	1	山田町	—	—	—	—
紫波町	1	85	—	1	岩泉町	1	211	—	1
矢巾町	1	345	—	1	田野畑村	1	—	—	1
花巻市	2	26,786	—	2	久慈市	1	127	3	4
遠野市	10	4,175	—	10	洋野町	1	273	—	1
北上市	4	2,921	1	5	野田村	0	—	1	1
西和賀町	—	—	1	1	普代村	1	181	—	1
奥州市	5	6,397	—	5	二戸市	2	441	—	2
金ケ崎町	2	277	—	2	軽米町	—	—	2	2
一関市	2	2,395	5	7	九戸村	—	—	—	—
平泉町	—	—	1	1	一戸町	2	343	—	2
大船渡市	1	84	—	1	計	53	53,305	18	71

2 指導者の養成確保及び資質向上

各種講習会、研修会等を開催し、指導者の養成確保及び資質の向上を図った。

【生涯スポーツ関係事業等実施状況】

- (1) 市町村生涯スポーツ担当者研修会
【期日】平成26年4月25日 【場所】盛岡市 【参加者数】 38人
- (2) 総合型地域スポーツクラブ運営研修会
【期日】①平成26年6月12日 【場所】矢巾町 【参加者数】 43人
②平成26年11月14日 【場所】盛岡市 【参加者数】 35人
- (3) 生涯スポーツ指導者講習会
【期日】平成26年8月7日 【場所】盛岡市 【参加者数】 84人
- (4) 全国スポーツ推進委員研究協議会（県岩手県スポーツ推進委員研修会）
【期日】平成26年9月25日～26日 【場所】盛岡市 【参加者数】 3,178人
- (5) 生涯スポーツ推進研究大会兼体育施設関係者講習会兼公立武道館協議会研修会
【期日】平成26年11月11日 【場所】盛岡市 【参加者数】 80人

3 施設の整備充実

(1) 県営体育施設の状況

県営体育施設は、本県の中心的スポーツ施設として、全国規模の大会をはじめ、全県的な各種競技会の開催を通じて、本県スポーツの振興に大きな役割を果たしている。

県教育委員会で所管する体育施設は、次の7施設であり、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減等を図るため、指定管理者制度を導入している。

県営運動公園ほか5施設は公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団が、県営スキージャンプ場は八幡平市が指定管理者に指定されている。

- ア 県営運動公園（陸上競技場、補助競技場、野球場、ラグビー場、サッカー場、テニスコート、登はん競技場、交通公園）
- イ 県営体育館
- ウ 県営野球場（グラウンド、屋内練習場、トレーニング室）
- エ 県営スケート場
- オ 県営武道館（大道場、柔道場、剣道場、弓道場、相撲場、トレーニング室）
- カ 県立御所湖広域公園艇庫
- キ 県営スキージャンプ場

(2) 県営体育施設設備の整備

利用者が安全に楽しく利用できるよう、平成26年度は、次の施設・設備の改修工事等を行った。

- ア 県営スケート場スケートリンク内周・外周木柵改修工事
- イ 県営スケート場ターボ冷凍機起動盤改修工事
- ウ 県営運動公園陸上競技場2種公認改修工事
- エ 県営運動公園内交通公園シャッター改修工事
- オ 県営体育館ボイラー煙突内部改修工事
- カ 県営スケート場管理棟改修工事
- キ 県営運動公園排水路整備工事

(3) 県営体育施設の利用状況

[単位：日、件、人]

施設名	区分	開館日数	利用件数	利用人数
県営運動公園		365	11,444	713,244
県営体育館		331	934	87,772
県営野球場		325	1,778	131,477
県営スケート場		288	861	34,135
県営武道館		320	3,576	174,589
県立御所湖広域公園艇庫		166	1,188	10,292
県営スキージャンプ場		205	53	331
計		—	19,834	1,151,840

4 公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団の事業

公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団は、県教育委員会等から指定管理者の指定及び業務委託を受け、施設管理及び各種事業を行っている。

県立青少年の家3施設における開催事業は、115～119ページのとおり。

それ以外の県営体育施設等における開催事業は、以下157ページまでのとおり。

【公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団事務局 平成26年度受託事業及び自主事業】

- 1 指導者派遣事業
【期日】5月～3月 9市町村 32件
【場所】各市町村体育施設等 【参加者】967人
- 2 被災地スポーツ支援事業
【期日】4月～3月 4市町村 19件
【場所】県内避難仮設住宅・被災地等 【参加者数】193人
- 3 巡回グラウンド・ゴルフ交流会
【期日】5、7、9月
【場所】陸前高田市・宮古市 2市 6件
【参加者数】165人
- 4 武道教室・鏡開き
【内容】柔道、剣道、なぎなた、弓道、空手道 他
【期日】4月～3月
【場所】県営武道館 【参加者数】12,131人
- 5 クライミング無料体験会
【期日】4月29日、10月13日 計2回
【場所】県営運動公園登はん場 【参加者数】530人
- 6 親子スポーツ教室
【内容】ランニング教室、野球教室、マット運動教室等
【期日】5月～11月 計5回
【場所】県営運動公園陸上競技場他 【参加者数】776人
- 7 第26回湖上フェスティバル
【期日】7月27日
【場所】県立御所湖広域公園艇庫 【参加者数】49人
- 8 第20回県民スポーツ・レクリエーション祭
【期日】9月～11月 14種目
【場所】県営体育施設 【参加者数】3,337人
- 9 第7回高齢者健康・体づくり指導者セミナー
【期日】9月12日
【場所】県営武道館 【参加者数】85人
- 10 スポーツフェスティバル2014
【期日】10月13日
【場所】県営体育施設 【参加者数】11,942人
- 11 スケート場オープニング事業
【期日】11月3日
【場所】県営スケート場 【参加者数】723人
- 12 スケートキッズonサタデー
【期日】11月～2月の土曜日 計15回
【場所】県営スケート場 【参加者数】7,781人
- 13 第28回氷上フェスティバル
【期日】12月13日
【場所】県営スケート場 【参加者数】1,007人
- 14 健康・体づくり運動の指導プログラムに関する研究
【期日】通年
- 15 〔自主事業〕桜並木ライトアップ
【期日】4月24日～26日
【場所】県営運動公園内
- 16 〔自主事業〕すまいるノルディックウォーキング教室
【期日】5月17日
【場所】県営運動公園内
【参加者数】10人
- 17 〔自主事業〕第4回岩手県営運動公園フォトコンテスト
【期日】10月～1月
【場所】県営運動公園ふれあいハウス
【参加者数】15人
- 18 〔自主事業〕すまいるグラウンド・ゴルフ練習会
【期日】5月～11月 計14回
【場所】県営運動公園陸上競技場他 【参加者数】892人
- 19 〔自主事業〕すまいるソフトテニス教室
【期日】5月～10月 計16回
【場所】県営運動公園テニスコート 【参加者数】159人
- 20 〔自主事業〕第3回理事長杯G・Gグラウンドチャンピオン大会
【期日】10月29日
【場所】県営運動公園陸上競技場他 【参加者数】143人
- 21 〔自主事業〕スポ振ぶらんちクラブ
【期日】5月～10月 計15回
【場所】県営運動公園内 【参加者数】330人
- 22 〔自主事業〕すまいるグラウンド・ゴルフ交流会
【期日】6月～9月 計3回
【場所】県営運動公園内 【参加者数】459人
- 23 〔自主事業〕スポーツフェスティバル2014
【内容】フリーマーケット、屋台村
【期日】10月13日 【参加者数】266人
- 24 〔自主事業〕大きく育て木賊川稚魚放流
【期日】8月1日
【場所】県営運動公園内木賊川
- 25 〔自主事業〕すまいるグラウンド・ゴルフ家族体験会
【期日】8月9日
【場所】県営運動公園内 【参加者数】11人
- 26 〔自主事業〕すまいるボルダリング教室
【期日】12月～1月
【場所】県営運動公園屋内登はん場 【参加者数】103人
- 27 〔自主事業〕植物・樹木観察会
【期日】6月3日
【場所】県営運動公園日本庭園 【参加者数】88人
- 28 〔自主事業〕夏休み1dayキッズサッカースクール
【期日】7月31日
【場所】県営運動公園陸上競技場 【参加者数】114人
- 29 〔自主事業〕すまいる卓球Room
【期日】通年
【場所】県営運動公園ふれあいハウス 【参加者数】1,585人

- 30 [自主事業] 家族で雪っこ体験教室
【期日】 1月24日
【場所】 県営運動公園陸上競技場他 【参加者数】 51人

【県営体育館 平成26年度自主事業】

- | | |
|--|---|
| <p>1 ぶらんちクラブ
【期日】 5月～10月 計16回
【参加者数】 914人</p> <p>2 ヒップホップ教室
【期日】 6月～10月 計16回 【参加者数】 673人</p> <p>3 岩手ビッグブルズバスケットボールクリニック
【期日】 8月4日 【参加者数】 61人</p> | <p>4 県営体育館中学生ハンドボール交流会
【期日】 8月5、6日 【参加者数】 267人</p> <p>5 盛年ソフトテニスミックスダブルス大会
【期日】 2月18日 【参加者数】 28人</p> <p>6 始めようノルディックウォーキング
【期日】 4月～3月 【参加者】 2名</p> <p>7 県営体育館スポーツフェスティバル2014
【期日】 10月13日 【参加者】 1,025人</p> |
|--|---|

【県営武道館 平成26年度自主事業】

- | | |
|--|--|
| <p>1 ぶらんちスポーツクラブ
【期日】 5月～2月 計45回
【参加者数】 2,621人</p> <p>2 スポ振キッズうんどう塾
【期日】 5月～7月
【参加者数】 250人</p> <p>3 弓道教室
【期日】 6月～7月 計10回
【参加者数】 152人</p> <p>4 スポーツフェスティバル2014
【内容】 武道交流会
【期日】 10月13日 【参加者数】 487人</p> | <p>5 スポーツフェスティバル2014
【内容】 ちびっこ相撲大会
【期日】 10月13日 【参加者数】 460人</p> <p>6 少年柔道教室
【期日】 12月22日～24日 【参加者数】 88人</p> <p>7 少年剣道教室
【期日】 1月5日～7日 【参加者数】 60人</p> <p>8 希望郷いわて国体空手道競技体験会
【期日】 1月18日 【参加者数】 300人</p> |
|--|--|

【県営野球場 平成26年度自主事業】

- | | |
|---|--|
| <p>1 県営野球場バランスボール教室
【期日】 5月～2月 計24回 【参加者数】 191人</p> <p>2 親子野球教室
【内容】 2016国体会場で楽天イーグルスに教わろう
【期日】 6月7日 【参加者数】 38家族82人</p> <p>3 中学生野球教室（楽天野球塾）
【期日】 11月8日 【参加者数】 34人</p> | <p>4 短期体操教室
【期日】 1月11日～13日
【参加者数】 37人</p> <p>5 屋内グラウンド・ゴルフ練習会、記録会
【期日】 11月～2月の火・金曜日 計28回
【参加者数】 2,491人</p> |
|---|--|

【県立御所湖広域公園艇庫 平成26年度自主事業】

- | | |
|---|---|
| <p>1 湖上ウォークラリー
【期日】 5月11日 【参加者数】 11人</p> <p>2 御所湖探検カヌー教室
【期日】 6月7日～8日 【参加者数】 31人</p> <p>3 レディースカヌー教室
【期日】 7月13日 【参加者数】 8人</p> | <p>4 親子カヌー教室
【期日】 8月2日～3日 【参加者数】 46人</p> <p>5 御所湖カヌー教室普及艇カヌー記録会
【期日】 9月6日～7日 【参加者数】 24人</p> |
|---|---|

【県営スケート場 平成26年度自主事業】

- | | |
|---|--|
| <p>1 スケート教室
【期日】 12月～2月の日曜日 計10回
【参加者数】 123人</p> <p>2 親子スケート教室
【期日】 11月9日、16日 【参加者数】 28人</p> <p>3 スケート場オープニング事業 スケートレッスンタイム
【期日】 11月3日 【参加者数】 17人</p> | <p>4 第28回氷上フェスティバル スケートレッスンタイム
【期日】 12月13日 【参加者数】 17人</p> <p>5 ステップアップ教室
【期日】 1月17日～18日 【参加者数】 19人</p> |
|---|--|

【県立花巻広域公園 平成26年度自主事業】

- | | |
|--|--|
| <p>1 ぎんがのもり春まつり
【期日】 5月3日 【参加者数】 2,730人</p> <p>2 ぎんがのもり夏まつり
【期日】 7月21日 【参加者数】 3,325人</p> <p>3 ぎんがのもり秋まつり
【期日】 10月13日 【参加者数】 2,540人</p> <p>4 ぎんがのもりノルディックウォーキング
【期日】 5月11日 【参加者数】 9人</p> <p>5 ぎんがのもりグラウンド・ゴルフ大会
【期日】 5月～10月 計4回 【参加者数】 298人</p> | <p>6 ぎんがのもりグラウンド・ゴルフ練習会
【期日】 5月～10月 計5回 【参加者数】 89人</p> <p>7 ぎんがのもり森の恵み工作
【期日】 6月～10月 計3回 【参加者数】 222人</p> <p>8 ぎんがのもりドッグフェスティバル
【期日】 10月19日 【参加者数】 345人</p> <p>9 ぎんがのもりキッズサッカースクール
【期日】 10月25日 【参加者数】 35人</p> |
|--|--|

【県勤労身体障がい者体育館 平成26年度自主事業】

- | | | | |
|--|-------------|-----------------------------------|------------|
| 1 車椅子バスケットボールフェスタ
【期日】 7月6日、9月27日～28日 | 【参加者数】 85人 | 4 パラリーナフェスティバル
【期日】 10月13日 | 【参加者数】 25人 |
| 2 ニュースポーツ交流会
【期日】 6月15日、12月20日 | 【参加者数】 105人 | 5 フロアバレーボール交流会
【期日】 11月2日 | 【参加者数】 30人 |
| 3 卓球バレー体験教室
【期日】 10月26日 | 【参加者数】 28人 | 6 いきいきママさんバレーボール交流会
【期日】 7月20日 | 【参加者数】 75人 |

第3 ネットワークの広がり

生涯スポーツを推進する団体等の連携を充実させるため、広域スポーツセンター機能の拡大と充実を図るとともに、県民の多様なニーズに応えるネットワークの構築を図った。

1 生涯スポーツに関する情報提供

岩手県広域スポーツセンターのホームページを更新し、スポーツ指導者とスポーツの指導を求める県民への情報の提供等を行うとともに、総合型地域スポーツクラブ等の情報も新たに更新し生涯スポーツを推進する団体間の連携強化を図った。

2 平成26年度各種登録指導者数

- | | | |
|----------------------------|--------|------------|
| (1) 県スポーツリーダーバンク登録者…… | 157人 | |
| (2) 地域スポーツ指導者…… | 1,783人 | (前年比 58人減) |
| (3) 競技力向上指導者…… | 348人 | (前年比 10人増) |
| (4) 商業スポーツ施設指導者…… | 38人 | (前年比 4人減) |
| (5) フィットネス系資格指導者…… | 109人 | (前年比 17人減) |
| (6) メディカル・コンディショニング資格指導者…… | 87人 | (前年比 1人増) |
| (7) 総合型地域スポーツクラブ資格…… | 133人 | (前年比 11人増) |
| (8) レクリエーション関係資格指導者…… | 1,252人 | (前年比 32人増) |
| (9) 県スポーツ少年団指導者…… | 5,362人 | (前年比 93人増) |

第12節 競技スポーツの強化

第1 中長期的な視点に立った選手育成並びに指導者養成

1 優れた素質を有する児童の早期発掘と系統的な能力開発

将来世界に羽ばたくアスリートの輩出を目指して、「いわてスーパーキッズ発掘・育成事業」を実施し、下記のプログラムを行うことにより、優れた素質を有する児童の早期発掘と系統的な能力開発を行った。

プログラム名	実施回数
スペシャルスクール	8回
コンディショニングスクール	8回
クロストレーニングスクール	9回
パスウェイプログラム	6回
トレーニングキャンプ（夏季・冬季）	2回
キッズトライアル（競技体験）	2回
体力測定（3月・8月）	2回

2 選手の育成・強化

平成 28 年国民体育大会の本県開催に向けて、「県民」「企業」「団体」等と協働する岩手型の競技力向上対策として各種強化事業を実施した。

事業名	対象
ジュニア選手強化事業	中学生 39 競技・高校生 38 競技
トップ選手強化事業	41 競技
指導者スキルアップ事業	41 競技
コーチ派遣事業	41 競技
強化指定校・ 強化指定クラブ支援事業	強化指定校：30 競技 54 校 強化指定クラブ：14 競技 16 団体
重点競技強化事業	A 区分：11 競技 19 種別、B 区分：23 競技 51 種別 C 区分：17 競技 32 種別
ターゲットエイジ支援事業	37 競技
ふるさと選手支援事業	40 競技
強化選手支援事業	40 競技
優秀指導者招聘事業	40 競技

3 指導体制の確立

指導者の養成及び資質の向上を図るため、指導者スキルアップ事業やコーチ派遣事業等を実施した。

4 各種全国大会の結果

第 69 回国民体育大会の本県の成績は、男女総合成績（天皇杯）は 37 位[807.5 点]となり、前回の 23 位[943 点]と比較して順位を 14 位、得点を 135 点下げている。

また、入賞数は 20 競技 71 種目であり、前回の 21 競技から 1 競技減、入賞種目数は前回と同数となっている。

大会名	入賞数
第 69 回国民体育大会	71
平成 26 年度全国高等学校総合体育大会	48
平成 26 年度全国中学校体育大会	10

第 2 競技団体・学校体育団体等の組織体制の充実に向けた支援

1 学校体育団体との連携強化

ジュニア期の強化のため、その母体となっている学校体育団体との連携を一層強化することとし、中学校・高等学校の連携による継続指導等、選手強化の重点化を図った。

2 一貫指導システムの構築

各競技団体において、系統的な選手育成を図るため、各中央競技団体の進めている一貫指導システムを積極的に取り入れ、小中高一貫指導プランを活用し、強化事業を推進した。（41 競技団体中 38 競技団体が作成）

3 主要体育大会（県内開催）

体育大会名	期 日	会 場
第66回岩手県高等学校総合体育大会	平成26年 5月20日～6月29日	盛岡市ほか
第61回岩手県中学校総合体育大会	平成26年 7月18日～7月21日	盛岡市ほか
平成26年度全国高等学校総合体育大会（夏季大会）	平成26年 7月26日～8月20日	東京都ほか
第64回岩手県高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会	平成26年11月 8日～12月15日	盛岡市
第47回岩手県中学校スケート大会	平成26年11月 8日～12月 7日	盛岡市
第64回岩手県中学校スキー大会	平成27年 1月11日～1月14日	八幡平市
第64回岩手県高等学校スキー大会	平成27年 1月11日～1月14日	八幡平市

4 学校体育団体助成

団体名	助成金額
岩手県中学校体育連盟	24,109千円
岩手県高等学校体育連盟	51,388千円

第3 広いスポーツの基盤に支えられたスポーツ拠点化に向けた支援

平成 28 年に開催の岩手国体に向けて競技者等の裾野を広げ、広範なサポート体制を形成しながら、国体会場地市町村を中心としたスポーツ拠点化を推進する。

【震災の影響により、23 年度以降事業取り止め】

第4 スポーツ医・科学サポート体制の充実

競技者の育成を組織的かつ戦略的に行うためには、スポーツ医・科学に基づいた体力分析、トレーニングの本格的実施が不可欠であるため、スポーツ医・科学サポートスタッフのスキルアップやプログラムの研究開発などを推進し、スポーツ医・科学体制の整備・拡充を図る。

また、第 71 回国民体育大会に向け、国体選手等の競技力向上や指導者の資質向上を図るため、専門的スタッフ等の人員配置など、スポーツ健康科学サポート推進事業の実施体制の充実を進めた。

実施事業	実施回数
スタッフ研修会	3 回
競技力向上サポート事業	5 回
データ活用事業	37 回

[参考] 各県営施設で開催された主な競技会・イベント等

平成26年度に県営施設において開催された主な競技会・イベント等は以下のとおりである。

[単位：人]

施設	競技会等の名称	期日	参加者数 (入場者数)
県営運動公園	東北地区盲学校文化体育大会	平成26年7月3日(木)	100
	東北地区大学サッカーリーグ	平成26年7月13日(日)～ 11月1日(土)8日間	846
	東北社会人サッカーリーグ	平成26年8月3日(日)～ 11月16日(日)9日間	1,310
	全国JCサッカー選手権盛岡大会	平成26年10月25日(土)	400
県営体育館	日本プロバスケットリーグ公式戦 (bjリーグ)	平成26年4月12日・13日	3,200
	日本プロバスケットリーグ公式戦 (bjリーグ)	平成26年5月10日・11日	5,400
	第13回全国障がい者スポーツ大会北海道・東北ブロック予選会	平成26年6月29日	120
	第44回東北中学校バスケットボール大会	平成26年8月8日・9日	2,360
	第43回日本車椅子バスケットボール選手権大会東北地区予選会	平成26年10月4日・5日	510
	日本プロバスケットリーグ公式戦 (bjリーグ)	平成26年10月11日・12日	3,600
	第39回日本ハンドボールリーグ盛岡大会	平成26年10月25日	1,900
	東北フットサルリーグ盛岡大会	平成26年10月26日	200
	大日本プロレス盛岡大会	平成26年11月3日	500
	バドミントン日本リーグ2014盛岡大会	平成26年11月8日	2,050
	2014/15 Vリーグ・プレミアリーグ女子バレーボール盛岡大会	平成26年11月22日・23日	3,000
	日本プロバスケットリーグ公式戦 (bjリーグ)	平成26年12月13日・14日	3,700
	第16回全日本女子バスケットボールリーグ盛岡大会	平成26年12月20日	960
	日本プロバスケットリーグ公式戦 (bjリーグ)	平成27年2月21日・22日	5,117
県営野球場	プロ野球パ・リーグ公式戦 楽天×西武	平成26年5月18日	16,011
	日本・オーストラリア少年野球国際交流親善試合 ～ディンゴ・トモダチベースボールジャパンツアーin盛岡～	平成26年6月26日	265
	平成26年度第13回東北・北海道中学生KB野球大会	平成26年7月26日・27日	497
	東北復興支援大学野球交流 富士大×早稲田大	平成26年8月19日	708
	第34回日弁連野球全国大会決勝大会	平成26年10月25日・26日	783
県営武道館	マルちゃん杯東北少年柔道大会	平成26年5月18日	1,500
	空手道東北地区大学体育大会	平成26年6月29日	215
	日本柔道整復師会第22回東北少年柔道大会	平成26年7月12日	180
	東北地区高等学校弓道錬成大会	平成26年8月1日～3日	200
	第16回東北空手道選手権大会サバキチャレンジ	平成26年9月7日	75
	平成26年度弓道東北教錬士研修会	平成26年9月14日～15日	34
	第42回東北弓道連盟女子部研修会	平成26年11月8～9日	87
	第12回東北高等学校なぎなた選抜大会	平成27年1月11日～12日	170
	第37回全国高等学校柔道選手権大会東北地区大会 東北中学校春季柔道大会	平成27年1月24日～25日 平成27年3月14日～15日	500 600
県営スケート場	ジャパンカップスピードスケート競技会盛岡大会	平成26年11月28日～30日	606
県立御所湖広域公園艇庫	なし		

第4章 厚生福利

第1節 公立学校共済組合

公立学校共済組合の事業には、短期及び長期の給付事業と、組合員の福利厚生事業、組合員に対する貸付事業並びに宿泊施設の経営等があり、これらに必要な費用は、組合員の掛金と地方公共団体の負担金をもって充てている。

【組合員及び被扶養者数（平成26年度末）】 [単位：人]

区 分	組合員数	被扶養者数
一般	12,828	——
うち男	6,588	——
女	6,240	——
長期	0	——
船員	30	——
任意継続	348	——
計	13,206	12,585

第1 短期給付事業

○ 収支状況（平成26年度）

【収入】 [単位：千円]

区 分	金 額
短期負担金	3,998,674
介護負担金	387,024
短期掛金	3,959,754
介護掛金	386,960
短期任意継続掛金	132,290
介護任意継続掛金	15,277
利息及び配当金	0
賠償金	8,412
計	8,888,391

【支出】 [単位：千円]

区 分	金 額
法定給付	3,563,034
附加給付	57,790
一部負担金払戻金	53,290
短期任意継続掛金還付	4,278
介護任意継続掛金還付	497
計	3,678,889

収支差額（本部送金）	5,209,502
------------	-----------

第2 長期給付事業

年金給付等の財源として本部へ送金した。

【収入の状況（平成26年度）】 [単位：千円]

区 分	金 額
負担金	11,612,765
追加費用負担金	3,887,730
掛金	7,917,050
利息及び配当金	0
計	23,417,545

第3 厚生福利事業

1 人間ドック

利用を希望する組合員1,359人を対象に、以下の9医療機関において、事業費67,893千円で実施した。

【利用状況】 [単位：人]

医療機関名	利用人数
公立学校共済組合東北中央病院	379
県立中央病院	98
岩手医科大学附属病院	80
北上済生会病院	35
盛岡赤十字病院	158
松園第二病院	29
岩手県予防医学協会	481
滝沢中央病院	29
盛岡市立病院	70
計	1,359

2 脳ドック

脳疾患の早期発見、早期治療を目的として、45歳以上の希望する組合員436人を対象に、以下の4医療機関において、事業費16,688千円で実施した。

【利用状況】 [単位：人]

医療機関名	利用人数
公立学校共済組合東北中央病院	159
盛岡市立病院	98
盛岡赤十字病院	95
北上済生会病院	84
計	436

3 ライフプラン総合講座

組合員の健康管理意識を高め、健康の保持・増進を図るため、健康管理講座を実施した。

【受講者数】 226人 【事業費】 1,178千円

4 メンタルヘルスサポート事業

こころの健康の保持・増進とこころの病気の早期発見・早期対応、再発予防を図るため、県教育委員会と共催で、メンタルヘルスに関する以下のセミナーを実施した。 [単位：人]

区分	目的	対象者	期日	回数（開催地）	参加者数
教職員のためのメンタルヘルスセミナー	メンタルヘルスに関する基礎知識と理解を深め、相互支援できる職場環境の醸成を図る。	一般教職員	平成26年7月29日、7月31日、8月12日	3回（盛岡市、一関市、久慈市）	95
管理監督者のためのメンタルヘルスセミナー	メンタルヘルスに関する知識や対応方法について習得を図る。	管理監督者	平成26年6月16日、7月17日	2回（釜石市、盛岡市）	224
管理監督者メンタルヘルス特別セミナー	災害起因の心身不調、人事異動に伴う体調不良等への対応等について、専門医から助言を受ける。	管理監督者	平成26年12月12日	1回（盛岡市）	110

5 施設利用補助（サンセール盛岡利用補助）

組合員等によるサンセール盛岡の利用に対し、計65,730千円を補助した。

区分	利用人数等	補助額(千円)	補助の概要
宿泊	2,511人	5,022	宿泊利用1人につき、2,000円を補助
会食	18,250人	53,577	会食利用1人につき、利用額に応じ3,000円～1,000円を補助
会議	422件	5,203	過半数が組合員のとき、50%最高25千円を補助
法事・慶事	14組	748	法要・慶事利用1組につき、最高20万円を補助
年金受給者	590件	1,180	宿泊利用1人につき、2,000円を補助
計		65,730	

第4 貸付事業

組合員が臨時に資金を必要とする場合に貸付を行っており、平成26年度における新規貸付の状況は次のとおりである。

【平成26年度新規貸付件数】

[単位：件、千円]

区分	件数	貸付金額	制度の概要
一般貸付	52	66,300	組合員が臨時に資金を必要とする場合 □限度額 200万円
住宅貸付	5	32,513	組合員が自己用の住宅の新築等をする場合 □限度額 1,800万円
住宅災害貸付	1	3,000	住宅に非常災害を受け、新築等をする場合 □限度額 1,900万円
教育貸付	9	22,900	組合員やその子弟が大学等に入学する場合 □限度額 550万円
医療貸付	2	1,800	組合員やその親族が医療を受ける場合 □限度額 120万円
結婚貸付	1	2,000	組合員やその子が結婚する場合 □限度額 200万円
葬祭貸付	0	0	組合員が親族の葬祭を行う場合 □限度額 200万円
高額医療貸付	0	0	組合員が高額療養費を支払う場合 □限度額：高額療養費相当額
災害貸付	0	0	組合員や被扶養者が非常災害を受けた場合 □限度額 200万円
出産貸付	0	0	組合員が出産費を支払う場合 □限度額：出産費相当額
計	70	128,513	

第5 宿泊施設

岩手支部は、組合員等の福利厚生施設として、盛岡宿泊所「サンセール盛岡」を設置している。当該施設は、組合員に限らず広く県民に利用されており、その利用状況は次のとおりである。

	区分等	利用状況	備考
宿泊部門	収容定員	79人	
	宿泊可能人数	28,835人	収容定員79人×営業日数365日
	宿泊延べ人数	10,546人	
	利用率	36.6%	10,546人÷28,835人
宿泊外部門	収容定員	848人	
	利用可能人数	309,520人	収容定員848人×営業日数365日
	利用延べ人数	103,158人	
	うち会議利用	46,534人	
	宴会利用	40,741人	
	婚礼利用	81人	
	グリル等	15,802人	
利用率	33.3%	103,158人÷309,520人	
計		113,704人	宿泊延べ人数10,546人+宿泊外利用延べ人数103,158人

第2節 教職員互助会

本県における教育文化の振興発展に寄与し、併せて教職員及び教育関係職員の福利増進と生活の安定を図ることを目的として、以下の諸事業を実施した。

第1 短期給付事業

区 分	給付額 (円)	件数等	制度の概要
療養給付金	73,095,727	被扶養者 29,396件	被扶養者が療養を受けたとき給付
無給会員給付金 (過年度分)	0	28条休職者 0件	会員が休職し無給となったとき給付 □28条休職者：3万円/月 (平成24年度で廃止)
出産保育費	6,570,000	会員…… 142人 配偶者… 77人	会員又は被扶養配偶者が出産したとき給付 □会員・配偶者：3万円
災害見舞金	1,050,000	4件	会員が火災等の災害を受けたとき損害の程度により給付 □3万円～60万円
弔慰金	5,600,000	会員………10人 配偶者…… 1人 被扶養者… 4人	会員、配偶者又は被扶養者が死亡したとき給付 □会員：50万円、配偶者：20万円、被扶養者：10万円
計	86,315,727		

第2 長期給付事業

区 分	給付額 (円)	人 数	制度の概要
生きがい対策 支援助成金	120,855,340	600人 うち定年退職………301人 勲褒退職……… 75人 死亡退職……… 9人 普通退職……… 43人 特別会員……… 43人 その他（異動等）129人	会員資格6か月以上の会員が退会したとき給付 □ ①8,500円×会員年数(入会～平成24年度) ②3,000円×会員年数(平成25年度～) ①+② = 給付合計額 (1人平均201,425円)

第3 厚生福利事業

区 分	給付額 (円)	件数等	制度の概要
療養給付金	177,348,116	64,272件	会員が療養を受けたとき給付
入院見舞金	11,271,000	会員……… 10,022日 被扶養者… 12,520日	会員又は被扶養者が入院したとき給付 □会員・被扶養者：1日につき500円
介護休暇給付金	1,904,129	17件	会員が介護休暇を取得したとき給付 □1日につき給料日額の100分の60に相当する額から 共済組合の介護休業手当金を控除した額

区 分	給付額 (円)	件数等	制度の概要
小学校入学祝金	4,880,000	488人	会員の被扶養者、配偶者の被扶養者に認定されている子が小学校に入学したとき給付 □10,000円
弔慰金 (過年度分)	0	0人	配偶者 (会員又は被扶養者を除く) が死亡したとき給付 □被扶養者以外の配偶者: 200,000円 (平成24年度で廃止)
施設利用補助	5,433,989	宿泊利用……4,037件 うち全教互指定旅館 4,017件 サンセール盛岡 20件 会食利用………412件 婚礼利用……… 1件 法要・慶事等利用 ……… 1件	宿泊利用補助: 会員及び被扶養者が指定施設を宿泊で利用したとき補助 □全教互指定旅館: 1泊につき1,000円 □サンセール盛岡: 1泊につき2,000円 (特別会員) 会食利用補助: 特別会員が会食でサンセール盛岡を利用したとき補助 □1人1回につき6千円以上の利用: 3,000円 5千円以上6千円未満の利用: 2,000円 3千円以上5千円未満の利用: 1,000円 婚礼利用補助: 会員及びその子が、結婚披露宴でサンセール盛岡を利用したとき補助 □150,000円を上限に1組の利用額の25% 法要・慶事等利用: 本人が主催するものに補助 200,000円を上限に利用額の20%
退職慰労記念品費	34,010,000	旅行券………545人 香典料……… 9人	平成24年度までの会員が、退職又は異動により退会したとき、平成24年度末までの会員年数に応じて旅行券を交付 □会員年数1年以上10年未満: 20,000円 10年以上20年未満: 40,000円 20年以上30年未満: 60,000円 30年以上: 80,000円 死亡により退会したとき遺族に香典料を支給 □香典料: 50,000円
遺児育英資金	2,500,000	5人	会員が死亡したとき、被扶養者のうち、当該年度末までの間に満18歳以下である遺児があるとき給付 □遺児1人 500,000円
ライフプランセミナー	970,786		□ライフプランを基本に「健康管理」「年金」「生涯生活設計」について基礎研修と選択研修の講座を実施 □退職予定者を対象に退職準備セミナーを開催
公益文化事業費	4,958,000		□岩手教育芸術祭開催 (他団体と共催) □東日本大震災被災校への図書カード寄贈 □文化公演会 (他団体と共催)
広報活動事業費	4,617,740		□互助会報発行: 年4回 □会報表紙写真募集 □福祉のしおり
保険外医療給付金	2,902,381	マッサージ等…204件 妊婦検診……… 30件 歯科治療……… 78件 不妊治療……… 14件	会員が保険適用外医療 (マッサージ等、歯科治療、妊婦検診及び不妊治療) を受けたとき給付 □1年度について10,000円以内
身体矯正器具等購入 (修理) 補助	17,322,780	眼鏡………1,749件 補聴器・補装具…0件	眼鏡、補聴器、補装具のいずれかを購入 (修理) したとき補助 □2年度に1回に限り10,000円以内
ホームヘルパー雇用補助	246,022	4件	会員、配偶者、会員又は配偶者の扶養家族、会員又は配偶者の父母が、在宅療養中に介助者及び家事援助者を1年度に5日以上雇用して、その費用を負担したとき補助 □1日2,000円以内 (1年度に60日を限度) ただし、介護保険の在宅支援給付を受けている場合は、その自己負担額の範囲内とする。
心身リフレッシュ支援助成	44,647,100	15年………200人 25年………616人	会員の会員継続年数が15年、25年に達したとき助成 □会員年数15年: 40,000円、25年: 60,000円 □助成品目: 旅行券又は図書カード
計	313,012,043		

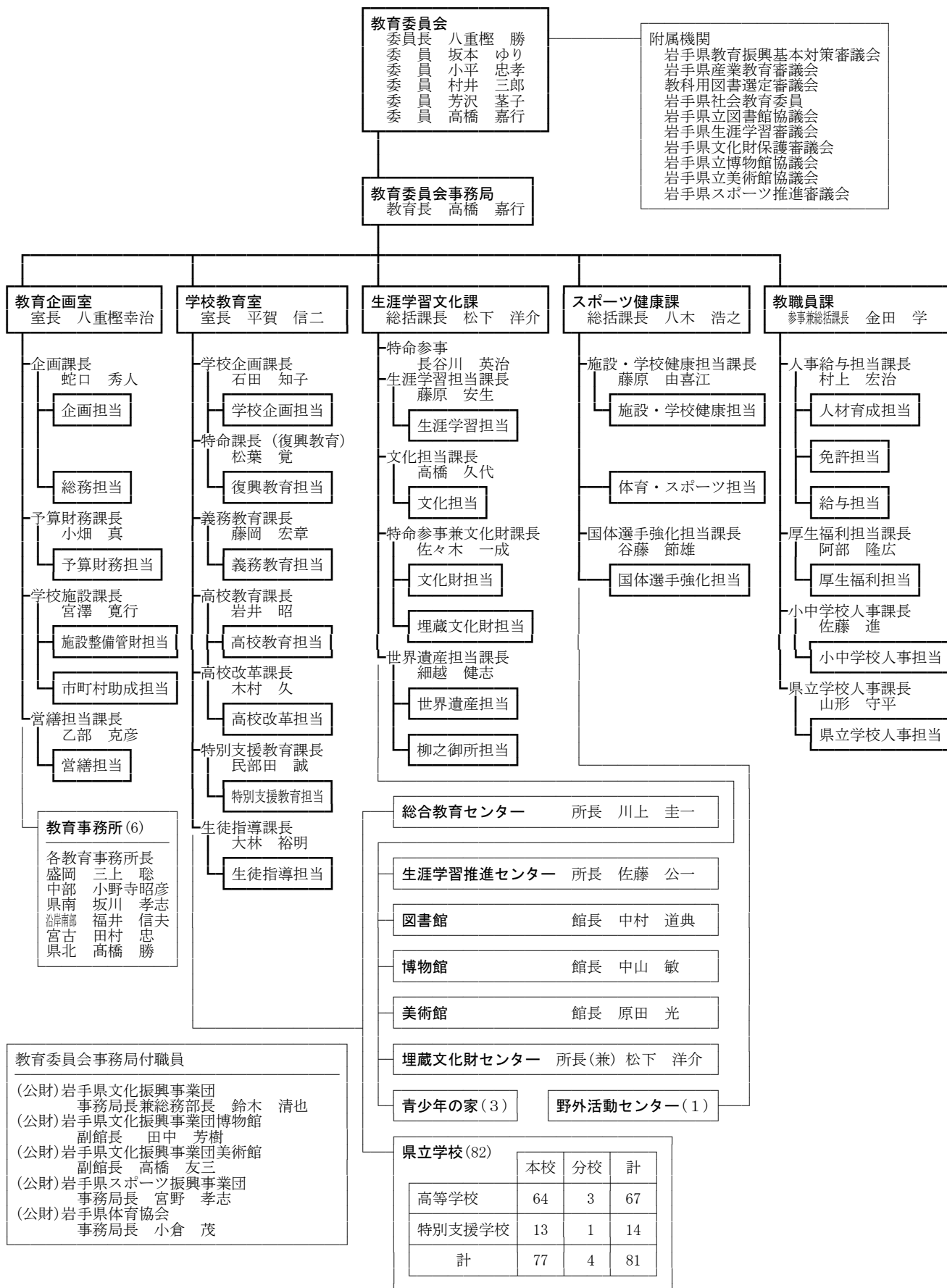
第4 特別弔慰積立事業

区 分	給付額 (円)	件数(人数)	制度の概要
特別弔慰金 (過年度分)	0	会員…………… 0人 配偶者…………… 0人 被扶養者… 0人	会員、配偶者又は被扶養者が死亡したとき給付 □会員：20万円、配偶者：10万円、被扶養者：5万円 (平成24年度で廃止)
積立給付金	34,322,000	積立金… 591人	退会により会員の資格を失ったとき、当該会員が平成 25年3月までに積立てた額を給付 □積立金・毎月200円積立の累計額
計	34,322,000		

第5 貸付事業

区 分	貸付額 (円)	件 数	制度の概要
生活資金	278,500,000	181件	会員が臨時に資金を必要とするとき □貸付限度額200万円
奨学資金	81,200,000	48件	会員又はその子弟が高校、大学等に入学又は修学するため資金を必要とするとき □貸付限度額200万円
結婚資金	13,500,000	8件	会員又はその子が結婚する場合で婚姻の前後6か月以内に資金を必要とするとき □貸付限度額200万円
自動車購入資金	62,600,000	45件	会員が使用する自動車を購入するとき □貸付限度額200万円
計	435,800,000	282件	

1 県教育委員会機構図（平成26年5月1日現在）



2 県教育委員会が所管する附属機関の委員

岩手県教育振興基本対策審議会委員

※ 平成25年7月1日以降委員選任なし

岩手県社会教育委員（平成26年7月1日現在）

泉田 将治（岩手県青年団体協議会長）
及川 求（岩手県立盛岡となん支援学校長）
大橋 清司（岩手県社会教育連絡協議会長）
金谷 茂（一般社団法人岩手県PTA連合会長）
小菅 正晴（一関市教育委員会教育長）
齋藤 肇（財団法人滝沢市体育協会総務係長兼事業係長）
佐賀 敏子（盛岡市立杜陵小学校長）
瀬川 愛子（特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会長）
高橋 聡（岩手県立大学社会福祉学部教授）
田口 博子（岩手県弦楽研究会会員）
土川 敦（岩手県立盛岡第二高等学校長）
恒川 かおり（特定非営利活動法人未来図書館主任コーディネーター）
西里 真澄（岩手看護短期大学専攻助産学専攻講師）
細川 恵子（特定非営利活動法人紫波さぷり理事長）
室井 麗子（岩手大学教育学部准教授）
菊池 豊（公募委員）
（任期：平成26年7月1日～平成28年6月30日）

岩手県立図書館協議会委員（平成26年7月1日現在）

太田 勝浩（岩手県学校図書館協議会長）
下机 暁美（田野畑村社会教育委員）
澤口 杜志（うすゆきそう文庫代表）
中尾 康朗（盛岡大学文学部准教授）
藤原 哲（岩手日報社編集局学芸部長）
斎藤 純（作家）
吉丸 蓉子（前盛岡市教育委員会委員）
箱石 恵美子（岩泉町立図書館 図書館部門長）
（任期：平成26年7月1日～平成28年6月30日）

岩手県生涯学習審議会委員（平成26年7月1日現在）

泉田 将治（岩手県青年団体協議会長）
及川 求（岩手県立盛岡となん支援学校長）
大橋 清司（岩手県社会教育連絡協議会長）
金谷 茂（一般社団法人岩手県PTA連合会長）
小菅 正晴（一関市教育委員会教育長）
齋藤 肇（財団法人滝沢市体育協会総務係長兼事業係長）
佐賀 敏子（盛岡市立杜陵小学校長）
瀬川 愛子（特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会長）
高橋 聡（岩手県立大学社会福祉学部教授）
田口 博子（岩手県弦楽研究会会員）
土川 敦（岩手県立盛岡第二高等学校長）
恒川 かおり（特定非営利活動法人未来図書館主任コーディネーター）
西里 真澄（岩手看護短期大学専攻助産学専攻講師）
細川 恵子（特定非営利活動法人紫波さぷり理事長）
室井 麗子（岩手大学教育学部准教授）
菊池 豊（公募委員）
（任期：平成26年7月1日～平成28年6月30日）

岩手県文化財保護審議会委員（平成26年5月1日現在）

大島 晃一（元一関市博物館副館長）
小原 茂（元花巻市博物館学芸員）
窪寺 茂（建築装飾技術史研究所長）
熊谷 常正（盛岡大学教授）
佐藤 由紀男（岩手大学教授）
高橋 あけみ（仙台市博物館主幹）
土井 宣夫（岩手大学教授）
中嶋 奈津子（佛教大学非常勤講師）
平塚 明（岩手県立大学教授）
政次 浩（東北歴史博物館副主任研究員）
山本 玲子（元財団法人石川啄木記念館学芸員）
（任期：平成26年5月1日～平成28年4月30日）

岩手県立博物館協議会委員（平成26年7月1日現在）

佐賀敏子（盛岡市立杜陵小学校校長）
高橋清之（盛岡市立巻堀中学校校長）
工藤良裕（岩手県立盛岡第四高等学校校長）
佐々木訓（岩手県青年団体協議会副会長）
野田和子（特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会副会長）
米澤慎悦（（一社）岩手県PTA連合会顧問）
齋藤桃子（岩手町立石神の丘美術館主任学芸員）
遠藤健悦（八幡平市教育委員会教育長）
前田千香子（岩手県立博物館友の会会員）
鈴木多聞（（株）岩手日報社編集局学芸部次長）
名越利幸（岩手大学教授）
遠山稿二郎（岩手医科大学教授）
飯坂真紀（画家・民俗芸能研究者）
沼里由紀子（盛岡ふるさとガイドの会会員）
（任期：平成25年6月23日～平成27年6月22日）

岩手県立美術館協議会委員（平成27年3月1日現在）

菊池房江（岩手県工芸美術協会会長）
菅原和彦（（株）岩手日報社論説委員）
長澤みち子（岩手県立美術館友の会会長）
吉田浩次（（株）川徳取締役相談役）
石塚庸子（盛岡グランドホテル人事部人材開発課マネージャー）
金子正勝（（公社）日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長）
そのだつくし（漫画家）
佐々木繁美（（公社）盛岡市文化振興事業団盛岡市民文化ホール館長）
阿部裕之（岩手大学教育学部教授）
五十嵐のぶ代（（一社）岩手県PTA連合会副会長、母親委員会委員長）
佐藤嘉彦（盛岡市立上田中学校長）
館澤敏子（岩手県地域婦人団体協議会理事）
鳥羽真喜子（盛岡市立洪民小学校長）
横田禮子（盛岡スコーレ高等学校長）
（任期：平成26年3月1日～平成28年2月29日）

岩手県スポーツ振興審議会委員（平成26年6月23日現在）

古館英彦（一戸町教育委員会教育長）
玉山哲（岩手県商工会議所連合会副会長）
川口仁志（（公財）岩手県体育協会副会長兼理事長）
阿部伸（岩手県高等学校体育連盟理事長）
照井大道（岩手県中学校体育連盟理事長）
廣長千鶴子（岩手県スポーツ推進委員協議会副会長）
朴田香代（岩手県小学校体育研究会広報部員）
上濱龍也（岩手大学教育学部教授）
富山道彦（一般社団法人岩手県薬剤師会理事）
畠山哲男（岩手県障がい者スポーツ指導者協議会会長）
小沢みさき（北京オリンピックホッケー競技女子日本代表）
戸羽理智（公募委員）
佐々木悦子（公募委員）
（任期：平成26年6月23日～平成28年6月22日）

3 県教育委員会会議（平成26年度）

4月定例会（平成26年4月14日）

- 事務報告1 平成26年2月県議会定例会の概要について
- 事務報告2 岩手県いじめ防止等のための基本的な方針について
- 報 告1 岩手県教育委員会の事務を市町村が処理することとする事務処理の特例に関する規則の一部を改正する規則に関する専決処理の報告について
- 議案第1号 岩手県文化財保護審議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第2号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

5月定例会（平成26年5月19日）

- 事務報告1 奨学のための給付金について
- 事務報告2 平成26年度県勢功労者顕彰被顕彰者について
- 議案第3号 公立小中学校長の人事に関し議決を求めることについて

6月定例会（平成26年6月16日）

- 事務報告1 教育委員会制度改革について
- 議案第4号 岩手県生涯学習審議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第5号 岩手県社会教育委員の委嘱に関し議決を求めることについて
- 議案第6号 岩手県立図書館協議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第7号 岩手県立博物館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて
- 議案第8号 岩手県スポーツ推進審議会委員の任命に関し議決を求めることについて

7月定例会（平成26年7月22日）

- 事務報告1 平成26年6月県議会定例会の概要について
- 議案第9号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第10号 学校職員の懲戒処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて

8月定例会（平成26年8月18日）

- 議案第11号 教育委員会の事務に係る点検及び評価に関し議決を求めることについて
- 議案第12号 学校職員の懲戒処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第13号 学校職員の一般の退職手当等の全部を支給しないこととする処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて

9月定例会（平成26年9月16日）

- 事務報告1 平成27年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学選抜の概要について
- 事務報告2 平成26年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の結果について
- 議案第14号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

10月臨時会（平成26年10月1日）

- 第 1 会期決定の件
- 第 2 委員長選挙
- 第 3 委員長選挙に伴う委員長職務代理者の指定
- 第 4 委員長選挙に伴う委員長職務代理者の順位決定
- 第 5 議席の決定
- 議案第15号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

10月定例会（平成26年10月20日）

- 事務報告1 平成27年度岩手県立高等学校入学選抜実施要項について
- 事務報告2 平成27年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について
- 議案第16号 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第17号 平成27年度岩手県教育委員会定期人事異動方針に関し議決を求めることについて
- 議案第18号 文化財の指定に関し議決を求めることについて
- 議案第19号 教育表彰の受賞者に関し議決を求めることについて
- 議案第20号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第21号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

11月定例会（平成26年11月17日）

- 事務報告1 平成26年9月県議会定例会の概要について
- 事務報告2 第69回国民体育大会の結果について

12月定例会（平成26年12月15日）

- 事務報告1 平成26年12月県議会定例会の概要について
- 事務報告2 平成27年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜に係る志願状況について
- 議案第22号 公立小学校長の人事に関し議決を求めることについて

1月定例会（平成27年1月19日）

- 事務報告1 平成27年度岩手県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査の実施について
- 議案第23号 岩手県立高等学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第24号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第25号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第26号 学校職員の懲戒処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて
- 議案第27号 学校職員の一般の退職手当等の全部を支給しないこととする処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて

2月定例会（平成27年2月16日）

- 議案第28号 岩手県立美術館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて
- 議案第29号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第30号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

3月臨時会（平成27年3月2日）

- 議案第30号 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第31号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第32号 本庁の室課の長等の人事に関し議決を求めることについて
- 議案第33号 公立小中学校長の人事に関し議決を求めることについて
- 議案第34号 県立学校の校長及び事務長の人事に関し議決を求めることについて

3月定例会（平成27年3月17日）

- 事務報告1 平成26年度全国高等学校総合体育大会冬季大会、平成26年度全国中学校体育大会冬季大会、第70回国民体育大会冬季大会の結果について
- 議案第35号 岩手県教育委員会会議規則の一部を改正する規則
- 議案第36号 岩手県教育委員会傍聴規則の一部を改正する規則
- 議案第37号 岩手県教育委員会公告式規則の一部を改正する規則
- 議案第38号 岩手県教育委員会行政文書管理規程の一部を改正する訓令
- 議案第39号 岩手県教育委員会公文例式規程の一部を改正する訓令
- 議案第40号 岩手県教育委員会公印規程の一部を改正する訓令
- 協 議1 教育長の職務に専念する義務の特例に関する規則の指示専決処理について
- 議案第41号 教育長の勤務時間その他の勤務条件に関する規則
- 議案第42号 岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則
- 議案第43号 教育長に対する事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第44号 岩手県教育委員会代決専決規程の一部を改正する訓令
- 議案第45号 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第46号 岩手県教育委員会被服貸与規程の一部を改正する訓令
- 議案第47号 県立学校に係る職名替え訓令
- 議案第48号 教育職員免許状更新講習に関する規則の一部を改正する規則
- 議案第49号 文化財の指定及び保持団体の認定に関し議決を求めることについて
- 議案第50号 平成27年度教科用図書選定審議会委員の任命に関し議決を求めることについて
- 議案第51号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
- 議案第52号 学校職員の懲戒処分の臨時専決処理に関し承認を求めることについて

4 県教育委員会関係主要行事（平成26年度）

- 4月8～9日 第1回岩手県社会教育主事等会議[盛岡地区合同庁舎]
10～11日 第1回代表指導主事会議 [県庁舎]
14日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
17日 第1回県立学校長会議[サンセール盛岡]
17～18日 第1回県指導主事会議 [県庁舎ほか]
21日 第1回県教育委員会と市町村教育委員会との意見交換 [サンセール盛岡]
23日 県立学校副校長会議 [サンセール盛岡]
- 5月7～9日 県立学校等新任副校長研修講座 [盛岡地区合同庁舎ほか]
13～15日 県立学校等新任校長研修講座 [清温荘]
19日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
20日～6月29日 第66回岩手県高等学校総合体育大会 [盛岡市ほか]
27日 第1回学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会 [盛岡地区合同庁舎]
- 6月5～6日 北部ブロック教育委員協議会 [盛岡市ほか]
16日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
- 7月11～24日 全国高等学校野球選手権大会岩手大会 [盛岡市ほか]
18日 県小・中学校教育課程協議会 [総合教育センター]
19～21日 岩手県中学校総合体育大会 [盛岡市ほか]
22日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
23日 第1回岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議 [盛岡地区合同庁舎]
25日 第2回代表指導主事会議 [県庁舎]
27日 第38回全国高等学校総合文化祭(27日から31日)
29日 岩手県美術選奨・芸術選奨表彰式[サンセール盛岡]
29日 第6回岩手県スポーツ振興審議会 [県庁舎]
- 8月1～20日 全国高等学校総合体育大会[東京都、千葉県、神奈川県、山梨県]
17～25日 全国中学校体育大会 [四国ブロック]
18日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
20日 岩手県美術選奨・芸術選奨表彰式[サンセール盛岡]
22～24日 第41回東北総合体育大会 [福島県ほか]
- 9月 10日 第1回児童生徒表彰式（はばたき賞） [県庁舎]
12日 第1回岩手県文化財保護審議会 [県庁舎]
16日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
24日 交通安全教育指導者講習会 [アイーナ]
29日 第3回代表指導主事会議 [県庁舎]
- 10月 1日 教育委員会議臨時会 [教育委員室]
1日 学習定着度状況調査の実施 [各小中学校]
4日 第67回岩手芸術祭開幕フェスティバル [県民会館]
10日 第37回岩手県高等学校総合文化祭開会式[県民会館]
12～22日 第69回国民体育大会[長崎県]
20日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
22日 第2回県立学校長会議 [盛岡地区合同庁舎]
28～29日 第2回県社会教育主事等会議[県南青少年の家]
- 11月 5日 「いわて教育の日」のつどい [盛岡劇場]
13日 第1回教育長表彰式[教育長室]
14日 教育表彰 [県民会館]
17日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
21日 第13回岩手県中学校総合文化祭開会式[県民会館]
28日 第4回代表指導主事会議 [県庁舎]

- 12月 15日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
- 1月 9日 第50回岩手県学校健康教育研究大会 [マリオス]
 16日 教育振興運動50周年記念大会 [マリオス]
 23日 第2回県指導主事会議 [総合教育センター]
 19日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
 28日～2月1日 第70回国民体育大会冬季大会スケート競技会 [群馬県]
 29日 岩手県就学指導委員会 [県庁舎]
 30日 幼稚園等初任者研修運営協議会 [県庁舎]
 30日 第7回岩手県スポーツ推進審議会 [県庁舎]
- 2月 3日 第2回岩手県生涯学習審議会・岩手県社会教育委員会議 [盛岡地区合同庁舎]
 5～6日 岩手県生涯学習推進研究発表会 [生涯学習推進センター]
 5～6日 第5回代表指導主事会議 [県庁舎]
 10日 第2回県教育委員会と市町村教育委員会との意見交換[サンセール盛岡]
 10日 第2回児童生徒表彰式（はばたき賞） [盛岡地区合同庁舎]
 10日 第3回岩手県社会教育主事会議 [盛岡地区合同庁舎]
 13日 第2回岩手県文化財保護審議会 [県庁舎]
 16日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
 17日 第3回県立学校長会議 [サンセール盛岡]
 17日 第2回学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進委員会 [サンセール盛岡]
 19日 第2回教育長表彰式[教育長室]
 20～23日 第70回国民体育大会冬季大会スキー競技会 [群馬県]
- 3月 2日 教育委員会議臨時会 [教育委員室]
 17日 教育委員会議定例会 [教育委員室]
 31日 退職者感謝状贈呈式 [県民会館]

5 私立学校

(1) 私立学校審議会

ア 委員（平成26年7月1日現在、五十音順）

今 西 界 雄 （双葉幼稚園園長）
荻 原 禮 子 （盛岡白百合学園中学校長 高等学校長）
久 保 榮 子 （学校法人コアトレース理事長）
工 藤 純 世 （学校法人つばめ学園理事長）
咲 間 まり子 （岩手県立大学社会福祉学部教授）
佐 藤 勝 （元岩手県教育委員会教育長）
新 宮 由紀子 （株式会社長島製作所常務取締役）
須 山 通 治 （弁護士）
田 代 高 章 （岩手大学教育学部教授）
横 田 禮 子 （盛岡スコーレ高等学校長）

イ 審議の状況

私立学校審議会が知事の諮問により審議し、原案を可として答申した案件は次のとおり。

平成26年9月30日答申

学校設置者の変更認可について

なでしこ幼稚園

学校設置者の変更認可及び学校法人の解散認可について

学校法人明照学園 福岡幼稚園

学校法人の寄附行為認可及び学校設置者の変更認可について

学校法人聖公会盛岡こひつじ学園 仁王幼稚園

学校の収容定員に係る学則変更認可について

学校法人盛岡大学 盛岡大学附属厨川幼稚園

学校法人盛岡大学 盛岡大学附属松園幼稚園

学校法人北上学園 専修大学北上高等学校

専修学校の学校設置認可について

学校法人大原学園 大原スポーツ公務員専門学校盛岡校

学校法人大原学園 大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校

専修学校の目的変更認可について

盛岡医療福祉専門学校

平成27年3月30日答申

学校の廃止認可について

あけぼの幼稚園

月が丘幼稚園

日高幼稚園

一関幼稚園

水木舞踊学校

学校設置者の変更認可について

こばと幼稚園

高等学校の学科の廃止認可について

盛岡中央高等学校

学校法人の解散認可について

学校法人見真学園

(2) 私立学校等認可の状況

平成26年度中に知事が認可した件数は次のとおり。

ア	学校設置者の変更認可	4件
イ	学校法人の解散認可	3件
ウ	学校法人の寄附行為認可	1件
エ	学校の収容定員に係る学則変更認可	3件
オ	専修学校の設置認可	2件
カ	専修学校の目的変更認可	1件
キ	学校の廃止認可	5件
ク	高等学校の学科の廃止認可	1件

(3) 助成の状況（平成26年度最終予算）

ア 県費補助

(ア) 私立学校運営費補助

	幼稚園・小・中・高等学校補助	4,019,487千円
	過疎地域私立高等学校補助（4校）	134,610千円
	特別支援教育費補助（44幼稚園）	109,368千円
	教育改革推進特別経費	275,820千円
	特別支援学校補助（1校）	94,883千円
	専修学校補助（16校）	63,003千円
(イ)	私立学校教職員退職金給付事業費補助	136,188千円
(ウ)	日本私立学校振興・共済事業団補助	49,840千円
(エ)	私立高等学校等授業料減免補助	19,391千円
(オ)	学び直しへの支援事業費補助	348千円
(カ)	私立学校耐震化支援事業費補助	5,432千円
(キ)	私立学校被災児童生徒等就学支援事業費補助	82,501千円
(ク)	被災私立専修学校等教育環境整備支援事業費補助	40,589千円
(ケ)	私立学校等災害復旧事業費補助	33,504千円
(コ)	私立学校等災害復旧事業費補助	33,504千円

イ 岩手県私学教育振興会貸付金

	施設整備・経営資金貸付	297,000千円
--	-------------	-----------

(4) 私学教育表彰の実施

岩手県私学教育表彰実施要綱（昭和58年岩手県告示第1076号）に基づき、本県の私学教育に関し功労のあった次の者に対し、平成26年11月5日知事表彰を行った。

- 個人
 - 坂本 洋（学校法人内丸学園 理事長）
 - 村上 義治（のぞみ幼稚園 園長）
 - 菅原 裕子（カトリック清心幼稚園 園長）
 - 野田 摩理子（甲東幼稚園 園長）
 - 藤村 順二（盛岡白百合学園高等学校 教頭）
 - 小野寺 啓一（一関学院高等学校 副校長）
 - 高橋 等（専修大学北上高等学校 校長）
 - 山村 三夫（盛岡調理師専門学校 校）
 - 鬼柳 忠彦（江南義塾盛岡高等学校 教諭）
- 学校
 - 岩手高等学校

6 県教育委員会が所管する公益法人・公益信託等（平成27年3月31日現在）

【公益法人】

番号	種別	名称	許可年月日	目的・事業	所在地
1	公益財団法人	岩手育英会	大正14年9月10日	育英奨学	盛岡市津志田14-37-2(盛岡市教委内)
2	公益財団法人	岩手県学校給食会	昭和33年5月1日	学校給食関係事業	盛岡市流通センター北1-12-1
3	公益財団法人	岩手県高校教育会館	昭和34年11月6日	高校関係職員の福利厚生	盛岡市志家町11-13
4	公益財団法人	岩手県体育協会	昭和41年4月28日	県民体育の普及振興	盛岡市青山4-13-30
5	公益財団法人	岩手育英奨学会	昭和42年7月14日	育英奨学	盛岡市内丸10-1(県教委教育企画室内)
6	公益財団法人	大船渡市育英奨学会	昭和49年8月19日	育英奨学	大船渡市盛町字宇津野沢15(大船渡市教委内)
7	公益財団法人	盛岡市体育協会	昭和55年5月19日	体育・スポーツの振興	盛岡市上田3-17-60
8	公益財団法人	滝沢市体育協会	昭和56年3月23日	体育・スポーツの振興	滝沢市鶴飼御庭田1-1
9	公益財団法人	伊藤育英会	昭和58年9月19日	育英奨学	花巻市大通り1-12-14
10	公益財団法人	岩手県スポーツ振興事業団	昭和60年3月26日	スポーツの振興	盛岡市みたけ1-10-1
11	公益財団法人	岩手県文化振興事業団	昭和60年4月8日	文化の振興	盛岡市内丸13-1(県民会館内)
12	公益財団法人	小林奨学育英会	昭和62年12月21日	育英奨学	奥州市水沢区中町127(株式会社マツヤ内)
13	公益財団法人	北上市体育協会	平成7年3月17日	スポーツの振興	北上市相去町高前壇27-36
14	公益財団法人	盛岡市文化振興事業団	平成9年10月15日	文化の振興	盛岡市盛岡駅西通2-9-1
15	公益社団法人	岩手県サッカー協会	平成17年4月1日	サッカーの振興	紫波郡紫波町紫波中央駅2-1-1

【一般法人】

番号	種別	名称	許可年月日	目的・事業	所在地
1	一般財団法人	福岡高等学校奨学会	昭和5年11月11日	育英奨学	二戸市福岡字上平10
2	一般財団法人	岩手教育会館	昭和27年8月18日	教育関係者の福利厚生	盛岡市大通1-1-16
3	一般財団法人	高村記念会	昭和40年11月4日	高村光太郎記念館の管理	花巻市花城町4-28 (総合花巻病院内)
4	一般社団法人	岩手県文化財愛護協会	昭和44年7月1日	文化財愛護思想の普及	盛岡市上田字松屋敷34 (県立博物館内)
5	一般社団法人	久慈学校給食協会	昭和47年3月24日	学校給食関係事業	久慈市寺里30-77
6	一般財団法人	岩手県教職員互助会	昭和47年4月1日	教育関係者の福利厚生	盛岡市大通1-1-16
7	一般財団法人	大船渡市体育協会	昭和47年4月24日	体育振興	大船渡市盛町字宇津野沢15 (大船渡市教委内)
8	一般財団法人	遠野市教育文化振興財団	昭和49年4月22日	教育文化の振興	遠野市新町1-10 (遠野市教委内)
9	一般財団法人	岩手県青少年会館	昭和49年8月30日	社会教育の振興	盛岡市みたけ3-38-20
10	一般社団法人	岩手県芸術文化協会	昭和50年7月21日	芸術文化の振興	盛岡市内丸13-1 (県公会館内)
11	一般財団法人	九戸教育施設運営会	昭和51年1月28日	教育施設の管理	九戸郡九戸村大字山根5-95
12	一般財団法人	宮沢賢治記念会	昭和51年5月28日	文化遺産の管理保全	花巻市鍛冶町4-13
13	一般財団法人	岩手県学校安全互助会	昭和52年4月1日	学校事故被災者救済	盛岡市本町通2-1-36
14	一般財団法人	奥州市体育協会	昭和54年10月22日	体育・スポーツの振興	奥州市水沢区秋葉町24-3
15	一般社団法人	一関市体育協会	昭和56年3月23日	体育・スポーツの振興	一関市狐禅寺字石ノ瀬25-3
16	一般財団法人	岩手町体育協会	昭和57年3月29日	体育・スポーツの振興	岩手郡岩手町大字字抱4-12
17	一般財団法人	紫波町体育協会	昭和58年3月23日	体育・スポーツの振興	紫波郡紫波町桜町字下川原100
18	一般財団法人	雫石町体育協会	昭和58年4月30日	体育・スポーツの振興	岩手郡雫石町第1地割字高前田104
19	一般財団法人	岩手県教育振興基金	昭和61年9月25日	教育研究団体等への助成	盛岡市菜園1-11-15
20	一般社団法人	久慈市体育協会	平成元年1月23日	体育・スポーツの振興	久慈市新中の橋4-13-3
21	一般財団法人	宮古市体育協会	平成元年5月22日	体育・スポーツの振興	宮古市小山田2-1-1
22	一般財団法人	八幡平市体育協会	平成2年2月19日	体育・スポーツの振興	八幡平市大更37-105-12
23	一般社団法人	岩手県ピアノ音楽協会	平成3年3月20日	芸術文化の振興	盛岡市緑が丘2-2-11 カーサ・ヴェルデ102
24	一般財団法人	奥州市文化振興財団	平成4年4月20日	文化の振興	奥州市水沢区佐倉河字石橋41
25	一般財団法人	岩手県スキー連盟	平成4年11月24日	スキーの振興	盛岡市大新町3-25
26	一般財団法人	金ヶ崎町生涯スポーツ事業団	平成5年11月22日	生涯スポーツの振興	胆沢郡金ヶ崎町西根森山31-2
27	一般財団法人	花巻市体育協会	平成6年3月22日	スポーツの振興	花巻市城内1-43
28	一般社団法人	深澤紅子野の花美術館	平成8年3月21日	画家深澤紅子の業績の公開展示	盛岡市紺屋町4-8
29	一般社団法人	岩手県PTA連合会	平成12年7月17日	PTA活動の振興	盛岡市みたけ3-38-20 (岩手県青少年会館内)
30	一般財団法人	北上市文化創造	平成15年2月13日	文化の振興	北上市さくら通り2-1-1

【公益信託】

名称	許可年月日	目的・事業	受託者	受託者
公益信託田村清蔵記念奨学基金	昭和57年8月25日	育英奨学	田村 清蔵	三菱UFJ信託銀行株式会社

7 県教育関係諸団体（平成26年5月1日現在）

No.	団体名	事務局所在地	事務局電話番号	代表者
1	岩手県小学校長会	盛岡市紺屋町2-9 盛岡市勤労福祉会館内	019-623-8955	長谷川 滋
2	岩手県中学校長会	盛岡市紺屋町2-9 盛岡市勤労福祉会館内	019-622-0572	小 岩 和 彦
3	岩手県高等学校長協会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内	019-623-4491	高 橋 廣 至
4	岩手県小中学校副校長会	盛岡市馬場町1-1 下橋中学校内	019-651-2858	大 森 正 章
5	岩手県高等学校副校長協議会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内	019-623-4491	佐 藤 有
6	岩手県小学校教育研究会	盛岡市本町通2-18-1 仁王小学校内	019-623-4214	多 田 英 史
7	岩手県中学校教育研究会	盛岡市上田2-1-1 上田中学校内	019-623-4237	佐 藤 嘉 彦
8	岩手県高等学校教育研究会	盛岡市上ノ橋町7-57 盛岡第二高等学校内	019-622-5101	土 川 敦
9	岩手県小規模・複式学校教育研究連盟	岩手町川口41-145-2 北山形小学校内	0195-62-9152	田 中 淳
10	岩手県高等学校定時制通信制教育協会	盛岡市上田2-3-1 杜陵高等学校内	019-652-1813	菊 池 和 豊
11	岩手県学校保健研究会	紫波町稲藤字牡丹野5-1 紫波第三中学校内	019-673-7305	西 川 勝 夫
12	岩手県学校給食研究会	盛岡市長田町16-1 河北小学校内	019-622-6256	稲 垣 キツ子
13	岩手県公立小中学校事務職員研究協議会	盛岡市玉山区下田字下田106 洪民中学校内	019-683-2150	高 橋 広 道
14	岩手県公立学校事務長会	盛岡市上ノ橋町7-57 盛岡第二高等学校内	019-622-5102	川 村 隆 夫
15	岩手県公立高等学校事務職員協会	遠野市六日町3-17 遠野高等学校内	0198-62-2823	千 葉 喜久夫
16	岩手県特別支援学校連絡協議会	盛岡市北山1-10-1 盛岡視聴覚支援学校内	019-624-2986	高 橋 勉
17	岩手県特別支援教育研究会	盛岡市本町通2-18-1 仁王小学校内	019-623-4214	多 田 英 史
18	岩手県国立幼稚園協議会	奥州市水沢区佐倉河字首根15 佐倉河幼稚園内	0197-24-6147	千 田 水 也
19	一般社団法人岩手県私立幼稚園連合会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-654-1434	坂 本 洋
20	一般社団法人岩手県私学協会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-626-7627	小田島 順 造
21	岩手県市町村教育委員会協議会	盛岡市津志田14-37-2 盛岡市教育委員会総務課内	019-651-4111	八 卷 恒 雄
22	一般社団法人岩手県専修学校各種学校連合会	盛岡市大沢川原3-5-18 盛岡医療福祉専門学校内	019-624-8600	龍 澤 正 美
23	一般社団法人岩手県PTA連合会	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-641-6444	金 谷 茂
24	岩手県高等学校PTA連合会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内	019-625-6386	内 館 茂
25	岩手県特別支援学校PTA連合会	盛岡市上田字松屋敷11-25 盛岡青松支援学校内	019-661-5125	斉 藤 希美江
26	岩手県国立幼稚園PTA連絡協議会	九戸郡洋野町種市17-12-1 洋野町立種市幼稚園内	0191-21-2156	馬 場 良 介
27	岩手県私立幼稚園PTA連合会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-654-1434	中 島 伊 織
28	岩手県私立小中高等学校保護者会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-626-7627	及 川 えり子
29	岩手県子ども会育成会連絡協議会	矢巾町又兵衛新田7-214-7	019-697-4957	三 浦 保 治
30	岩手県生涯学習振興協会	花巻市北湯口2-82-13 生涯学習推進センター内	0198-27-4555	中 村 利 之
31	岩手県図書館協議会	盛岡市盛岡駅西通1-7-1 県立図書館内	019-606-1730	太 田 勝 浩
32	岩手県青年団体協議会	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-641-6412	泉 田 将 治
33	特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-648-6620	瀬 川 愛 子
34	岩手県ユネスコ協会連盟	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局生涯学習文化課内	019-629-6176	三田地 宣 子
35	岩手県社会教育連絡協議会	盛岡市津志田14-37-2 盛岡市教育委員会生涯学習課内	019-651-4111	大 橋 清 司
36	岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局生涯学習文化課内	019-629-6176	千 葉 仁 一
37	日本ボーイスカウト岩手県連盟	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-641-1995	末 永 正 志
38	ガールスカウト岩手県連盟	盛岡市みたけ3-38-20 県青少年会館内	019-641-1153	平 井 ふみ子
39	一般社団法人岩手県文化財愛護協会	盛岡市上田字松屋敷34 県立博物館内	019-661-9688	佐 藤 宏
40	岩手県読書推進運動協議会	盛岡市盛岡駅西通1-7-1 県立図書館内	019-606-1730	酒 井 久美子
41	岩手県中学校文化連盟	盛岡市馬場町1-1 下橋中学校内	019-604-0126	小 岩 和 彦
42	岩手県高等学校文化連盟	盛岡市津志田26-17-1 盛岡第四高等学校内	019-635-1068	工 藤 良 裕
43	岩手県中学校体育連盟	盛岡市愛宕町1-1 下小路中学校内	019-651-1942	佐々木 篤
44	岩手県高等学校体育連盟	盛岡市高松4-17-16 盛岡第三高等学校内	019-661-8115	和 山 博 人
45	公益財団法人岩手県体育協会	盛岡市青山4-13-30	019-648-0400	達 増 拓 也
46	岩手県生涯スポーツ推進協議会	盛岡市みたけ1-10-1 (公財)岩手県スポーツ振興事業団内	019-641-1127	大 矢 正 昭
47	岩手県学校保健会	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局スポーツ健康課内	019-629-6193	石 川 育 成
48	一般財団法人岩手県学校安全互助会	盛岡市本町通2-1-36	019-654-3027	高 橋 嘉 行
49	公益財団法人岩手県学校給食会	盛岡市流通センター北1-12-1	019-638-9429	盛 川 通 正
50	公立学校共済組合岩手支部	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局教職員課内	019-629-6126	高 橋 嘉 行
51	一般財団法人岩手県教職員互助会	盛岡市大通1-1-16 岩手教育会館内	019-622-7762	高 橋 嘉 行
52	公益財団法人岩手県英奨学会	盛岡市内丸10-1 県教育委員会事務局教育企画室内	019-623-2050	原 久 雄
53	公益財団法人岩手県文化振興事業団	盛岡市内丸13-1 県民会館内	019-654-2235	菅 野 洋 樹
54	一般社団法人岩手県芸術文化協会	盛岡市内丸13-1 県民会館内	019-626-1202	柴 田 和 子
55	公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団	盛岡市みたけ1-10-1	019-641-1127	大 矢 正 昭
56	公益財団法人岩手県私学振興会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内	019-652-0960	龍 澤 正 美
57	岩手県産業教育振興会	盛岡市羽場18-11-1 盛岡工業高等学校内	019-639-7250	阿 部 正 樹

岩手県教育年報 平成26年度版

発行 岩手県教育委員会

編集 岩手県教育委員会事務局教育企画室

所在地 岩手県盛岡市内丸10番1号 岩手県庁10階

電話番号 019-629-6106

ファクシミリ番号 019-629-6119

電子メールアドレス DB0001@pref.iwate.jp